平成25年度

アニュアルレポート 年報

独立行政法人 国立病院機構

京都医療センター

序　文

京都医療センター平成２５年度版アニュアルレポートが出来上がりました。

平成２５年度は国内において、東日本大震災の復興や原発の事故処理など多くの課題を抱えながらもアベノミクスの効果か、多くの企業で景気が改善し株価が過去最高を記録する等、日本の元気な姿が見られました。

しかし海外に目を向けると、依然として韓国や中国との関係においては、領土問題や歴史観の対立で首脳同士の会談も実現出来ず、中国の海洋進出はベトナムやフィリピンとの抗争を生み、極東アジアだけでなく東アジア全体に大きな課題を投げかけています。また、エジプトの政変やシリアの内戦、さらにはアフガンやイラクの政情不安により中東情勢が今後どのように進んで行くのか先が見えず、解決の道筋も見えていません。

５月はスノーデン氏の内部告発により、米国家安全保障局（ＮＳＡ）よる世界的規模でのインターネットの傍受が行われ、これに米国大手のＩＴ企業の殆どが協力していたことが曝露されました。米国とスノーデン氏のやりとりは、スパイ映画を観るような感がありました。米国が同盟国の首相のメールまでチェックしていたという話は、今のＩＴ社会の便利さの裏側を見せつけられ、テロ対策に対してここまで必要なのかと不安を感じさせる出来事でした。病院で患者のプライバシーを守るために個人情報の取り扱いに神経をすり減らしていることの意味が何なのかを、改めて考えさせられる出来事でした。

京都医療センターの平成２５年度は、２４年度の実績を引き継いで順調な成績を上げることが出来ました。医師や医療スタッフも増員となり、救急でのＨＣＵの看護師増員も順調に進みました。稼働率は計画の９割を維持し患者単価は最高となり、医業収益は前年を上回ることが出来ました。それに伴う経費の増加で収支差は２４年度より減少したものの、計画を達成しました。なお、本レポートより経営的な数値も掲載する試みを加えています。また、１０月から第二外来棟の建設工事が始まり２６年６月に完成し、新たに導入したＰＥＴ／ＣＴを含め予定通り運用を開始しています。

京都医療センターの大きな柱に救急とがん治療があります。当センターの年間入院患者の１／３は救急外来を経由して入院されます。また、がん患者登録は京都大学医学部附属病院・京都府立医科大学附属病院に次いで京都府内で３番目に多い病院となっています。これら２つの柱に加え、臨床研究の柱である糖尿病・内分泌代謝性疾患・生活習慣病等、地域医療の中心としての役割を担っています。

当センターが地域の基幹病院としての役割を果たしていく上においては、スタッフのたゆまざる努力と、病院を支えてくださる方々のご支援が不可欠であると痛感しております。皆様のご支援に感謝すると共に、今後も益々のご鞭撻を頂けますよう心よりお願い申し上げます。

院長　中 村 孝 志

京都医療センター診療年報　目次

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

□ 基本方針

一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の向上に努めます。

□ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

□ 患者さんの権利に関する事項

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について充分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

□ 守っていただく事項

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人の迷惑をかけないようにお願いします。

概要

（平成２６年４月１日現在）

●所　在　地　京都府京都市伏見区深草向畑町１－１

●沿　　　革

明治４０年　６月	京都衛戍病院として設立
昭和１２年	京都陸軍病院と名称変更
昭和２０年１２月	国立京都病院として厚生省に移管
昭和３４年１２月	昭和２８年１２月に基幹病院設備に着工 外来診療棟、中央診療棟、管理棟、病棟を竣工
昭和５３年　４月	臨床研究部（内分泌代謝疾患）設置
昭和５８年　５月	外来管理診療棟竣工
昭和５９年１２月	救命救急センター開設
昭和６０年　７月	中央診療棟竣工
昭和６３年　３月	第一病棟竣工
昭和６３年１１月	ＷＨＯより糖尿病協力センターに指定
平成　元年　３月	第二病棟竣工
平成　２年　３月	昭和５６年３月老朽基幹病院更新築工事に着工 外来管理診療棟、中央診療棟、病棟を竣工
平成　７年　４月	結核病床廃止（６５０床から６００床に変更）
平成　７年　４月	開放型病院に認定
平成　７年　７月	エイズ治療拠点病院に指定
平成１０年　６月	臓器提供施設に指定
平成１０年１０月	完全院外処方箋発行実施
平成１１年　３月	国の政策医療で高度専門医療施設（内分泌代謝性疾患）に位置付け
平成１１年　３月	病院情報システム導入
平成１２年　４月	(財)日本医療機能評価機構・病院機能評価認定
平成１４年　６月	地域医療連携室の開設
平成１５年１０月	臨床研究センター（内分泌代謝性疾患）設置
平成１６年　３月	電子カルテシステム導入
平成１６年　４月	独立行政法人へ移行　独立行政法人国立病院機構京都医療センターと改称
平成１７年　４月	(財)日本医療機能評価機構・病院機能評価Ver.4認定
平成１９年　１月	地域がん診療連携拠点病院に指定
平成２０年　８月	地域医療支援病院に指定
平成２２年　４月	(財)日本医療機能評価機構・病院機能評価Ver.6認定
平成２３年　１月	新中央診療棟竣工、緩和ケア病棟開設

…………………………………………………………………………………

平成２６年　６月	第二外来棟竣工

●病床数　６００床　（一般病床）

●標榜診療科（３９科）

内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、腫瘍内科、精神科、
神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、心臓外科、血管外科、
小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、皮膚科、
泌尿器科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、頭頸部外科、放射線科、
麻酔科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、緩和ケア外科、歯科口腔外科、小児歯科、
病理診断科、臨床検査科、救急科

●当院が担う政策医療

1．内分泌代謝性疾患（高度専門医療施設）
2．成育医療（近畿ブロック基幹医療施設）
3．がん（専門医療施設）
4．循環器（専門医療施設）
5．腎疾患（専門医療施設）
6．感覚器疾患（専門医療施設）
7．高度総合医療施設
8．エイズ拠点病院
9．国際医療協力施設
10．ＮＨＯ災害ブロック拠点病院

●主な機能、施設認定等

・地域がん診療連携拠点病院
・地域医療支援病院
・救命救急センター
・ＥＲ（北米型救急外来）
・地域周産期母子医療センター
・エイズ拠点病院
・臓器提供施設
・京都府難病医療協力施設
・ＷＨＯ糖尿病協力センター
・健診センター
・外来化学療法センター
・人工透析センター
・(財)日本医療機能評価機構　病院機能評価（Ver.6）認定

●教育研究機能

・臨床研究センター
・臨床研修指定病院（管理型）
・各学会認定専門医研修施設
・附属京都看護助産学校（看護師科・助産師科）

●職　員　数　　１，２７７名　（常勤職員９９１名、非常勤職員２８６名）

●敷地面積

区　　分	面　　　積
病 院 敷 地	５４，６９５㎡
宿 舎 敷 地	１１，５７２㎡
合　　計	６６，２６７㎡

●建物面積

区　　分	建 築 面 積	延 床 面 積
病　　棟	２，９７６㎡	１８，７４８㎡
外 来 診 療 棟	２，７１１㎡	１０，８４０㎡
中 央 診 療 棟	２，４０５㎡	１３，３０１㎡
新中央診療棟	１，９５２㎡	８，６７２㎡
臨床研究センター	８２７㎡	３，１１７㎡
看 護 学 校	３，２９８㎡	６，５６０㎡
そ の 他	４，６６０㎡	１０，５６０㎡
合　　計	１８，８２９㎡	７１，７９８㎡

京都医療センター　組織図

（平成２6年４月１日現在）

- 院長
  - 副院長
  - 副院長
    - 統括診療部長
      - 診療部長（内科系担当）
        - 総合内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、
        - 腎臓内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、
        - 循環器内科、アレルギー科、小児科、リハビリテーション科
      - 診療部長（外科系担当）
        - 外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、
        - 心臓外科、血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、
        - 産科婦人科、耳鼻咽喉科、気管食道科　、頭頸部外科、
        - 歯科口腔外科、小児歯科、麻酔科
      - 診療部長（がん診療担当）
        - 腫瘍内科、緩和ケア内科、緩和ケア外科
      - 診療部長（救命救急担当）
        - 救急科
      - 診療部長（医療技術担当）
        - 放射線科
        - 臨床検査科
        - 臨床栄養科
          - 栄養管理室
        - 病理診断科
        - 臨床工学科
      - 診療部長（手術管理担当）
      - 診療部長（病棟管理担当）
      - 診療部長（外来管理担当）
      - 診療部長（健診担当）
        - 健診センター
      - 診療部長（地域医療担当）
        - 地域医療連携室
      - 診療部長（併）（医療安全担当）
        - 医療安全管理室
      - 診療部長（感染制御担当）
      - 診療部長（先進医療担当）
    - 医療情報部長
      - 情報システム管理室、診療情報管理室
    - 教育研修部長（併）
    - 薬剤科長
    - 看護部長
    - 事務部長
      - 企画課、管理課、経営企画室
  - 臨床研究センター長
    - 副センター長
    - 臨床研究企画運営部長（併）
      - 情報化推進研究室、予防医学研究室、治験管理室
    - 内分泌代謝高血圧研究部長
      - 分子内分泌代謝研究室、臨床内分泌代謝研究室、
      - 高血圧研究室、内分泌系腫瘍研究室、臨床疫学情報研究室
    - 糖尿病研究部長（併）
      - 糖尿病研究室、糖尿病合併症研究室、血管障害研究室、
      - 臨床代謝栄養研究室
    - 展開医療研究部長
      - 先端医療技術開発研究室、生命情報科学研究室、
      - がん医療研究室

- 学校長
  - 副学校長
    - 附属京都看護助産学校

京都医療センター　幹部職員


院長　中村　孝志


副院長　塚原　徹也


副院長　髙倉　賢二


臨床研究センター長
島津　章


統括診療部長
猪飼　伊和夫


内科系診療部長
教育研修部長
小山　弘


外科系診療部長
中川　泰彰


がん診療部長
土屋　宣之


救命救急部長
志馬　伸朗


医療技術部長
伊藤　剛


手術管理部長
七野　力


病棟管理部長
赤尾　昌治


外来管理部長
三尾　直士


健診部長
田上　哲也


地域医療部長
秋山　祐一


医事管理部長
勝島　慎二


医療安全部長
白神　幸太郎


感染制御部長
奥野　博


先進医療部長
喜多　美穂里


医療情報部長
北岡　有喜


臨床研究センター副センター長
内分泌代謝高血圧研究部長
成瀬　光栄


展開医療研究部長
長谷川　浩二


薬剤科長
北村　良雄


看護部長
三井　佐代子


事務部長
原　敏清


副学校長
山本　薫里

職員の状況

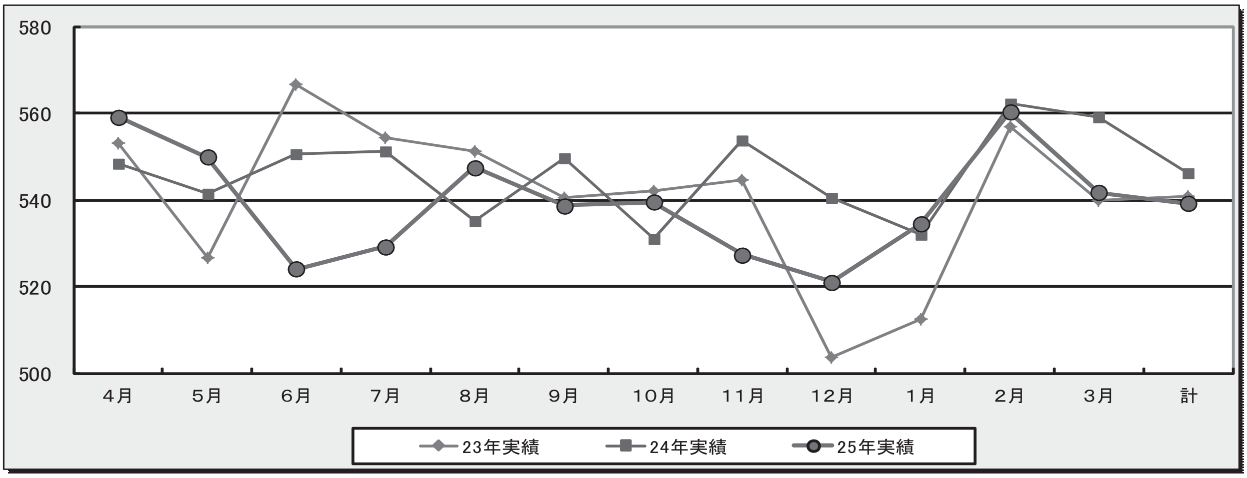
（平成２６年４月１日現在）

	職種・職名		常勤職員 定数	常勤職員 現員	非常勤職員 定数	非常勤職員 現員	非常勤職員 常勤換算	職員合計
医師	院長・副院長等	院長	1	1				1.00
		副院長	3	3				3.00
		部長	18	18				18.00
		医長	45	38				38.00
		歯科医長	1	1				1.00
		小計	68	61				61.00
	一般医師	医師	86	91	20.79	64	49.80	140.80
		歯科医師		1	2.31	2	1.55	2.55
		小計	86	92	23.10	66	51.35	143.35
医師計			154	153	23.10	66	51.35	204.35
医療職（二）	薬剤師	薬剤科長	1	1				1.00
		副薬剤科長	2	2				2.00
		主任薬剤師	7	7				7.00
		薬剤師	26	26				26.00
		小計	36	36				36.00
	放射線技師	診療放射線技師長	1	1				1.00
		副診療放射線技師長	2	2				2.00
		主任診療放射線技師	6	6				6.00
		診療放射線技師	20	20				20.00
		小計	29	29				29.00
	検査技師	臨床検査技師長	1	1				1.00
		副臨床検査技師長	2	2				2.00
		主任臨床検査技師	8	8				8.00
		臨床検査技師	23	21		3	2.31	23.31
		小計	34	32		3	2.31	34.31
	管理栄養士	栄養管理室長・班長	1	1				1.00
		副栄養管理室長	1	1				1.00
		主任栄養士	2	1				1.00
		栄養士	3	4	2.31	2	1.65	5.65
		小計	7	7	2.31	2	1.65	8.65
	理学療法士	理学療法士長	1	1				1.00
		副理学療法士長						
		主任理学療法士	1	1				1.00
		理学療法士	14	14				14.00
		小計	16	16				16.00
	作業療法士	作業療法士長						
		副作業療法士長						
		主任作業療法士	1	1				1.00
		作業療法士	4	4				4.00
		小計	5	5				5.00
	医療技術職員	臨床工学技士	10	8				8.00
		視能訓練士	4	4	1.85	2	1.54	5.54
		言語聴覚士	3	2		1	0.83	2.83
		心理療法士			0.92	4	0.69	0.69
		歯科衛生士			1.54	2	1.55	1.55
		歯科技工士			0.77	1	0.77	0.77
		小計	17	14	5.08	10	5.38	19.38
医療職（二）計			144	139	7.39	15	9.34	148.34

職種・職名			常勤職員		非常勤職員			職員
			定数	現員	定数	現員	常勤換算	合計
医療職（三）	看護師、助産師	看護部長	1	1				1.00
		副看護部長	3	3				3.00
		看護師長	21	21				21.00
		副看護師長	45	44				44.00
		助産師	531	33		1	0.83	33.83
		看護師		529	33.99	28	20.55	549.55
		准看護師		1				1.00
医療職（三）計			601	632	33.99	29	21.38	653.38
事務職・診療情報管理職	事務職員	事務部長	1	1				1.00
		課長・室長	3	3				3.00
		班長	4	2				2.00
		専門職		2				2.00
		係長	12	8				8.00
		主任						
		一般職員（事務補助）	3	9	105.23	142	109.17	118.17
		小計	23	25	105	142	109.17	134.17
	診療情報管理職	診療情報管理士	7	6		1	0.80	6.80
		小計	7	6		1	0.80	6.80
事務職・診療情報管理職 計			30	31	105.23	143	109.97	140.97
技能職員		自動車運転手		1				1.00
		調理師		12				12.00
		看護助手				24	19.81	19.81
		その他	13		25.31	3	2.42	2.42
技能職員計			13	13	25.31	27	22.23	35.23
教育職		副学校長・教育主事	4	4				4.00
		教員（教務補助）	15	14				14.00
教育職計			19	18				18.00
研究職		センター長・部長						
		室長・主任研究官						
		研究（補助）員			3.49	5	3.85	3.85
研究職計					3.49	5	3.85	3.85
福祉職		保育士	1	1		1	0.77	1.77
		医療社会事業専門員	4	4				4.00
福祉職計			5	5		1	0.77	5.77
職員総数			966	991	198.51	286	218.89	1209.89
（男性）				296		60	44.81	340.81
（女性）				695		226	174.08	869.08

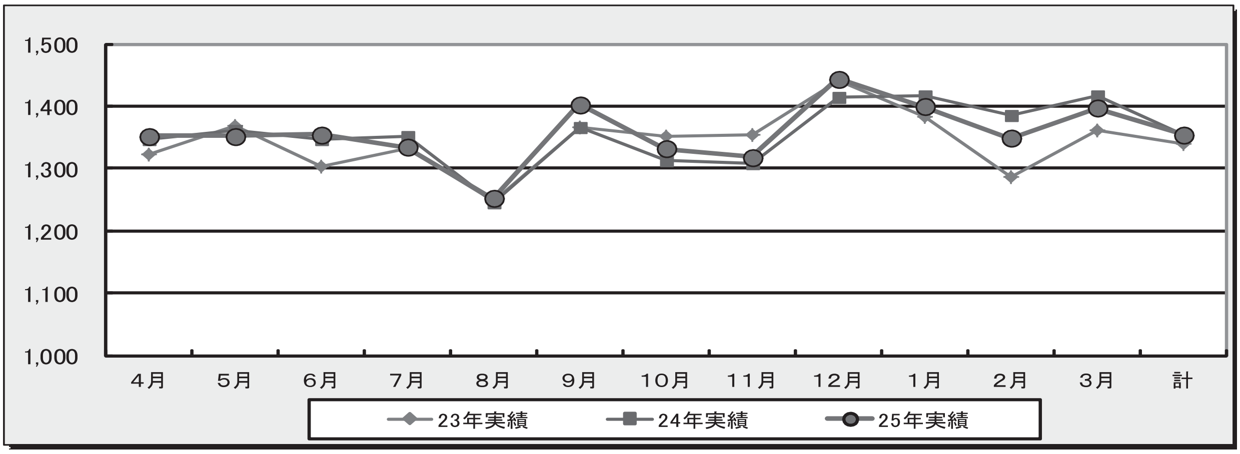
診療実績（年度別統計）

○平均入院患者数（年間目標数＝545人）　（単位：人／日）



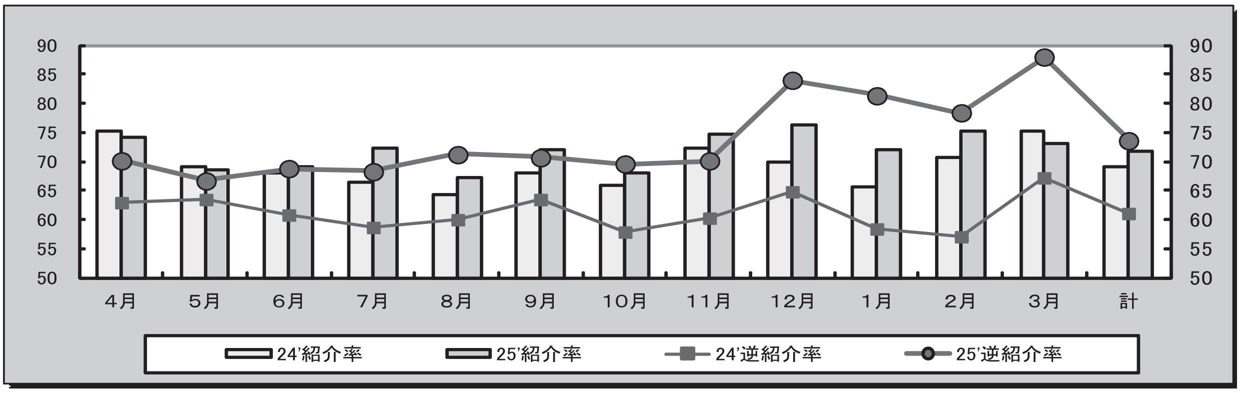
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
23年実績	553.0	526.7	566.7	554.4	551.3	540.5	541.9	544.5	503.7	512.5	556.9	540.0	540.8	90.1%
24年実績	548.3	541.3	550.7	551.2	535.1	549.7	531.1	553.7	540.6	531.9	562.3	559.1	546.1	91.0%
25年実績	559.2	549.9	524.0	529.2	547.5	538.6	539.5	527.3	521.0	534.4	560.2	541.7	539.2	89.9%

○平均外来患者数（年間目標患者数＝1343.5人）　（単位：人／日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23年実績	1,321.5	1,369.1	1,302.6	1,331.1	1,248.7	1,364.8	1,352.5	1,354.0	1,440.3	1,382.3	1,285.6	1,360.8	1,340.4
24年実績	1,345.6	1,360.7	1,346.4	1,350.9	1,245.8	1,366.5	1,312.0	1,307.9	1,415.3	1,415.7	1,384.1	1,417.3	1,353.1
25年実績	1,351.5	1,351.9	1,354.4	1,334.2	1,252.1	1,402.7	1,331.0	1,318.7	1,443.9	1,398.8	1,348.3	1,396.2	1,355.0

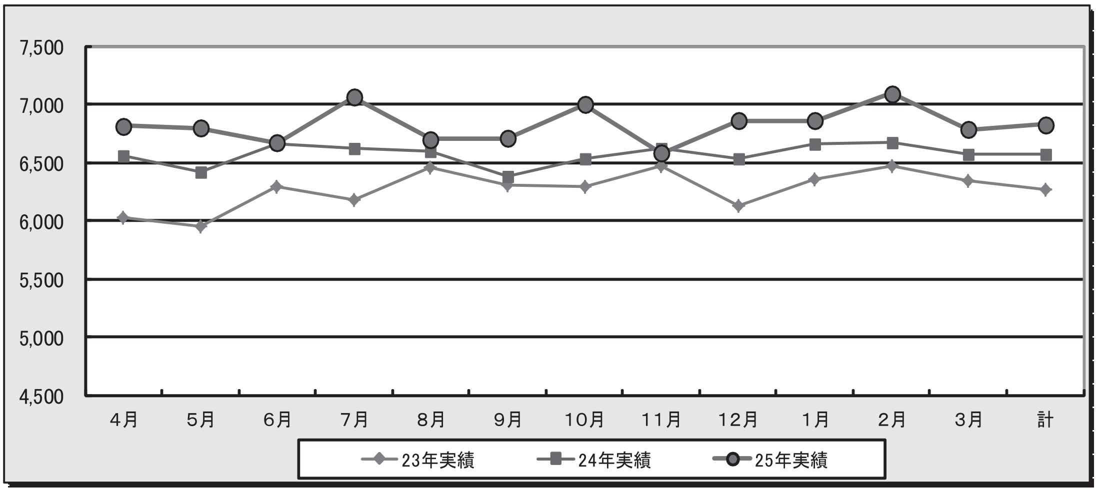
○紹介率、逆紹介率の推移　（単位：％）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24'紹介率	75.3	69.2	68.1	66.4	64.2	67.9	65.9	72.2	69.8	65.6	70.6	75.3	69.1
25'紹介率	74.2	68.5	69.0	72.4	67.1	72.0	68.1	74.7	76.4	72.1	75.3	73.2	71.8
24'逆紹介率	62.9	63.6	60.8	58.6	59.9	63.5	58.0	60.2	64.7	58.5	57.0	67.2	61.2
25'逆紹介率	70.2	66.7	68.8	68.4	71.3	70.7	69.6	70.1	84.0	81.4	78.3	87.9	73.7

○入院平均診療点数

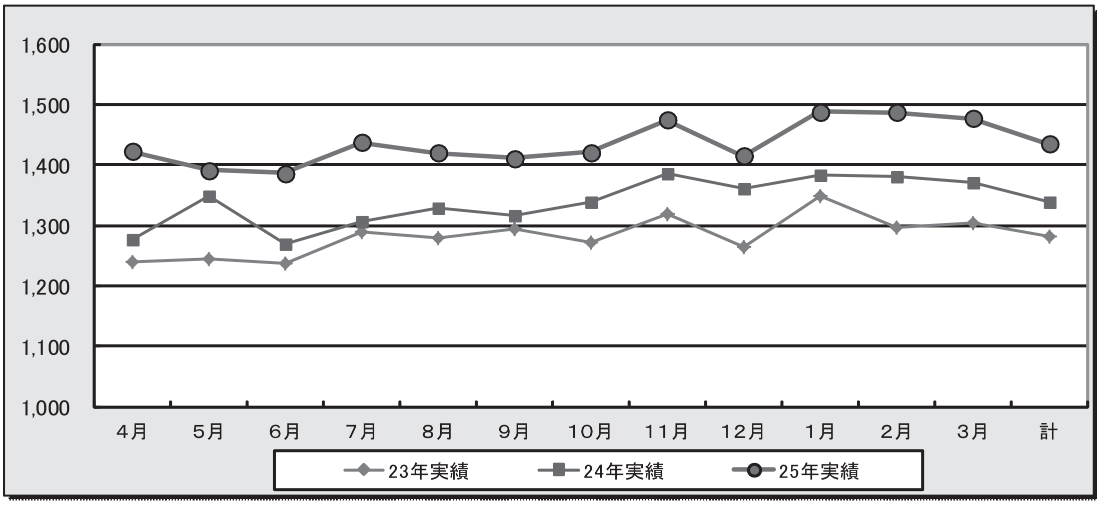
（単位：点／日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23年実績	6,028.0	5,946.6	6,291.2	6,179.0	6,461.4	6,306.5	6,287.7	6,466.2	6,132.6	6,351.0	6,468.1	6,338.2	6,271.8
24年実績	6,559.7	6,414.3	6,652.7	6,621.9	6,589.5	6,383.9	6,531.4	6,623.8	6,530.9	6,660.3	6,669.1	6,572.5	6,567.1
25年実績	6,812.5	6,791.3	6,667.4	7,057.9	6,696.6	6,706.6	6,997.6	6,578.7	6,854.6	6,860.1	7,091.1	6,783.5	6,825.0

○外来平均診療点数

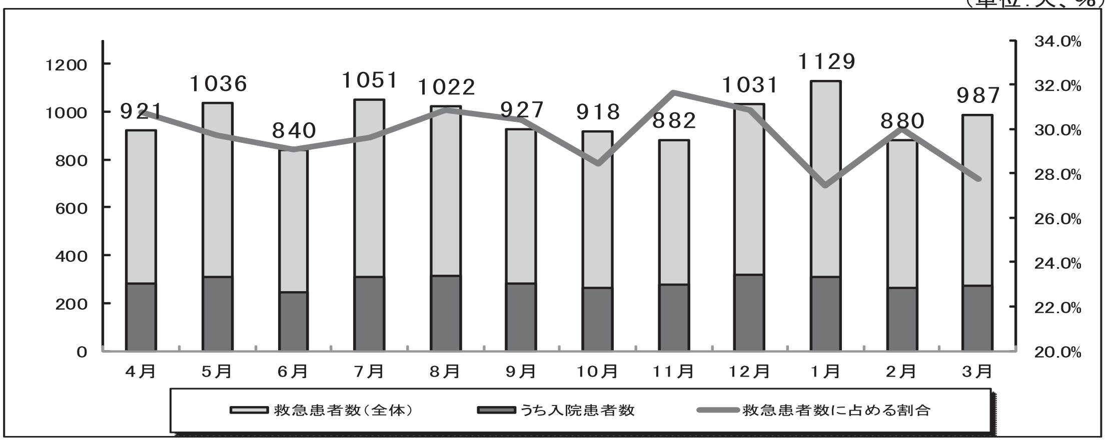
（単位：点／日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23年実績	1,240.2	1,244.9	1,237.7	1,289.0	1,277.7	1,293.4	1,271.3	1,318.6	1,263.3	1,347.2	1,295.5	1,304.3	1,281.8
24年実績	1,275.8	1,349.1	1,269.1	1,306.1	1,327.3	1,316.6	1,339.0	1,385.6	1,360.9	1,384.1	1,381.2	1,369.8	1,338.5
25年実績	1,421.5	1,391.6	1,386.0	1,436.8	1,420.1	1,411.3	1,421.2	1,474.3	1,414.7	1,487.2	1,486.9	1,476.6	1,435.1

○救急患者数推移

（単位：人、％）



	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	平均
救急患者数（全体）	921	1036	840	1051	1022	927	918	882	1031	1129	880	987	968.7
うち入院患者数	283	308	244	311	315	282	261	279	318	310	264	274	287.4
救急患者数に占める割合	30.7%	29.7%	29.0%	29.6%	30.8%	30.4%	28.4%	31.6%	30.8%	27.5%	30.0%	27.8%	29.7%
救急搬送患者数	329	362	281	390	391	306	355	338	387	388	335	362	352.0
新規入院患者数（参考）	1,187	1,190	1,094	1,296	1,193	1,105	1,191	1,105	1,128	1,227	1,099	1,172	1,165.6

経 常 収 支 率

損益計算書

（千円）

区　　分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医業収益	16,508,015	17,425,407	18,076,242
入院診療収益	11,980,073	12,656,564	12,981,180
室料差額収益	410,748	423,313	436,022
外来診療収益	4,026,033	4,266,822	4,570,975
保険予防活動収益	91,579	95,690	99,535
文書料収益	67,386	69,691	74,372
その他医業収益	1,193	1,891	2,141
保険等査定減(△)	▲68,997	▲88,564	▲87,983
診療業務費	16,397,301	16,605,978	17,448,096
給与費	7,712,906	7,973,081	8,303,447
材料費	4,889,166	4,721,005	5,159,362
委託費	763,668	754,158	738,670
設備関係費	1,885,193	2,042,466	2,025,906
研究研修費	5,842	4,619	4,461
経費	1,140,526	1,110,649	1,216,250
医業収支差	110,714	819,429	628,146
医業収支率	100.7%	104.9%	103.6%
人件費率	46.7%	45.8%	45.9%
材料費率	29.6%	27.1%	28.5%
委託費率	4.6%	4.3%	4.1%
経費率	6.9%	6.4%	6.7%
人件費+委託費率	51.3%	50.1%	50.0%
経常収益	17,318,518	18,168,626	18,875,773
経常費用	17,189,904	17,374,112	18,245,753
経常収支差	128,614	794,514	630,020
経常収支率	100.7%	104.6%	103.5%

総合内科

部長
小山　弘

専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
専 門 分 野　内科一般
得 意 疾 患　内科一般

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	小田垣孝雄	日本内科学会総合内科専門医 Infection Control Doctor 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 アメリカ心臓協会ACLSコースディレクター、BLSインストラクター 日本救急医学会 ICLSコースディレクター 日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、感染制御、救急蘇生法教育
医　師	桂　敏明	日本内科学会認定内科医	内科一般	内科一般
医　師	後藤　雅史	日本内科学会総合内科専門医 公衆衛生学修士	内科一般	内科一般
専修医	大倉　敬之	日本内科学会認定内科医	内科一般	内科一般
専修医	小見山麻紀	日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、禁煙外来、予防医学
専修医	孫　瑜		内科一般	内科一般

□ 診療科の特徴

1. 器官系を横断的に考えます
2. 患者と病院のインターフェースとして、窓口機能を果します
3. 専門診療科との連携を重視します
4. 医学的なエビデンスに配慮します

□ 主な対象疾患

急性感染症（気道、尿路、皮膚軟部組織、骨、その他）
不明熱、多発関節痛など診断の確定していない症候
免疫膠原病（関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症など。診断後自科で治療または必要に応じ専門診療科に紹介）

□ 診療（業務）内容

外来では重篤でない急性疾患の診断・管理や、不明熱や多発関節痛など診断の確定していない症候の診断・管理と必要に応じての専門診療部門・機関への紹介などを行っております。健診その他での高血圧や脂質異常症などについて相談に受診される方もおられ、生活指導や薬物療法が継続的に必要と考えられた場合、地域の医療機関を紹介することがありますので、よろしくお願い致します。

入院では、おもに救急外来から緊急入院した内科系非重篤患者のうち、肺炎、腎盂腎炎などの急性感染症、原因不明の発熱（最終的には薬剤熱、血管炎症候群、血液学的腫瘍、自然治癒するウイルス感染症や一過性の肺への吸引など）や意識障害、電解質異常、栄養不良を受け持ち、診断および管理、必要に応じて他科への紹介を行っています。他科入院中の患者の感染症や原因不明の発熱についての共診も主たる活動の一部になっています。

□ 診療実績（平成25 年度 ）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11.9名	248名	17.1日

外来患者数

1日平均患者数
35.3名

主な疾患の件数など

感染症	リューマチ性疾患	電解質異常	悪性固形腫瘍	血液疾患
168件	26件	14件	10件	10件

□ 地域医療連携・広報活動

伏見医師会理事

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国際学会	Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Hiroshi Koyama, Koichi Kono, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Effects of pharmacological therapy on weight gain after smoking cessation	18th Annual Scientific Meeting of the ISCP
国際学会	Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Syuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Asahara, Sayaka Shimada, Akira Shimatsu, Hiroshi Koyama, Koichi Kono, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Influence of post-smoking cessation weight gain on serum α1-antitrypsin-low density lipoprotein levels	American Heart Association 2013
国内学会	小見山　麻紀、和田 啓道、浦　修一、山陰 一、浅原（佐藤）哲子、嶋田 清香、島津 章、小山　弘、河野　公一、高橋 裕子、長谷川 浩二	禁煙後体重増加と心血管バイオマーカー	第2回禁煙治療研究会
国内学会	小見山　麻紀、和田 啓道、浦　修一、山陰 一、浅原（佐藤）哲子、島津 章、小山　弘、河野　公一、高橋 裕子、長谷川 浩二	禁煙後体重増加と心血管バイオマーカー	第8回日本禁煙科学会学術総会
国内学会	小見山　麻紀、和田 啓道、浦　修一、山陰 一、浅原（佐藤）哲子、島津 章、小山　弘、河野　公一、高橋 裕子、長谷川 浩二	禁煙外来受診者における性差の影響と禁煙成功率の検討	第8回日本禁煙科学会学術総会
国内学会	小見山　麻紀、和田 啓道、浦　修一、山陰 一、浅原（佐藤）哲子、島津 章、小山　弘、河野　公一、高橋 裕子、長谷川 浩二	睡眠時間と禁煙後体重増加についての検討	第8回日本禁煙科学会学術総会
国内学会	小見山　麻紀、和田 啓道、浦　修一、山陰 一、浅原（佐藤）哲子、島津 章、小山　弘、河野　公一、高橋 裕子、長谷川 浩二	喫煙と唾液酸化還元電位値の関連についての検討	第8回日本禁煙科学会学術総会

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ
DVD 研修医のための診察手順	大倉敬之, 小山弘	腹痛の診かた	第9巻
JIM	伊藤遼、小山弘、小田垣孝雄、桂敏明、大倉敬之、植田洋平	What's your diagnosis? 副大統領の秘密は2年後に明らかになった？	23巻8号（2013.8）

血液内科

医　長
奥野　芳章

専門医資格等　日本内科学会内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
京都大学医学博士
専 門 分 野　血液一般

□ 診療科の特徴

1. 当科では貧血から、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など血液悪性疾患に至るまでいろいろな血液疾患の診断、治療をおこなっています。血液疾患は自覚症状に乏しく、血液検査をして初めて異常が明らかになることが多いため、まず、お近くのかかりつけの医師に診察して頂いて、血液疾患の疑いがあれば当科にご紹介して頂いています。
2. 血液疾患の治療法の進歩はめざましく、血液幹細胞移植の適応になることもありますが、残念ながら当院では移植治療は行っておりません。そのような治療が必要な場合、移植施設をご紹介いたします。

□ 主な対象疾患

貧血・出血傾向・リンパ腫・白血病・骨髄腫　など

□ 診療（業務）内容

再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や血液悪性疾患に対する通常量化学療法、貧血などに対する輸血などの対症療法を行っています。治療法を選択するにあたっては、広く認められている標準療法であること、患者さんが十分ご理解、ご納得頂けることを重視しています。

血液疾患は診断、あるいは治療の選択に困難を伴う場合が多いかと思いますが、患者さんと常にご相談しながらよりよい治療法を探していきます。

・貧血
・出血傾向
・リンパ腫
・白血病
・骨髄腫など

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	9.1	123	26.8

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	12.6

内分泌・代謝内科

診療部長・診療科長
田上　哲也

専門医資格等	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医・教育責任者 日本甲状腺学会　専門医 厚生労働省　臨床研修指導医 京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師 京都大学　医学博士
専門分野	内科 内分泌・代謝
得意疾患	甲状腺疾患

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	立木　美香	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 東京女子医科大学　医学博士	内科、内分泌・代謝	
医師	中尾佳奈子	日本内科学会　認定内科医	内科、内分泌・代謝	
専修医	中谷理恵子	日本内科学会　認定内科医	内科、内分泌・代謝	
レジデント	垣田真以子	日本内科学会　認定内科医 日本老年医学会　専門医 日本医師会　認定産業医	内科、 内分泌・代謝	
レジデント	植田　洋平	日本内科学会　認定内科医	内科、内分泌・代謝	
臨床研究センター・センター長	島津　章	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師 京都大学　医学博士	内科、 内分泌・代謝、 臨床検査医学	神経内分泌・下垂体疾患
臨床研究センター・副センター長（内分泌代謝高血圧研究部長）	成瀬　光栄	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 日本糖尿病学会　専門医 日本腎臓学会　専門医・指導医 東京医科歯科大学医学部　臨床教授・非常勤講師 東京女子医科大学　医学博士	内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
臨床研究センター・室長（臨床内分泌代謝研究室）	臼井　健	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会　臨床遺伝専門医 厚生労働省　臨床研修指導医 京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師 京都大学　医学博士	内分泌・代謝、 臨床遺伝学	神経内分泌・遺伝性疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設

1. 内分泌代謝疾患に関する良質で高水準の医療を提供している。
2. 満足のいく十分な説明を行い、安心できる医療を提供している。
3. 十分な診療情報提供と逆紹介により、病診連携を促進している。
4. 地域における内分泌代謝疾患の専門診察を担っており、1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として国の指定を受け、全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築している(EMネット)。

□ 主な対象疾患

●下垂体疾患
下垂体腫瘍：先端巨大症、クッシング病、プロラクチノーマ、TSH産生腫瘍など
下垂体機能低下症：汎下垂体機能低下症（シーハン症候群を含む）、下垂体ホルモン単独欠損症（低身長症を含む）、中枢性尿崩症*、リンパ球性下垂体炎など

●甲状腺疾患
甲状腺機能亢進症（甲状腺中毒症）：バセドウ病、プランマー病など
破壊性甲状腺中毒症：亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎など
甲状腺機能低下症：慢性甲状腺炎（橋本病）、術後または放射性ヨード療法後の甲状腺機能低下症、先天性甲状腺機能低下症（甲状腺ホルモン不応症*を含む）など
甲状腺腫瘍（腺腫様甲状腺腫を含む）

●カルシウム・骨疾患
高カルシウム血症：原発性副甲状腺機能亢進症、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症など
低カルシウム血症：副甲状腺機能低下症（偽性副甲状腺機能低下症を含む）など
骨粗鬆症

●副腎疾患
副腎腫瘍：クッシング症候群、原発性アルドステロン症（特発性アルドステロン症を含む）、褐色細胞腫*、副腎偶発腫など
副腎皮質機能低下症：アヂソン病、急性副腎不全（副腎クリーゼを含む）など
先天性副腎過形成*

●性腺疾患
ターナー症候群、クラインフェルター症候群、性腺機能低下症など

●メタボリックシンドローム
高血圧、肥満、糖尿病などの生活習慣病の中にも内分泌の病気が隠れています。

●内分泌性高血圧
高血圧の約15%はホルモンの異常による内分泌性高血圧で、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、腎臓などのホルモン過剰が原因となります。適確な診断と治療で治癒可能なことが多いので、専門医の受診を勧めます。
原発性アルドステロン症が代表です。

●その他
腎性尿崩症*、多発性内分泌腺腫症(Ⅰ型, Ⅱ型)*
電解質異常（低カリウム血症、低ナトリウム血症など）、高脂血症、高尿酸血症など

*遺伝子検査が可能

□ 診療（業務）内容

●内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するもので，下垂体，甲状腺，副甲状腺，副腎，性ホルモンの異常をきたす疾患の他，内分泌疾患を疑う必要のある，高血圧，糖尿病，肥満，高脂血症などの生活習慣病，電解質異常，骨粗鬆症などを対象として，診療にあたっている。
●外来では，血液検査，画像検査（レントゲン，CT，MRI，アイソトープ検査や甲状腺エコー），甲状腺の細胞診などを行っている。遺伝子診断・遺伝相談，セカンドオピニオン外来を実施している。
●入院では，上記疾患の診断と治療の他，バセドウ病のアイソトープ治療，甲状腺眼症のステロイドパルス療法，原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施している。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

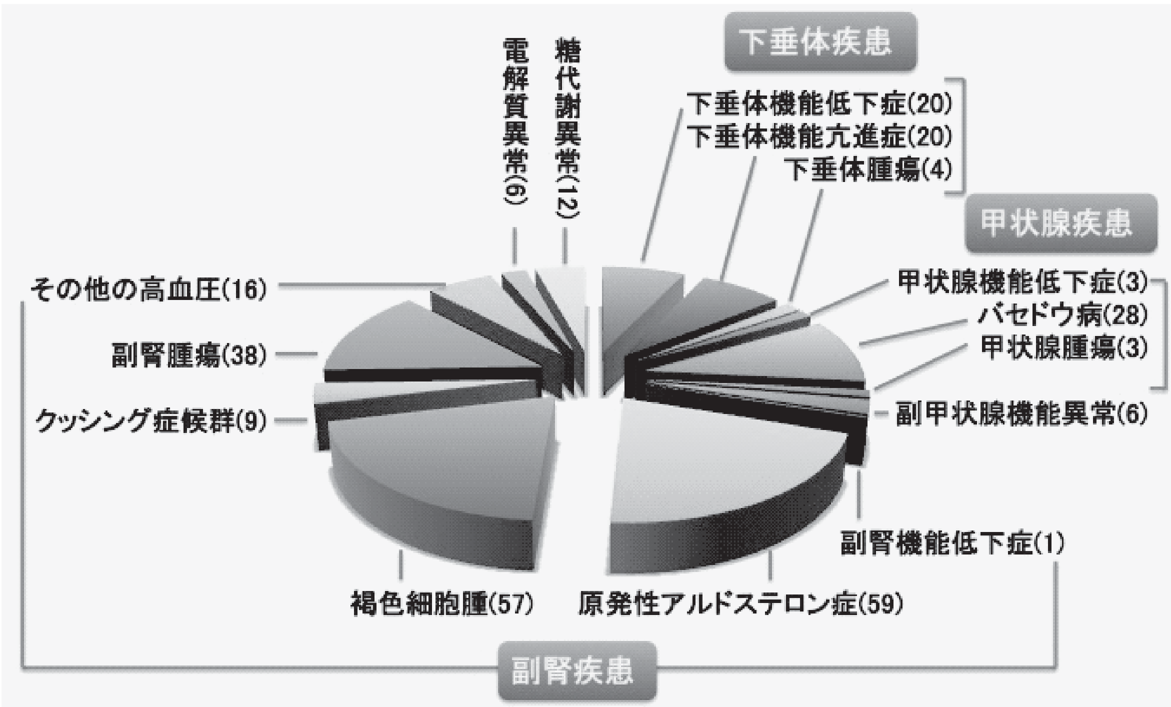
	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	6名	259名	8.2日

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	58.5名

主な検査の件数など

	甲状腺エコー	甲状腺細胞診	遺伝子検査	遺伝カウンセリング
2013年度	1,591件	153件	68件	6件



□ 学術活動報告（学会・研究発表　など）

区　分	演 者	演 題	学 会 名		
国際学会	Kakita M, Ueda Y, Nakao K, Usui T, Nakatani R, Kawashima S, Nanba K, Tsuiki M, Tagami T, Naruse M, Watanabe Y, Mori Y, Asato R, Yamamoto T, Shimatsu A	Calcium stimulation test for the rare mutation carriers of RET.	95th ANNUAL MEETING & EXPO(ENDO2013)	2013.6.15-18	San Francisco
国際学会	Tsuiki M, Nanba K, Tsumagari A, Nakao K, Nakatani R, Kakita M, Ueda Y, Usui T, Tagami T, Shimatsu A, Tanabe A, Naruse M	Short-term saline infusion test for subtype classification in primary aldosteronism.	95th ANNUAL MEETING & EXPO(ENDO2013)	2013.6.15-18	San Francisco
国際学会	Nanba K, et al.	Clinical and histopathological manifestation of KCNJ5 mutations in primary aldosteronism.	95th ANNUAL MEETING & EXPO(ENDO2013)	2013.6.15-18	San Francisco
国内学会	中尾 佳奈子, 臼井 健, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 金子 惠一, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 八幡 兼成, 島津 章	Gitelman症候群におけるgenetic background解析	第23回臨床内分泌代謝：Update	2014.1.24	名古屋
国内学会	革嶋 幸子, 木戸 愛, 中野 重治, 臼井 健, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章, 渡邊 佳紀, 加藤 純子	非典型的な副甲状腺機能亢進症に対する診断戦略	第23回臨床内分泌代謝：Update	2014.1.24	名古屋
国内学会	中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章, 本多 啓吾, 安里 亮, 臼井 健	頭頸部paragangliomaにおける遺伝学的検査について	第23回臨床内分泌代謝：Update	2014.1.24	名古屋
国内学会	植田 洋平, 渡邊 知一, 臼井 健, 垣田 真以子, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 金子 惠一, 本間 桂子, 長谷川 奉延, 島津 章	未治療成人17α水酸化酵素欠損症患者の遺伝学的、内分泌学的解析	第23回臨床内分泌代謝：Updat	2014.1.24	名古屋
国内学会	垣田 真以子, 立木 美香, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症における心電図を用いた左室肥大の検討	第23回臨床内分泌代謝：Update	2014.1.24	名古屋
国内学会	中尾 佳奈子, 立木 美香, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真衣子, 革嶋 幸子, 難波 多挙, 田上 哲也, 臼井 健, 広川 侑奨, 奥野 博, 米田 隆, 島津 章, 成瀬 光栄	術後予後に基づく副腎静脈サンプリングのPA局在診断基準の検証	第23回臨床内分泌代謝：Update	2014.1.24	名古屋
国内学会	中谷 理恵子, 浅井 志高, 玉那覇 民子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 臼井 健, 田上 哲也, 方波見 卓行, 田中 逸, 島津 章, 成瀬 光栄	副腎皮質癌12例の臨床像・治療・予後に関する検討	第23回臨床内分泌代謝：Update	2014.1.24	名古屋
国内学会	垣田 真以子, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	当院でのバセドウ眼症の治療成績	第23回臨床内分泌代謝：Update	2014.1.24	名古屋
国内学会	立木 美香, 中尾 佳奈子, 中谷 理恵子, 垣田 真以子, 植田 洋平, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	生食負荷試験と迅速ACTH試験が陰性、副腎静脈サンプリングで両側副腎のアルドステロン過剰産生が示唆された若年者高血圧の1例	第36回日本高血圧学会総会	2013.10.24-26	大阪
国内学会	垣田 真以子, 立木 美香, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 津曲 綾, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症(PA)の左室肥大に関する心電図左室肥大(ECG-LVH)基準を用いた検討	第36回日本高血圧学会総会	2013.10.24-26	大阪
国内学会	中尾 佳奈子, 立木 美香, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 津曲 綾, 革嶋 幸子, 難波 多挙, 田上 哲也, 臼井 健, 広川 侑奨, 奥野 博, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症における副腎静脈サンプリングの局在診断基準と副腎手術後予後との関連	第36回日本高血圧学会総会	2013.10.24-26	大阪
国内学会	成瀬 光栄, 立木 美香, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 垣田 真衣子, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 難波 綾, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章	よくわかる原発性アルドステロン症とサブクリニカルクッシング症候群	第36回日本高血圧学会総会	2013.10.24-26	大阪
国内学会	木戸 愛, 垣田 真以子, 臼井 健, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 山本 鉄郎, 大谷 哲之, 三品 睦輝, 奥野 博, 前川 尚志, 笹野 公伸, 島津 章	FDG-PETで強陽性を呈し副腎皮質癌との鑑別が困難だったadrenocortical oncocytomaと考えられた副腎腫瘍の一例	第17回日本内分泌病理学会	2013.10.4-5	横浜
国内学会	中谷 理恵子, 浅井 志高, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 玉那覇 民子, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 山本 鉄郎, 方波見 卓行, 田中 逸, 成瀬 光栄	副腎皮質癌の臨床像と病理組織所見に関する検討	第17回日本内分泌病理学会	2013.10.4-5	横浜
国内学会	中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄, 木村 伯子	15年後に肝転移した非機能性paragangliomaの病理診断	第17回日本内分泌病理学会	2013.10.4-5	横浜
国内学会	垣田 真以子, 難波 多挙, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 津曲 綾, 立木 美香, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 笹野 公伸, 成瀬 光栄	臨床的に副腎皮質癌が示唆されたundifferentiated malignant tumorの一例	第17回日本内分泌病理学会	2013.10.4-5	横浜
国内学会	中谷 理恵子, 浅井 志高, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 方波見 卓行, 田中 逸, 成瀬 光栄	副腎皮質癌の臨床像および治療効果・予後に関する検討	第21回日本ステロイドホルモン学会	2013.11.16	豊中
国内学会	植田 洋平, 渡邊 知一, 臼井 健, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 金子 惠一, 本間 桂子, 長谷川 奉延, 島津 章	50歳時に初めて診断された17α水酸化酵素欠損症の1例	第21回日本ステロイドホルモン学会	2013.11.16	豊中
国内学会	臼井 健, 垣田 真以子, 難波 多挙, 村田 敬, 安井 久晃, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ACTH産生腫瘍に対するエベロリムスの治療効果	第40回日本神経内分泌学会	2013.10.25-26	宮崎

国内学会	桑原 智子, 山田 正三, 佐藤 健吾, 青木 友和, 臼井 健, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	異型腺腫から下垂体癌への進展を観察し得たプロラクチノーマの1例	第40回日本神経内分泌学会	2013.10.25-26	宮崎
国内学会	中尾 佳奈子, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 立木 美香, 臼井 健, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	オクトレオチド徐放性製剤による先端巨大症の長期治療　用量・投与間隔の調整について	第40回日本神経内分泌学会	2013.10.25-26	宮崎
国内学会	田上 哲也, 立木 美香, 中尾 佳奈子, 中谷 理恵子, 垣田 真以子, 植田 洋平, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章	甲状腺中毒症状の特異性について	第56回日本甲状腺学会	2013.11.14-16	和歌山
国内学会	中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 津曲 綾, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	当院でのBasedow病に対する131I内用療法の治療成績	第56回日本甲状腺学会	2013.11.14-16	和歌山
国内学会	垣田 真以子, 木戸 愛, 難波 多挙, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 津曲 綾, 中尾 佳奈子, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	バセドウ眼症のステロイドパルス療法　肝機能障害の症例提示と当院での治療成績について	第56回日本甲状腺学会	2013.11.14-16	和歌山
国内学会	根津 祥子, 二若 久美, 主田 綾佳, 笠原 正登, 田上 哲也, 森山 賢治	エネルギー代謝に関与するFOXO標的遺伝子の探索	第56回日本糖尿病学会年次学術集会	2013.5.16-18	熊本
国内学会	主田 綾佳, 二若 久美, 根津 祥子, 笠原 正登, 田上 哲也, 森山 賢治	エネルギー代謝に関与するSTAT5の標的遺伝子の探索	第56回日本糖尿病学会年次学術集会	2013.5.16-18	熊本
国内学会	垣田 真以子, 村田 敬, 小川 尚, 臼井 健, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	たこつぼ型心筋症を来たしたSubclinical　Cushing症候群術後の一例	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	津曲 綾, 難波 多挙, 立木 美香, 中尾 佳奈子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中谷 理恵子, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症における迅速ACTH試験とCaptopril試験の比較	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	植田 洋平, 難波 多挙, 津曲 綾, 中尾 佳奈子, 垣田 真以子, 中谷 理恵子, 革嶋 幸子, 立木 美香, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	アルドステロン関連高血圧におけるBMIとアルドステロンとの関連	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	立木 美香, 難波 多挙, 中尾 佳奈子, 津曲 綾, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中谷 理恵子, 臼井 健, 田上 哲也, 田辺 晶代, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の診断における短時間生理食塩水負荷試験の診断的意義	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	加藤 純子, 田上 哲也, 桑原 隆, 西 重生	高齢者の甲状腺機能と認知機能	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	難波 多挙, 澤井 邦子, 立木 美香, 中尾 佳奈子, 方波見 卓行, 奥村 中, 河 源, 田辺 晶代, 臼井 健, 田上 哲也, 向井 邦晃, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の病型診断におけるCYP11B2免疫染色の有用性	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	革嶋 幸子, 難波 多挙, 立木 美香, 植田 洋平, 垣田 真以子, 中尾 佳奈子, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄, 黒田 昌志, 広川 侑奨, 伊藤 剛, 奥野 博	原発性アルドステロン症(PA)の局在診断に及ぼす副腎静脈サンプリング(AVS)診断基準の影響	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	森山 賢治, 二若 久美, 山本 裕之, 主田 綾佳, 根津 祥子, 笠原 正登, 田上 哲也	エネルギー代謝に関与する成長ホルモンの標的遺伝子の探索	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	金本 巨哲, 田上 哲也, 松岡 秀樹, 上田 依利子, 三浦 晶子, 八十田 明宏, 荒井 宏司, 中尾 一和	LXRによる1型脱ヨード酵素遺伝子転写調節	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	中尾 佳奈子, 臼井 健, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 金子 惠一, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 八幡 兼成, 島津 章	Gitelman症候群が疑われSLC12A3遺伝子解析を実施した25例における遺伝子変異および臨床徴候の解析	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	田上 哲也, 森山 賢治, 二若 久美, 臼井 健, 島津 章, 成瀬 光栄	核内受容体と脂質・エネルギー代謝に関わる遺伝子のクロストークによる転写調節機構の解析	第86回日本内分泌学会学術総会	2013.4.25-27	仙台
国内学会	難波多挙, 臼井健, 中久木卓也, 植田洋平, 垣田真衣子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子,立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	カベルゴリン２回投与で気脳症をきたしたMEN１型合併マクロプロラクチノーマの１例	第23回間脳下垂体腫瘍学会	2013.3.15-16	鹿児島
国内学会	植田 洋平, 渡邊 知一, 臼井 健, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 金子 恵一, 本間 桂子, 長谷川 奉延, 島津 章	50歳時に初めて診断された17αα水酸化酵素欠損症の1例	第14回日本内内分泌学会近畿支部学術集会	2013.10.19	京都
国内学会	中尾佳奈子, 臼井健,　中谷理恵子, 植田洋平, 垣田真衣子, 金子惠一, 難波多挙,　立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 八幡兼成, 島津章	Gitelman症候群が疑われた30例におけるSLC12A3遺伝子解析とMLPA解析	第20回日本遺伝子診療学会大会	2013.7.19-20	浜松
国内学会	室伏佑香, 中谷 理恵子, 臼井 健, 植田 洋平, 垣田 真以子, 立木 美香, 難波 多挙,田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	複合型下垂体ホルモン欠損症を呈した成人男性例	第200回日本内科学会近畿地方会	2013.6.8	神戸
国内学会	中尾佳奈子, 垣田真衣子, 植田洋平, 中谷理恵子, 立木美香, 田上哲也, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章	MLPA法にて新規SLC12A3遺伝子コピー数異常を同定したギッテルマン症候群の１例	第202回日本内科学会近畿地方会	2013.12.14	大阪
研究会	田上哲也	核内転写因子を介したスタチン・ARBの代謝改善効果について	第84回京都内分泌同好会	2013/3/2	京都
研究会	室伏佑香, 中谷理恵子, 臼井健, 植田洋平, 垣田真以子, 津曲綾, 立木美香, 難波多挙、田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	複合型下垂体ホルモン欠損症を呈した成人男性例	第84回京都内分泌同好会	2013/3/2	京都
研究会	革嶋幸子, 木戸愛, 中野重治, 臼井健, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 立木美香, 難波多挙、田上哲也, 成瀬光栄, 島津章, 加藤純子	非典型的な臨床所見を呈した副甲状腺機能亢進症の２例	第84回京都内分泌同好会	2013/3/2	京都

研究会	田上哲也	向精神薬を服用している患者が来院したときの留意点・内分泌科医の立場から	第6回伏見精神医療勉強会	2013/5/18	京都
研究会	田上哲也	ARB, 特にIrbesartanのPleiotropic作用	STOPHYPERTENSION Conference in KYOTO	2013/5/18	京都
研究会	垣田 真以子, 植田 洋平, 中谷 理恵子, 津曲 綾, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	Basedow病に亜急性甲状腺炎を合併したと考えられる一症例	第13回京滋臨床甲状腺懇話会	2013/7/6	京都
研究会	中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 津曲 綾, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	当院におけるBasedow病アイソトープ治療の実態調査	第13回京滋臨床甲状腺懇話会	2013/7/6	京都
研究会	難波多挙, 臼井健, 中久木卓也, 植田洋平, 垣田真衣子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	カベルゴリン2回投与で気脳症をきたしたMEN1型合併マクロプロラクチノーマ	第46回間脳下垂体疾患研究会	2013/8/31	京都
研究会	中尾佳奈子, 垣田真以子, 臼井健, 植田洋平, 中谷理恵子, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	MLPA法にてSLC12A3遺伝子コピー数異常を同定したギッテルマン症候群の１例	第85回京都内分泌同好会	2013/9/21	京都
研究会	中尾佳奈子, 立木美香, 中谷理恵子, 植田洋平, 垣田真以子, 革嶋幸子, 難波多挙、田上哲也, 臼井健, 広川侑奨, 奥野博, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症における副腎静脈サンプリングの局在診断と副腎手術後予後との関連	第36回近畿「内分泌と高血圧」研究会	2013/11/6	豊中
研究会	垣田真以子, 松尾奈緒美, 植田洋平, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 立木美香, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章, 江坂直樹, 網野信行, 田上哲也	少量のPTUの長期服用後に高度の肝障害を来たしたBasedow病の一症例	第36回京都甲状腺研究会	2014/1/18	京都
研究会	垣田真以子, 松尾奈緒美, 植田洋平, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 立木美香, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	甲状腺中毒症と甲状腺腫を繰り返しIgG4関連甲状腺炎が疑われた一例	第86回京都内分泌同好会	2014/3/1	京都
研究会	廣嶋佳保, 中谷理恵子, 臼井健, 松尾奈緒美, 植田洋平, 垣田真以子, 立木美香, 中尾佳奈子, 田上哲也, 成瀬光栄	VHL病に伴う両側褐色細胞腫の１例	第86回京都内分泌同好会	2014/3/1	京都
研修会	田上哲也	Dr.TAGAMINの甲状腺講座～あなたの疑問にお答えします～	平成24年度内分泌・代謝性疾患専門医研修会	2014/1/31	京都
研修会	立木美香, 成瀬光栄	副腎疾患の診療方針	平成24年度内分泌・代謝性疾患専門医研修会	2014/1/31	京都
研修会	臼井　健	糖尿病に紛れている内分泌患者	平成24年度内分泌・代謝性疾患専門医研修会	2014/1/31	京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ
J Clin Endocrinol Metab	Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Mukai K, Nishimoto K, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Shimatsu A, Katabami T, Okumura A, Kawa G, Tanabe A, Naruse M.	Histopathological diagnosis of primary aldosteronism using CYP11B2 immunohistochemistry.	J Clin Endocrinol Metab. 2013 Apr;98(4):1567-74. doi: 10.1210/jc.2012-3726. Epub 2013 Feb 26.
Head Neck	Nakao KT, Usui T, Ikeda M, Mori Y, Yamamoto T, Kawashima ST, Nanba K, Yuno A, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Asato R, Shimatsu A.	Novel tandem germline RET proto-oncogene mutations in a patient with multiple endocrine neoplasia type 2B: report of a case and a literature review of tandem RET mutations with in silico analysis.	Head Neck. 2013 Dec;35(12):E363-8. doi: 10.1002/hed.23241. Epub 2013 Mar 6.
Endocrine	Kawashima ST, Tagami T, Nakao K, Nanba K, Tamanaha T, Usui T, Naruse M, Minamiguchi S, Mori Y, Tsuji J, Tanaka I, Shimatsu A.	Serum levels of IgG and IgG4 in Hashimoto thyroiditis.	Endocrine. 2014 Mar;45(2):236-43. doi: 10.1007/s12020-013-9988-9. Epub 2013 May 22.
日本医師会雑誌	中村 浩淑, 浜田 昇, 宮川 めぐみ, 田上 哲也, 杉野 公則	【甲状腺疾患-診断と治療】 甲状腺疾患 日常診療のポイント	141巻11号 Page2385-2399(2013.02)
腫瘍内科	立木 美香, 津曲 綾, 難波 多挙, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	【日常遭遇する希少がん腫の薬物療法】副腎皮質がん	11巻2号 Page214-220(2013.02)
日本内分泌学会雑誌	中尾 佳奈子, 臼井 健, 池田 真悠実, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 革嶋 幸子, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲	新規RET遺伝子重複変異によるMEN2Bのin silico解析	89巻Suppl. Page95-96(2013.06)
日本内分泌学会雑誌	植田 洋平, 難波 多挙, 津曲 綾, 中尾 佳奈子, 垣田 真以子, 中谷 理恵子, 革嶋 幸子, 立木 美香, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	アルドステロン関連高血圧におけるBMIとアルドステロンとの関連	89巻Suppl. Page66-67(2013.06)

日本内分泌学会雑誌	垣田 真以子, 植田 洋平, 中尾 佳奈子, 臼井 健, 中谷 理恵子, 革嶋 幸子, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 渡邉 佳紀, 森 祐輔, 安里 亮, 山本 鉄郎, 島津 章	無症候性RET遺伝子変異キャリアーに対するカルシウム刺激試験の有用性の検討	89巻Suppl. Page33-35(2013.06)
The Lipid	成瀬 光栄, 立木 美香, 難波 多挙, 中尾 佳奈子, 津曲 綾, 田上 哲也, 島津 章, 田辺 晶代	アルドステロン アルドステロンと病態　アルドステロンと高血圧症(原発性アルドステロン症を中心に)　高血圧における原発性アルドステロン症の臨床的重要性	24巻3号 Page258-261(2013.07)
カレントテラピー	立木 美香, 津曲 綾, 難波 多挙, 中尾 佳奈子, 田上 哲也, 田辺 晶代, 成瀬 光栄	【原発性アルドステロン症-診断と治療の新展開】非侵襲的局在診断法の展望	31巻7号 Page733-736(2013.07)
カレントテラピー	成瀬 光栄, 立木 美香, 難波 多挙, 中尾 佳奈子, 垣田 真以子, 植田 良平, 津曲 綾, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 田辺 晶代	【原発性アルドステロン症-診断と治療の新展開】米国とわが国の診療ガイドラインの現状と課題	31巻7号 Page674-679(2013.07)
血圧	成瀬 光栄, 立木 美香, 難波 多挙, 中尾 佳奈子, 津曲 綾, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 田辺 晶代	【原発性アルドステロン症:Up-date】 原発性アルドステロン症の診断と治療　診療ガイドラインの現状と課題	20巻8号 Page741-747(2013.08)
最新内分泌代謝学	田上哲也	第1章　内分泌代謝総論　シグナル伝達と代謝	31-36 2013.3.27 診断と治療社
最新内分泌代謝学	田上哲也	第3章　甲状腺　甲状腺ホルモン不応症	206-209 2013.3.27 診断と治療社
最新内分泌代謝学	田上哲也	第16章　加齢と内分泌代謝　甲状腺機能と加齢	789-791 2013.3.27 診断と治療社
最新内分泌代謝学	田上哲也	第17章　生殖と内分泌代謝　妊娠と甲状腺疾患	809-812 2013.3.27 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也（編集）, 西川光重（編集）, 伊藤公一（編集）, 成瀬光栄（編集）	甲状腺疾患診療マニュアル　改訂第2版	'1-190 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Ⅰ総論編　1　甲状腺疾患の診療について（内科から）	'2-3 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Ⅱ　各論編　第1章　基礎知識　4　甲状腺ホルモンの作用	'16-17 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Ⅱ　各論編　第2章　臨床知識　4　甲状腺中毒症	'30-32 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	森山賢治, 田上哲也	Ⅱ　各論編　第2章　臨床知識　24　甲状腺疾患と薬剤	'115-116 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Ⅱ　各論編　第3章　専門知識　9　甲状腺中毒性周期性四肢麻痺	'115-116 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Information　甲状腺のCT検査	'44 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Information　バーチャル臨床甲状腺カレッジ	'59 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Information　関連学会ホームページ	'106 2014.1.10 診断と治療社
甲状腺疾患診療マニュアル改訂第2版	田上哲也	Information　甲状腺腫の七條分類	'145 2014.1.10 診断と治療社
今日の診療のために ガイドライン外来診療2014	田上哲也	Ⅰ. 外来のガイドライン診療　-診断, 管理・治療-　内分泌・代謝性疾患　24　甲状腺機能異常症	'232-248 2014.4.1 日経メディカル開発

糖尿病センター（糖尿病内科）

診療科長
（外来部門）
山田　和範

専門医資格等
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　糖尿病

診療科長
（入院部門）
河野　茂夫

専門医資格等
　日本糖尿病学会　糖尿病専門医
　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
　日本糖尿病学会　評議員
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　足病変

医長
中川内玲子

専門医資格等
　日本糖尿病学会　糖尿病専門医
　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　足病変

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	村田　敬	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
医　師	小鳥　真司	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医 日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　肥満症専門医 日本抗加齢医学会　専門医 京都大学医学博士	糖尿病	糖尿病
医　師	岸　純一郎		糖尿病	糖尿病
専修医	四枚田耕平	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
専修医	伊藤　遼	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
専修医	水谷結香子	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
専修医	渡邊　知一	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
臨床研究センター長	島津　章	日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本病態栄養学会　認定NSTコーディネーター 京都大学医学博士 京都大学臨床教授	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌
予防医学研究室長	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病教育

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
臨床代謝栄養研究室長	浅原　哲子	日本内科学会　認定内科医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会　評議員 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会　評議員 日本動脈硬化学会　評議員 日本病態栄養学会　評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患
非常勤医師	重光　松崇		糖尿病	糖尿病
非常勤医師	吉良　友里	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
非常勤医師	小谷　和彦	日本内科学会　総合内科専門医 日本臨床検査医学会　臨床検査専門医 日本動脈硬化学会　評議員 自治医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院 FH診療認定施設

1. 生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さんご自身が自己管理能力を身につけることが大事です。当科では糖尿病教育、すなわち患者さんへの教育を実施すると同時に、患者さんに対する指導能力を高めた教育スタッフを育成し、より一層の治療実績アップに努めます
2. 地域の糖尿病基幹病院としての責務を果たすべく、地域連携に努めます

□ 主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症（眼科）、妊婦糖尿病、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病性昏睡、重症低血糖

□ 診療（業務）内容

・糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。
下記に専門外来の診療活動について紹介する。

・フットケア外来毎週月曜日14時～/フットセンター外来　毎週火曜日14時～　(2000年開設)　フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。
フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診察をした上で、関係担当診療科へ紹介している。

・フットウェア外来(月2回：木曜日13時～16時　完全予約制)　フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター(Orthopedic Shoe Meister)と協力して、靴・装具の指導や調整にあたっている。

・1型糖尿病外来（2005年開設）毎週　火曜日9時～16時・金曜日9時～12時/インスリンポンプ外来（2010年開設）毎週　月曜日　14時～16時
1型糖尿病はインスリン分泌の廃絶を特徴とする。生命維持のみならず慢性の合併症予防のためにはインスリンを上手に用いて平均血糖レベルや血糖値のバラツキをコントロールすることが重要である。1型糖尿病外来で

は、重症低血糖を起こすことなく平均血糖レベルを改善する方法（カーボカウント、修正インスリンなどによるインスリン自己注射）につき、医師・看護師・管理栄養士のチームがわかりやすく指導している。インスリンポンプ療法（CSII）はこのためのきわめて有効な血糖管理法である。2014年3月末の１型糖尿病外来通院患者数は196名（うち新患34名）、インスリンポンプ療法を行っている患者は74名（2013年度新規導入11名）であった。

・肥満・メタボリックシンドローム外来(2001年開設)　毎週　月曜日・水曜日9時～14時
肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登載した当院独自の「ダイエットノート」を活用して日本肥満学会が提唱する行動療法的アプローチに基づく減量指導を行っている。また動脈硬化や睡眠時無呼吸症候群等の合併症も定期的に評価している。また、外来患者を中心として2006年よりメタボリックシンドローム会（患者会）を定期的に開催。さらにメタボ通信、メタボランチ（2013年にスマートランチに名称変更）などをチーム医療で展開している。2009年には本活動をまとめた「チームで撲滅！メタボリックシンドローム」（診断と治療社）を刊行。外来開設からの延べ13,700人以上、他院・他科からの紹介率も高く、新患70人以上（年間）に昇る。

・高脂血症外来（2005年開設）毎週木曜日10時～13時/高脂血症療養指導外来（2006年開設）毎週木曜日10時～13時。家族性コレステロール血症（FH）、家族性複合型高脂血症（FCHL）などの脂質異常症受診者を対象。FH診療認定施設（2013年～：日本動脈硬化学会）。頸動脈や特殊検査による動脈硬化リスク評価を行い、管理目標値を設定。管理栄養士による療養指導を併設し、飲酒問題を抱える高中性脂肪血症に対する節酒指導（HAPPYプログラム）を実施。スタチン副作用例への対応なども　行っている。症例数546例（2005年11月～2013年3月）内訳；家族性高コレステロール血症（88例）、高LDL-コレステロール血症（333例）、高トリグリセライド血症（240例）、高LDL-コレステロール血症＋高トリグリセライド血症（141例）、低HDL-コレステロール血症（40例）。

・妊娠糖尿病外来(2007年3月開設)　毎週金曜日13時～15時　妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の（糖尿病には至っていないレベルの）耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。2013年度当外来を受診した新規患者数は56名（妊娠糖尿病：16名、1型糖尿病合併妊娠：1名、2型糖尿病合併妊娠：5名）であった。

・糖尿病血管合併症外来　毎週金曜日13時～16時　糖尿病血管合併症外来では、糖尿病血管合併症のスクリーニングを行い、他科との緊密な連携によって治療にあたっている。特に、閉塞性動脈硬化症などの合併症に加え腎機能障害を有する糖尿病患者の短期入院で、外来での施行が困難な造影剤による画像検査を施行し、定期的なスクリーニング・治療への展開も検討している。

・糖尿病透析予防指導外来 (2012年10月開設）糖尿病腎症2期以上の患者を対象とし、医師、看護師、管理栄養士が連携して自己管理指導を行う。本外来開設から2014年3月末までの受診者数はのべ89名であった。毎週月、水、木曜日に1名ずつの予約枠となっている。さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導（管理栄養士）および糖尿病療養指導外来　（インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など：看護師）を開設している。また、自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士(CDEJ)は、当院内で17名(看護部：8名、薬剤科：5名、栄養科：3名、検査科：1名）を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	18.8	407	16.9

外来患者数

	１日平均患者数
2013年度	105

主な手術・検査の件数など

	CGM(連続皮下ブドウ糖測定)	CAVI/ABI測定	CT(内臓脂肪面積測定)	リポプリント解析
2013年度	41件	242件	70件	41件

□ 地域医療連携・広報活動

・糖尿病センターだより（糖尿病センター広報紙）：2008年4月に糖尿病センター創立40周年を記念して発刊された患者向け広報紙。2014年3月現在、季刊発行となっていて通巻27号を数えている。糖尿病センターおよび関連診療科、伏見医師会の医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師等が分担して執筆。毎号4000部を通院患者と糖尿病センター関連医療施設に配送付している。全号を京都医療センターHP上で閲覧できる。
・糖友会(患者会)：日本糖尿病協会傘下の糖尿病患者会として昭和36年に発足した。初代会長は大村春男氏（後に日本糖尿病協会会長）、現会長は藤井弘氏である。2013年度総会は2013年11月16日に開催（参加者27名、リーガロイヤルホテル）。2013年7月13日第2回例会（血糖をはかってみようパート２）。2014年3月27日例会（糖尿病バイキング、参加者23名）。
・糖尿病市民公開講座「第28回DM京都」　糖尿病と脂肪肝　2013年6月23日　参加者100名
特別講演　「糖尿病診療の最新展開ー効果的なダイエット法と新薬によるコントロールの改善ー」
講師：細田公則 京都大学医学研究科教授
講演「糖尿病治療薬の歴史　～SU剤からDPP-4阻害薬まで～ 」京都医療センター薬剤科　内海真和
講演「糖尿病の食事療法について」　京都医療センター栄養科　大池教子　副栄養管理室長
運動指導「筋肉は内へ!息は外へ!!動かしやすい体づくり!!!」　康生会クリニック今井優　健康運動指導士
・第14回メタボリックシンドローム会　2013年9月6日　参加者120名
特別講演「“笑い”と“生活習慣病”」講師：福島県立医科大学　医学部疫学講座　大平哲也　教授
エクササイズ「Lets笑いヨガ」講師：Dr.Kataria School of Laughter Yoga認定笑いヨガティーチャー
岡本笑　美子・水島寿子・池川成子
・第1回特別健康教室　2013年12月21日　参加者60名
特別講演①「健康寿命と健幸遐齢（けんこうかれい）」同志社大学　スポーツ健康科学部石井好二郎　教授
特別講演②「サルコペニア肥満の予防-本当は怖い隠れ肥満-」立命館大学　スポーツ健康科学部
真田樹義　教授
筋力・体力測定　立命館大学大学院　中山侑紀・井門あゆみ、京都医療センター看護師・医師・レジデント
・1型交流会(1型糖尿病外来患者会、2006年4月発足)
第21回例会　2013年　4月7日　お花見会　　参加者17名
・1型ニュース（2006年2月～）2014年3月第46号を発行（京都医療センターHP上にPDFファイルにて紹介）。
・九州DM検査研究会2012「検査技術のための“糖尿病とHDL”」2013年11月30日、小谷和彦
・リバグレス猪名川「体内時計で生活習慣病予防！ーあなたの腹時計はいま何時2013年7月13日　津崎こころ
・地域・職域連携推進連絡会議研修会「“なに食べる？”と“いつ食べる？”～時間栄養学からみた生活リズムの整え方～」2013年12月25日、津崎こころ

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	葛谷英嗣、坂根直樹、岡崎研太郎：2型糖尿病予防のための戦略研究（J-DOIT1）第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日 熊本
国内学会	坂根直樹、岡崎研太郎、葛谷英嗣、小谷和彦、佐藤寿一、鈴木貞夫、森田智視、泉和生、野田光彦：非対面の電話支援を用いた糖尿病発症予防効果について：クラスター・ランダム化比較試験　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	岡田浩、中川康司、恩田光子、庄司雅紀、坂根直樹：保険薬局における糖尿病患者への介入研究ＣＯＭＰＡＳＳプロジェクト介入終了後プローアップ結果　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	佐野喜子、坂根直樹：日本食における炭水化物エネルギー比の違い（55%・40%・25%・10%）による栄養素組成の検討　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	津崎こころ、小谷和彦、山田和憲、坂根直樹：生活習慣修正あるいは薬物療法における脂質プロファイル改善への効果　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	山内恵子、坂根直樹、山内崇裕、片山知美：量や血糖コントロールの改善を目指したポーションコントロールプレート「ヘルシープレート」の開発　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	村田敬、岡田浩、真鍋悟、佐野喜子、岸純一郎、伊藤遼、渡辺知一、水谷結香子、小鳥真司、中川内玲子、吉岡二三、浅原哲子、河野茂夫、坂根直樹、山田和範：当院における外来インスリンポンプ導入の経験　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	藤本容子、真鍋悟、岡嶋昭、岸純一郎、村田敬、坂根直樹、山田和範：ＳＭＢＧ解析ソフトをもちいたⅠ型糖尿病患者の血糖変動評価　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	岸純一郎、伊藤遼、水谷結香子、渡邊知一、椽谷真由、井口梓、小鳥真司、中川内玲子、村田敬、河野茂夫、坂根直樹、山田和範：高齢者のリラグルチド投与症例についての検討　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日　熊本
国内学会	河野茂夫、中川内玲子、島田典生、能登　裕、梅本琢也、山家由子、田中剛史、林野泰明、泉　有紀、平尾利恵子、肥田和之、吉田和矢、小河淳、河部庸次郎、木村博典、東輝一朗、小鳥真司、服部正和、島津　章：糖尿病足病変ハイリスク患者への外来での予防的フットケアの有効性に関する多施設共同研究　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日、熊本
国内学会	小鳥真司、冨田　努、藤倉純二、日下部徹、海老原健、細田公則、河野茂夫、中尾一和：G蛋白共役型-脂質受容体GPR119の臨床的意義：ヒトの膵島および膵島細胞腫瘍における遺伝子発現と膵島機能との連関　第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月16-18日、熊本
国内学会	伊藤遼、浅原哲子、山陰一、村中和哉、佐々木洋介、小鳥真司、河野茂夫、島津章：肥満・糖尿病における動脈硬化リスク指標としての脂肪酸分画・EPA/AA比測定の有用性　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本
国内学会	佐々木洋介、浅原哲子、村中和哉、山陰一、中川内玲子、小鳥真司、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章：インクレチン関連薬（DPP-4阻害剤・GLP-1アナログ）の動脈硬化進展予防への有効性の検討　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本）
国内学会	浦修一、和田啓道、小谷和彦、山田明、浅原哲子、赤尾昌治、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：禁煙と血清Lipoprotein-associated phospholipase A2 massレベルの関連　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本）
国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、村中和哉、山陰一、小鳥真司、中川内玲子、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章：インクレチン関連薬による単球・マクロファージM1/M2タイプとその機能への影響　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本）
国内学会	鵜木崇、和田啓道、赤尾昌治、浦修一、益永信豊、石井充、阿部充、小川尚、井口守丈、高林健介、中島康代、浅原哲子、島津章、長谷川浩二：血清VEGF-Cレベルと冠動脈疾患重症度との関連　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本）
国内学会	山陰一、浅原哲子、小谷和彦、和田啓道、小鳥真司、大谷すみれ、米澤一也、小河淳、西藤亮子、岡嶋泰一朗、田邉真紀人、荒木里香、吉田和朗、齋藤美穂、長岡匡、豊永哲至、田中剛史、山田努、太田逸朗、大石まり子、宮永史子、島津章：肥満症・糖尿病のCVD・CKD予防の為の脂質管理指標の検討ー国立病院機構多施設共同研究ー　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本）
国内学会	和田啓道、浦修一、浅原哲子、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：禁煙による血清可溶性VEGF受容体2レベルの変化と糖尿病発症の関連　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本）
国内学会	松岡 幸代、山田 和範：2型糖尿病外来患者の食事管理状況調査　第56回日本糖尿病学会年次学術集会（2013年5月16-18日、熊本）
国内学会	河野茂夫：糖尿病足病変　第48回糖尿病学の進歩（2014年3月7-8日、北海道）
国内学会	坂根直樹：糖尿病教室をもっと面白く! 第48回糖尿病学の進歩（2014年3月7-8日 札幌）
国内学会	岡田浩、大石まり子、坂根直樹：地域における多職種連携「伏見スタッフのための糖尿病教室」第50回日本糖尿病学会近畿地方会　2013年11月23日、京都
国内学会	小久保 敦子、仁谷 めぐみ、浅野 照子、小林 美保、真鍋 悟、大池 教子、谷川 清、中川内 玲子、八幡 兼成、山田 和範：当院における糖尿病透析予防指導の現状と課題　第50回日本糖尿病学会近畿地方会 2013年11月23日、京都
国内学会	藤本 容子、真鍋 悟、松岡 幸代、岡嶋 昭、岸 純一郎、村田 敬、坂根 直樹、山田 和範：ＳＭＢＧ解析ソフトをもちいた1型糖尿病患者の血糖変動表か：第2報　第50回日本糖尿病学会近畿地方会 2013年11月23日、京都
国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、山陰一、村中和哉、伊藤遼、小鳥真司、河野茂夫、島津章：DPP-4阻害薬による末梢血単球M1/M2タイプへの影響と抗動脈硬化作用　第50回日本糖尿病学会近畿地方会（2013年11月23日、京都）
国内学会	伊藤遼、山陰一、佐々木洋介、村中和哉、小鳥真司、河野茂夫、島津章、浅原哲子：糖尿病における心腎連関進展予測指標としてのnon HDL-C・酸化LDLの有用性　第50回日本糖尿病学会近畿地方会（2013年11月23日、京都）
国内学会	水谷結香子、植田洋平、伊藤遼、渡邊知一、四枚田耕平、岸純一郎、小鳥真司、村田敬、中川内玲子、浅原哲子、山田和範、河野茂夫：糖尿病腎不全患者の重症ガス産生性足潰瘍の一例　第50回日本糖尿病学会近畿地方会（2013年11月23日、京都）
国内学会	四枚田耕平、中川内玲子、水谷結香子、伊藤遼、渡邊知一、岸純一郎、小鳥真司、村田敬、浅原哲子、山田和範、島津章、河野茂夫：両側糖尿病シャルコー足の1例　第50回日本糖尿病学会近畿地方会（2013年11月23日、京都）
国内学会	渡邊知一、浅田秀典、植田洋平、伊藤遼、水谷結香子、岸純一郎、小鳥真司、村田敬、浅原哲子、山田和範、中川内玲子、河野茂夫：高度な心血管合併症を有した高齢重症虚血肢に外科的血行再建術を施行し救肢しえた一例　第50回日本糖尿病学会近畿地方会（2013年11月23日、京都）
国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、島津章：インクレチン関連薬による単球・マクロファージM1/M2タイプへの影響と抗炎症作用　第86回日本内分泌学会学術総会（2013年4月25-27日、宮城）　第86回日本内分泌学会学術総会

国内学会	臼井健、椽谷真由、上野友美、内山成人、島津章、浅原哲子：大豆イソフラボン、ダイゼインの代謝産物であるエクオールの肥満患者への効果　第86回日本内分泌学会学術総会（2013年4月25-27日、宮城）　第86回日本内分泌学会学術総会
国内学会	冨田努、細田公則、小鳥真司、藤倉純二、日下部徹、 海老原健、 中尾一和：膜型脂質受容体GPR40の遺伝性肥満Koletskyラット膵島での発現調節とその意義　第86回内分泌学会学術集会 2013年4月25-27日、仙台
国内学会	浅原哲子、佐々木 洋介、村中 和哉、寺竹洋一、山陰 一、小鳥 真司、河野 茂夫、島津 章：インクレチン関連薬による単球・マクロファージM1/M2タイプへの影響と抗炎症作用　第31回内分泌代謝学サマーセミナー（2013年7月11-13日、大分）
国内学会	伊藤遼、浅原哲子、山陰一、小谷和彦、和田啓道、大谷すみれ、米澤一也、小河淳、岡嶋泰一郎、荒木里香、吉田和朗、齋藤美穂、長岡匡、豊永哲至、田中剛史、山田努、太田逸朗、大石まり子、宮永史子、島津章：肥満症・糖尿病のCKDリスク指標としてのnonHDL-C・酸化LDLの有用性－NHO多施設共同研究－　第34回日本肥満学会（2013年10月11-12日、東京）
国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、山陰一、村中和哉、小鳥真司、河野茂雄、和田啓道、長谷川浩二、島津章：2型糖尿病におけるシタグリプチンとビルダグリプチンによる単球の質的変化と抗動脈硬化作用　第34回日本肥満学会（2013年10月11-12日、東京）
国内学会	寺竹洋一、佐々木洋介、村中和哉、山陰一、和田啓道、長谷川浩二、島津章、浅原哲子：マクロファージ泡沫化における脂肪滴結合タンパク質・ペリリピンファミリーの検討　第34回日本肥満学会（2013年10月11-12日、東京）
国内学会	佐々木洋介、寺竹洋一、村中和哉、山陰一、和田啓道、長谷川浩二、島津章、浅原哲子：肥満・糖尿病の単球における脂肪滴結合タンパク質・ペリリピンファミリーの検討　第34回日本肥満学会（2013年10月11-12日、東京）
国内学会	和田啓道、浦修一、浅原哲子、赤尾昌治、阿部充、森本達也、尾野亘、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：禁煙後の糖尿病発症マーカーとしての可溶性VEGF受容体2レベル　第34回日本肥満学会（2013年10月11-12日、東京）
国内学会	永井成美, 山口光枝, 津崎こころ, 小谷和彦, 坂根直樹, 森谷敏夫：CLOCK3111T/CおよびPER3 VNTR遺伝子多型が日本人若年女性の体組成、自律神経活動に及ぼす影響　第34回日本肥満学会 2013年10月11-12日 東京
国内学会	山内惠子, 山内崇裕, 片山知美, 坂根直樹：ヘルシープレートを用いた減量プログラムの有効性と安全性：メタボ関連指標に及ぼす影響　第34回日本肥満学会 2013年10月11-12日 東京
国内学会	津崎こころ、河口八重子、鋤納心、小谷和彦、坂根直樹：睡眠効率がメタボリックシンドローム構成因子に及ぼす影響　第34回日本肥満学会 2013年10月11-12日 東京
国内学会	坂根直樹、高瀬秀人、片嶋充弘、森本聡尚、内田孝信：メタボリックシンドロームに対するポピュレーションアプローチ：内臓脂肪測定の意義　第34回日本肥満学会 2013年10月11-12日 東京
国内学会	宮崎亮, 米井嘉一, 綾部誠也, 石井好二郎：2年間の身体活動増加プログラム期間における肥満中高齢者と非肥満者の歩数推移　第34回日本肥満学会 2013年10月11-12日 東京
国内学会	冨田　努、細田公則、小鳥真司、藤倉純二、日下部徹、海老原健、中尾一和：膜型脂質受容体GPR40の遺伝性肥満Koletskyラット膵島での発現調節とその意義　第34回日本肥満学会　2013年10月11-12日、東京
国内学会	坂根直樹：楽しくてためになる糖尿病教育の実践－DPP-4阻害薬の上手な説明方法を含めて－　第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会 2013年8月23-24日 徳島
国内学会	中川康司、坂根直樹：ディベートを活用したワークショップの効果：保健指導における論理的思考と説得力を高めるために　第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会 2013年8月23-24日 徳島
国内学会	佐野喜子、坂根直樹：糖質エネルギー比率の違い（55%・40%・25%・10%）による献立作成の比較　第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会 2013年8月23-24日 徳島
国内学会	藤原真治、小谷和彦、津崎こころ、瀬川正昭、大林秀樹、岡田浩、坂根直樹：医療機関と調剤薬局が連携したHbA1c認識向上への取り組み　第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会 2013年8月23-24日 徳島
国内学会	富永典子、滝川奈都子、津崎こころ、坂根直樹：交代勤務者と日勤勤務者における心血管リスクと服薬習慣の比較　第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会 2013年8月23-24日 徳島
国内学会	藤原真治、小谷和彦、津崎こころ、佐野喜子、坂根直樹：「食前に団子を食べる」という地域の食習慣が心血管リスクに及ぼす影響：徳島県美馬研究より　第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会 2013年8月23-24日 徳島
国内学会	津崎こころ、藤原真治、佐野喜子、小谷和彦、坂根直樹：推算GFRに及ぼす遺伝的ならびに環境因子の探索：徳島県美馬研究より　第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会 2013年8月23-24日 徳島
国内学会	坂根直樹：テレビ・雑誌では聞けないリバウンドしないダイエットのコツ第13回日本糖尿病情報学会年次学術集会　2013年8月23-24日徳島
国内学会	浅原哲子：シンポジウム3：肥満症の治療-集学的治療の確立・普及を目指して-「京都医療センターでのメタボ外来の取り組み」　第31回日本肥満症治療学会学術集会（2013年6月28-29日、東京）
国内学会	浅原哲子：早期動脈硬化指標としてのCAVIを活用した肥満症の効果的治療戦略　第31回日本肥満症治療学会学術集会ランチョンセミナー1（2013年6月28-29日、東京）
国内学会	浅原 哲子、佐々木 洋介、村中 和哉、山陰 一、小鳥 真司、和田 啓道、河野 茂夫、長谷川 浩二、島津 章：メタボリック症候群におけるEPAの単球・マクロファージM1/M2タイプに対する影響―PPARγを介するIL-10の上昇―　第13回日本抗加齢医学会総会（2013年6月28-30日、神奈川）
国内学会	Wada H, Ura S, Masunaga N, Akao M, Ishii M, Unoki T, Abe M, Ono K, Morimoto T, Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 Serves as a Predictor of Cardiovascular Events in Chronic Kidney Disease.（FRS-081）第78回日本循環器学会学術集会（2014年3月21-23日、東京）
国内学会	Takabayashi K, Wada H, Akao M, Unoki T, Ura S, Abe M, Masunaga N, Ishii M, Yamashita Y, Hamatani Y, Takagi D, Iguchi M, Ogawa H, Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Placental Growth Factor as a Predictor of Cardiac and Cerebrovascular Events Following Elective Coronary Drug-eluting Stent Implantation.（FRS-038）第78回日本循環器学会学術集会（2014年3月21-23日、東京）
国内学会	Masunaga N, Wada H, Akao M, Ura S, Ishii M, Unoki T, Iguchi M, Abe M, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Takagi D, Ogawa H, Asahara N, Shimatsu A, Hasegwa K：Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels are Inversely Associated with the Severity of Arteriosclerotic Obliterans and the Risk of Cardiovascular Events.（OE-239）第78回日本循環器学会学術集会（2014年3月21-23日、東京）
国内学会	Unoki T, Wada H, Akao M, Ura S, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Masunaga N, Ishii M, Abe M, Iguchi M, Ogawa H, Takagi D, Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa H：Low Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels as a Risk Marker of Revascularization and Cardiac- and Cerebrovascular-events after Drug-eluting Stent Implantation.（OE-386）第78回日本循環器学会学術集会（2014年3月21-23日、東京）

国内学会	Ura S, Wada H, Asahara N, Akao M, Ono K, Morimoto T, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K：Self-rating Depression Scale Score as an Independent Predictor of Unsuccessful Smoking Cessation.（OJ-040）第78回日本循環器学会学術集会（2014年3月21-23日、東京）
国内学会	Ishii M, Wada H, Akao M, Ura S, Unoki T, Masunaga N, Abe M, Ogawa H, Iguchi M, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Takagi D, Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：The α 1-antitrypsin/LDL Complex Level is Associated with the SYNTAX Score of Complexity and Severity of Coronary Artery Disease.（PE-674）第78回日本循環器学会学術集会（2014年3月21-23日、東京）
国内学会	Takabayashi K, Wada H, Akao M, Ura S, Unoki T, Masunaga N, Ishii M, Abe M, Iguchi M, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Placental Growth Factor Predicts Cardiovascular Events Following Coronary Stent Implantation. (E-28,) 第115回日本循環器学会近畿地方会（2013年6月15日、京都）
国内学会	Unoki T, Wada H, Akao M, Ura S, Masunaga N, Ishii M, Abe M, Iguchi M, Takabayashi K, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Inverse Correlation between Serum VEGF-C Levels and the Severity of Coronary Artery Disease in Men. (E-29)　第115回日本循環器学会近畿地方会（2013年6月15日、京都）
国内学会	和田啓道、浦修一、小谷和彦、山田明、浅原哲子、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：血清Lp-PLA2　massレベルは禁煙により有意に低下する　第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会（2013年7月18-19日、東京）
国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章：シタグリプチンによる単球M1/M2タイプへの影響と抗炎症・抗動脈硬化作用　第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会（2013年7月18-19日、東京）
国内学会	鵜木崇, 和田啓道, 赤尾昌治, 浦修一, 益永信豊, 石井充, 阿部充, 小川尚, 井口守丈, 高林健介, 山下侑吾, 濱谷康弘, 浅原哲子, 島津章, 長谷川浩二：男性における血清VEGF-Cレベルと冠動脈疾患重症度の関連　第61回日本心臓病学会学術集会（2013年9月20-22日、熊本）
国内学会	高林健介, 和田啓道, 赤尾昌治, 鵜木崇, 浦修一, 益永信豊, 石井充, 阿部充, 井口守丈, 小川尚, 山下侑吾, 濱谷康弘, 浅原哲子, 島津章, 長谷川浩二：冠動脈ステント留置後の主要心血管イベントと胎盤由来増殖因子の関連　第61回日本心臓病学会学術集会（2013年9月20-22日、熊本）
国内学会	浦修一、和田啓道、小谷和彦、山田明、浅原哲子、赤尾昌治、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：血清Lp-PLA2 Mass レベルは禁煙により有意に低下する　第61回日本心臓病学会学術集会（2013年9月20-22日、熊本）
国内学会	吉岡　二三, 坂根　直樹, 山田　和範, 村田　敬, 岸　純一郎, 小谷　和彦, 渡辺直也, 津崎　こころ, 真鍋　悟,岡田　浩, 佐野　喜子：成人１型糖尿病におけるTRACP-5ｂ測定の意義第15回日本骨粗鬆症学会2013年10月13-15日、大阪
国内学会	岸純一郎, 岡嶋昭、村田敬、坂根直樹、山田和範：糖尿病では、いつ、何回血糖測定をすることで1日の平均血糖値を予測できるか　第67回国立病院総合医学会 2013年11月8-9日、金沢
国内学会	河野茂夫：フットケアー予防と治療の実際ー　第１７回日本病態栄養学会年次学術集会 2014年1月11-12日、大阪
国内学会	本窪田直子、駒居南保、坂根直樹、森谷敏夫、永井成美：朝型-夜型タイプと自律神経活動のサーカディアンリズムの関連　第68回日本栄養・食糧学会大会 2013年5月30日～6月1日 札幌
国内学会	浦 修一、和田啓道、浅原哲子、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：禁煙不成功の最強の独立規定因子であるうつ状態の指標SDSスコア　第8回日本禁煙科学会（2013年11月2-3日、高崎）
国内学会	小見山麻紀、和田啓道、浦修一、山陰一、浅原哲子、島津章、小山弘、赤尾昌浩、河野公一、長谷川浩二：禁煙後体重増加と心血管バイオマーカー　第8回日本禁煙科学会（2013年11月2-3日、高崎）
国内学会	小見山麻紀、和田啓道、浦修一、山蔭一、浅原哲子、島津　章、小山弘、河野公一、高橋裕子、長谷川浩二：禁煙治療における睡眠時間の影響　第8回日本禁煙科学会（2013年11月2-3日、高崎）
国内学会	小見山麻紀、和田啓道、浦修一、山蔭一、浅原哲子、島津章、小山弘、河野公一、高橋裕子、長谷川浩二：禁煙外来受診者における性差の影響と禁煙成功率の検討　第8回日本禁煙科学会（2013年11月2-3日、高崎）
国内学会	浦修一、和田啓道、浅原哲子、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：禁煙による血清Lp-PLA２　massレベルの低下　第8回日本禁煙科学会（2013年11月2-3日、高崎）
国内学会	小見山麻紀、長岡野亜、和田啓道、飯田夕子、寺島幸子、浅原哲子、島津章、高橋裕子、長谷川浩二：喫煙と唾液酸化還元電位暗値の関連についての検討　第8回日本禁煙科学会（2013年11月2-3日、高崎）
国内学会	嶋田清香、長谷川浩二、和田啓道、寺島幸子、小見山麻紀、浅原哲子、山陰一、赤尾昌浩、飯田夕子、島津章、高橋裕子：禁煙後血液流動性の経時的変化について　第8回日本禁煙科学会（2013年11月2-3日、高崎）
国内学会	坂根直樹：糖尿病療養指導の未来を目指して　くすりと糖尿病学会からの提言　貴方の言葉で患者は変わる　やる気がわいてくる糖尿病ケア日本薬剤師会学術大会 2013年9月22-23日 大阪
国内学会	岡田浩、中川康司、恩田光子、庄司雅紀、坂根直樹：「3☆ファーマシスト研修」の受講は、薬局での患者支援に自信がつき、やりがいを向上させた第2回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2013年11月23-24日、東京
国内学会	村田　敬, 坂根　直樹, 真鍋　悟, 岡田　浩, 岸　純一郎, 大塚　桂容子, 福元　聡美, 山田　和範：1型糖尿病における血糖測定回数と血糖コントロール 第13回日本先進糖尿病治療研究会 2013年11月29日、東京
国内学会	伊藤遼、浅原哲子、小鳥真司、河野茂夫、山田和範、島津章：シタグリプチンによる単球M1/M2タイプへの影響と抗炎症・抗動脈硬化作用 第8回 糖尿病臨床フォーラム（2014年2月22日、大阪）
国内学会	浅原哲子：メタボリックシンドロームにおけるEPAのPleiotropic Effect　EPA研究会 –小浜地区研究会-（2014年1月31日、福井）
国内学会	浅原哲子：インクレチン関連薬の膵外作用～心血管疾患リスク抑制効果～　DPP4-阻害薬の基礎と臨床～新しい知見から～（2014年1月18日、京都）
国内学会	浅原哲子：メタボリックシンドロームにおけるEPAのPleiotropic Effect　第1回 Japan/Joy of Fatty Acids Secrets/Society: JFAS（2014年1月11日、東京）
国内学会	浅原哲子：糖尿病・メタボリックシンドロームと脳梗塞～M1/M2マクロファージの役割～　大阪CRCVカンファレンス（2013年12月7日、大阪）
国内学会	浅原哲子：頸動脈プラークのM1/M2マクロファージ浸潤と脂質代謝指標に対する肥満・糖尿病の影響　CerebrovascularScientific Exchange Meeting（2013年11月29日、京都）
国内学会	佐々木洋介、島津章、浅原哲子、小谷和彦：生活習慣病の血管合併症進展における単球機能の臨床的意義の解明　平成25年度第10回花王健康科学研究助成成果報告会（2013年11月23日、東京）
国内学会	浅原哲子：JOINT SESSION 2-4 メタボリックシンドロームにおけるCAVIの有用性～包括的治療を目指して～　第10回血管バイオメカニクス研究会（2013年11月9日、東京）
国内学会	浅原哲子：インクレチン関連薬による動脈硬化進展予防への有用性～単球・マクロファージM1/M2の検討～　第18回糖尿病と透析を語る会（2013年10月17日、京都）

国内学会	浅原哲子：肥満症・メタボリック症候群におけるDUALインピーダンス法を用いた内臓脂肪面積測定の臨床的意義　デュアルインピーダンス法を用いた内臓脂肪測定研究会（2013年9月22日、京都）
国内学会	浅原哲子：インクレチン関連薬による単球・マクロファージM1/M2タイプへの影響と抗動脈硬化作用　心血管保護研究会（2013年9月17日、京都）
国内学会	浅原哲子：メタボリックシンドロームにおけるEPAのPleiotropic　Effect　HIROSHIMA　EPAと生活習慣病カンファレンス（2013年7月17日、広島）
国内学会	坂根　直樹、岡田　浩、鍬納　心、河口　八重子：脂質異常症　-動脈硬化疾患予防ガイドライン2012-　家族性高コレステロール血症　公益財団法人京都府栄養士会 平成25年度生涯学習研修会 2013年8月3日、京都
国内学会	鍬納心、坂根直樹、岡田浩、河口八重子：脂質異常症　-動脈硬化疾患予防ガイドライン2012-　症例に基づく食事・栄養指導　公益社団法人京都府栄養士会（平成25年度　生涯学習研修会）公益財団法人京都府栄養士会 平成25年度生涯学習研修会 2013年8月3日、京都
国内学会	河口八重子、岡田　浩、鍬納　心、坂根直樹：脂質異常症　-動脈硬化疾患予防ガイドライン2012-　症例に基づく食事・栄養指導　公益社団法人京都府栄養士会（平成25年度　生涯学習研修会）公益財団法人京都府栄養士会 平成25年度生涯学習研修会 2013年8月3日、京都
国内学会	村田　敬：CGMによる夜間低血糖スクリーニングの重要性 ClinicalGlucoseManagement臨床現場における血糖コントロールを再考する 2013年6月7日、京都
国内学会	村田　敬：3C治療の現在 東海大学3C体験セミナー 2013年8月24-25日、伊勢原
国内学会	村田　敬：院内チーム医療で行う3C　静岡3Cセミナー 2013年12月6日、静岡
国内学会	村田　敬：簡単インスリンポンプ講座　～どんな人に向いていて、どんな感じの治療なのか～　インスリンポンプ療法勉強会　2014年2月28日、大阪
国内学会	村田　敬：3Cから4Cへ　テクノロジーとコミュニケーションスキルのシナジーを考える　InsulinPumpExpertSminar 2014年3月14日、東京
国内学会	村田　敬：CSII レベルアップのために　第2回北陸3Cセミナー 2014年3月29日、砺波
国内学会	村田　敬：傾聴・気づき・自己決定が医療を変える　読売新聞医療勉強会 2013年7月26日、東京
国内学会	村田　敬：治療法と生活調整・療養支援　社会保険看護研修センター糖尿病認定看護師教育課程 2013年8月16日、船橋
国内学会	村田　敬：自己管理って、何だろう？　京都府医師会　世界糖尿病デー　糖尿病対策講座 2013年11月17日、京都
国内学会	岸純一郎、山田和範：やっぱりこわい、低血糖　伏見医師会糖尿病研究会 2013年7月20日、京都
国内学会	河野茂夫：糖尿病足病変に対するフットケアの実際とトピックス　第4回KYUBEC学術講演会 2013年5月10日、京都
国内学会	河野茂夫：糖尿病フットケアの実際　第6回茨木摂津糖尿病カンファランス 2013年5月25日、大阪
国内学会	河野茂夫：糖尿病フットケアの実際とトピックス　第21回倉敷糖尿病合併症研究会 2013年7月9日、岡山
国内学会	河野茂夫：糖尿病足病変の実際とトピックス　第10回神奈川糖尿病足病変カンファレンス 2013年7月17日、神奈川
国内学会	河野茂夫：糖尿病足病変　第11回実地医家のための糖尿病セミナーin筑後 2013年11月17日、福岡
国内学会	河野茂夫：患者さんのトータルケア　T-CARE48　座談会 2013年12月21日、京都
国内学会	河野茂夫：糖尿病フットケアのトピックスと実際　第12回糖尿病フットケア研究会 2014年1月31日、福岡
国内学会	河野茂夫：糖尿病足病変　ー診療と診断のトピックスー　T CARE FORUM IN 京滋 2014年2月5日、京都
国内学会	河野茂夫：糖尿病フットケアの実際とトピックス　舞鶴医師会学術講演会 2014年2月8日、京都
国際学会	Noriko Satoh-Asahara, Shinji Odori, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakage, Kazuya Muranaka, Reiko Nakagawachi, Shigeo Kono, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Akira Shimatsu：Sitagliptin, a Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor, improves the unfavorable M1/M2-like phenotypes of peripheral blood monocytes in Japanese type 2 diabetic patients. 73rd Scientific Sessions, American Diabetes Association (2013年、6月21-25日、Chicago)
国際学会	Sakane N, Okazaki K, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Oshima Y, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H：Japan Diabetes Outcome Intervention Trial-1(J-DOIT1), a nationwide trial of type 2 diabetes prevention by telephone-delivered lifestyle support for high-risk subjects detected at health checkups: a cluster randomized controlled trial. 73rd Scientific Sessions (2013) -American Diabetes Association 2013年6月21-25日Chicago, IL, USA
国際学会	河野茂夫：Diabetes foot problems in WPR and the IDF/WPR foot care project　The world diabetes congress 2013 2013年12月2日、メルボルン・オーストラリア
国際学会	Noriko Satoh-Asahara, Shinji Odori, Shigeo Kono, Akira Shimatsu：Effect of Sitagliptin and Vildagliptin, Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors, on M1/M2-like phenotypes of peripheral blood monocytes and arterial stiffness in Japanese type 2 diabetic patients. ENDO 2013 (2013年6月15-18日、San Francisco)
国際学会	浅原哲子：Obesity and Atherosclerosis –M1/M2-like phenotypes of monocytes in obese patients- 、ENDO2013、Equol　ミシガン大学（2013年6月20日、ミシガン大学　ミシガン州）
国際学会	Satoh-Asahara N, Yamakage H, Muranaka K, Nakagawachi R, Odori S, Kono S, Shimatsu A ：Effects of Sitagliptin and Vildagliptin, Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors, on M1/M2-like phenotypes of peripheral blood monocytes and arterial stiffness in Type 2 diabetic patients. 2014 Keystone Symposia Conference (2014年1月12-17日、Keystone)
国際学会	Nagai N, Komai N, Taniguchi A, Takagi A, Yamaguchi M, Sakane N, Moritani T.　The effects of mastication on postprandial thermogenesis and satiety sensation in lean young women.　5th International Congress on Prediabetes and the Metabolic Syndrome 2013年4月8-20日Vienna, Austria
国際学会	Tsuzaki K, Kotani K, Yamada K, Sakane N：Effect of pitavastatin treatment on high-density lipoprotein subfractions by non-denaturing polyacrylamide gel electrophoresis in patients with hypercholesterolemia. 2013 AACC annual meeting & Clinical Lab Expo 2013 2013年7月28日～8月1日 Houston, TX, USA
国際学会	Yamauchi T, Katayama T, Yamauchi K, Sakane N：Efficacy and safety of a lifestyle intervention program using healthy plate for treating diabetic subjects with overweight and obesity: a randomized controlled trial. 20th International Congress of Nutrition 2013年9月15-20日Granada, Spain
国際学会	Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Shoji M, Sakane N：COMPASS Project: Community Pharmacists for Diabetes patients intervention Study in Japan. IDF 2013年12月2-6日Melbourne, Australia

国際学会	Murata T, Okada H, Kishi J, Yamada K, Sakane N：The association between the frequency of SMBG assessed by data management software and the glycaemic control in T1DM patients. The 7th advanced Tecnologies & Treatments for Diabetes 2014年2月5-8日 Vienna, Austria
国際学会	Sakane N, Tsuzaki K, Kotani K：The development of genetic sets of DNA methylation for patients with gestational diabetes mellitus in maternal and umbilical cord blood leukocytes. The 3rd International Congress on Cardiac Problems in Pregnancy 2014年2月20-23日Venice, Italy
国際学会	Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Akao M, Abe M, Morimoto T, Ono K, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K：Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 as a Predictor of the New Onset of Diabetes Following Smoking Cessation. American Heart Association Scientific Sessions（2013年11月16-20日、USA, Texas, Dallas）
国際学会	Unoki T, Wada H, Akao M, Ura S, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Masunaga N, Ishii M, Abe M, Iguchi M, Ogawa H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Inverse Association of Vascular Endothelial Growth Factor-C With the Risk of Restenosis and Cardiovascular Events After Drug-Eluting Stent Implantation. AHA FUNDED　American Heart Association Scientific Sessions（2013年11月16-20日、USA, Texas, Dallas）
国際学会	Iguchi M, Wada H, Akao M, Ura S, Masunaga N, Ishii M, Unoki T, Abe M, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Ogawa H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 as a Predictor of Cardiovascular Events in Patients With Chronic Heart Failure. American Heart Association Scientific Sessions（2013年11月16-20日、USA, Texas, Dallas）
国際学会	Masunaga N, Wada H, Akao M, Ura S, Ishii M, Unoki T, Iguchi M, Abe M, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Ogawa H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Inverse Association between Serum Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels and the Severity of Arteriosclerotic Obliterans in Men. American Heart Association Scientific Sessions（2013年11月16-20日、USA, Texas, Dallas）
国際学会	Takabayashi K, Wada H, Akao M, Ura S, Unoki T, Yamashita Y, Hamatani Y, Masunaga N, Ishii M, Abe M, Iguchi M, Ogawa H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K：Placental Growth Factor as a Predictor of Cardiovascular Events Following Coronary Drug-eluting Stent Implantation. (Abstract No. 12973) American Heart Association Scientific Sessions（2013年11月16-20日、USA, Texas, Dallas）
国際学会	Komiyama M, Wada H, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Koyama H, Kono K, Takahashi Y, Hasegawa K：Influence of Post-smoking Cessation Weight Gain on Serum α1-antitrypsin-low Density Lipoprotein Levels. Ameican Heart Association Scientific Sessions（2013年11月16-20日、USA, Texas, Dallas）
国際学会	Ura S, Wada H, Satoh-Asahara N, Horie T, Ono K, Shimatsu A, Hasegawa K：Vascular Endothelial Growth Factor-C, Dyslipidemia, and Atherosclerosis. 18th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy（2013年6月28-30日、Italy Roma）
国際学会	Ura S, Wada H, Satoh-Asahara N, Akao M, Abe M, Takahashi Y, Hasegawa K：α1-Antitrypsin-low-density-lipoprotein and smoking-specific oxidative stress. 18th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy（2013年6月28-30日、Italy Roma）

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	内容
J Atheroscler Thromb.	Ito R, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Sasaki Y, Odori S, Kono S, Wada H, Suganami S, Ogawa Y, Hasegawa K, Shimatsu A. Increase in EPA/AA ratio associated with improved arterial stiffness in obese patients with dyslipidemia. J Atheroscler Thromb 21:248-260, 2014
J Atheroscler Thromb.	Iguchi A, Yamakage H, Tochiya M, Muranaka K, Sasaki Y, Kono S, Shimatsu A, Satoh-Asahara N. Effect of weight reduction therapy on obstructive sleep apnea syndrome and arterial stiffness in the patients with obesity and metabolic syndrome. J Atheroscler Thromb 25: 807-820, 2013
CAVI Now＆Future The Best Solution.	Noriko Satoh-Asahara：Metbolic Syndrome and CAVI, CAVI Now＆Future The Best Solution.Vol.2p.36-42, 2013
PLoS ONE	Komiyama M, Wada H, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Koyama H, Kono K, Takahashi Y, Hasegawa K. Analysis of factors that determine weight gain during smoking cessation therapy. PLoS ONE 8:e72010, 2013
Obes Res Clin Pract.	Kondoh T, Takase H, Yamaguchi TF, Ochiai R, Katashima M, Katsuragi Y, Sakane N. Association of dietary factors with abdominal subcutaneous and visceral adiposity in Japanese men. Obes Res Clin Pract.,vol.8,No1,p.e61-e114, 2013
Med Princ Pract.	Kotani K, Tsuzaki K, Fujiwara S, Sakane N. Sleep status and low-density lipoprotein particle size in a general Japanese female population: the mima study. Med Princ Pract.Vol.22No.5p.510-512, 2013
Indian J Med Res.	Kotani K, Tsuzaki K, Taniguchi N, Sakane N. Correlation between reactive oxygen metabolites & atherosclerotic risk factors in patients with type 2 diabetes mellitus. Indian J Med Res. Vol.137,No.4,p.742-748, 2013
Minerva Endocrinologica.	Miyazaki R, Kotani K. Pedometer- and accelerometer-based exercise in subjects with diabetes mellitus. Minerva Endocrinologica.【Epub ahead of print】
Geriatr Gerontol Int.	Miyazaki R, Kotani K, Ayabe M, Tsuzaki K, Shimada J, Sakane N, Takase H, Ichikawa H, Yonei Y, Ishii K. Minor effects of green tea catechin supplementation on cardiovascular risk markers in active older people: a randomized controlled trial. Geriatr Gerontol Int.Vol13,No.3,p.622-629, 2013
Diabetes Technol Ther.	Murata T, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Yamamoto T, Yamada K, Sakane N. Glucagon underutilized among type 1 diabetes mellitus patients in Japan. Diabetes Technol Ther.Vol.15,No.9,748-50, 2013
Obes Res Clin Pract.	Oshima Y, Matsuoka Y, Sakane N. Effect of weight-loss program using self-weighing twice a day and feedback in overweight and obese subject: a randomized controlled trial. Obes Res Clin Pract.Vol.7,No.5,p.e361-6, 2013
ISRN Obes.	Sakane N, Dohi S, Sakata K, Hagiwara S, Morimoto T, Uchida T, Katashima M, Yanagisawa Y, Yasumasu T, Study Group JV. Effects of Visceral Fat Accumulation Awareness on a Web-Based Weight-Loss Program: Japanese Study of Visceral Adiposity and Lifestyle Information-Utilization and Evaluation (J-VALUE). ISRN Obes.p.47364, 2013
Clin Lab.	Tsuzaki K, Kotani K, Fujiwara S, Sano Y, Sakane N; Mima Study Group. High-density lipoprotein size distribution can differ between subjects with alcoholic and non-alcoholic fatty liver disease. Clin Lab.vol.60,No.2,p.319-322, 2014
Hypertension Research	Motonobu Nishimura, Yasuhisa Kato, Tsuyoshi Tanaka, Ryouhei Todo, Atsuhito Tone, Kazunori Yamada et al. Significance of estimating the glomerular filtration rate for the management of hypertension in type 2 diabetes with microalbumiuria. Hypertension Research,Vol.36,p.705-710, 2013

Contemporary Management of the Diabetic Foot	Shigeo Kono：Surgical Anatomy of the Lower Limb and Foot、Contemporary Management of the Diabetic Foot,p.13-23, 2014
実験 治療	浅原哲子：特集「ω3系脂肪酸の可能性を探る」8.炎症・動脈硬化、実験 治療713号、2014年
ホルモンと臨床	浅原哲子：特集.肥満症治療 肥満症に対する集学的治療 7.運動療法、ホルモンと臨床、2013年
日本医事新報	浅原哲子：肥満症患者における院外対策の重要性、日本医事新報、2013年
月刊糖尿病	浅原哲子：糖尿病における心腎関連　Ⅳ.診断　3.シスタチンC、月刊糖尿病、2013年
メタボレター	浅原哲子：CAVIの有用性、データで紹介、メタボレター、2013年
循環plus	浅原哲子：「肥満患者におけるEPAの抗動脈硬化作用」、循環plus、2013年
内科学第十版	浅原哲子：2-24 るいそう、内科学第十版、2013年
臨床検査	浅原哲子：肥満・メタボリック症候群におけるシスタチンC測定の意義、臨床検査voi.57,No6,630-636,2013年6月
糖尿病の分子標的と治療薬事典	浅原(佐藤)哲子、小川佳宏：β3アドレナリン受容体アゴニスト、糖尿病の分子標的と治療薬事典、p.312-314、2013年
Nutrition Care	朝倉洋平、坂根直樹：腎移植後肥満患者の栄養指導、Nutrition Care Vol.7,No.2、2014年
ファーマシストを目指せ！	岡田浩：行列ができる薬剤師3☆ファーマシストを目指せ！2013年
プラクティス	岡田浩：糖尿病の療養指導Q＆A調剤薬局での療養指導、プラクティス,Vol.30,No.6,p769-770、2013年
Nutrition Care	加藤真理子、坂根直樹：外来における維持血液透析患者の栄養指導、Nutrition Care,Vol.7,No.1,p.75-80、2014年
Nutrition Care	川手由香、坂根直樹：急性憎悪した糖尿病患者の栄養指導、Nutrition Care,Vol.6,No.12,p.1253-1259、2013年
月刊糖尿病	葛谷英嗣、坂根直樹：糖尿病予防介入のエビデンスー糖尿病予防のための戦略研究J-DOIT1ー、月刊糖尿病、Vol.5,No.11,p.66-71、2013年
Diabetes Frontier	坂根直樹：食事療法を成功に導くコーチングの実際、Diabetes Frontier,Vo.24,No.1,p.64-69、2013年
レジデントノート	坂根直樹：インクレチン関連薬の使い方②ーGLP-1受容体作動薬ー、レジデントノート,Vol.15,No.3,p.551-554、2013年
日本医事新報	坂根直樹：糖尿病予備軍の人への対応、日本医事新報,Vol.4666,p.6-10、2013年
臨床スポーツ医学	坂根直樹：運動をやる気にさせるポイント、臨床スポーツ医学,Vol.30,No.10,p.957-962、2013年
DM Ensemble	坂根直樹：性格タイプ別食事療法戦略、DM Ensemble,Vol.30,No.3,p.16-19、2013年
脂肪の功罪と健康	坂根直樹：第4章　体内脂肪は諸刃の剣となる、脂肪の功罪と健康、2013年
糖尿病の食事療法	坂根直樹：糖尿病の食事療法-管理栄養士がいない場合の方法ー、p.640-641、2013年
最新のエビデンス	坂根直樹：メタボリック症候群の漢方治療：最新のエビデンス、p.40-46、2013年
クイズでわかる保健指導のエビデンス５０	坂根直樹：クイズでわかる保健指導のエビデンス５０、2013年
もう手放せない！GLP-1受容体作動薬	坂根直樹：肥満糖尿病、食欲亢進の強い症例、もう手放せない！GLP-1受容体作動薬,p.42-48、2013年
科学的根拠に根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013	坂根直樹：2型糖尿病の発症予防、科学的根拠に根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013,p.307-324、2013年
肥満症の総合的治療ガイド	坂根直樹：肥満は現代社会における重大な問題、肥満症の総合的治療ガイド,p.11-12、2013年
肥満症、メタボリックシンドローム、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち　各論　改訂第2版	坂根直樹：肥満症、メタボリックシンドローム、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち　各論　改訂第2版,p.88-101、2013年
2型糖尿病のためのカーボカウント実践ガイド～食品交換表とカーボカウントの連携促進をめざす～	坂根直樹：栄養療法のアドヒアランスという観点から、2型糖尿病のためのカーボカウント実践ガイド～食品交換表とカーボカウントの連携促進をめざす～,p.337-344、2014年
糖尿病患者の食事と運動	坂根直樹：1型糖尿病、糖尿病患者の食事と運動,p.227-236、2014年
患者の診かたが本当にわかる	坂根直樹：患者さんに見せて伝えるコツ～ともに治療に取り組むために、こんな時どうする？患者の診かたが本当にわかる,p.149-154、2014年
栄養と料理	坂根直樹：読むだけダイエットDr.坂根からの10の質問、栄養と料理,Vol.6,p.7-23、2013年
はじめてのカーボカウント2版	坂根直樹、佐野喜子編著：はじめてのカーボカウント2版、2013年
Nutrition Care	櫻井聖子、坂根直樹：高血圧患者の栄養指導、Nutrition Care,Vol.7,No.3、2014年
Nutrition Care	佐藤いずみ、坂根直樹：夫の介護を抱える2型糖尿病患者の栄養指導,Nutrition Care、2013年
Nutrition Care	清水陽平、坂根直樹：脂質異常症患者の栄養指導、Nutrition Care,Vol.6,No.6,p.601-608、2013年
くすりと糖尿病学会	庄司雅紀、恩田光子、岡田浩、大久保賢人、小田智晴、加藤紗希、坂根直樹：保険薬局来局患者の経口血糖降下薬の服薬条件とアドアヒアランスの関連について、くすりと糖尿病学会,Vol.2,No.2,p.104-108、2013年
Nutrition Care	田淵紘子、坂根直樹：糖尿病を伴った胃切除後の患者の栄養指導、Nutrition Care,Vol.6,No.4,p.393-399、2013年
Nutrition Care	玉木悦子、坂根直樹：高度肥満とパニック障害を伴った2型糖尿病患者の栄養指導、Nutrition Care,Vol.6,No.9,p.917-923、2013年
The Lipid	永井成美、坂根直樹：褐色脂肪組織関連遺伝子の多型とエネルギー代謝、The Lipid,Vol.25,No.1,p.64-73、2014年
Nutrition Care	難波春子、坂根直樹：うつ病を伴った2型糖尿病患者の栄養指導、Nutrition Care,Vol.6,No.10,p.1025-1032、2013年
Nutrition Care	長谷川実穂、坂根直樹：食物アレルギー・アトピー性皮膚炎患児の栄養指導、Nutrition Care,Vol.6,No.5,p.501-507、2013年
Nutrition Care	安原みずほ、坂根直樹：糖尿病（性）腎症の栄養指導、Nutrition Care,Vol.6,No.7,p.713-720、2013年
NHKテレビテキスト「きょうの健康」	坂根直樹：NHKテレビテキスト「きょうの健康」糖尿病予防3つの実践、p.39-43、2014年

読売新聞取材記事	村田敬：医療相談室　術後に感染も　医師の判断妥当、読売新聞、2014年3月1日
Diabetes Care - Japanese Edition-	河野茂夫：糖尿病性足病変を伴う患者とその下肢の長期予後、Diabetes Care - Japanese Edition-,Vol.1,No.1,p.18-19、2013年
ホルモンと臨床	河野茂夫：糖尿病足病変の実態、ホルモンと臨床,Vol.60,No.1,p.3-10、2013年
科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013	「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013」策定に関する委員会 委員長：羽田勝計、委員：河野茂夫他：糖尿病足病変、科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013、2013年
月刊　糖尿病ライフ　さかえ	河野茂夫：新フットケアよもやま噺、月刊　糖尿病ライフ　さかえ,Vol.53,No.8,p.7-13、2013年8月15日
患者さんのむくみ、ちゃんと診ていますか？	河野茂夫：むくみ＋糖尿病（血糖降下薬によって起こる浮腫）、患者さんのむくみ、ちゃんと診ていますか？,p.130-134、2013年8月25日
朝日新聞取材記事	河野茂夫：足切断、避けられるか、朝日新聞,p.27、2013年9月3日
週刊朝日取材記事	河野茂夫：糖尿病による足の病気、週刊朝日,p.77-79、2013年10月31日
Diabetes Horizons	河野茂夫：病診・院内　他科連携の実際京都医療センターにおける糖尿病足病変患者に対する診療連携の取り組み、Diabetes Horizons,Vol.2,No.4,p.40-44、2013年10月31日
週刊朝日MOOK新名医の最新治療2014	河野茂夫,大浦紀彦：糖尿病による足の病気、週刊朝日MOOK新名医の最新治療2014,p.48-51、2013年12月20日
内科	河野茂夫：糖尿病足病変と末梢動脈疾患、内科,Vol.113,No.1,p.61-65、2014年1月1日
臨床整形外科	河野茂夫：糖尿病足壊疽の最新治療、臨床整形外科,Vol.49,No.1,p.23-30、2014年1月25日
Medical View Point	河野茂夫：糖尿病フットケアの実際とトピックス-巻頭言-、Medical View Point,Vo.35,No.2,p.1、2014年2月10日
糖尿病患者の食事と運動ー考え方と進め方	河野茂夫：足病変、糖尿病患者の食事と運動ー考え方と進め方,p.254-244、2014年3月10日
Journal of Clinical Rehabilitation	河野茂夫：糖尿病足病変とリハビリテーション、Journal of Clinical Rehabilitation,Vol.23,No.3,p.237-244、2014年3月15日
Diabetes Frontier	河野茂夫：アジア西太平洋地域における糖尿病フットケア、Diabetes Frontier,Vol.25,No.1,p.13-24、2014年
糖尿病の分子標的と治療薬事典	冨田　努、小鳥真司、藤倉純二、中尾一和、細田公則：GPR119アゴニスト、糖尿病の分子標的と治療薬事典,p.303-305、2013年6月
生体の科学	冨田　努、細田公則、小鳥真司、藤倉純二、中尾一和：G蛋白共役型受容体119（GPR119）の組織発現と創薬の展望、生体の科学,Vol.64,No.5,p.412-413、2013年5月
糖尿病ケア	中川内玲子、河野茂夫：医療者のフットケアと患者さんのフットケア、糖尿病ケア,Vol.126,秋季増刊号,p.234-241、2013年9月

腎臓内科

診療科長
八幡　兼成

専門医資格等　日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会専門医
京都大学医学博士

□ スタッフ

	氏　　名	専門医資格等
医　　長	瀬田　公一	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医・指導医 日本高血圧学会専門医 日本内科学会認定医 ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本急性血液浄化学会認定指導者 京都大学医学博士
医　　師	菊地　祐子	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定医 認定産業医
医　　師	小泉　三輝	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定医
専 修 医	村田　真紀	日本内科学会認定医
専 修 医	北村　憲子	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設

1. 積極的に腎生検を行い、早ければ翌日には診断がつく体制を取っている
2. 血液透析だけでなく、血漿交換や持続血液ろ過透析など急性血液浄化に対応できる
3. 腹膜透析も多く導入している
4. 学会発表・論文執筆・臨床研究を積極的に行っている

□ 主な対象疾患

急性腎不全、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、多発性囊胞腎、Gitelman症候群、高血圧症

□ 診療（業務）内容

1. 慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などに対して腎生検を行い、その結果に基づいて治療を行っている。
2. 保存期腎不全に対し、血圧管理を始めとした腎保護療法を行い、末期腎不全への進行を抑制できるようにしている。

3. 末期腎不全に陥った場合、腎移植・腹膜透析・血液透析の3つの選択肢を提示し、患者に合った治療を提供している

□ 診療実績（平成25年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
15.5名	345名	15.8日

外来患者数

1日平均患者数
32.4名

主な疾患の件数など

腎生検数	血液浄化療法延べ件数	血液透析導入患者数	腹膜透析導入患者数
79件	2,987件	40件	7件

□ 地域医療連携・広報活動

・世界腎臓デー関連イベント
2013年3月13日　京都医療センターロビー
・内分泌代謝研修会
「糖尿病療養指導に期待すること」　八幡　兼成
2013年10月30日　京都医療センター多目的ホール
・伏見CKD医療連携の会講演会
「anorexia nervosaと腎障害　～意外と知らない合併症～」　村田　真紀
「日本腎臓学会で連携パスの発表をしました　～伏見CKD連携パスのその後～」　菊地　祐子
「CKD患者の高血圧と腎性貧血の治療戦略」　～京都医療センター腎臓内科発　臨床研究途中経過の御報告～
瀬田光一・八幡　兼成
「CKD患者に造影検査は無理なのか? ～造影剤から腎臓を守るコツ～」　循環器内科　阿部　充先生
2013年10月5日　京都タワーホテル
・腎臓病教室応用編
2013年9月7日　京都医療センター多目的ホール
・桃仁会病院勉強会
「腎性貧血あれこれ」　八幡 兼成
2013年8月2日　桃仁会病院会議室
・第1回高尿酸血症治療研究会
「CKDにおける高尿酸血症の管理」　八幡 兼成
2013年7月6日　ウエスティン都ホテル
・京都CKD講演会
「京都医療センターにおける腎性貧血治療への取り組み」　八幡 兼成
2013年6月6日　ハイアットリージェンシー京都
・伏見CKD医療連携の会講演会
「わかりやすいIgG4関連疾患」　小泉　三輝
「教育入院パスを作りました」　金子　惠一
「CKD患者の高血圧と腎性貧血の治療戦略」　～京都医療センター腎臓内科発　臨床研究スタートの御報告～
瀬田　公一・八幡　兼成
「慢性腎臓病地域連携診療システムの課題と提案」　京都大学腎臓内科准教授　塚本　達雄先生
2013年4月20日　ホテルグランヴィア京都
・明日の透析を考える会
「京都医療センターにおけるミルセラの使用経験とその効果」
2013年4月7日　京都ホテルオークラ

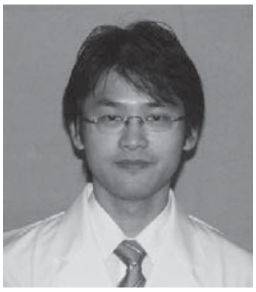
□ 地域医療連携・広報活動

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	・当院でのAKIに対する腎代替療法の選択について~IRRT、SLED、CRRTの使い分け~ 瀬田公一, 北村憲子, 村田真紀, 小泉三輝, 菊地祐子, 八幡兼成 第34回京都透析医会講演会
国内学会	・Gitelman症候群におけるgenetic background解析 中尾 佳奈子, 臼井 健, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 金子 惠一, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 八幡 兼成, 島津 章 第23回臨床内分泌代謝Update
国内学会	・シンポジウム　腎不全に心不全・呼吸不全を合併した患者の血液浄化法とその管理SLEDとCRRT、その使い分け 瀬田公一 第41回日本集中治療医学会学術総会
国内学会	・鑑別診断に苦慮し穿孔性腹膜炎にて死亡した管内増殖性腎炎の一例 北村 憲子, 金子 惠一, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 北村 博司, 八幡 兼成 第43回日本腎臓学会西部学術集会
国内学会	・尿蛋白を伴う腎障害をきたした神経性食思不振症に対して腎生検を施行し、著明な間質性腎炎を認めた一例 村田 真紀, 金子 惠一, 北村 憲子, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第43回日本腎臓学会西部学術集会
国内学会	・リネゾリドによる乳酸アシドーシスをsustained lowefficiency dialysis with filtration（SLED-f）により改善できた一例. 瀬田公一, 小泉三輝, 北村憲子, 村田真紀, 菊地祐子, 八幡兼成 第46回京都透析懇話会
国内学会	・急性血液浄化療法を施行し救命したビグアナイドによる乳酸アシドーシスの一例 瀬田 公一, 村田 真紀, 北村 憲子, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 八幡 兼成 第24回日本急性血液浄化学会学術集会
国内学会	・全身性エリテマトーデスに合併した血栓性血小板減少性紫斑病の症例 金子 惠一, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第58回日本透析医学会学術集会
国内学会	・ビタミンD3外用薬で急性腎不全、高Ca血症をきたした3例 小泉 三輝, 村田 真紀, 金子 惠一, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第58回日本透析医学会学術集会
国内学会	・当院におけるANCA関連血管炎再燃例の検討 村田 真紀, 金子 惠一, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第58回日本透析医学会学術集会
国内学会	・CKD患者の降圧目標達成率についての検討 瀬田 公一, 村田 真紀, 金子 惠一, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 八幡 兼成 第56回日本腎臓学会学術集会
国内学会	・病診連携システムの構築と適切な専門医フォローアップ間隔の評価 金子 惠一, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成, 伏見CKD医療連携の会 第56回日本腎臓学会学術集会
国内学会	・当院におけるsustained low-efficiency dialysisの施行状況についての検討 瀬田公一, 北村憲子, 村田真紀, 小泉三輝, 菊地祐子, 八幡兼成 第3回血液浄化心不全治療研究会
国内学会	・Gitelman症候群が疑われSLC12A3遺伝子解析を実施した25例における遺伝子変異および臨床徴候の解析 中尾 佳奈子, 臼井 健, 中谷 理恵子, 植田 洋平, 垣田 真以子, 金子 惠一, 難波 多挙, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 八幡 兼成, 島津 章 第86回日本内分泌学会学術総会
国内学会	・慢性腎臓病を合併する高血圧患者の外来血圧目標達成率についての検討 瀬田 公一, 村田 真紀, 金子 惠一, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 八幡 兼成 第2回臨床高血圧フォーラム

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
日集中医誌 21:63-4,2014	瀬田公一, 小泉三輝, 村田真紀, 金子惠一, 菊地祐子, 八幡兼成.　リネゾリドによる乳酸アシドーシスをsustained low efficiency dialysis with filtration（SLED-f）により改善できた一例.
Mebio 31.20-27,2014	兼成, 笠原正登.　AKIの疫学　〜AKIは増えているか？どの領域で問題となっているか？〜
Current Therapy 31:710-14, 2013	瀬田公一.　原発性アルドステロン症ー診断と治療の新展開ー　心血管・腎機能障害
月刊循環器 3:(7)97-104, 2013	瀬田公一, 笠原正登.　心腎連関の病態を知るー治療に活かすー　造影剤腎症の病態と対策
CEN Case Reports DOI:10.1007/s13730-013-0083-0	Disease Accompanied by IgG kappa in Serum, Urine, and Bone Marrow Keiichi Kaneko, M.D., Koichi Seta, M.D., Ph.D., Jun Soma, M.D., Ph.D., Takashi Kuwahara, M.D., Ph.D., Mitsuteru Koizumi, M.D., Yuko Kikuchi, M.D., Akira Sugawara, M.D, Ph.D., Kensei Yahata, M.D., Ph.D.
Intern Med. 2013;52(17):1943-7	Pregnant Woman with Severe Gestational Proteinuria Mitsuteru Koizumi, Kensei Yahata, Shoko Ohno, Kenichi Koga, Yuko Kikuchi, Chinatsu Hasegawa, Koichi Seta, Takashi Kuwahara, Akira Sugawara.

腫瘍内科



診療科長
外来化学療法
センター長
安井　久晃

専門医資格等	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医／指導医、評議員 原発不明がん診療ガイドライン作成委員 がん治療認定医機構／がん治療認定医、暫定教育医 日本内科学会　認定内科医 独立行政法人医薬品医療機器総合機構　専門委員
専門分野	腫瘍内科学（臨床腫瘍学） 緩和医療
得意疾患	固形腫瘍（消化器がん） 原発不明がん

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	岡崎　俊介	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医 日本内科学会　認定内科医	腫瘍内科学(臨床腫瘍学) 緩和医療	消化器がん

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本臨床腫瘍学会認定研修施設

1. 患者さんが納得し満足いただける医療を提供します
2. 患者さんとご家族を徹底的に支援します
3. エビデンスに基づいた最善の化学療法を行ないます
4. 化学療法と並行して、緩和医療を提供します
5. 患者さんと一緒に歩み、成長する姿勢を大切にします
6. 地域の医療機関との連携を大切にします

□ 主な対象疾患

・消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、消化管間質腫瘍など）
・膵臓がん、胆道がん
・原発不明がん
・その他の固形腫瘍

□ 診療（業務）内容

・化学療法（がん薬物療法）の実施
・緩和医療の実施
・緩和ケアチーム参加
・他職種カンファレンスの実施
・他科からのコンサルテーション
・セカンドオピニオン
・外来化学療法センターの運営
・化学療法委員会の運営
・中心静脈ポート造設
・臨床試験・治療への参加

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16.9名	412名	15.1日

外来患者数

1日平均患者数
20名

□ 地域医療連携・広報活動

摂南大学薬学部講義「腫瘍内科医が行うがん薬物療法の実際」2013年5月10日（安井久晃）

キャンサーリボンズイベント「全力討論! 図書館と病院・医療従事者の連携が始まる」2013年6月9日（安井久晃）

がんささえあいの日記念イベント「がんの情報をどう活用するか」2013年6月19日（安井久晃）

第7回がん診療セミナー（京都医療センター）「大腸がんの化学療法」2014年1月23日（安井久晃）

市民公開講座 京都市内の抗がん薬治療専門医によるがん医療の最前線「薬物療法 大腸がんについて」2014年2月22日（安井久晃）

第13回六地蔵木幡地域医療研究会「がん診療における腫瘍内科医の役割」2014年3月6日（安井久晃）

第8回がん診療セミナー（京都医療センター）「分子標的治療薬とチーム医療」2014年3月27日（安井久晃）

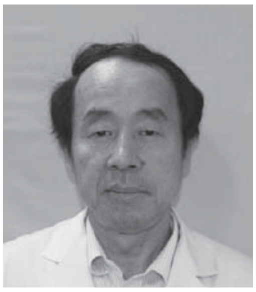
□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区 分	演者・演題・学会名
国内学会	安井久晃. 乳癌患者に対するルート確保における パワーポートの有用性（ランチョンセミナー「乳癌化学療法におけるCVポートの新しいあり方」）. 第21回日本乳癌学会学術集会. 2013年6月29日；浜松
国内学会	安井 久晃、岡崎 俊介、田中 雅子、荒木 則雄. Gemcitabine Followed by Concurrent Chemoradiotherapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer. （和文）：ゲムシタビンを先行投与し化学放射線療法を行った局所進行膵癌患者の後方視的検討. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2013年8月30日；仙台
国内学会	岡崎俊介、山本鉄郎、猪飼伊和夫、安井久晃. ゲムシタビン（GEM）, S-1の不応後にカルボプラチン＋パクリタキセル（TC）が奏効した膵原発のundifferentiated carcinomaの一例. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2013年8月30日；仙台
国内学会	安井久晃. がん化学療法における 栄養療法の重要性（パネルディスカッション「多職種による早期からのがん患者栄養療法」）. 第35回日本臨床栄養学会総会（第11回大連合大会）. 2013年10月5日；京都
国内学会	臼井健、垣田真以子、難波多挙、村田敬、安井久晃、植田洋平、中谷理恵子、中尾佳奈子、立木美香、田上哲也、成瀬光栄、島津章. 多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ＡＣＴＨ産生腫瘍に対するエベロリムスの治療効果. 日本神経内分泌学会 第40回学術集会. 2013年10月25日；宮崎

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル	著 者
腫瘍内科 Vol.11, No.4、p492-494、科学評論社、2013年4月	がん薬物療法専門医講座 がん薬物療法専門医のための模擬テスト35	岡崎俊介
腫瘍内科 Vol.11, No.5、p602-607、科学評論社、2013年5月	がん薬物療法専門医講座 がん薬物療法専門医のための模擬テスト35ー解答と解説ー	岡崎俊介
臨床腫瘍プラクティス Vol.9, No.2、p142-147、ヴァンメディカル、2013年5月	胃がん薬物治療の将来に向けて 4. ここが知りたい胃がん化学療法ー現場ではどう対応しているのか？ 1) 入院困難な患者に対してS-1+CDDPをどう適応しているか？ーハイドレーションの工夫を含めてー	岡崎俊介
がん診療UP TO DATEマニュアル、p304-320、がん診療UP TO DATEマニュアル編集員会、日経BP社、2013年10月	第Ⅲ章 各種がんの治療 7. 肝・胆・膵がん ②胆道がん、③膵がん	安井久晃
Japanese Journal of Clinical Oncology Vol.43, No.11、p1080-1086、日本癌治療学会、2013年11月	A phase II clinical study of mFOLFOX6 plus bevacizumab as first-line therapy for Japanese advanced/recurrent colorectal cancer patients.	Nishina T, Takano Y, Denda T, Yasui H, Takeda K, Ura T, Esaki T, Okuyama Y, Kondo K, Takahashi Y, Sugiyama Y, Muro K.
肺癌 Vol.53, No.7、p888-892、日本肺癌学会、2013年12月	パゾパニブ投与中に続発性気胸を発症した粘液線維肉腫肺転移の１例	元石充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井聡、安井久晃

精神科



医　長
杉崎　全良

専門医資格等　精神保健指定医
日本精神神経学会認定　精神科専門医
専　門　分　野　精神病理学

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	吉田　貴子	精神保健指定医 日本精神神経学会認定　精神科専門医	精神病理学	
非常勤臨床心理士	梶川　和行			
非常勤臨床心理士	中前　純治			
非常勤臨床心理士	義江多恵子			
非常勤臨床心理士	筒井　優介			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本精神神経学会精神科専門医研修施設

1．確定診断と精神療法的な意味を兼ねて、初診時診察に十分な時間をかける。
2．精神疾患の病態を自然科学的、人間学的視点から多角的に把握する。
3．共感的、探究的な診察態度を心がけ、繊細な薬物療法を工夫する。
4．器質性精神障害が疑われるときには、他科と連携し、頭部ＭＲＩ等を利用して病態検索が可能である。

□ 主な対象疾患

・睡眠障害
・身体表現性自律神経機能不全、その他の身体表現性障害
・パニック障害、その他の不安障害
・適応障害、その他のストレス関連障害
・強迫性障害、その他の神経症性障害
・躁うつ病、その他の気分障害
・統合失調症、妄想性障害等
・器質性あるいは症状性精神障害

□ 診療（業務）内容

1. 精神科入院病棟は無いため、入院治療が必要と判断される時は、精神科病院等に紹介する。
2. 医師による診療後、病態として心理学的に複雑な葛藤が想定される場合は、心理療法士による標準型精神分析療法等を併用することが可能。
3. 一般病棟の他科入院患者に対し、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療に従事している。

□ 診療実績(平成25年度)

外来患者数

1日平均患者数
47.4名

神経内科

診療科長
中村　道三

専門医資格等　日本神経学会専門医　指導医
日本内科学会認定医　指導医
日本神経学会近畿地方会代議員
京都大学医学部神経内科臨床教授
京都大学医学博士

専門分野　神経内科

得意疾患　ミオパチー、認知症

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	大谷　　良	日本神経学会専門医　指導医 日本脳卒中学会専門医　評議員 日本認知症学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 京都脳神経超音波研究会世話人 脳血管内治療（merci, penumbra system）資格医 京都大学医学部神経内科　臨床准教授 京都大学医学博士	神経内科（臨床神経学） 脳血管障害 認知症	脳血管障害 認知症
医　　長	村瀬　永子	日本神経学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 脳波筋電図学会認定医 京都大学医学部　高次脳機能総合解析センター・非常勤講師 関西脳波・筋電図研究会世話人 京都大学医学博士	神経内科 電気生理 運動異常症	ジストニア パーキンソン病 運動異常症
専修医	安田　　謙		神経内科	
専修医	後藤　昌広		神経内科	
専修医	斉ノ内　信		神経内科	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本神経学会研修施設

1．納得できる医療を目指します
2．紹介医との密な連絡（病診連携）および大学や機関病院との連携に努めます
3．看護師、薬剤師、理学療法士など他の医療従事者とのチーム医療を推進します
4．若手医師の教育に尽力します

□ 主な対象疾患

脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、認知症（アルツハイマー病など）、パーキンソン病、ジストニア脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの数多の神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症などの免疫神経疾患、脳炎、髄膜炎など神経感染症、頭痛、てんかんなどの発作性疾患、ギランバレー症候群、種々のニューロパチーなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患など

□ 診療（業務）内容

神経内科一般

脳血管障害外来：脳血管障害の予防及び再発予防（臨床研究対象も含む）、頸部血管エコー検査

電気生理外来：電気診断学にもとずく神経・筋疾患の電気生理検査

ボツリヌス治療：対象疾患　ジストニア、脳卒中後の痙縮、半側顔面痙攣

深部脳刺激、脊髄電気刺激を使った治療

神経内科・音楽療法外来：認知症を対象とする音楽療法

□ 診療実績（平成25年度）

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	21.1名	325名	22.5日

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	49.5名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分		演者・演題・学会名
国内学会	中村道三，端祐一郎，村瀬永子，大谷良	rt-PAで症状が軽快した後，遅発性に神経症状を呈した一例 日本神経学会近畿地方会 2013.6.22 奈良
国内研究会	安田謙，吉永健二，端祐一郎，村瀬永子，大谷良，中村道三	急性期脳出血に接した穿通枝梗塞の二例 OSK 2013.6.29 大阪
国内研究会	安田謙，吉永健二，端祐一郎，村瀬永子，大谷良，中村道三	脳底動脈閉塞に対して血管内治療が走行した一例 京滋脳卒中臨床カンファランス 2013.10.25 京都
国内研究会	安田謙，吉永健二，端祐一郎，村瀬永子，大谷良，中村道三	胸背部痛で発症し多発神経肥厚を認めた一例 京都神経カンファランス 2014.3.6 京都
国内研究会	中村道三，飯塚三枝子	認知症と音楽療法 京都府北部神経疾患研究会 2013.10.19 宮津
国内学会	吉永健二、木村友香、松谷恵美子、木村公俊、南波明子，藤井大樹，桝田宏彰，森仁、北口浩史、山尾房枝、進藤克郎、中村道三	発作に伴い、複数の灰白質に一過性MR画像異常を呈した症例の検討　日本神経学会総会 2013.5.29 東京
国際学会	M.Nakamura, M. Iizuka	"Music therapy using Flash Song Therapy for outpatients with juvenile Alzheimer's disease" World Congress of Neurology 2013 2013.9.21 Vienna
国際学会	N.Murase, Cengiz B, Rothwell JC	The role of somatosensory input in paired associative stimulation International Federation of Clinical Neurophysiology 2014.3.20 Berlin
国際学会	N. Murase, Y. Hashi, K. Yoshinaga, K. Yasuda R. Ohtani, M. Nakamura	Dissociation between the ordered and spontaneous voluntary movement in corticobasal syndrome International Federation of Clinical Neurophysiology 2014.3.20 Berlin
国内学会	村瀬永子、端祐一郎、吉永健二、安田謙、大谷良、中村道三	命令による運動と自発的な随意運動の解離を認めたcorticobasal syndromeの２症例 Movement Disorder Society of Japan 2013.10.10 東京
国内学会	N.Murase, Cengiz B, Rothwell JC	連合性ペア刺激における体性感覚入力の役割 日本臨床神経生理学会 2013.11. 7 高知
国内研究会	村瀬　永子	"Paired associative stimulation relates with dendritic coincidence detection of synaptic potentials and back propagating-action potential in spike timing-dependent plasticity" 京都大学高次脳機能総合解析センター　講演会　2013.6.5　京都
国内研究会	大谷　良	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の狭間 DoctorsDementiaMeeting　2013.7. 20　京都
国内研究会	大谷　良	ＡＤ；認知症薬物療法におけるリバスチグミンの役割 NeuroscienceFornm2013inKyoto　2013.8.31 京都
国内研究会	大谷　良	認知症を呈する疾患　臨床像と画像診断　第54回　京都ＲＩ懇話会　2013.10.11　京都
国内研究会	大谷　良	認知症を呈する疾患　～臨床と画像検査のリンク～　京都南部　認知症と失語症勉強会 2014.1.25　京都
国内研究会	長束一行、吉村伸一、大谷良、秋山義典、久我純弘、	日本人の脳梗塞急性期抗血小板療法を再考するＡＰＥＸ座談会　2014.3.25　大阪　ヒルトン大阪

□ 投稿論文など

著者・雑誌名	タ　イ　ト　ル
Hamada M, Murase N, Hasan A, Balaratnam M, Rothwell JC. Cereb Cortex	The role of interneuron networks in driving human motor cortical plasticity.
Cardio-Vascular Contemporary 長束一行、吉村伸一、大谷 良、秋山義典、久我純弘	日本人の脳梗塞急性期抗血小板療法を再考する

□ 地域への貢献

京都市委託難病患者医療講演　「脊髄小脳変性症」　中村　道三　2013.7.14
関西・脳波筋電図セミナー　講演会　「経頭蓋磁気刺激（TMS)」　村瀬　永子　2014. 1.25
関西・脳波筋電図セミナー　ハンズオン・セミナー　神経伝導検査　チューター　村瀬　永子　2014. 1.25
京都技師会勉強会　講演会　「神経伝導検査の基礎と応用」　村瀬　永子　2013.12.7
パーキンソン病友の会　講演会　「パーキンソン病患者の多様性とそれぞれの対応」　2013.9.13
京都脳神経・脈管超音波研究会　ハンズオン指導・世話人　大谷 良　2013.12.7　京都
脳卒中市民講座　脳梗塞治療の新たな展開　～急性期rt-PA療法と抗血栓薬による予防～　大谷　良
2013.12.14　京都

呼吸器センター

診療科長
（呼吸器内科）
三尾　直士

専門医資格等
呼吸器専門医、近畿支部評議員
日本がん治療認定医機構暫定教育医
日本内科学会認定内科医、指導医
日本医師会認定産業医
アメリカ胸部疾患学会（ATS）
アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）
京都大学　医学博士
京都大学　臨床教授
専門分野
呼吸器内科全般
得意疾患
肺癌・間質性肺炎

医長
（呼吸器外科）
澤井　聡

専門医資格等
日本呼吸器外科学会/指導医・評議員
呼吸器外科専門医
気管支鏡指導医
外科専門医
滋賀医科大学医学博士
専門分野
呼吸器外科全般
得意疾患
肺癌・縦隔腫瘍

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	元石　充	外科専門医 呼吸器外科専門医 気管支鏡専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医師	井上　英樹	日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本咳嗽研究会　呼吸器専門医 日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	気管支喘息・慢性咳嗽呼吸器内科一般
医師	岡村　美里	日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
医師	金井　修	日本内科学会　認定内科医 エイズ拠点病院　施設代表 京都市HIV感染症対策専門委員会　委員	呼吸器内科全般	HIV感染症、睡眠時無呼吸症候群、呼吸器内科一般
医師	小林　岳彦	日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、呼吸器内科一般
医師	葉山　学	日本内科学会　認定内科医 インフェクションコントロールドクター(ICD)	呼吸器内科全般	感染症・肺癌、呼吸器内科一般
医師	片岡　瑛子	日本内科学会　認定内科医	呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍
専修医	北村　知嵩		呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
レジデント	岡本　圭伍		呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本呼吸器外科基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設

1. 呼吸器外科は、肺癌をはじめとする胸部の腫瘍（肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍）や気胸を代表とする嚢胞性肺疾患に対して主に胸腔鏡を用いた手術を行っております。
2. 膿胸などの炎症性疾患に対しても積極的な外科治療（局所麻酔下胸腔鏡を含む）を行っています。
3. 気道狭窄に対するステント留置やレーザー焼灼術などの気管支鏡下手術も行っています。
4. 漏斗胸に対する矯正術（Nuss法）も行います。

□ 主な対象疾患

肺癌　転移性肺腫瘍　縦隔腫瘍　胸壁腫瘍　気胸　肺嚢胞症　膿胸　気道狭窄　漏斗胸

□ 診療（業務）内容

外来診察日は月、火、木、金曜日で、手術は水、金曜日に行っています。

□ 診療実績(平成25年度)

呼吸器内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
40.4名	1,007名	14.4日

呼吸器内科外来患者数

1日平均患者数
61.1名

呼吸器外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9.6名	272名	12.7日

呼吸器外科外来患者数

1日平均患者数
10.7名

主な手術・検査の件数など

手術(全身麻酔)	肺癌手術(診断含)
141件	77件

□ 地域医療連携・広報活動

第23回伏見医師会癌医療病診連携の会「多発肺癌と再発肺癌　ー術後followを中心にー」2013年4月6日
第4回がん診療セミナー「肺がん手術　-胸腔鏡下手術、そしてこれからー」2013年7月25日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	元石　充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井　聡、大塩麻友美. 胸管結紮術およびオクトレオチド投与にて軽快した特発性乳び胸の1例. 第30回日本呼吸器外科学会総会. 2013年5月9日；名古屋
国内学会	元石　充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井　聡、大塩麻友美. 孤立性肺結節陰影を呈した非結核性抗酸菌症の2例. 第30回日本呼吸器外科学会総会. 2013年5月9日；名古屋
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、元石　充、澤井　聡. 心膜周囲に発生した嚢状リンパ管腫の1切除例. 第30回日本呼吸器外科学会総会. 2013年5月9日；名古屋
国内学会	岡本圭伍、片岡瑛子、元石　充、澤井　聡、大塩麻友美. 腹膜偽粘液腫術後11年目に切除した孤立性胸膜転移の1例. 第30回日本呼吸器外科学会総会. 2013年5月9日；名古屋
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、金井　修、大塩麻友美、元石　充、澤井　聡. HIV感染に対するHAART中に縦隔リンパ節炎を認めたMAC症の1例. 第36回日本呼吸器内視鏡学術集会. 2013年6月20日；大宮
国内学会	岡本圭伍、片岡瑛子、元石　充、澤井　聡、. 肝細胞癌の胸膜播種病変に対してFDG-PET検査で術前診断を行い、胸腔鏡下試験切除により組織診断に至った１例. 第36回日本呼吸器内視鏡学術集会. 2013年6月21日；大宮
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、大塩麻友美、元石　充、澤井　聡. 広範な壊死を認めた胸腺種の1例. 第54回日本肺癌学会総会. 2013年11月21日；東京
国内学会	岡本圭伍、片岡瑛子、元石　充、澤井　聡、大塩麻友美. 非定型カルチノイド術後肝転移に対してエベロリムスが奏功した1例. 第54回日本肺癌学会総会. 2013年11月21日；東京

国内学会	元石　充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井　聡、大塩麻友美.肺野末梢に発生した高悪性度粘表皮癌の1切除例.第54回日本肺癌学会総会.2013.11.21；東京
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、大塩麻友美、元石　充、澤井　聡.胆管癌術後両側肺転移の1切除例.第54回日本肺癌学会総会.2013.11.21;東京
国内学会	元石　充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井　聡、大塩麻友美.Pazopanibによる治療開始後に続発性気胸を発症した粘液線維肉腫肺転移の1例.第54回日本肺癌学会総会.2013.11.21;東京
国内学会	澤井　聡、岡本圭伍、片岡瑛子、元石　充.MPMNｓの1例.第47回近江呼吸器疾患研究会.2013.9.7;京都
国内学会	岡本圭伍、片岡瑛子、元石　充、澤井　聡.淡明細胞肺腺癌の1切除例.第48回近江呼吸器疾患研究会.2014.3.1;京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著 者 ・ タ イ ト ル
癌と化学療法	片岡瑛子、岡本圭伍、北村知嵩、葉山　学、田中博之、金井　修、小林岳彦、岡村美里、井上英樹、大塩麻友美 元石　充、三尾直士、澤井　聡、花岡　淳. 胸腺術後再発に対してNedaplatin/Docetaxelが奏功した1例. 40(13)：2561-2563
肺癌	元石　充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井　聡、安井久晃. パゾパニブ投与中に続発性気胸を発症した粘液線維肉腫肺転移の１例. 53（7）：888-892
日本呼吸器外科学会雑誌	元石　充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井　聡、大塩麻友美、花岡　淳. 胸管結紮術およびオクトレオチド投与にて軽快した両側特発性乳び胸の1例. 28（1）：85-90

消化器内科

診療科長
勝島　慎二

専門医資格等	日本消化器病学会消化器病専門医・指導医・同評議員 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医・同評議員 日本医学放射線学会放射線科診断専門医 日本内科学会認定内科医 日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医 日本消化器がん検診学会胃認定医 京都大学医学博士
専門分野	消化器内科一般
得意疾患	肝疾患 炎症性腸疾患

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
健診部長	前川　高天	日本消化器病学会消化器病専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医・同評議員 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会H.Pylori（ピロリ菌）感染症認定医 京都大学医学博士	消化器内科一般	消化管疾患
医長	島　伸子	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管X線検査、内視鏡検査・治療
医長	水本　吉則	日本消化器病学会消化器病専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医	消化器内科一般	消化管・胆・膵の内視鏡検査・治療全般、炎症性腸疾患
医長	米田　俊貴	日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士	消化器内科一般	肝疾患
医師	岩本　諭	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医 京都大学医学博士	消化器内科一般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医師	江坂　直樹	日本消化器病学会消化器病専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	小腸内視鏡、緩和医療、PEG
医師	遠藤　文司	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター	消化器内科一般	胆道・膵疾患検査・治療全般、EUS、EUS-FNA
医師	太田　義之	日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管疾患
専修医	下釜　翼		消化器内科一般	消化管疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査(ERCP含む)治療・PTCDなどに24時間対応
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断と早期癌の内視鏡的あるいは経皮的治療に全て対応
3. 地域医療支援病院の消化器内科として紹介による内視鏡検査の実施、PEG/PTEGの造設・管理に対応
4. 炎症性腸疾患の専門診療を実施
5. 多数の慢性肝疾患症例を専門的に診療
6. 逆流性食道炎、慢性C型肝炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、神経内分泌腫瘍に対する治験PhaseⅡ・Ⅲを実施。

□ 主な対象疾患

消化器癌全般(食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢、胆管系)
炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)
急性および慢性肝疾患(ウイルス性、自己免疫性)
肝硬変
ヘリコバクター感染症関連疾患(消化性潰瘍、MALT)

□ 診療(業務)内容

消化器内科一般外来および肝臓専門外来
上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療
ERCPおよびERCP関連治療
PTCおよびPTC関連治療
EUSおよびEUS-FNA
小腸内視鏡(カプセルおよびバルーン内視鏡)
炎症性腸疾患に対する免疫療法(免疫抑制剤、生物学的製剤)
慢性ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法(インターフェロン、核酸アナログ)
肝癌に対する経皮的治療
セカンドオピニオン外来
内視鏡技師の育成
治験PhaseⅡおよびⅢ(逆流性食道炎、慢性C型肝炎、Crohn病、潰瘍性大腸炎、神経内分泌腫瘍)

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	54.8	1,329	14.9

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	125.6

主な手術・検査の件数など

	上部消化管内視鏡検査	下部消化管内視鏡検査	ERCP	食道・胃ESD	大腸ESD	肝癌ラジオ波焼灼術
2013年度	6,455件	2,716件	567件	95件	56件	55件

□ 地域医療連携・広報活動

＜開催研究会等＞

・第5回深草消化器医療連携の会　2013/5/18　京都医療センター
・第2回内視鏡エキスパートセミナー(ライブデモンストレーション）　2013/6/1　京都医療センター
・京都医療センター学術講演会「がんの診断・標的治療：新技術開発の現状と方向性」2013/7/1京都医療センター
・第15回伏見栄養療法・胃瘻研究会　2013/8/31　伏見医師会館
・京都医療センター肝疾患講演会「よりよい治療を選ぶための道しるべ」　2013/12/8　京都医療センター
・第16回伏見栄養療法・胃瘻研究会　2014/3/22　伏見医師会館

＜講演・パネリストなど＞

・前川高天：胃粘膜萎縮を考慮したこれからのH.pylori感染症診療の課題　Scientific Exchange Meeting 2013 in Kyoto　2013/4/27　京都
・水本吉則：大腸内視鏡診療の実際・大腸内視鏡ライブデモンストレーション　第2回内視鏡エキスパートセミナー 2013/6/1 京都医療センター
・太田義之：大腸内視鏡の挿入テクニック　第2回内視鏡エキスパートに学ぶ会　2013/6/1　京都
・前川高天：ヘリコバクター・ピロリ菌除菌療法のUpdate第2回内視鏡エキスパートに学ぶ会　2013/6/1京都
・島伸子：PEGの基本とケア　第3回NST勉強会　2013/7/10　京都医療センター
・勝島慎二：胃がんリスク（ABC)検診・意義と問題点　乙訓医師会学術講演会　2013/7/20 京都
・勝島慎二：肝疾患の栄養療法　第4回NST勉強会　2013/9/19　京都医療センター
・米田俊貴：新規抗ウイルス薬シメプレビルについて　京都医療センター肝疾患講演会　2013/12/8　京都医療センター
・勝島慎二：C型肝炎の近未来治療　京都医療センター肝疾患講演会　2013/12/8　京都医療センター
・米田俊貴：C型肝炎治療の新規3剤併用療法について　肝炎勉強会　2014/1/16 京都
・勝島慎二：進化するC型肝炎治療～今後を見据えた治療法選択～　肝炎勉強会　2014/1/16　京都
・前川高天：確実な除菌、正確な除菌判定を求めて　H.pylori symposium in 京都　2014/2/1　京都
・水本吉則：大腸がんのすべて～専門医によるリレー紹介～　京都医療センターがん診療セミナー 2014/1/23　京都医療センター
・米田俊貴：B型肝炎の再活性化　第10回慢性肝炎カンファレンス　2014/3/29　京都
・勝島慎二：C型慢性肝炎の最新治療　第10回慢性肝炎カンファレンス　2014/3/29　京都
・水本吉則：京都広小路ライブセミナーdiscussant　2014/3/1　京都

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
国内学会	遠藤文司、水本吉則、勝島慎二	市販ソフトウェアを利用した内視鏡処置情報のデータベース化とその活用	第85回日本消化器内視鏡学会総会 2013/5/10-12、京都
国内学会	水本吉則	Esophagus Stent（上部・中部・下部）の経験と実績	第85回日本消化器内視鏡学会総会 Expert Seminar14 The Stent Session2013/5/10-12、京都
国内学会	勝島慎二、鍋島紀滋、田中斉祐	高齢者C型慢性肝炎に対する瀉血療法と抗ウイルス療法の発癌予防効果の比較：多施設共同	第17回日本肝臓学会大会（JDDW2013Tokyo）2013/10/9-12、東京
国内学会	遠藤文司、水本吉則、勝島慎二	EST後出血の止血困難例に対するFullycovered self-expandable metallic stentを用いた止血術の可能性	第86回日本消化器内視鏡学会総会（JDDW2013Tokyo）2013/10/9-12、東京
国内学会	楠本聖典、濱田暁彦、水本吉則	ショックをきたす大腸憩室出血の出血部位同定におけるマーキングクリップ法の提案	第86回日本消化器内視鏡学会総会（JDDW2013Tokyo）2013/10/9-12、東京
国内学会	小田垣孝雄、宮地聡子、朴井三矢、福田修、福田良子、瀬田公一、畑啓昭、遠藤文司、志馬伸朗、奥野博	電子カルテの「ICT医師」アカウントとカルテ情報検索ソフトを用いた抗菌薬適正使用の取り組み	第67回国立病院総合医学会 2013/11/8-9、金沢市
国内学会	松岡律子、杉本那央子、井上小百合、長崎沙耶香、北野由美、田口いづみ、笹原道子、坂井洋子、遠藤文司	内視鏡室の感染対策（内視鏡システムの高頻度接触面の細菌検査による周辺環境調査）	第67回国立病院総合医学会 2013/11/8-9、金沢市

国内学会	遠藤文司、水本吉則、勝島慎二	逆流防止機構付胆管ステントの初期成績	日本消化器内視鏡学会近畿支部第91回支部例会　2013/11/6、大阪市
国内学会	下釜翼、遠藤文司、孫　瑜、出口美智代、太田義之、江坂直樹、岩本諭、米田俊貴、水本吉則、島伸子、勝島慎二、前川高天	窒息を契機に確定診断に至った食道運動機能障害の一例	日本消化器内視鏡学会近畿支部第91回支部例会　2013/11/6、大阪市
国内学会	岩本諭、孫　瑜、下釜翼、出口美智代、太田義之、遠藤文司、江坂直樹、米田俊貴、水本吉則、島伸子、勝島慎二、前川高天	胃壁膿瘍を契機に発見された十二指腸乳頭部癌の一例	日本消化器内視鏡学会近畿支部第91回支部例会　2013/11/6、大阪市
研　究　会	米田俊貴	子宮癌術後に肝内に多発占拠性病変を指摘された30代女性	第133回京滋臨床肝臓研究会　2013/5/16、京都市
研　究　会	勝島慎二	「ＮＢＩの使い方」ＮＢＩと拡大観察のルーチン化	第５回深草消化器医療連携の会　2013/5/18、京都
研　究　会	勝島慎二	病診連携の推進	第５回深草消化器医療連携の会　2013/5/18、京都
研　究　会	水本吉則	「ＮＢＩの使い方」上部のＮＢＩ	第５回深草消化器医療連携の会　2013/5/18、京都
研　究　会	太田義之	「ＮＢＩの使い方」下部のＮＢＩ	第５回深草消化器医療連携の会　2013/5/18、京都
研　究　会	江坂直樹	カプセル内視鏡	第５回深草消化器医療連携の会　2013/5/18、京都
研　究　会	前川高天	Ｈｐ除菌胃炎保険適応後の対応	第５回深草消化器医療連携の会　2013/5/18、京都
研　究　会	岩本諭、水本吉則、遠藤文司、下釜翼、出口美智代、江坂直樹、太田義之、米田俊貴、島伸子、勝島慎二、前川高天	胃壁内膿瘍を契機に発見された十二指腸乳頭部癌の一例	第34回京大消化器症例検討会　2013/6/29、神戸市
研　究　会	楠本聖典、濱田暁彦、水本吉則	ショックをきたす大腸憩室出血の出血部位の同定におけるマーキングクリップ法の提案	第35回京大消化器症例検討会　2013/12/14、京都市
研　究　会	米田俊貴、勝島慎二、下釜翼、太田義之、遠藤文司、江坂直樹、岩本諭、水本吉則、島伸子、前川高天	電子カルテ二次利用によるHBV再活性化を予防するための関連情報の一元管理	第35回京大消化器症例検討会　2013/12/14、京都市
研　究　会	遠藤文司	ICDからみた抗菌薬適正使用推進活動	平成25年度第3回感染防止対策地域連携カンファレンス　2013/12/21
班研究報告	米田俊貴	電子カルテ二次利用によるHBV関連マーカー情報の一元管理について	平成25年度第2回国立病院機構共同臨床研究・第2回厚生労働科学研究費補助金合同班会議　2014/2/8、大村市

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
臨床と研究　90(7):967-970,2013	原田直彦、柿ヶ尾佳奈、中牟田誠、田中伸、前川高天、森本日出男、西山仁、田中宗浩、高橋広喜、良永雅弘、鈴木隆裕、細田泰雄、山下晴弘、川西昌弘、大原正範、渡邉典子、片山俊介、由雄敏之、増田栄治、中村和彦：抗血小板剤二剤併用療法中の冠動脈薬剤溶出性ステント留置患者における上部消化管出血の実態―クロピドグレル内服患者における上部消化管出血調査のサブ解析―
日本消化器内視鏡学会雑誌 55(12):3745-3752,2013	楠本聖典、浜田暁彦、水本吉則、勝島慎二：上部消化管内視鏡検査における麻酔効果と苦痛度軽減におけるリドカイン飴法とリドカインビスカス法のランダム比較試験
HelicobacterResearch 17(3):73-76,2013	古家敬三、勝島慎二、沖　映希、佐々木善二：胃癌撲滅の実現へ、残された課題
京都消化器医会会報 29:51-55,2013	米田俊貴：子宮癌術後に肝内多発腫瘍を認めた３０代女性
京都医報　51-55,2013	前川高天：ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎診療ポイント
平成26（2014）年3月　厚生労働省科学研究補助金「平成23年度医薬品・医療機器等レギュラとリーサイエンス総合研究（研究課題名：全国サリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究）」	吉澤篤人、栢森良二、田中美郷、前川高天、寺嶋幸子、小林毅、新保卓郎、金久恵理子、関裕、今井公文、前原康宏、志賀由佳、櫻井俊之、蓮尾金博、和田達矢、佐々木徹、持木和哉、岡小百合、山野一義、長瀬洋之：サリドマイド胎芽病診療Q&A

循環器内科

診療科長
赤尾　昌治

専門医資格等	日本循環器学会認定循環器専門医、近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医、指導医、近畿支部評議員 日本心電学会評議員 京都大学医学博士 京都大学臨床教授 京都大学非常勤講師 京都府医師会学術・生涯教育委員
専　門　分　野	心房細動、不整脈、臨床疫学、医学教育

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 カテ室チーフ	阿部　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医、指導医 日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医	心臓カテーテル検査・治療、造影剤腎症、医学統計	
医長	益永　信豊	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	冠動脈カテーテル治療　末梢動脈カテーテル治療、大動脈ステントグラフト治療	
医師	小川　尚	日本内科学会認定内科医	不整脈　電気生理カテーテルアブレーション治療　デバイス治療	
医師	井口　守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	心不全、循環器領域の画像診断	
医師	石井　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	狭心症・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症などのインターベンション、循環器全般	
医師	鵜木　崇	日本内科学会認定内科医	心臓救急、心肺停止蘇生、低体温療法、虚血性心疾患	
医師	高林　健介	日本内科学会認定内科医	循環器一般	
医師	濱谷　康弘	日本内科学会認定内科医	循環器一般	
医師	山下　侑吾	日本内科学会認定内科医	虚血性心疾患・不整脈・心不全・肺循環疾患・救急一般	
医師	髙木　大輔		循環器一般	
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究	
展開医療研究部室長	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学	

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医事管理部長	小坂田元太	日本循環器学会認定循環器専門医、近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医、指導医 日本超音波医学会 超音波専門医、指導医	循環器内科学、超音波医学	
医　　　長	中島　康代	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医	心不全、不整脈、心臓リハビリ	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

診療科モットー：「地域、世界、そして将来に貢献する循環器科」

1.「地域」：命を守る責任感をもって、信頼される地域医療を提供すること

2.「世界」：より良い医療を探求する情熱を持ち、世界に向けて情報発信すること

3.「将来」：指導者として人を教え育て、学習者として人から学び成長すること

「地域」は診療、「世界」は研究、「将来」は教育をあらわしています。診療・研究・教育の3本柱は、それぞれが互いを刺激して高めあう関係にあります。この3本柱がバランス良くしかも高いレベルで達成されていること、これが我々の診療科の目指す姿であり、また課せられた使命であると考えています。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)
不整脈
心不全、心原性ショック
心筋症、心筋炎
心臓弁膜症
感染性心内膜炎
心膜疾患、心タンポナーデ
高血圧
大動脈瘤、大動脈解離
閉塞性動脈硬化症
静脈血栓症
肺塞栓症

□ 診療（業務）内容

心臓、血管系の疾病全般を扱います。専門性に偏ることなく、バランスの取れた診療を行っていくよう、常に心がけていきます。

冠動脈疾患に対するカテーテル検査・治療が当科診療の中心です。知識も技術もともに"世界に通用する心臓カテーテル検査と治療"を提供するべくスタッフ全員で日夜頑張っております。2009年から下肢閉塞性動脈硬化症のカテーテル治療(PTA)を、また2010年春から頻脈性不整脈のカテーテルアブレーションを開始し、良好な治療成績をおさめております。さらに高度先進医療を積極的に推進し、心臓・血管系の疾病でお困りの皆さんに少しでもお役に立ちたいと願っています。

また、当科ではつねに多くの臨床研究や、新しい薬剤や医療機器の治験をおこなっており、より有効性・安全性の高い医療を求めて積極的に研究活動を行っています。

2011年1月の新病棟落成にあわせて、CCU、心臓リハビリテーションが開始となり、さらに4月からは256列冠動脈CTが導入され、診療内容が大幅に充実しました。そして心臓外科専門医の白神幸太郎医長が着任し、当院の悲願でありました開心術が6月から開始されました。また、開心術の開始により、重症不整脈患者を対象とした植込型除細動器(ICD)、重症心不全患者を対象とした心臓再同期療法(両心室ペースメーカー)の実施施設基準を取得し、治療を開始しています。

2014年度には、心臓カテーテル検査室が移転、新装オープンすることになりました。これまではスタッフの献身的努力によりハード面の不利を克服すべく奮闘してきましたが、最新鋭のカテ室で最高の検査・治療をお届けできるようになるものと、スタッフ一同さらに士気が上がっております。現状に安住せず、さらにレベルの高い医療を提供して地域に貢献できるよう、スタッフ一同精進していきたいと思います。今後とも何卒ご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
32.5名	1, 193名	10.0日

外来患者数

1日平均患者数
72.3名

主な手術・検査の件数など

冠動脈カテーテル治療	冠動脈カテーテル検査	下肢動脈カテーテル治療	カテーテルアブレーション
292件	728件	27件	12件

ペースメーカー植込
49件

□ 地域医療連携・広報活動

第6回伏見心血管病勉強会「糖尿病の心血管合併症」 平成25年10月3日

第3回伏見ネットワークミーティング「伏見AFレジストリの最新知見」 平成25年10月19日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

学会名	演題	演者
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Current Status of Anti-thrombotic Therapy for Patients with Atrial Fibrillation in Japan: Insights from the Fushimi AF Registry(シンポジウム講演)	Masaharu Akao, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Stroke or Systemic Embolism in Atrial Fibrillation with Renal Insufficiency: From the Fushimi AF Registry	Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	The Risk of Bleeding in Atrial Fibrillation Patients Prescribed Multiple Anti-platelet Drugs: From One-year Follow-up of the Fushimi AF Registry	Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Stroke and Bleeding Events in Super-elderly Patients with Atrial Fibrillation: From One-year Follow-up of the Fushimi AF Registry	Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Kensuke Takabayashi, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Female Gender may not be a Risk of Stroke in Japanese Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Rhythm-control Therapy did not Reduce Progression from Paroxysmal to Sustained Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Yugo Yamashita, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao

第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Incidence of Stroke in Patients with Paroxysmal and Sustained Type of Atrial Fibrillation: One-year Follow-up of the Fushimi AF Registry	Kensuke Takabayashi, Takashi Unoki, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Effect of Vascular Disease on the Incidence of Stroke in Japanese Atrial Fibrillation Patients: From the Fushimi AF Registry	Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Clinical Characteristics and One-year Outcome of Atrial Fibrillation Patients under Rate- or Rhythm-control Strategy: From the Fushimi AF Registry	Takashi Unoki, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Diabetes Mellitus may not be a Risk of Stroke in Japanese Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	The Relationship between Left Atrial Enlargement and Incidence of Stroke in Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa, Yugo Yamashita, Kensuke Takabayashi, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Clinical Characteristics of Atrial Fibrillation Patients with Low Body Weight: From the Fushimi AF Registry	Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa, Yugo Yamashita, Kensuke Takabayashi, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Baseline Characteristics and Clinical Outcomes of Patients with Atrial Fibrillation Undergoing Catheter Ablation: From the Fushimi AF Registry	Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Tetsuo Hashimoto, Mitsuru Abe, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Clinical Characteristics and One-year Outcome of Young Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Yugo Yamashita, Kensuke Takabayashi, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	The Relationship between Systolic Dysfunction and Incidence of Stroke in Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Clinical Characteristics of Atrial Fibrillation Patients between Private Clinics and Cardiovascular Centers: One-year Follow-up of the Fushimi AF Registry	Hikari Tsuji, Koji Terada, Kayoko Furukawa, Yoko Taniguchi, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Left Atrial Diameter as a Predictor of Progression from Paroxysmal to Sustained Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-hwa Chun, Hikari Tsuji4 , Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Placental Growth Factor as a Predictor of Cardiac and Cerebrovascular Events Following Elective Coronary Drug-eluting Stent Implantation	Kensuke Takabayashi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Takashi Unoki, Shuichi Ura, Mitsuru Abe, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-Serves as a Predictor of Cardiovascular Events in Chronic Kidney Disease	Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Ko Ono, Tatsuya Morimoto, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Prognostic Value of Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-in Patients with Chronic Heart Failure	Moritake Iguchi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Kensuke Takabayashi, Hisashi Ogawa, Shun-ichiro Niki, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels are Inversely Associated with the Severity of Arteriosclerotic Obliterans and the Risk of Cardiovascular Events	Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Moritake Iguchi, Mitsuru Abe, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Hisashi Ogawa, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Low Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels as a Risk Marker of Revascularization and Cardiac- and Cerebrovascular-events after Drug-eluting Stent Implantation	Takashi Unoki, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Daisuke Takagi, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	Self-rating Depression Scale Score as an Independent Predictor of Unsuccessful Smoking Cessation	Shuichi Ura, Hiromichi Wada, Noriko Asahara, Masaharu Akao, Ko Ono, Tatsuya Morimoto, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa
第78回日本循環器病学会学術集会総会 / 東京 2014.3.21-23	The α1-antitrypsin/LDL Complex Level is Associated with the SYNTAX Score of Complexity and Severity of Coronary Artery Disease	Mitsuru Ishii, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Takashi Unoki, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa

第116回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年11月30日(土)、大阪	急性心筋炎の顕在化前に多彩な心電図異常を呈した一例	高林 健介、鵜木 崇、小川 尚、高木 大輔、濱谷 康弘、山下　侑吾、仁木 俊一郎、石井 充、井口 守丈、益永 信豊、中島 康代、和田 啓道、長谷川 浩二、阿部 充、赤尾 昌治
第116回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年11月30日(土)、大阪	偶発的に発見された心膜血腫に対して摘出術を施行した一症例	濱谷康弘、井口守丈、小川尚、袴田圭祐、髙木大輔、山下侑吾、高林健介、仁木俊一郎、鵜木崇、石井充、益永信豊、中島康代 、和田 啓道、長谷川 浩二、片岡剛、白神幸太郎、阿部充、赤尾昌治
第116回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年11月30日(土)、大阪	右冠動脈への経皮的冠動脈ステント留置術後に洞停止を認めた一例	高木大輔、鵜木崇、小川尚、濱谷康弘、山下侑吾、高林健介、仁木俊一郎、石井充、井口守丈、益永信豊、中島康代、和田弘道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第202回日本内科学会近畿地方会 / 平成25年12月14日(土)、大阪	腹腔鏡下S状結腸切除術直後にステント内血栓症を発症した1例	勝島將夫、益永信豊、小川　尚、高林健介、鵜木　崇、石井　充、阿部　充、赤尾昌治、山口高史、佐治雅史
第202回日本内科学会近畿地方会 / 平成25年12月14日(土)、大阪	左前下行枝慢性完全閉塞病変に対し同側からの逆行性アプローチを施行した1例	三橋賢大、阿部　充、小川　尚、濱谷康弘、鵜木　崇、石井　充、益永信豊、赤尾昌治、和田啓道、長谷川浩二
第202回日本内科学会近畿地方会 / 平成25年12月14日(土)、大阪	たこつぼ型心筋症と喘息を合併した高齢男性の1例	山下大生、小川　尚、仁木俊一郎、高木大輔、濱谷康弘、山下侑吾、井口守丈、中島康代、阿部　充、赤尾昌治
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Underuse and underdose of oral anticoagulants for patients with atrial fibrillation in Japan: From the Fushimi AF Registry.	Masaharu Akao, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, for the Fushimi AF Registry investigators.
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Diabetes mellitus may not be a risk of ischemic stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsurue Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Differences in clinical characteristics and outcomes between patients with paroxysmal and sustained type of atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Kensuke Takabayashi, Takashi Unoki, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 as a Predictor of the New Onset of Diabetes Following Smoking Cessation	Hiromichi Wada, Suichi Ura, Noriko Satoh-Asahara, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Tatsuya Morimoto, Koh Ono, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa.
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Placental Growth Factor as a Predictor of Cardiovascular Events Following Coronary Drug-eluting Stent Implantation	Kensuke Takabayashi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Suichi Ura, Takashi Unoki, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatami, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa.
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Inverse Association Between Serum Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels and the Severity of Arteriosclerotic Obliterans in Men	Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Moritake Iguchi, Mitsuru Abe, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatu, Koji Hasegawa.
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Inverse Association of Vascular Endothelial Growth Factor-C With the Risk of Restenosis and Cardiovascular Events After Drug-Eluting Stent Implantation	Takashi Unoki, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Suichi Ura, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa.
American Heart Association Scientific Sessions 2013 / 2013.11【Dallas, USA】	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 as a Predictor of Cardiovascular Events in Patients With Chronic Heart Failure	Moritake Iguchi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa.
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Incidence of thromboembolic events in patients with atrial fibrillation in Japan: One-year follow-up from the Fushimi AF Registry.	Masaharu Akao, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Clinical characteristics of patients with lone atrial fibrillation in Japan: From the Fushimi AF Registry.	Masaharu Akao, Hisashi Ogawa, Takashi Unoki, Moritake Iguchi, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Female gender was not associated with the history of thromboembolism in patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Clinical significance of ST depression in patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Low ejection fraction is associated with the history of stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Clinical characteristics of atrial fibrillation patients with anemia: From the Fushimi AF Registry.	Kensuke Takabayashi, Takashi Unoki, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Clinical characteristics of atrial fibrillation patients with low body weight: From the Fushimi AF registry.	Yasuhiro Hamatani, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
European Society of Cardiology Congress 2013 / 2013.8.31-9.4【Amsterdam, Netherland】	Clinical characteristics of super-elderly patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Yugo Yamashita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao

第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	心房細動患者における血栓塞栓症と性差の検討～伏見心房細動患者登録研究より～	小川尚、赤尾昌治、全栄和、和田啓道、江里正弘、橋本哲男、辻光、濱谷康弘、山下侑吾、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、小川尚、中島康代、小坂田元太、阿部充、長谷川浩二
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	貧血を有する心房細動患者の臨床像の検討～伏見心房細動患者登録研究より～	高林健介、赤尾昌治、全栄和、和田啓道、江里正弘、橋本哲男、辻光、山下侑吾、濱谷康弘、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、小川尚、中島康代、小坂田元太、阿部充、長谷川浩二
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	低体重患者における心房細動の臨床的特徴～伏見心房細動患者登録研究より～	濱谷康弘、赤尾昌治、全栄和、和田啓道、江里正弘、橋本哲男、辻光、山下侑吾、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、小川尚、中島康代、小坂田元太、阿部充、長谷川浩二
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	院外心停止に対して体外循環式心肺蘇生により社会復帰に成功した1例	高林健介,鵜木崇,濱谷康弘, 山下侑吾, 石井充,井口守丈, 小川尚,益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	左腎動脈狭窄に対して経皮的腎動脈形成術を繰り返した若年男性の一例	山下侑吾、阿部充、小川尚、濱谷康弘、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、赤尾昌治
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	難治性の特発性心嚢水貯留に対して胸腔鏡下心膜開窓術を施行した一症例	濱谷康弘、井口守丈、小川尚、山下侑吾、高林健介、鵜木崇、石井充、益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	オセルタミビルとワルファリンの相互作用が疑われた心房細動の二例	高橋昌宏、鵜木崇、小川尚、山下侑吾、濱谷康弘、高林健介、石井充、井口守丈、益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	強皮症に伴う肺高血圧症にボセンタンで加療した一例	諏訪達也、井口守丈、小川尚、濱谷康弘、山下侑吾、高林健介、鵜木崇、石井充、益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	急性前壁中隔心筋梗塞を発症した左単一冠動脈症の一例	白田全弘、鵜木崇、小川尚、山下侑吾、高林健介、鵜木崇、石井充、益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第115回日本循環器学会近畿地方会 / 平成25年6月15日(土)、京都	失神をきっかけにBrugada症候群と診断した高齢女性の一例	武井玲生仁、小川尚、山下侑吾、濱谷康弘、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
Euro PCR 2013 / Paris France. 2013.5.	Effect of Transient Contrast-induced Nephropathy on Mortality in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention	Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Takeshi Morimoto, Toru Kita, Takeshi Kimura

□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名	著　者
Current status of clinical background of patients with atrial fibrillation in a community-based survey: The Fushimi AF Registry. J. Cardiol. 2013; 61: 260-266.	Akao M, Chun YH, Wada H, Esato M, Hashimoto T, Abe M, Hasegawa K, Tsuji H, Furuke K; On behalf of the Fushimi AF Registry investigators.
伏見心房細動患者登録研究におけるアピキサバン投与量減量規定合致症例の割合および特徴に関する研究 新薬と臨床　2013; 62(5): 930-942.	川原直子、佐藤志樹、赤尾昌治
アピキサバンの実力 血管医学　2013; 14(2): 163-170.	赤尾昌治
血液透析中の心房細動症例の抗凝固療法について：診療現場の実態 日本血栓止血学会誌　2013; 24(3): 290-294.	赤尾昌治、阿部充、江里正弘、全栄和、和田啓道、長谷川浩二
実臨床の現場における心房細動患者に対する抗血栓薬処方の現状～伏見心房細動患者登録研究より～ 心電図　2013; 33(1): 32-39.	赤尾昌治、小川尚、益永信豊、江里正弘、全栄和、和田啓道、山下侑吾、濱谷康弘、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、中島康代、小坂田元太、阿部充、長谷川浩二
成人期の経皮的冠動脈形成術後に冠動脈瘤を形成した川崎病心臓血管後遺症の一例 京都医学会雑誌　2013; 60(1): 21-25.	山下侑吾、益永信豊、濱谷康弘、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、小川尚、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
A case of delayed complete atrioventricular block and cardiac arrest after percutaneous coronary intervention of left anterior descending coronary artery. Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2013 (in press).	Yasuhiro Hamatani, Takashi Unoki, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
遺伝子変異の特定に至った先天性アンチトロンビン欠損症の一家系 心臓 2012; 44(7): 823-826.	小川尚、中島康代、臼井健、竹中淑夏、鵜木崇、石井充、益永信豊、舩津順子、金崎幹彦,中野爲夫、阿部充、赤尾昌治
ボセンタン治療で経過観察中の肺高血圧症合併孤立性肺動脈欠損症と診断した一例 The case of isolated pulmonary artery deficiency with pulmonary hypertension under bosentan therapy 心臓 2012; 44: 1528-1533.	山下侑吾、石井充、小川尚、竹中淑夏、鵜木崇、益永信豊、金崎幹彦、中島康代、小坂田元太、阿部充、赤尾昌治
High blood viscosity is closely associated with cigarette smoking and markedly reduced by smoking cessation. Circ J. 2011; 75: 185-9.	Shimada S, Hasegawa K, Wada H, Terashima S, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Kitaoka S, Akao M, Shimatsu A, Takahashi Y.
α1-Antitrypsin Low-Density-Lipoprotein Serves as a Marker of Smoking-Specific Oxidative Stress. J Atheroscler Thromb. 2012; 19: 47-58	Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Kitaoka S, Mashiba S, Akao M, Abe M, Ono K, Morimoto T, Fujita M, Shimatsu A, Takahashi Y,Hasegawa K.
Distinct characteristics of circulating vascular endothelial growth factor-a and C levels in human subjects. PLoS One. 2011; 6: e29351.	Wada H, Ura S, Kitaoka S, Satoh-Asahara N, Horie T, Ono K, Takaya T, Takanabe-Mori R, Akao M, Abe M, Morimoto T, Murayama T, Yokode M, Fujita M, Shimatsu A, Hasegawa K.

小児科

診療科長
秋山　祐一

専門医資格等　日本小児科学会専門医
専 門 分 野　血液・腫瘍・予防接種
得 意 疾 患　心身症

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	黒須　英雄	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児	小児発達
医　　長	河田　　興	日本小児科学会専門医 日本周産期学会　新生児専門医 日本臨床薬理学会　専門医	未熟児・新生児	妊娠とくすり、新生児とくすり
医　　長	浅井康一 (2014/6/1から)	日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会　指導医	アレルギー疾患	喘息・アトピー、食物アレルギー
医　　師	石塚　哲也		小児救急	
医　　師	豊田　有子	日本小児科学会専門医 日本内分泌学会専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺
医　　師	北　　　誠	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児/小児全般	虐待
医　　師	阿水　利沙	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児/小児全般	極小・超未熟児

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本小児科学会研修施設 周産期(新生児)専門医暫定研修施設

1. お子さんの、心とからだの発達を重視します
2. スタッフ全員が未熟児・新生児から思春期までの診療がおこなえるよう研鑽しています
3. 小児期からもちこした疾患の診療に関与します
4. 御家族全体が健康であるように、配慮します
5. 長期入院の場合に学習の継続を重視します(院内学級併設)

□ 主な対象疾患

1. 平成12年4月から新生児集中治療室(NICU6床)を開設しました。
赤ちゃんの診療、発達の評価、育児相談を大切にしています。
2. 産婦人科と密接に協力して24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。未熟児出生の可能性のある場合は小児科医師全員が妊婦さんの状態を把握出来るシステムが完備しています。赤ちゃんの診断治療に超音波診断を積極的に行っています。
3. 小児科病棟(2-3病棟)では小児血液疾患、悪性腫瘍、慢性腎疾患、小児膠原病、難治性喘息、重症アトピー、神経疾患等の慢性疾患の入院治療を行います。院内学級に通学しながら治療を継続します。
4. 乳幼児の肺炎や脱水など短期の入院も積極的に取り扱っています。

□ 診療（業務）内容

受精から胎児期、分娩、新生児、乳児、幼児、小児、思春期、結婚・妊娠までのライフ・サイクルを考えて小児科診療を行います。

このすべてに関して小児科では相談の窓口になります。遺伝相談、不登校、小人症、糖尿病、肥満、等の相談を歓迎します。

初診の場合は可能であればかかりつけの先生の紹介状を是非御持参下さい。

主な取り扱い疾患は以下の通りです。

- ・新生児・低出生体重児（2500g未満）
- ・小児血液疾患（白血病、血小板減少症、貧血）
- ・アトピー性皮膚炎、気管支喘息、膠原病
- ・小児腎疾患（血尿・蛋白尿）
- ・小児感染症全般
- ・小児心臓疾患
- ・小児内分泌疾患（甲状腺疾患・低身長など）
- ・小児代謝疾患（糖尿病・副腎過形成など）
- ・小児のてんかん、発達障害

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
13.8名	478名	10.4日

外来患者数

1日平均患者数
42.3名

□ 地域医療連携・広報活動

2013年9月14日第18回伏見臨床懇話会

硫化水素中毒時の急性期症状と集団の転換性障害についての経験

京都医療センター小児科　若本陽子　直原俊平、北誠、阿水利紗、豊田有子、石塚哲也、秋山祐一、黒須英雄、河田興

2013年10月12日第16回京都小児科感染症研究会

生後2ヶ月で発症した肺炎球菌性髄膜炎の1例

京都医療センター小児科　阿水利沙　秋山祐一　北誠　豊田有子　石塚哲也　黒須英雄　河田興

2014年3月14日19回伏見臨床懇話会

1.川崎病の頸部リンパ節腫張：診断における落とし穴

京都医療センター小児科　北誠　秋山祐一　阿水利沙　豊田有子　黒須英雄　石塚哲也　河田興

2.硫化水素中毒　その後

京都医療センター小児科　　秋山祐一　阿水利沙　北誠　豊田有子　黒須英雄　石塚哲也　河田興

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学会名	演　者	演　題
第49回日本周産期・新生児医学会　2013年7月16日	河田 興、阿水利沙、黒須英雄、江川晴人	Late preterm 児の管理と 栄養方法についての検討
第40回日本小児臨床薬理学会2013年11月3日	河田 興	病態と治療（新生児疾患）
第40回日本小児臨床薬理学会2013年11月3日	河田 興、北　誠、阿水利沙、豊田有子、石塚哲也、黒須英雄、秋山祐一	先天性乳ビ胸に対する オクトレオチドの安全性に関する考察　ー閉塞性黄疸例を経験してー
第53回日本先天異常学会2013年7月13日	河田興	第13回生殖発生毒性専門家教育講習会　胎児毒性・新生児薬物離脱症候群

Young Scientist Symposium on New Drug Development2013年8月31日	河田興	Requirements of Clinical Research in Neonatal Infants
第35回日本病院薬剤師会近畿学術集会2014年2月2日	河田興	新生児の臨床薬理学
第40回日本小児臨床薬理学会2013年11月2日	阿水利沙、河田興、北誠	早期新生児期におけるビタミンK2シロップの投与方法についての検討
第12回新生児黄疸管理研究会2014年2月1日	阿水利沙、河田興、北誠、豊田有子、石塚哲也、黒須英雄、秋山祐一	いわゆる正常新生児における コニカミノルタ黄疸計による 黄疸管理の検討
第22回母乳育児ワークショップ2013年12月7日	黒須英雄	24時間以内の頻回直母をどう支援するか
第22回母乳育児シンポジウム2013年8月3日	黒須英雄、河田興、橋本恵	新生児回診方法変更前後での母乳率の変化
第21回未熟児新生児医療研究会2014年3月15日	黒須英雄、北誠、阿水利沙、豊田有子、石塚哲也、河田興、秋山祐一	社会的ハイリスクの3症例
第425回日本小児科学会京都地方会2013年12月13日	齋藤林太郎、秋山祐一、河田興、黒須英雄、石塚哲也、豊田有子、北 誠、阿水利沙	著明な肝機能障害、重症急性膵炎、DICを来した神経性食思不振症の１例
第11回日本小児心身医学会関西地方会2014年1月26日	若本陽子、直原俊平、秋山祐一、石塚哲也、北誠、阿水利沙、豊田有子、河田　興、黒須英雄	硫化水素中毒を契機にした身体表現性障害で歩行障害が遷延した中学生

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル
豊田有子　小児科学レクチャー3:　1261-1266　2013	日常診療に明日から役立つ 小児の内分泌疾患Q & A
豊田有子　日本内分泌学会雑誌　89増刊:80-82　2013	2013　update proceeding
河田　興　ペリネイタルケア　ネオネイタルケア　増刊　147-150:2013	新生児聴覚スクリーニングはどのタイミングで行うのが適切ですか
河田　興　ペリネイタルケア　ネオネイタルケア　増刊　151-153:2013	新生児にビタミンK2シロップを投与しなければならないのはなぜですか
河田　興　臨床薬理44:241-243　2013	小児薬物療法専門薬剤師の役割と育成に向けて 2.小児科医師から薬剤師への期待　小児薬物療法認定薬剤師研修制度の立ち上げ
河田　興　ファルマシア50:804-806　2013	小児薬物療法の問題点と適正化
河田興　朴井三矢、藤村尚子 日本小児臨床薬理学会誌26:41-42　2013	NICUで求められる薬剤師―小児薬物療法認定薬剤師の先に―
藤村尚子、朴井三矢、河田 興、阿水利沙、北誠、豊田有子、石塚哲也、黒須英雄、鶴田悟、秋山祐一　日本小児臨床薬理学会誌26:46-49　2013	早発型新生児感染症を疑って開始された抗菌薬はいつ中止されるのか?－NICUの処方箋ベースでの調査―
河田 興、阿水利沙、北誠、豊田有子、石塚哲也、黒須英雄、鶴田悟、秋山祐一　日本小児臨床薬理学会誌26:67-71　2013	遺伝性球状赤血球症の乳児における第三世代エリスロポエチン製剤使用経験

外科

診療科長
（肝胆膵責任者）
猪飼　伊和夫

専門医資格等　日本外科学会 外科専門医、指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医
日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
京都大学医学部　臨床教授
京都大学　医学博士
京都大学　非常勤講師

専門分野　肝胆膵外科

得意疾患　肝臓がん、胆道がん、膵臓がん

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 臨床栄養科長 (上部消化管責任者)	大谷　哲之	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科認定医 日本がん治療認定医機構　癌治療認定医 暫定教育医 京都大学医学部　臨床教授	上部消化管	胃がん 食道がん
医長 (下部消化管責任者)	山口　高史	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会　大腸肛門病専門医・指導医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医・技術認定審査員・評議員 京都大学医学部　臨床准教授 京都大学　非常勤講師	下部消化管	大腸がん 骨盤外科
医長 (乳腺責任者)	坂田　晋吾	日本外科学会　外科専門医 日本乳癌学会認定医 マンモグラフィ読影医	乳腺	乳がん
医師	成田　匡大	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会　専門医 Le DiplÔme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS HEPATO BILIO PANCREATIQUES 京都大学　医学博士 京都大学　非常勤講師	肝胆膵外科	肝臓がん 胆道がん 膵臓がん
医師	畑　啓昭	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・暫定教育医・評議員 日本食道学会　食道科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 ICD(インフェクションコントロールドクター)	上部消化管	胃がん 食道がん

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	松末　　亮	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医 京都大学　医学博士	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医　　師	谷　　昌樹			
専　修　医	森山沙也香			
専　修　医	花田　圭太			
専　修　医	川口　清貴			
専　修　医	佐治　雅史			
専　修　医	菊地　志織			
専　修　医	中西　宏貴			
非常勤医師	大和　俊夫	日本外科学会 外科認定医	外科一般	
非常勤医師	寺島　隆平		肛門科	
非常勤医師	植弘奈津恵	日本外科学会 外科専門医 日本乳癌学会 専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	乳腺	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本外科学会外科専門医修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設A 日本大腸肛門病学会認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設 JCOG大腸がんグループ参加施設 JCOG胃がんグループ参加施設

1. 消化器がんや乳がんなど悪性腫瘍の外科治療を中心に行っています。
2. 臓器別（上部消化管・下部消化管・肝胆膵・乳腺）に専門医がおり、専門性が高く高度で安全な外科手術を行っています。
3. 腹腔鏡手術を始めとした低侵襲な手術（体への負担が少ない手術）を積極的に行なっている一方、高度進行がんに対しては、必要に応じて拡大手術を行ったり、抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を行って臓器温存を図ったりしています。
4. 外科医、消化器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医が協議して治療方針を検討しています。
各科が必要に応じた治療が可能なため、特定の科の治療にかたよることもありません。

□ 主な対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、乳がん

□ 診療（業務）内容

消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん)や乳がんを中心とし、腹部良性疾患、肛門疾患や腹部救急疾患の外科治療を行っております。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
46.0名	1,069名	15.3日

外来患者数

1日平均患者数
76.1名

手術実績

全手術件数(外来手術含める)	996件
全麻手術	761件
腰麻手術	93件
局麻手術	142件

※うち緊急手術件数167件

主な術式別手術件数

術　　式	手術件数	※うち鏡視下手術(ポリペクトミー、EMR,ESDなど内視鏡的切除は除く)
食道がん切除術	8	8
幽門側胃切除術(幽門保存胃切除術を含む)	61	38
胃全摘術(噴門側胃切除術を含む)	27	9
結腸切除術	109	80
直腸前方切除術	49	33
直腸切断術	7	5
肝切除術(葉切除以上)	20	0
肝切除術(区域・亜区域切除術)	19	5
肝切除術(上記以外)	8	0
膵頭十二指腸切除術	19	0
膵体尾部切除術(胃がん手術に伴うものは除く)	11	1
膵切除術(その他)	1	0
乳がん手術	72	0
胆嚢摘出術	136	91
脾摘術	0	0
虫垂切除術	58	24
ヘルニア手術(小児を除く)	111	1
良性肛門疾患手術	94	3
小児外科手術(ヘルニアも含む)	10	0

□ 地域医療連携・広報活動

2013.2.23	第11回京都肝臓外科セミナー　当科における肝切離　-超音波吸引破砕装置と水滴下式バイポーラを中心に-　成田匡大
2013.7.13	第38回　京大外科関連施設癌研究会　「審査腹腔鏡の適応・手技について」　谷昌樹、畑啓昭
2013.9.7	第24回伏見医師会　癌医療病診連携の会　術前遠隔転移陽性癌の長期生存例　中西宏貴、大谷哲之
2013.9.7	第24回伏見医師会　癌医療病診連携の会　術前化学療法が著効したStageⅣ膵癌の手術根治例　花田圭太、成田匡大
2013.9.14	第12回京都肝臓外科セミナー　意外と大事な第二助手　-第二助手で頑張ってる若い先生たちに捧げる-　成田匡大
2013.10.27	研修医のための輸液セミナー　「術後輸液」の部屋　何を　どれだけ　どんな根拠で?　畑啓昭
2014.1.23	京都医療センター　がん診療セミナー　大腸がんのすべて〜専門医によるリレー紹介〜　講演　山口高史

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区 分	演 者	演 題	学会名	開催地	会期
国内学会	成田匡大 Elie Oussoultzoglou 猪飼伊和夫 畑啓昭 山口高史 松末亮 大谷哲之 Philippe Bachellier, Daniel Jaeck	結腸直腸癌肝転移症例に対する術前化学療法施行後に安全な肝切除を行うための必要残肝容量率は？	第113回 日本外科学会定期学術集会	福岡	2013
国内学会	畑啓昭 大谷哲之 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 猪飼伊和夫	合併症経験から得た腹腔鏡下胃全摘後の再建におけるピットフォール	第113回 日本外科学会定期学術集会	福岡	2013
国内学会	成田匡大 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 村上隆英 松末亮 畑啓昭 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	肝切除後血管合併症への対策Patency維持のためのOmental flap filling	第25回 日本肝胆膵外科学会学術集会	宇都宮	2013
国内学会	畑啓昭 大谷哲之 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 猪飼伊和夫	食道癌手術時に作成した腸瘻が原因となった内ヘルニアの1例	第67回 日本食道学会学術集会	大阪	2013
国内学会	畑啓昭 坂井義治	PREV07-01:腹腔鏡補助下大腸切除術における予防的抗菌薬投与法設定の為の無作為化比較試験第Ⅲ相試験、プロトコール概要と進行状況	平成25年度 JMTO臨床試験ワークショップ	名古屋	2013
国内学会	川口清貴 畑啓昭 大谷哲之 菊地志織 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 松末亮 成田匡大 山口高史 坂田晋吾 猪飼伊和夫	縦隔ドレナージのみで軽快した広範囲粘膜裂傷を伴った特発性食道裂孔の1例	第193回 近畿外科学会	京都	2013
国内学会	白田全弘 谷昌樹 畑啓昭 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	竹串誤飲による小腸裂孔の1例	第193回 近畿外科学会	京都	2013
国内学会	坂田晋吾 吉田和世 小山智美 友井正弘	メタストロン治療の適応に関して～自験例4例の経験から	第21回 日本乳癌学会学術総会	浜松	2013
国内学会	吉田和世 山口哲哉 坂田晋吾	ラパニチブ＋カペシタビン療法における投与の工夫	第21回 日本乳癌学会学術総会	浜松	2013
国内学会	猪飼伊和夫 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 村上隆英 松末亮 畑啓昭 成田匡大 山口高史 大谷哲之	グリソン鞘浸潤からみた大腸癌肝転移における系統的肝切除の重要性	第68回 日本消化器外科学会総会	宮崎	2013
国内学会	山口高史 松末亮 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 坂田晋吾 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	5ポート法による腹腔鏡下大腸切除術における細径鉗子の有用性の検討	第68回 日本消化器外科学会総会	宮崎	2013
国内学会	畑啓昭 大谷哲之 安井久晃 岡崎俊介 谷昌樹 村上隆英 松末亮 成田匡大 山口高史 猪飼伊和夫	P0CY1胃癌に対するR0手術を目的としたDCS3剤での導入化学療法のfeasibillity	第68回 日本消化器外科学会総会	宮崎	2013
国内学会	松末亮 山口高史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 村上隆英 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	高度狭窄大腸癌に対する術前金属ステント留置症例の検討	第68回 日本消化器外科学会総会	宮崎	2013
国内学会	花田圭太 山口高史 畑啓昭 松末亮 森山沙也香 谷昌樹 村上隆英 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	劇症型偽膜性腸炎に対する外科的介入症例の検討	第68回 日本消化器外科学会総会	宮崎	2013
国内学会	伊藤剛 細木久裕 金谷誠一郎 畑啓昭 河野幸裕	Siewert Ⅱ型食道胃接合部癌に対する、腹腔鏡下下部食道噴門側胃切除術	第68回 日本消化器外科学会総会	宮崎	2013
国内学会	岡崎俊介 山本鉄郎 猪飼伊和夫 安井久晃	ゲムシタビン（GEM）、S-1の不応後にカルボプラチン＋パクリタキセル（TC）が奏効した膵原発のundifferentiated carcinomaの一例	第11回 日本臨床腫瘍学会学術集会	仙台	2013
国内学会	成田匡大 遠藤文司 水本吉則 山本鉄郎 猪飼伊和夫	胆管内乳頭腺癌治癒切除後に多中心性発生を疑う残肝内胆管再発を来した一例	第49回 日本胆道学会学術集会	千葉	2013
国際学会	Hiroaki Hata, Takashi Yamaguchi, Suguru Hasegawa Akinari Nomura, Koya Hida, Satoshi Yamanokuchi Ryuta Nishitai, Takeharu Yamanaka, Yoshiharu Sakai	A randomized,multicenter,open-label phase Ⅲ trial of oral and parenteral versus parenteral antibiotic prophylaxis in elective laparoscopic colorectal surgery:The Japan-Multinational Trial Organization PREV 07-01	ACS 2013年 米国外科学会議	アメリカ ワシントン	2013
国内学会	波多野悦郎 猪飼伊和夫 上本伸二	高度門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する肝切除の適応と再発予防-多施設共同試験に向けて	JDDW2013	東京	2013
国際学会	坂田晋吾 吉田和世	当センターにおけるBevacizumab＋weekly nab－Paclitaxel療法の検討	第75回日本臨床外科学会総会	名古屋	2013
国内学会	谷昌樹 畑啓昭 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	診断に苦慮した腸石を伴った十二指腸憩室炎の一例	第75回日本臨床外科学会総会	名古屋	2013
国内学会	森山沙也香 山口高史 奥野博 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 谷昌樹 松末亮 畑啓昭 成田匡大 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	直腸癌術後の異時性孤立性副腎転移の１切除例	第75回日本臨床外科学会総会	名古屋	2013
国内学会	山口高史 松末亮 中西宏貴 菊地志織 佐治雅史 川口清貴 森山沙也香 花田圭太 谷昌樹 畑啓昭 成田匡大 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	腹腔鏡下大腸癌手術におけるReduced Port Surgery の代替案としての細径鉗子の有用性	第26回日本内視鏡外科学会総会	福岡	2013

国内学会	畑啓昭 大谷哲之 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 森山沙也香 花田圭太 松末亮 成田匡大 山口高史 猪飼伊和夫	LADG 後, 結腸前Roux en Y 逆蠕動機能的端々吻合再建法の手技と成績	第26回 日本内視鏡外科学会総会	福岡	2013
国内学会	松末亮 山口高史 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	自動縫合器による機能的端端吻合の合併症を減らす工夫	第26回 日本内視鏡外科学会総会	福岡	2013
国内学会	谷昌樹 畑啓昭 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	【症例報告】腎細胞癌術後7 年目に胃転移をきたし腹腔鏡下胃部分切除術を施行した一例	第26回 日本内視鏡外科学会総会	福岡	2013
国内学会	佐治雅史 松末亮 山口高史 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 森山沙也香 花田圭太 谷昌樹 畑啓昭 成田匡大 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	播種様病変を有する巨大腹腔内悪性リンパ腫に対して腹腔鏡診断が有用であった1例	第26回 日本内視鏡外科学会総会	福岡	2013
国内学会	畑啓昭	LADGにおける迷走神経先行切離による小弯郭清のメソット	第86回 日本胃癌学会総会	横浜	2014

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
畑啓昭	輸液スーパー指南塾　経過を追う症例問題で実践力を鍛える!第１章　実践に必要な輸液の基本〜これだけ知っていれば大丈夫! 9.輸液のセッティングについて	レジデントノート増刊	15	2	69-75	2013.4
山口高史 松末亮 畑啓昭 成田匡大 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	III　結腸・直腸・肛門の鏡視下手術　結腸癌に対する鏡視下手術　腹腔鏡下結腸左半切除術　-下行結腸癌に対する5ポート法-	消化器外科　臨時増刊号	36	5	687-694	2013.4
Ogiso S, Ikai I, Narita, M Murakami T Hata H, Yamaguchi T, Otani T	Parenchyma-sparing anatomical liver resection based on Hjortsjo's concept: a venous-drainage-guided approach to identify the ventral segment fissure.	Langenbecks Arch Surg.	398	5	751-758	2013.6
Higashi T, Nakamura F, Shimada Y Shinkai T, Muranaka T, Kamiike W Mekata E, Kondo K, Wada Y, Sakai H Ohtani M, Yamaguchi T, Sugiura N Higashide S, Haga Y, inoshita A Yamamoto T, Ezaki T, Hanada S Makita F, Sobue T, Okamura T	Quality of gastric cancer care in designatedcancer care hospitals in Japan	International Journal for Quality in Health Care	25	4	418-428	2013.9
村上隆英 小木曾聡 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	臨床報告　コレステロール結晶塞栓症に起因する腸閉塞の1例	臨床外科	68	7	837-840	2013.7
村上隆英 成田匡大 山本鉄郎 花田圭太 谷昌樹 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	十二指腸乳頭部に発生したmixed adenoneuroendocrine carcinoma の1 例	日本消化器外科学会雑誌	47	2	108-115	2014.2
Kou T, Kanai M, Ikezawa K, Ajiki T Tsukamoto T, Toyokawa H Yazumi S, Terajima H, Furuyama H Nagano H, Ikai I, Kuroda N Awane M, Ochiai T, Takemura S Miyamoto A, Kume M, Ogawa M Takeda Y, Taira K, Ioka T	Comparative outcomes of elderly and non-elderly patients receiving first-line palliative chemotherapy for advanced biliary tract cancer.	J Gastroenterol Hepatol.	29	2	403-408	2014.2
Ikezawa K, Kanai M, Ajiki T Tsukamoto T, Toyokawa H Terajima H, Furuyama H Nagano H, Ikai I, Kuroda N Awane M, Ochiai T, Takemura S Miyamoto A, Kume M, Ogawa M Takeda Y, Taira K, Ioka T	Patients with recurrent biliary tract cancer have a better prognosis than those with unresectable disease: retrospective analysis of a multi-institutional experience with patients of advanced biliary tract cancer who received palliative chemotherapy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	21	2	98-104	2014.2
Minata M, Kudo M, Harada KH Ikai I, Nishida N	Expression of E-cadherin and vascular endothelial growth factor in noncancerous liver is associated with recurrence of hepatocellular carcinoma after curative resection.	Oncology.	84	Suppl	88-92	2013.2
Minata M, Harada KH, Kudo M Ikai I, Nishida N	The prognostic value of vascular endothelial growth factor in hepatocellular carcinoma for predicting metastasis after curative resection.	Oncology.	84	Suppl	75-81	2013.2
Kawamura J, Hasegawa S Kawada K, Yamaguchi T Nagayama S, Matsusue R Nomura A, Sakai Y	Feasibility and safety of laparoscopic total proctocolectomy with ileal pouch-anal anastomosis for severe ulcerative colitis.	Asian J Endosc Surg.	6	4	271-278	2013.11

Nakamura K, Hatano E Miyagawa-Hayashino A Okuno M, Koyama Y, Narita M Seo S, Taura K, Uemoto S	Soluble thrombomodulin attenuates sinusoidal obstruction syndrome in rat through suppression of high mobility group box 1.	Liver Int.	doi: 10.1111/liv.12420.			(in press)
Yamanaka K, Hatano E, Kanai M Tanaka S, Yamamoto K, Narita M Nagata H, Ishii T, Machimoto T Taura K, Uemoto S	A single-center analysis of the survival benefits of adjuvant gemcitabine chemotherapy for biliary tract cancer.	Int J Clin Oncol.	19	3	485-489	2014.1
Koyama Y, Taura K, Hatano E Tanabe K, Yamamoto G Nakamura K, Yamanaka K Kitamura K, Narita M, Nagata H Yanagida A, Iida T, Iwaisako K Fujinawa H, Uemoto S	Effects of oral intake of hydrogen water on liver fibrogenesis in mice.	Hepatol Res.	44	6	663-677	2014.1
Yamanaka K, Hatano E, Iguchi K Yamamoto G, Sato M, Toriguchi K Tanabe K, Takemoto K, Nakamura K Koyama N, Narita M, Nagata H Taura K, Uemoto S	Effect of olprinone on liver microstructure in rat partial liver transplantation.	J Surg Res.	183	1	391-396	2013.7

整形外科

診療科長
中川　泰彰

専門医資格等　日本整形外科学会専門医
専 門 分 野　スポーツ、軟骨、関節
得 意 疾 患　膝、肩、肘関節

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	山田　　茂	日本整形外科学会専門医	股関節、膝関節	股関節
医　　師	向井　章悟	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩、小児	膝、肩
医　　師	向田　征司	日本整形外科学会専門医	脊椎	脊椎
医　　師	二宮　周三	日本整形外科学会専門医	股関節	股関節
医　　師	坪内　直也		脊椎	脊椎
医　　師	松岡　将之	日本整形外科学会専門医	整形外科一般	
医　　師	薮本　浩光		整形外科一般	
専 修 医	樽見　映里			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本整形外科学会研修施設

1. スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれのスペシャリストがいます。
2. 救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3. スポーツ医学センターを併設し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っています。
4. 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

□ 主な対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靭帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

□ 診療（業務）内容

スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれの専門家が執刀する手術（安定した治療成績が獲得できています）及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。また、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っています。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
50.4名	756名	23.3日

外来患者数

1日平均患者数
86.7名

主な手術・検査の件数など

頸椎手術	胸腰椎手術	人工股関節置換術	人工膝関節置換術
30件	98件	56件	69件

自家骨軟骨移植術
37件

□ 地域医療連携・広報活動

・京都府軟式野球連盟からの依頼により、2011年からスポーツ医学センターにて、小中学生野球選手のメディカルチェックを行っています。

・2013年 6月　京都府軟式野球連盟指導者研修会で講演(中川診療科長)

・2013年11月　京都ウィメンズクラブ例会で講演(中川診療科長)

・2014年 2月　平成25年度日本相撲連盟関西ブロック指導者講習会で講演(中川診療科長)

・2014年 3月　平成25年度京都府相撲連盟生涯スポーツ指導者研修会で講演(中川診療科長)

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	樽見映里、中川泰彰、山田茂、二宮周三、坪内直也、松岡将之 外側型変形性膝関節症に対し、鏡視下滑膜切除術を行った症例の術後成績 第１２０回中部日本整形外科災害外科学会学術集会、2013.4.5-6、和歌山、日本
国際学会	Y.Nakagawa, K. Nishitani, S. Mukai, T. Nakamura Fifteen years follow-up of autologous osteochondral transplantation and arthroplasty for end stage osteochondritis dissecans of the capitellum 12th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery, 2013.4.10-12, Nagoya, JAPAN
国際学会	S. Mukai, Y. Nakagawa Analysis of the role of rotator cuff and position of the humeral head in various shoulder patholohgies 12th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery, 2013.4.10-12, Nagoya, JAPAN
国内学会	中川泰彰、森浩二、黒木裕士、向井章悟、山田茂、西谷江平、新井隆三、中村孝志 超音波を利用した生体膝における関節軟骨の力学的特性診断―変性度や年齢との比較― 第８６回日本整形外科学会学術総会、　2013.5.23-26、広島、日本
国内学会	中川泰彰 少年野球におけるスポーツ障害の予防と対策 平成25年京都府軟式野球連盟指導者研修会　2013.6.8、京都、日本
国内学会	樽見映里、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、中村孝志 血腫を繰り返し骨軟骨移植術にて改善した外側型変形性膝関節症の１例 第５回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、　2013.6.20-22、札幌、日本
国内学会	古川泰三、中川泰彰、奥平修三、岡徹 上腕骨離断性骨軟骨炎に対する自家骨軟骨移植術後にドナー膝の愁訴が持続した１例 第５回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、　2013.6.20-22、札幌、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、山田茂、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、樽見映里、中村孝志 健常膝をドナーとした骨軟骨移植術のドナー部の短期臨床成績 第５回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、　2013.6.20-22、札幌、日本
国内学会	春日浩聡、中川泰彰、向井章悟、松岡将之、樽見映里、中村孝志 スポーツ復帰を目指した膝蓋大腿関節骨軟骨障害に対する骨軟骨移植術の術後成績 第５回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、　2013.6.20-22、札幌、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、松岡将之、樽見映里、山田茂、向田征司、二宮周三、坪内直也、中村孝志 前十字靭帯損傷に合併した関節軟骨損傷例の検討 第５回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、　2013.6.20-22、札幌、日本
国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、樽見映里、中村孝志 足関節距骨軟骨障害に対して、モザイクプラスティーを施行するも骨壊死を来した２例 第５回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、　2013.6.20-22、札幌、日本

国内学会	中川泰彰、向井章悟、山田茂、今泉厚、橋本正、田村智英子、西平順、松岡将之、樽見映里、中村孝志 変形性膝関節症に対するクルクミンの短期効果 第５回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、　2013.6.20-22、札幌、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰 超音波による肩関節の軟骨の力学的特性と肘、膝関節との比較 第１３回肩と肘と語る会、　2013.7.27、大阪、日本
国内学会	坪内直也、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 当院での脊椎術後感染の調査—implant温存に関して一 第１１回ひふみ会、2013.8.3、京都、日本
国内学会	中川泰彰 動物実験からみたalendronateの最近の話題 第１１回ひふみ会、2013.8.3、京都、日本
国内学会	中川泰彰 足関節疾患に対するモザイクプラスティーの実際 平成２５年京整会秋期研修会、　2013.8.24、京都、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、中村孝志 骨軟骨移植術後のスポーツ復帰と膝OA進行の予防（シンポジウム：膝半月、軟骨損傷の治療と復帰） 第３９回日本整形外科スポーツ医学会学術集会、　2013.9.13-14、名古屋、日本
国際学会	S. Mukai, Y. Nakagawa “Theracurmin” has anti-inflammatory effects on knee osteoarthritis in randomized controlled study. 11th ICRS meeting, 2013.9.15-18, Izmir, Turkey
国内学会	向井章悟、中川泰彰、森浩二、黒木裕士、中村孝志 超音波による肩関節の軟骨の力学的特性と肘、膝関節との比較 第４０回日本肩関節学会、2013.9.27-28、京都、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、山田茂、二宮周三、坪内直也、松岡将之 60歳以下の大腿骨頸部骨折に対する骨接合術後成績 第１２１回中部日本整形外科災害外科学会学術集会、2013.10.3-4、名古屋、日本
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章悟、薮本浩光、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ 学童期少年野球選手における上下肢筋力と投球障害肘の関連について 第２４回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2013.10.25-26、熊本、日本
国内学会	新谷健、橋本雅至、井上直人、中川泰彰 報音波画像を用いた大腿骨前念角の測定方法 第２４回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2013.10.25-26、熊本、日本
国内学会	廣瀬ちえ、中川泰彰、向井章悟、薮本浩光、新宮信之、伊藤盛春、井上直人 少年野球選手のポジション別による肩関節・肘関節可動域の検討 第２４回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2013.10.25-26、熊本、日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ、橋本雅至 大学アメリカンフットボール選手におけるSide bridge testと体幹筋力の関係—第２報— 第２４回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2013.10.25-26、熊本、日本
国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 円盤状半月板術後に急速に起こった軟骨損傷の３例 第２４回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2013.10.25-26、熊本、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ、伊藤盛春、中村孝志 少年野球検診における複数回受診者データの推移 第２４回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2013.10.25-26、熊本、日本
国内学会	中川泰彰 膝、肘関節の離断性骨軟骨炎の診断と治療 第１７回西京整形外科病院勤務医・開業医有志による病診連携の会、　2013.11.16、京都、日本
国内学会	中川泰彰 健康寿命を延ばすコツ一運動器を中心に一 京都ウィメンズクラブ例会、　2013.11.26、京都、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、樽見映里、中村孝志 自家骨軟骨移植術にてスポーツ復帰を果たしたシニアスポーツ愛好家の１例 第１９回スポーツ傷害フォーラム、　2014.1.25、大阪、日本
国内学会	中川泰彰 2014年からのドーピング検査—うっかりドーピングも含めて一 平成２５年度日本相撲連盟関西ブロック指導者講習会、　2014.2.15、大阪、日本
国内学会	中川泰彰 肘・膝・足関節の離断性骨軟骨炎の診断と治療 第２回伏見運動器研究会、　2014.2.22、京都、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、山田茂、今泉厚、橋本正、田村智英子、西平順、松岡将之、樽見映里、中村孝志 変形性膝関節症に対するクルクミンの短期臨床効果とその持続期間 第２７回日本軟骨代謝学会、　2014.2.28-3.1、　京都、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、山田茂、今泉厚、橋本正、田村智英子、西平順、松岡将之、樽見映里、中村孝志 変形性膝関節症に対するクルクミンの短期臨床効果 日本薬学会第１３４年会、2014.3.27-30、熊本、日本

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書雑誌名
古川泰三、中川泰彰、奥平修三 逮捕術で受傷した膝複合靱帯損傷の１例 整スポ会誌、 33：101-104、2013
坪内直也、中川泰彰、中村孝志 投球による上腕骨内側上顆骨折術後に投球骨折を再度受傷した１例 日肘学会誌、 19：141-143, 2012
樽見映里、中川泰彰、向井章悟、坪内直也、松岡将之、中村孝志 ドッジボールにより発症した肘関節離断性骨軟骨炎の１例 整形外科、 64：629-632、2013
岡徹、松末吉隆、古川泰三、奥平修三、黒木裕士、小林正彦、中川泰彰 軟骨損傷に対する自家骨軟骨柱移植術―術後リハビリテーション 臨床スポーツ医学（臨時増刊）、 30：409-415, 2013
樽見映里、中川泰彰、二宮周三、坪内直也、松岡将之 外側型変形性膝関節症に対し、鏡視下滑膜切除術を行った症例の術後成績 中部整災誌、 56：1313-1314, 2013

形成外科

診療科長
荒田　順

専門医資格等　日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
京都大学　臨床准教授
専 門 分 野　形成外科一般
得 意 疾 患　手外科、先天異常

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	石坂　知華	日本形成外科学会専門医	形成一般	眼瞼下垂
医　　師	瀬 崎 伸 一		形成一般	
医　　師	鈴木　茉友		形成一般	
専 修 医	海透　修子		形成一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本形成外科学会認定施設 日本手外科学会認定基幹研修施設

□ 主な対象疾患

皮膚・皮下軟部腫瘍、顔面外傷、手外科、瘢痕拘縮、頭頸部・乳房再建

□ 診療（業務）内容

当科では

・手足、顔面、体幹の先天異常をはじめとする小児形成外科
・整容面を重視した眼瞼下垂、眼瞼内反症
・外反症などの眼瞼形成
・体表における腫瘍の切除、皮膚潰瘍に対する皮膚移植、遊離皮弁による潰瘍の閉鎖などの皮膚疾患に対する整容面に配慮した外科治療
・顔面骨骨折を中心とする顔面外傷に対する整容を重視した治療、口腔外科と合同で行う顎顔面外科
・切断指を含む手外科疾患の初期治療から二次的な機能再建
・頭頸部外科と合同で頭頸部癌に対する癌切除後の機能損失を最小限にすることを目的としたマイクロサージャリーを駆使した組織移植を積極的に行い、乳腺外科との合同で乳がんに対する乳房再建を手がけています。
・レーザー：ルビーレーザー（黒、茶あざ、しみ）、Ｖビーム（血管腫）、ＣＯ２レーザー（小腫瘍の蒸散、瘢痕の修正）を所持しており、美容を目的としたしみに対するレーザー治療など幅広い治療を行っています。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
8.2名	175名	16.5日

外来患者数

1日平均患者数
20.6名

主な疾患の件数など

皮膚皮下腫瘍	眼瞼形成	顔面骨骨折および外傷	手外科
296件	36件	87件	80件

マイクロサージャリー
46件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	鈴木茉友　荒田順	指のヒートプレス損傷に対して腹部皮弁を用いて再建した症例	第39回熱傷学会、2013.6.7、沖縄
国内学会	田中宏典, 荒田順, 石坂知華	毛巣洞の再発例をくり抜き法で加療した一例	第5回日本創傷外科学会、2013.7.11、京都
国内学会	石坂知華　田中宏典	遊離空腸移植におけるモニタリング方法の検討	第31回日本頭蓋顎顔面外科学会、2013.10.24、名古屋

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者	タイトル
日本形成外科学会誌　2013	荒田順　石坂知華　田中宏典　鈴木茉友　海透修子	鼻骨骨折徒手整復術における音響結合用高分子ゲル材を用いた術中超音波診断の有用性について
日本頭蓋顎顔面外科学会誌　2013	石坂知華　田中宏典	音響カップリング材を併用した術中超音波診断による顔面骨骨折整復術例の検討

脳神経外科

専門医資格等
日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳血管障害

副院長
塚原 徹也

専門医資格等
日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳動脈瘤
良性脳腫瘍
頭蓋底手術
バイパス術

診療科長
福田 俊一

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	青木　友和	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会　専門医 日本癌治療学会　暫定教育医	脳神経外科	悪性脳腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医　師	川端　康弘	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会　専門医 脳神経血管内治療学会 専門医	脳神経外科	脳血管障害、脳血管内治療、脳腫瘍
医　師	河原﨑　知	日本脳神経外科学会 専門医	脳神経外科	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に２４時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3.のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に充分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□ 主な対象疾患

・脳血管障害（脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害）
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫）
・神経内視鏡手術
・頭部外傷
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛）

□ 診療（業務）内容

・脳血管障害（脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術）
・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓など)
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫）に対する摘出術
・神経内視鏡手術 (下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
・頭部外傷(血腫除去術)
・脊椎背髄疾患
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
・頭蓋底および頚部腫瘍: 腫瘍摘出および血行再建術

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	20.3名	368名	18.8名

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	36名

主な手術・検査の件数など

	脳動脈瘤	脳腫瘍	脳血管内手術	脳動静脈奇形	頚動脈内膜剥離術	血管バイパス術
2013年度	22件	40件	69件	1件	17件	14件

□ 地域医療連携・広報活動

第11回脳卒中市民講座　2013年12月14日　於；京都第二赤十字病院

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	S.Fukuda,Y.Shimogonya,T.Tsukahara、Y.Imoto、S.MorikawaandM.Fukuda； The influence of inlet boundary conditions upon hemodynamic analysis of human cerebral aneurysms with computational fluid dynamics technique. Experimental Biology 2013 April 20-24, 2013 Boston, America
国際学会	Yasuhiro Kawabata, Kohsuke Yamashita, Hidenori Miyake, Tetsuya Tsukahara, Shunichi Fukuda, Tomokazu Aoki, Satoru Kawarazaki; Analysis of the relationship between perioperative stroke and embolus protection devices during arotid artery stenting XV WFNS 2013 World Congress of Neurology 8-13 September,2013 Seoul,Korea
国際学会	T.Tsukahara,　T.Hatano； ANGIOPLASTY AND STENTING FOR INTRACRANIAL ARTERIAL STENOSIS World Congress of Neurology September 21-26 2013, Vienna, Austria
国際学会	T.Aoki A multicenter phase Ⅰ/Ⅱ study of the BCNU implant(Gliadel® wafer)for Japanese patients with malignant gliomas(long-term follow up(NPC-08 Study) 4th Quadewnnial Meeting of the World Federation of Neuro-Oncology November 21-24, 2013 San Francisco, California
国際学会	Shunichi　Fukuda, Yuji Shimogonya, Tetsuya Tsukahara, Yasuhide Imoto, Miyuki Fukuda; Computational Fluid Dynamics Analysis In Roles Of Hemodynamic Factors On The Development Of Cerebral Aneurysms. International Stroke Conference 2014 February 12 2014, San Diego, California
国内学会	川端康弘；急速に増大する頭皮下腫瘤として発症した平滑筋肉腫の一例 第31回日本脳腫瘍病理学会　2013年5月25日、東京
国内学会	青木友和；グリオーマ手術の意義についての私見 第18回日本脳腫瘍の外科学会　2013年9月19日～20日、滋賀

国内学会	福田俊一、下權谷祐児、塚原徹也、青木友和、川端康弘、河原﨑知、福田美雪、井本恭秀；数値流体学(CFD)解析を用いた脳動脈瘤形成における血行力学的因子の役割の検討 日本脳神経外科学会第72回学術総会　2013年10月16日～18日、横浜
国内学会	青木友和、荒川芳輝、上羽哲也、北条雅人、岩崎孝一、杉山一彦、宮本享；再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用化学療法(TA療法)の臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験(中間報告)　日本脳神経外科学会第72回学術総会　2013年10月16日～18日、横浜
国内学会	川端康弘、河原﨑知、福田俊一、青木友和、塚原徹也；内頸動脈一後交通動脈分岐部動脈瘤に対するコイル塞栓術 日本脳神経外科学会第72回学術総会　2013年10月16日～18日、横浜
国内学会	川端康弘；頸動脈再狭窄病変に対する再治療　第29回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会　2013年11月22日、新潟
国内学会	青木友和；再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用科学療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験 第31回日本脳腫瘍学会学術集会　2013年12月8日～10日、宮崎
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、川端康弘、河原﨑知、中村道三、大谷良、村瀬永子、端祐一郎、吉永健二；アテローム血栓性脳梗塞急性期・亜急性期におけるSTA-MCA　bypass術の適応について　第39回日本脳卒中学会総会 STROKE2014　2014年3月14日　大阪
国内学会	福田美雪、福田俊一、安藤譲二、宮本享、塚原徹也、長谷川浩二；P2X4プリノセプター遺伝子欠損マウスを用いた脳動脈瘤発生段階における壁ずり応力の役割の検討　第39回日本脳卒中学会総会　STROKE2014　2014年3月14日　大阪
国内学会	金澤雅人、Yu-Huan Gu、長田高志、Brian Hawkins、福田俊一、中島元夫、西澤正豊、下畑享良、Gregory Del Zoppo;脳虚血早期のヘパラナーゼによるヘパラン硫酸の脱糖鎖反応　第39回日本脳卒中学会総会　STROKE2014　2014年3月14日　大阪
国内学会	川端康弘、塚原徹也、大谷良、山下耕助、三宅英則、堀川文彦；経皮的頸動脈ステント留置術の周術期心筋梗塞　第39回日本脳卒中学会総会　STROKE2014　2014年3月15日　大阪
国内学会	波多野武人、永井靖識、宮腰明典、早瀬睦、織田雅、中村威彦、塚原徹也；症候性頭蓋内椎骨脳底動脈狭窄に対する血管内治療　第39回日本脳卒中学会総会　STROKE2014　2014年3月14日　大阪

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
The FASEB Journal.2013	Shunichi Fukuda, Yuji Shimogonya, Tetsuya Tsukahara, Yasuhide Imoto, Susumu Morikawa and Miyuki Fukuda;The Influence of inlet boundary conditions upon hemodynamic analysis of human cerebral aneurysms with computational fluid dynamics techique. The FASEB Journal.2013;27:700.7
Neurol Med Chir	Aoki T, Nishikawa R, Sugiyama K, Nonoguchi N, Kawabata N, Mishima K, Adachi JI, Kurisu K, Yamasaki F, Tominaga T, Kumabe T, Ueki K, Higuchi F, Yamamoto T, Ishikawa E, Takeshima H, Yamashita S, Arita K, Hirano H, Yamada S, Matsutani M. A Multicenter Phase I/II Study of the BCNU Implant (Gliadel® Wafer) for Japanese Patients with Malignant Gliomas. Neurol Med Chir (Tokyo). 2013 Nov 29
Jpn J Cancer Chemother 40	青木友和、山田忍；Central Nervous System Tumor and Glioma 脳腫瘍、グリオーマII.悪性神経膠腫に対するBCNU脳内留置用剤（ギリアデル脳内留置用剤7.7mg）の現状癌と化学療法　Jpn J Cancer Chemother 40(6):708-717, June, 2013
Intern Med 53	Jumpei Togawa, Takekazu Ohi and Satoru kawarazaki；Global Aphasia without Hemiparesis Caused by a Dural Arteriovenous Fistula.Intern Med 53:135-138,2014 Epub 2012 Mar 1.
今日の治療指針	塚原徹也；脳動脈解離　今日の治療指針　私はこう治療している　TODAY'S　THERAPY　2014：849-850 医学書院
Annual Review 神経2014	青木友和、山田忍；悪性神経膠腫に対する局所化学療法(Gliadel 7.7mg Implant)　Annual Review 神経2014、p180-191
The Mainichi Medical Journal	塚原徹也；人口呼吸管理下ICU患者の自発的音楽聴取は不安を軽減する　解説　巧みな研究デザインで音楽の治療効果を解明　The Mainichi Medical Journal March 2014 Vol.10 No.1 20-21
Clinician 2014	青木友和、山田忍；ギリアデル脳内留置剤7.7㎎の臨床試験Review　Clinician 2014, No.624. p298-316 (2014年3月号)
脳神経外科速報　2014	青木友和；脳神経外科医が解説する抗VEGF抗体薬　脳神経外科速報　2014、Vol24, No.4, p437-443

血管外科

専門医資格等　心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学　医学博士

専 門 分 野　血管外科（閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、血管外傷に対する各種血行再建術）、静脈、リンパ疾患

診療科長
浅田　秀典

□ 診療科の特徴

1. あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
2. 患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。

2006年（平成18年）4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。

近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例（ASO）が増加しています。

閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状（歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死）を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。

このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。

当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。

患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

□ 主な対象疾患

大動脈疾患（腹部大動脈瘤、大動脈解離など）
閉塞性動脈硬化症（糖尿病合併症例、慢性透析例を含む）
閉塞性血栓血管炎（バージャー病）
急性動脈閉塞症（血栓症、塞栓病、外傷など）
下肢静脈瘤、静脈（鬱滞）性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療（動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤）
内シャント（blood access）作成

□ 診療(業務)内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の3日間実施しております。

心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11名	237名	17.1日

外来患者数

1日平均患者数
10.9名

主な手術・検査の件数など

下肢末梢動脈手術	腹部大動脈瘤手術	透析内シャント手術	下肢静脈瘤手術
56件	23件	78件	3件

四肢カテーテル治療	四肢動脈造影
36件	106件

□ 地域医療連携・広報活動

2013年4月20日　KCJL市民公開講座「ここまでできる外科的下肢血行再建」　浅田秀典

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	浅田秀典　「ここまでできる外科的下肢血行再建」　KCJL市民公開講座　2013.4.20：京都
国内学会	浅田秀典　「血管外科専門医の立場からのPAD治療」　末梢動脈疾患フォーラム　2013.6.27：京都
国内学会	浅田秀典　「PAD治療に対するPTAの功罪」　第11回末梢血管外科治療戦略を考える会　2013.9.14：大阪
国内学会	浅田秀典　「PADに対する外科治療」　神戸心臓血管外科セミナー　2013.10.25：神戸
国内学会	浅田秀典　「血管外科医の立場からみた血管検査」　第13回京滋血管診療フォーラム　2014.2.13：京都
国内学会	浅田秀典　「外腸骨動脈 - 大腿動脈交差バイパスの有効性」　第44回日本心臓血管外科学会　2014.2.19～2014.2.21：熊本
国内学会	浅田秀典　「inflow確保に一考を要したdistal bypassの一例」　第28回日本血管外科学会近畿地方会　2014.3.1：神戸

心臓外科

診療科長
白神　幸太郎

専門医資格等	心臓血管外科専門医、指導医 外科専門医
専 門 分 野	成人心臓大血管疾患
得 意 疾 患	成人心臓大血管手術

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	片 岡　　剛	心臓血管外科専門医 外科専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術

□ 診療科の特徴

京都府南部地域における循環器疾患の基幹施設として機能すべく、2011年に開設。2013年までの実績により、心臓血管外科専門医認定機構より基幹施設認定を受けた。①心臓外科診療を通して人々のお役に立つ②手術や診療の透明性を確保する③循環器診療の最後の砦となるの3つの診療指針の下、循環器内科、血管外科、救命救急科、麻酔科との緊密な連携を維持しながら安全な医療を提供するように努力している。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞など）に対する冠動脈バイパス術
弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患など）に対する弁形成術や弁置換術、不整脈手術
大血管疾患（胸部大動脈瘤、急性大動脈解離など）に対する人工血管置換術

□ 診療（業務）内容

心臓大血管疾患の手術適応およびリスク評価を体系的にかつ厳密に行い、安全な手術治療を目指す。一方で院内各専門科と緊密な連携を取り、周術期管理にあたる。緊急を要する症例について積極的に手術治療を行い、地域医療に貢献することを目標としている。
2011年4月心臓外科開設。2011年6月より12月までに34例、2012年65例、2013年74例の心臓大血管手術を施行。2013年は単独冠動脈バイパス術24例中、22例を体外循環非使用手術、2例を体外循環使用心拍動下手術として施行している。大動脈弁手術は21例、生体弁による大動脈弁置換術が12例、機械弁使用1例、弁形成術8例であった。僧帽弁閉鎖不全症に対しては弁形成術を第一選択としており、僧帽弁手術19例のうち弁形成術が13例であった。心房細動に対しても積極的にメイズ手術を施行し、6例中5例が正常洞調律に復帰した。予定手術における院内死亡は術後慢性期に脳梗塞を発症した僧帽弁形成術施行症例、拡大左開胸を要した上行弓部下行大動脈置換術施行例の2例であり、緊急手術に手術死亡は認めず、院内手術死亡率は2.7%であった。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
6名	69名	29.2日

外来患者数

1日平均患者数
4.3名

主な手術・検査の件数など

冠動脈バイパス術	心臓弁膜症手術	胸部大動脈手術	その他心臓手術
31件	36件	18件	8件

□ 地域医療連携・広報活動

医師会、救急隊を通じての広報活動を行い、他院循環器内科とも積極的に協働している。院外からの手術目的紹介症例は年々増加している。2013年度は74例中24例32%が他院循環器内科からの紹介症例であった。また救急搬送からの緊急手術症例は16例（急性大動脈解離13例、虚血性心疾患3例）であり、全例社会復帰した。2013年より循環器内科ドクターカー導入に合わせてさらに広報活動を拡充している。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　題　・　学　会　名
開心術後急性期における利尿剤効果の比較検討　トルバプタンvsフロセミド　H.25.7.4　京都
A型急性大動脈解離術後呼吸不全に対するシベレスタットの効果. H25.9.20 京都

皮膚科

医長
十一　英子

専門医資格等	日本皮膚科学会皮膚科専門医 京都大学医学博士 京都大学医学部臨床教授 京都皮膚科医会理事
専 門 分 野	皮膚科一般 皮膚免疫
得 意 疾 患	乾癬 糖尿病足病変

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡本奈都子	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医　　師	渋 谷 真 美		皮膚科一般	
レジデント	徳 永 茉 以		皮膚科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本皮膚科学会専門医研修施設 生物学的製剤使用承認施設

1. 乾癬に対する生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病足病変、基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

□ 主な対象疾患

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、薬疹、水疱症、皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、ウイルス感染症（帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）など

□ 診療（業務）内容

糖尿病に合併する皮膚疾患：糖尿病センターとの連携のもと、糖尿病と関連した足病変、皮膚病変の診療を行っています。

乾癬：中等症～重症では、免疫抑制剤や生物製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査をし適応を決め投与しています。

帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、入院で点滴治療を行っています。

爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。

接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。

薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。

診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

□ 診療実績（平成25年度）

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	4.1	58	25.2

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	73.9

主な手術・検査の件数など

	皮膚生検	皮膚切開術	皮膚皮下腫瘍摘出術
2013年度	236件	214件	97件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演題・演者・学会名
蜂窩織炎との鑑別を要した壊疽性膿皮症の1例　嘉山智子, 野々村優美, 岡本奈都子, 十一英子　第430回日本皮膚科学会京滋地方会　2013年6月1日　京都
ウステキヌマブ高反応例の投与間隔について　十一英子、徳永茉以、嘉山智子、岡本奈都子　第28回日本乾癬学会　2013年9月7日　東京
大量免疫グロブリン療法に過敏症を示した後天性表皮水疱症の1例　岡本奈都子, 徳永茉以, 嘉山智子, 十一英子　第433回日本皮膚科学会京滋地方会 2013年12月14日　京都
セバシン酸ジエチルによる接触皮膚炎の1例　渋谷真美, 徳永茉以, 岡本奈都子, 十一英子　第434回日本皮膚科学会京滋地方会　2014年3月15日　京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
林雄二郎, 櫻井謙次, 岡本奈都子, 米谷あずみ, 浅田秀典, 十一英子　閉塞性動脈硬化症とCalciphylaxis合併例の皮膚潰瘍に血行再建術が奏功した1例. 臨床皮膚科　67(7):547-552, 2013
十一英子　IL-12/23抗体による乾癬の治療　一冊でわかる最新皮膚科治療　186-188 五十嵐敦之, 宮地良樹, 清水宏編　文光堂 2013　6月
石川牧子, 十一英子　黄白色小結節と年齢から疑うFavre-Racouchot症候群　皮膚科臨床アセット20　日常診療において忘れてはならない皮膚科症候群 155-158　土田哲也, 古江増隆編　中山書店　2013 10月

泌尿器科

診療部長　科長
奥野　博

専門医資格等	日本泌尿器科学会専門医・指導医、京都大学臨床教授、関西医科大学臨床教授、日本生殖医学会評議員、日本アンドロロジー学会評議員、日本癌治療認定医、日本臨床腎移植学会腎移植認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、京都大学医学博士
専門分野	泌尿器科一般
得意疾患	前立腺癌 男性学

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	三品　睦輝	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学博士	泌尿器科一般	膀胱癌 尿路結石症
医　師	眞鍋　由美	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	女性泌尿器科学
医　師	北村　悠樹	日本泌尿器科学会専門医 日本透析学会専門医	泌尿器科一般	腎不全　透析
医　師	藤井　将人	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	前立腺肥大症
医　師 (レジデント)	大杉　治之		泌尿器科一般	
医　師 (非常勤)	伊東　晴喜	日本泌尿器科学会専門医・指導医	泌尿器科一般	夜間頻尿

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本泌尿器科学会研修施設

1. 体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査（痛みが少なく入院期間を短く）により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2. 最先端医療も積極的に取り入れます。
3. 地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4. 患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

□ 主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

□ 診療（業務）内容

・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
・体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
・外来診療：火曜、木曜、金曜が３診、月曜、水曜は２診
・手術：月、水、金曜日の週3日間

・火曜日の早朝には外来カンファレンス、夕方からは病理医を招いて臨床病理カンファレンス
・木曜日の早朝から全体回診（医師、看護師長）
・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
・木曜日夕方から薬剤師、看護師を交えた症例カンファレンス
・金曜日早朝には最新の海外文献の抄読会やビデオ供覧会
・平成23年11月～前立腺肥大症に対し最新の光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP)を導入
・平成25年2月～前立腺癌に対し腹腔鏡下前立腺全摘を導入

□ 診療実績（平成25年度）

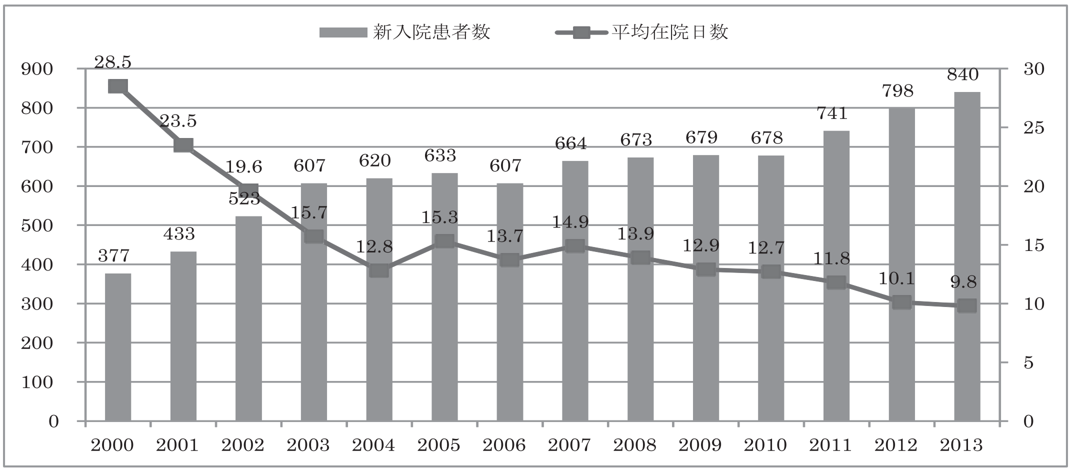
入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	22.3	840	9.8

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	78.2

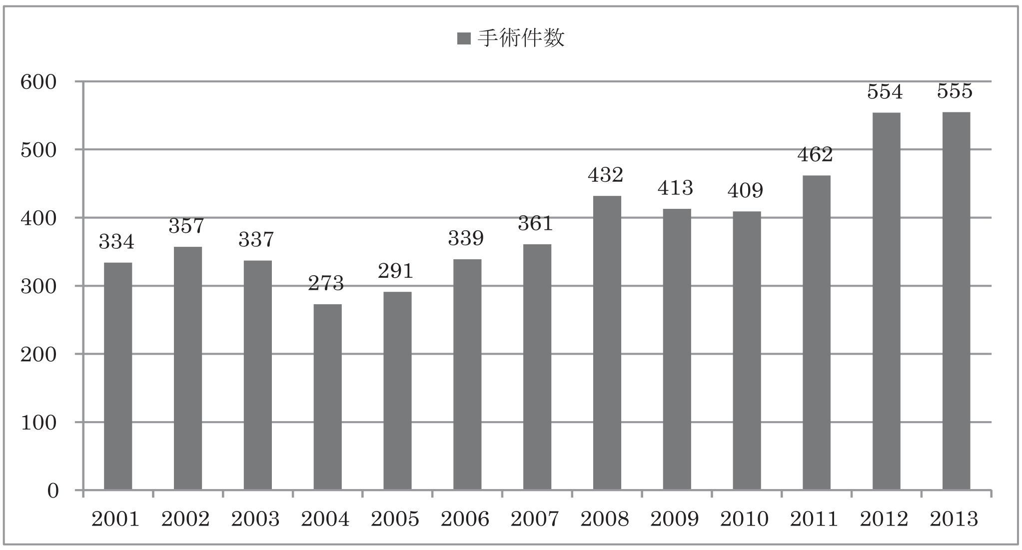
入院統計（年度）



主な手術・検査の件数など

	腹腔鏡下前立腺全摘	前立腺全摘（開腹）	腎摘（腹腔鏡含め）	前立腺肥大症内視鏡手術	膀胱癌内視鏡手術	骨盤臓器脱・尿失禁手術
2013年度	23件	4件	24件	97件	92件	16件

手術統計（年度）



□ 地域医療連携・広報活動

第18回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。テーマ：「少子化を考える」2014.03.29（京都・ホテルグランビア京都）

症例検討　第242回泌尿器科マンスリーミーティング　2014.03.08（京都国際ホテル・京都市）座長：奥野　博

永坂和子　「排尿ケアにおける病院と地域の多施設連携」伏見泌尿器科連携の会。2014.02.15（京都東急ホテル・京都市）

金山博臣　「進行性腎細胞癌薬物療法の最新の話題」Pfizer Urology Forum 2014。2014.02.22（グランヴィア京都ホテル・京都市）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

	演者・演題・学会名
国際学会	Norihiko Masuda, Yuma Sakura, Haruyuki Ohsugi, Yuki Kitamura, Yumi Manabe, Haruki Itoh, Mutsuki Mishina, Hiroshi Okuno: USEFULLNESS OF MRI PRIOR TO PROSTATE NEEDLE BIOPSY IN PSA GRAY ZONE PATIENTS. AUA 102th Annual Meeting. MAY 4-8, 2013(Presentation MAY 7)(SAN DIEGO).
国内学会	奥野　博：講演「前立腺癌のオーバービュー」「前立腺癌のすべて」第3回がん診療セミナー。2013.05.23（京都・京都医療センター多目的ホール）
国内学会	奥野　博、増田憲彦、佐倉雄馬、大杉治之、北村悠樹、藤井将人、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝：前立腺がん二次検診にMRI撮影とPSA-densityを加えることにより不要な生検を避けることができる：PSA gray zone 症例における検討。第21回日本がん検診・診断学会総会。2013/07/19-20（群馬・前橋テルサ）発表2013.07.19
国内学会	奥野　博：講演「前立腺癌の診断と二次検診の内容」　テーマ：前立腺癌の診断～実地医家のために～　第14回京都府医師会生涯教育セミナー。2013.07.27（京都・京都府医師会館）
国内学会	奥野　博：特別講演「熟年男性の健康と性生活」南宙会11月例会。2013.11.15（ANAクラウンプラザホテル京都・京都市）
国内学会	奥野　博：特別講演「前立腺癌　過剰診断・過剰治療を避ける事が出来るか？」前立腺癌治療学術講演会。2014.02.21（福井パレスホテル・福井市）
国内学会	吉村耕治、杉野善雄、伊東晴喜、奥野　博、石戸谷　哲、大西裕之、西澤浩二、寺井章人、清水洋祐、金丸聰淳、伊藤哲之、小倉啓司、小川　修：夜間頻尿患者の自覚的睡眠に対するラメルテオン（ロゼレム®）の影響：生活指導からの上乗せ効果について。第101回日本泌尿器科学会総会　2013.04.25-28（発表04.27）（札幌・さっぽろ芸術文化の館）
国内学会	眞鍋由美、大杉治之、北村悠樹、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：前立腺肥大症に伴う蓄尿症状に対するナフトピジルの有用性に関する単施設解析：他剤α1ブロッカーからの切り替え症例と抗コリン薬追加併用症例についての検討。第101回日本泌尿器科学会総会　2013.04.25-28（発表04.25）（札幌・ロイトン札幌）
国内学会	大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：筋層非浸準潤性膀胱癌に対する再発予防目的Mitomycin D 膀胱内注入療法の治療成績。第101回日本泌尿器科学会総会　2013.04.25-28（発表04.27）（札幌・ロイトン札幌）
国内学会	北村悠樹、大杉治之、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：前立腺癌患者のQOLに関するEPIC調査票を用いた単施設前向き縦断的研究：治療介入前QOLについて（第一報）。第101回日本泌尿器科学会総会　2013.04.25-28（発表04.28）（札幌・札幌市教育文化会館）
国内学会	北村悠樹、大杉治之、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：前立腺全摘後PSA偽高値を呈した1例。第223回日本泌尿器科学会関西地方会　2013.05.25（関西医科大学　大阪）
国内学会	大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：精索腫瘍の1例。第238回泌尿器科マンスリーミーティング　2013.07.27（京都・芝欄会館別館）
国内学会	眞鍋由美、北村悠樹、大杉治之、藤井将人、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：内分泌療法施行した前立腺癌患者のQOLに関するEPIC(Expanded Prostate Cancer Index Composite) 調査を用いた単施設前向き縦断的研究。第32回日本アンドロロジー学会　2013.07.26-07.27（発表07.26）（大阪・グランキューブ大阪）
国内学会	北村悠樹、大杉治之、藤井将人、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博、村田真紀、菊池祐子、八幡兼成：腹部手術既往症例に対する腹腔鏡補助下腹膜透析（PD）カテーテル留置術の検討。第58回日本透析学会　2013.06.21（福岡）
国内学会	伊東晴喜、増田憲彦、増井　仁彦、大杉治之、藤井将人、北村悠樹、眞鍋由美、三品睦輝、奥野　博：夜間頻尿患者における睡眠障害。第20回日本排尿機能学会 2013.09. 18-21（グランシップ　静岡市）発表2013.0.9.19
国内学会	関成人、黒松功、桑原勝孝、伊原博之、奥野博、杉村芳樹、山口秋人：HPS-PVP（光選択的前立腺レーザー蒸散術）の有用性に関する検討。第20回日本排尿機能学会　2013.09. 18-21（グランシップ　静岡市）発表2013.09.19
国内学会	北村悠樹、大杉治之、藤井将人、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博、村田真紀、菊池祐子、八幡兼成：腹部手術既往症例に対する腹腔鏡補助下腹膜透析カテーテル留置術の検討。第19回日本透腹膜透析医学会総会　2013.09.29（大阪）
国内学会	黒松功、桑原勝孝、伊原博之、鈴木和雄、野村博之、山口秋人、奥野博、関成人、内藤誠二、平尾佳彦、、後藤百万、杉村芳樹：「AMS　GreenLight　HPS」を用いた前立腺肥大症に対する蒸散術（PVP）の有用性に関する前向き研究。30日（木）
国内学会	大杉治之、藤井将人、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：小児急性陰嚢症の5例。第240回泌尿器科マンスリーミーティング　2013.10.12（京都・芝欄会館別館）
国内学会	大杉治之、藤井将人、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：女性におけるCrochet Hock を用いた透析下尿管ステント交換の検討。第27回日本泌尿器内視鏡学会　2013.11.08（名古屋）
国内学会	眞鍋由美、北村悠樹、大杉治之、藤井将人、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：複数診療科合同で加療した下大静脈に進展する右腎細胞がんの1例。京都医療センター CANCER・BOARD がん診療セミナー 第1回グランドセミナー　2013.11.28　（京都・京都医療センター多目的ホール）
国内学会	北村悠樹：＜第223回ベストプレゼンテーション賞受賞者表彰ならびに記念講演＞　前立腺全摘後PSA偽高値を呈した1例。第225回日本泌尿器科学会関西地方会、2014.01.25（兵庫医科大学・西宮市）
国内学会	藤井将人、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：80ml以上の前立腺肥大症に対するPVP（光選択的前立腺レーザー蒸散術）は有効で低侵襲か？第12回東北泌尿器科手技研究会・第32回泌尿器科手術研究会ジョイント開催　2014.03.15（ホテルメトロポリタン仙台・仙台市）

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
第223回日本泌尿器科学会関西地方会ベストプレゼンテーション賞北村悠樹、大杉治之、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：「前立腺全摘後PSA偽高値を呈した1例」
Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Nishimoto K, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Shimatsu A, Katabami T, Okumura A, Kawa G, Tanabe A, Naruse M. Histopathological Diagnosis of Primary Aldosteronism Using CYP11B2 Immunohistochemistry. J Clin Endocrinol Metab 98: 1567-1574, 2013
Togo Y, Tanaka S, Kanematsu A, Ogawa O, Miyazato M, Saito H, Arai Y, Hoshi A, Terachi T, Fukui K, Kinoshita H, Matsuda T, Yamashita M, Kakehi Y, Tsuchihashi K, Sasaki M, Ishitoya S, Onishi H, Takahashi A, Ogura K, Mishina M, Okuno H, Oida T, Horii Y, Hamada A, Okasyo K, Okumura K, Iwamura H, Nishimura K, Manabe Y, Hashimura T, Horikoshi M, Mishima T, Okada T, Sumiyoshi T, Kawakita M, Kanamaru S, Ito N, Aoki D, Kawaguchi R, Yamada Y, Kokura K, Nagai J, Kondoh N, Kajio K, Yoshimoto T, Yamamoto S. Antimicrobial prophylaxis to prevent perioperative infection in urological surgery: a multicenter study. J Infect Chemother. 19: 1093-1101, 2013
Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Nanba A, Usui T, Tagami T, Okuno H, Suzuki T, Shimbo T, Shimatsu A, Naruse M. A subtype prediction score for primary aldosteronism. J Hum Hypertens 20: 1-5, 2014
大杉治之、増田憲彦、奥野　博：腎瘻の作成と管理。増刊レジデントノート　14（17）：3202（110）-3207（115）、2013　羊土社
大杉治之、高田秀明、北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：造影MRI検査が診断に有用であった精巣垂捻転の1例。泌尿紀要59：799-801、2013
北村悠樹、奥野博、佐倉雄馬、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、田岡利宣也、寺井章人、杉元幹史、筧善行：ビカルタミド治療中に乳房痛を発現した前立腺癌患者に対するフルタミドへの変更療法の有用性に関する研究。泌尿紀要　60：17-23、2014

産科婦人科

診療科長
髙倉　賢二

専門医資格等	日本産科婦人科学会専門医
	日本婦人科腫瘍学会専門医
	日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
	日本婦人科腫瘍学会　評議員
	日本産婦人科内視鏡学会　評議員
	日本内分泌学会　代議員
	日本受精着床学会　評議員
	京都大学　医学博士
	京都大学医学部　非常勤講師
	京都大学医学部　臨床教授
	三重大学医学部　非常勤講師
	三重大学医学部　リサーチ・アソシエイト
	三重大学医学部　客員教授
	関西医科大学　臨床教授
専 門 分 野	婦人科腫瘍
	産婦人科手術
	内分泌疾患の診断・治療
	不妊症の診断・治療

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
婦人科医長	徳重　誠	日本産科婦人科学会専門医・日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医・母体保護法指定医・日本内視鏡外科学会技術認定医	婦人科一般	腹腔鏡下手術
産科医長	山本　紳一	日本産科婦人科学会専門医・母体保護法指定医・京都大学　医学博士	産科一般	周産期
婦人科医長 外来医長	高尾　由美	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	産婦人科一般	婦人科腫瘍
産科医長 産科病棟医長	江川　晴人	日本産科婦人科学会専門医・京都大学　医学博士・日本周産期新生児医学会専門医制度暫定指導医・京都大学医学部　非常勤講師	産婦人科一般	周産期・更年期・腹腔鏡下手術
婦人科病棟医長	関山健太郎	日本産科婦人科学会専門医・日本婦人科腫瘍学会専門医	産婦人科一般	婦人科腫瘍・腹腔鏡下手術
医師	伊藤　美幸	日本産科婦人科学会専門医 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	産婦人科一般	腹腔鏡下手術・更年期
医師	奥田亜紀子	日本産科婦人科学会専門医・日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	産婦人科一般	腹腔鏡下手術
医師	山西優紀夫	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	婦人科腫瘍
医師	清水　操	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	
医師	秦　さおり	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	
専修医	下園　寛子		産婦人科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本婦人科腫瘍学会認定研修施設 日本周産期・新生児医学会　母体・胎児専門医制度研修施設（指定） 日本産科婦人科内視鏡学会　技術認定医研修施設

～産科～

何よりも安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を提供することが私たちのモットーです。

女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます大切なものとなってきていると考えています

～婦人科～

女性の社会進出に伴い、外来治療や低侵襲手術（腹腔鏡手術や腟式手術、小開腹手術）を推進し、早期の社会復帰を目指します。充実した診療スタッフにより、幅広い婦人科疾患に対して対応可能です。特に、婦人科がんに対してハイレベルな診療を行います。

□ 診療（業務）内容

～産科～

1. 妊婦健診では、一般的な健診のみならず、病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行い、生活指導なども適宜行っています。
2. 分娩（出産）は、自然分娩を尊重しながらも、合併症や急変に対しても、小児科（NICU）・内科・麻酔科などとも連携をとり、チームワークで対応します。
3. 産前・産後の母乳ケアを行い、母乳育児をサポートします。
   年間600例の分娩を取り扱っています。　合併症妊娠やハイリスク妊娠の症例も多く取り扱っています。　周産期救急搬送（母体搬送）の受け入れ件数は34件で地域の周産期医療にも貢献しています。なによりも安全で安心なお産を提供します。

～婦人科～

1. 治療前のインフォームド・コンセントを重視します
   十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。
2. 幅広い婦人科疾患に対応します
   充実した診療スタッフにより、良性疾患から悪性疾患まで幅広い婦人科疾患に対応可能です。
3. 低侵襲手術を行います
   女性の社会進出に伴い、入院期間・自宅療養期間の短縮が求められています。そのような社会のニーズに応えるため、悪性（癌）の疑いのない腫瘍に対しては、積極的に低侵襲手術（腹腔鏡下手術、腟式手術、小開腹手術）を行い、早期の社会復帰を目指します。
4. 悪性腫瘍に対してハイレベルな診療を行います
   京都府のがん診療拠点病院および日本婦人科腫瘍学会認定施設に指定されており、悪性腫瘍に対する診療経験が豊富にあります。常に最新の情報に基づいて、他科と連携してハイレベルな治療を行います。子宮頸癌に対する神経温存広汎性子宮全摘術に関しては2007年から先駆けて行っています。卵巣癌、子宮体癌に対しても、傍大動脈リンパ節郭清までの必要十分な手術を行う一方で、緻密な出血量の少ない手術操作により術後合併症を回避し、術後早期回復をはかります。リンパ浮腫専門外来を擁し、退院後のQOLにも配慮した診療を行います。
5. 更年期からの健康管理を推進します
   直面する超高齢化社会においては、元気な老後を迎えられるよう更年期（50歳前後）からの健康管理がますます重要となります。女性特有の健康変化に対応するため、新たに更年期・骨粗鬆症外来を開設し、更年期からの健康管理を推進します。

□ 診療実績(平成25年度)

産科婦人科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	34.2	1,558	8.0

産科婦人科外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	77.9

主な手術・検査の件数など

	分娩件数	帝王切開件数	婦人科開腹手術
2013年度	600件	215件	216件
	悪性腫瘍手術	腹腔鏡下手術	腟式手術
	85件	121件	146件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	学会名・演題・演者
国内学会	第128回近畿産科婦人科学会学術集会「当院(京都市)における助産制度利用分娩の現状」山西優紀夫, 江川晴人, 今井更衣子, 上田優輔, 伊藤美幸, 関山健太郎, 髙尾由美,山本紳一, 北岡有喜, 徳重誠, 髙倉賢二. 2013年6月16日. 大津市
国内学会	第128回近畿産科婦人科学会学術集会「意識消失発作と胎児機能不全を契機として診断された早期胃癌合併妊娠の1例」江川晴人, 上田優輔,坂田亜希子, 今井更衣子, 山西優紀夫, 伊藤美幸, 関山健太郎, 髙尾由美, 山本紳一, 北岡有喜, 徳重誠, 髙倉賢二. 2013年6月16日. 大津市
国内学会	第49回日本周産期・新生児医学会学術集会「分娩経過中に疲労との鑑別が困難な嗜眠を呈したPRESの1症例」上田優輔、江川晴人. 2013年7月16日. 横浜市
国内学会	第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会「悪性卵巣腫瘍と鑑別困難であった巨大嚢胞性GISTの1例」山西優紀夫, 下園寛子, 清水操, 秦さおり, 奥田亜紀子, 伊藤美幸, 関山健太郎, 江川晴人, 髙尾由美, 山本紳一, 北岡有喜, 徳重誠, 髙倉賢二. 2013年7月19日. 東京都
国内学会	第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会「特徴的な家族歴・職業歴を有した腟原発悪性黒色腫の一例」関山健太郎、伊藤美幸、山西優紀夫、江川晴人、髙尾由美、北岡有喜、山本紳一、徳重誠、髙倉賢二. 2013年7月19日. 東京都
国内学会	第53回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会「一側卵管二卵性双胎妊娠の一例」関山健太郎、下園寛子、秦さおり、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、江川晴人、髙尾由美、北岡有喜、山本紳一、徳重誠、髙倉賢二. 2013年9月5日. 名古屋市
国内学会	第53回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会「初診時に子宮奇形を疑った子宮頸部polypoid endometriosisの一例」関山健太郎、下園寛子、秦さおり、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、江川晴人、髙尾由美、北岡有喜、山本紳一、徳重誠、髙倉賢二. 2013年9月5日. 名古屋市
国内学会	第14回JSAWI(Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging)　2013「卵管留水腫として経過観察中に、卵巣粘液腺癌が発生した一例」秦さおり、関山健太郎、下園寛子、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、髙尾由美、江川晴人、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、高倉賢二. 2013年9月6日. 淡路市
国内学会	第14回JSAWI(Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging)　2013「婦人科疾患との鑑別に苦慮した虫垂腫瘍の1例」清水操、関山健太郎、下園寛子、秦さおり、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、江川晴人、髙尾由美、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、髙倉賢二. 2013年9月6日. 淡路市
国内学会	京都周産期カンファレンス「前置胎盤を合併した社会的ハイリスク妊娠の1症例」伊藤美幸、江川晴人、下園寛子、秦さおり、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、関山健太郎、髙尾由美、山本紳一、北岡有喜、徳重誠,、髙倉賢二. 2013年9月14日. 京都市
国際学会	20th Scientific Annual Meeting of Indonesian Obstetricians and Gynecologists, How can we prevent death from ovarian cancer? (Symposium), Kentaro Sekiyama, Medan, Indonesia, 2013.9.17.
国際学会	20th Scientific Annual Meeting of Indonesian Obstetricians and Gynecologists, Management of precursor lesion of endometrial cancer (Symposium), Kentaro Sekiyama, Medan, Indonesia, 2013.9.17.
国内学会	京都産科婦人科学会平成25年度学術集会「子宮頸癌治療後に発症した、外陰部リンパ管拡張症の一例」秦さおり、関山健太郎、下園寛子、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、髙尾由美、江川晴人、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、髙倉賢二. 2013年10月5日. 京都市
国内学会	第14回女性のヘルスケア研究会「Diffuse leiomyomatosis に対する４回の筋腫核出術後に、自然妊娠に至った全前置胎盤の1症例」清水操、関山健太郎、下園寛子、秦さおり、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、江川晴人、髙尾由美、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、髙倉賢二. 2013年10月6日. 京都市
国際学会	The 3rd Biennial Meeting of ASGO, The 55th Meeting of JSGO, Treatment and prognosis of primary peritoneal carcinoma: Study of 10 cases, Yumi Takao, Saori Hata, Misao Shimizu, Yukio Yamanishi, Akiko Okuda, Miyuki Ito, Kentaro Sekiyama, Haruto Egawa, Makoto Tokushige, Kenji Takakura, 2013/12.15., Kyoto, Japan

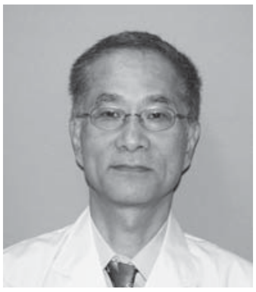
□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名・著者	
最新　内分泌代謝学　718-724	更年期障害と女性ホルモン補充療法, 診断と治療社,2013. 髙倉　賢二
最新　内分泌代謝学　725-728	性の分化異常, 診断と治療社, 2013. 髙倉　賢二
最新　内分泌代謝学　729-730	その他の女性性腺疾患,2013. 髙倉　賢二
OGS Now No.14　18-27	外陰・腟の黒色腫（メラノーマ）：診断から治療まで, 婦人科がん手術 こんなときどうする？　がんの根治とQOLの改善をめざして基本術式と腫瘍進展に応じた戦略,メジカルビュー社, 2013. 髙倉賢二,伊藤美幸,関山健太郎
カラーアトラス新版産婦人科手術シリーズⅡ	図解　広汎性腹式子宮全摘出術, 診断と治療社,2013, (藤井信吾),　関山健太郎
産婦人科の進歩　66(1),11-17,2014	Cushing症候群合併妊娠の１症例, 今井更衣子、江川晴人、関山健太郎、難波多挙、垣田真以子、髙倉賢二
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 29(1),84-87,2013	妊娠中の破裂により壁側腹膜に固定された成熟嚢胞性奇形種の一例, 上田優輔, 関山健太郎, 伊藤美幸, 江川晴人, 徳重誠, 髙倉賢二

緩和ケア科

専門分野
　緩和ケア

診療部長
（緩和ケア外科）
土屋　宣之



専門医資格等
　日本緩和医療学会暫定指導医
専門分野
　緩和ケア

診療科長
（緩和ケア内科）
久保　速三

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	石 田 大 助	婦人科学会専門医	緩和ケア	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本緩和医療学会

□ 主な対象疾患

癌一般

□ 診療（業務）内容

1. 与えられた構造の中で環境整備ー視覚（照明、花木）、聴覚（院内放送の個室内制限）などー
2. 利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
3. 上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
4. 場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。
5. 目的としてでなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
6. 在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
7. 遺族への配慮：訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
8. 緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

□ 診療実績(平成25年度)

緩和ケア内科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	9.2名	22名	58.6日

緩和ケア内科外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	0.5名

緩和ケア外科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	10.4名	75名	44.3日

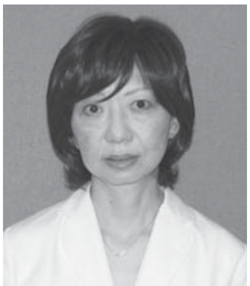
緩和ケア外科外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	3.8名

□ 地域医療連携・広報活動

PEACE緩和ケア研修会　H2 5.11.1 6 -11.1 7
第22回がん医療病診連携の会　H2 5 .1 1 . 3 0　在宅がん医療についてのアンケート調査
PEACE緩和ケア　フォローアップ研修会　H2 5 . 7 . 7
緩和ケア研修会関係　愛知県がんセンター ファシリテーター及び演者　H2 5 .1.26-27
公立南丹病院 ファシリテーター及び演者　H2 5 .2.9-10
浜松医療センター　ファシリテーター及び演者　H2 5 .2.16-17
独立行政法人国立病院機構　名古屋医療センター　ファシリテーター及び演者　H2 5 .5.26
独立行政法人国立病院機構　京都医療センター　フォローアップ研修会　企画責任者　H2 5 .7.7
静岡市立静岡病院　ファシリテーター及び演者　H24.9.21-22
独立行政法人国立病院機構　京都医療センター　企画責任者　H2 5 .11.16-17
愛知県緩和ケアフォローアップ研修会　ファシリテーター及び演者　H2 5 .12.15
第37回京滋緩和ケア研究会『鎮静のガイドラインを読みながら』 H2 5 .5.25
公立南丹病院　緩和ケア勉強会　『緩和ケアと緩和ケア病棟』 H2 5 .6.13

眼科



診療部長
喜多　美穂里

専門医資格等	京都大学臨床教授 京都大学非常勤講師 京都大学医学博士 日本眼科学会指導医・日本眼科学会専門医 ＰＤＴ認定医 Ｂｅｓｔ　Ｄｏｃｔｏｒｓ　2012-2013
専門分野	網膜硝子体疾患 内視鏡併用硝子体手術
得意疾患	網膜剥離 糖尿病網膜症

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	濵　祥代	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　師	川越　直顕	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　師	藤井友起子	日本眼科学会専門医	眼科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本眼科学会研修施設

・科長交代があった2012年より、手術・検査機器を整備し、網膜硝子体手術を本格始動いたしました。
・当院眼科は、白内障手術を多く手掛けること、網膜硝子体疾患に強いことが特長です。
・最新硝子体・白内障手術装置、広角観察システム、眼内シャンデリア照明、眼内内視鏡を用いた小切開硝子体手術で、糖尿病網膜症・網膜剥離・増殖硝子体網膜症などの高難度の網膜硝子体疾患の治療を行っています。
・2012年4月より新しく保険収載となった眼内内視鏡硝子体手術を積極的に行っています。内視鏡手術では、国内外で先駆的な役割を果たしています。
・眼科全般に、高度で最新の医療を提供します。
・新しい治療方法・手術機器の開発や、手術成績などに関して、国内外に情報を発信し、他施設との連携を密に行い、毎日の診療の場に還元できるように努力しています。
・糖尿病網膜症：当院がWHO指定の糖尿病センターであることもあり、当院糖尿病センター・内分泌代謝疾患センターと連携して、糖尿病患者さんの網膜症診療を担当しています。病気の進行を定期的にチェックし、必要に応じて、レーザーによる網膜光凝固術や、合併症である白内障や糖尿病網膜症に対し、手術治療を行います。
・未熟児網膜症：NICUを有する当院小児科と連携して、未熟児の重篤な合併症である網膜症に対し、赤ちゃんの視力を守るための検査・治療を行います。

□ 主な対象疾患

・網膜剥離・増殖硝子体網膜症・糖尿病網膜症・黄斑円孔・黄斑上膜・黄斑浮腫・加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患
・白内障全般、緑内障全般
・感染症および非感染性ぶどう膜炎・眼内炎・角膜炎、視神経疾患

□ 診療（業務）内容

1. “見える”というゴールを目標に、全身の一部としての眼科治療をめざします
   眼科的疾患のほかにも様々な全身疾患を併せ持つ患者さんにも、手術をはじめ、様々な治療を安全に効率良く提供し、より良い視力の 獲得にむけて努力しています。
2. 地域医療の一翼として、開業医や他病院の先生方と協力し、より良い医療の提供をめざします
   さまざまな医療資源を備える総合病院として、ホームドクターの先生との連携のもと、より高度な医療の提供に努力しています。内視鏡硝子体手術をはじめとする先進的医療の実践に努めます。
3. メディカルスタッフ一丸となって、安心で確かな医療を実践します
   医師、看護師、視機能訓練士、メディカルクラーク等のチームワークを大切に、各々の職種が全力で日々切磋琢磨し、安心して確かな医療を受けていただけるように努力しています。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

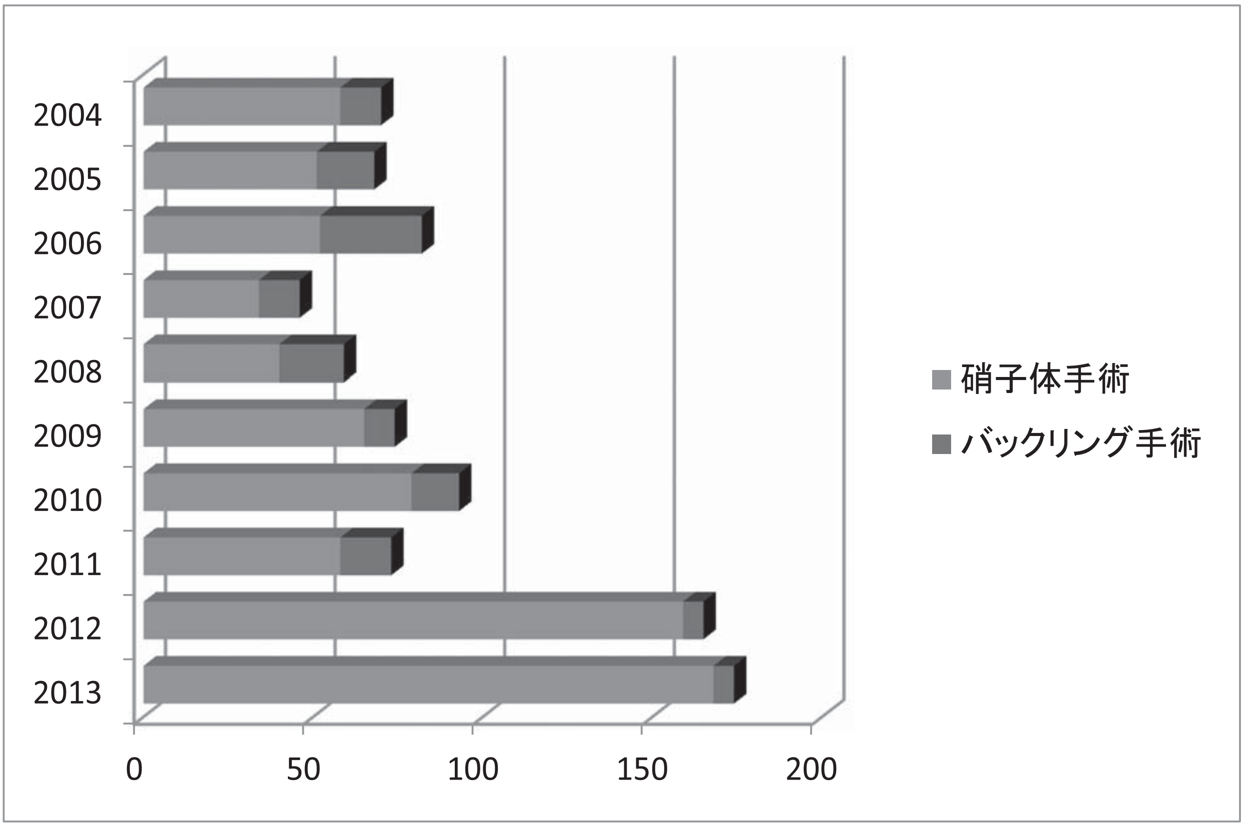
	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	16.5名	764名	7.9名

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	61.9名

主な手術・検査の件数など

	水晶体再建術	硝子体手術	網膜復位術	緑内障手術	手術件数合計
2013年度	1,066件	168件	6件	2件	1,137件



□ 地域医療連携・広報活動

・喜多美穂里：眼内内視鏡を用いた硝子体手術. メディカルフォトニクス　15: 17-21, 2013
・喜多美穂里：眼科診療最前線!「小さな内視鏡を使ってあなたの眼の中を見る!」：糖尿病センターだより23：9、2013
・喜多美穂里：眼科診療最前線!「途中でやめないで!レーザー治療」：糖尿病センターだより24：10-11、2013
・喜多美穂里：眼科診療最前線!「なかなかやっかい!糖尿病黄斑浮腫」：糖尿病センターだより25：8-9、2013
・喜多美穂里：眼科診療最前線!「蛍光眼底造影検査で血管の状態をみる!」：糖尿病センターだより26：12-13、2014
・喜多美穂里：眼科手術最前線. ：うづら便り71、2013
・喜多美穂里：ここまで進んだ!硝子体手術. ：うづら便り73、2014
・喜多美穂里：眼科でも内視鏡手術　FM845　カラダ元気、2013.9.24

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	Akio Oishi, Hiroshi Kojima, Michiko　Mandai, Shigeru Honda, Toshiyuki Matsuoka, Hideyasu Oh, Mihori Kita, Tomoko Nagai, Mamoru Uenishi, Yasuo Kurimoto,　Akira Negi, MD, PhD ：Comparison of ranibizumab (Lucentis) And Photodynamic Therapy On Polypoidal choroidal　vasculopathy (LAPTOP study)：American Academy Ophthalmology, Orlando, USA , 2012.11. 10-13
国内学会	網膜剥離ファイトクラブ―新しいアプローチの検証（インストラクションコース）：喜多美穂里、栗山晶治、日下俊次、木村英也、塚原康友、小堀朗、大澤俊介、竹内忍：第67回日本臨床眼科学会　横浜、2013.10.30-11.3
国内学会	内視鏡硝子体手術の適応（ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ網膜硝子体手術の論点）：喜多美穂里：第37回日本眼科手術学会総会、京都市、2014.1.17-19
国内学会	学術展示、網膜疾患４（座長）：喜多美穂里：第67回日本臨床眼科学会　横浜、2013.10.30-11.3
国内学会	網膜硝子体4「網膜剥離」：喜多美穂里（座長）：第37回日本眼科手術学会総会、京都市、2014.1.17-19
国内学会	若年者の網膜剥離：喜多美穂里、藤井友起子、川越直顕、濱祥代：第64回京大眼科同窓会学会　京都、2013.11.10
国内学会	超音波白内障手術の歴史と展望（特別講演　座長）：喜多美穂里：　市中病院セミナー、京都、2013.6.15
国内学会	MIVSでも内視鏡：喜多美穂里：第3回MIVSワークショップII、横浜、2013.10.31
国内学会	特発黄斑円孔はどうして網膜剥離にならないのか。強度近視網膜剥離：喜多美穂里：眼科コールドケース（オーガナイザー）、京都・大阪・福井・津、2013.10.24
国内学会	内視鏡を用いた硝子体手術（特別講演）：喜多美穂里：第13回AOS愛宕眼科手術フォーラム2013AUTUMN、東京、2013.11.11
国内学会	内視鏡を用いた硝子体手術（特別講演）:喜多美穂里:新潟手術研究会　新潟市、2014.1.25
国内学会	この症例、あなたならどうする？（パネルディスカッション）：安宅伸介、喜多美穂里、清川正敏、栗山晶治、前野貴俊、安原徹：第1回ＭＩＶＳ workshop、京都市、2014.1.18
国内学会	fish eggs.: 喜多美穂里: 第42回RETINAの会、東京、2013.4.
国内学会	網膜硝子体手術：喜多美穂里：第1回京都医療センター医療連携フォーラム、京都市、2013.5.18
国内学会	吐気、頭痛、それ眼の病気かもしれません：喜多美穂里：第1回京都医療センター医療連携フォーラム、京都市、2014.3.8
国内学会	薬物、眼科疾患：喜多美穂里：第36回コメディカル講習会、京都市、2014.2.15
国内学会	裂孔原性網膜剥離：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23
国内学会	ぶどう膜炎：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23
国内学会	加齢黄斑変性：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23
国内学会	これから：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23
国内学会	なぜものが見えるか：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23
国内学会	白内障：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23
国内学会	糖尿病網膜症：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23
国内学会	緑内障：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　神戸市、2014.2.23

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
Akiko Miki1, Shigeru Honda, Hiroshi Kojima, Masaya Nishizaki, Tomoko Nagai, Masashi Fujihara, Mamoru Uenishi, Mihori Kita, Yasuo Kurimoto and Akira Negi; Hyogo macular disease study group.The visual outcome of photodynamic therapy for typical neovascular age-related macular degeneration and polypoidal choroidal vasculopathy over 5 years of follow-up. Jpn J Ophthalmol 57:301-307, 2013
Mihori Kita, Yukiko Fujii, Naoaki Kawagoe, Sachiyo Hama. Scleral buckling with a noncontact wide-angle viewing system in the management of retinal detachment with undetected retinal break: a case report. Clin Ophthalmol 7:587-589, 2013
Akio Oishi, Hiroshi Kojima, Michiko Mandai, Shigeru Honda, Toshiyuki Matuoka, Hideyasu Oh, Mihori Kita, Tomoko Nagai, Masashi Fujihara, Nobu Bessho, Mamoru Uenishi, Yasuo Kurimoto, Akira Negi. Comparison of the effect of ranibizumab and vereporfin for polypoidal choroidal vasculopathy: 12 month LAPTOP study results. Am J Ophthalmol 156: 644-651, 2013
喜多美穂里：裂孔原性網膜剥離はどのようにして起こり、どのようにして治すのでしょうか？裂孔原性網膜剥離- How to treat. 専門医のための眼科診療クオリファイ. 瓶井資弘編集. 5-9、2013中山書店、東京

喜多美穂里：眼の痛み. 監修：沖波聡. 今日の臨床サポート. 永井良三, 福井次矢, 木村健二郎, 上村直実, 桑島巌, 今井靖, 嶋田元, 編. エルゼビア・ジャパン, 2013（ウェブサイト：http://clinicalsup.jp/jpoc/）
喜多美穂里：細菌性眼内炎. 編集：坂本泰二. 専門医のための眼科診療クオリファイ　21.　眼科救急スクランブル、中山書店、東京、2014
喜多美穂里：クリニカルクエスチョン. 真菌性眼内炎の特徴を教えてください. 編集：坂本泰二. 専門医のための眼科診療クオリファイ　21.　眼科救急スクランブル、中山書店、東京、2014
喜多美穂里：術式選択のための裂孔原性網膜剥離の分類. 眼科グラフィック　1:52-56、2013
喜多美穂里：網膜下液の貯留と吸収. 中心性漿液性脈絡網膜症の病態と治療.　臨床眼科67：121-126、2013
喜多美穂里：眼内内視鏡を用いた硝子体手術. メディカルフォトニクス　15: 17-21, 2013

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

No Image

診療科長
（耳鼻咽喉科）
辻　純

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　京都大学医学博士
　京都大学医学部臨床教授
　日本耳鼻咽喉科学会代議員
専門分野
　耳科学・耳鼻咽喉科
得意疾患
　中耳疾患、めまい疾患

診療科長
（頭頸部外科）
安里　亮

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　頭頸部がん専門医
　内分泌・甲状腺外科専門医
　気管食道科専門医
　日本がん治療認定医
専門分野
　頭頸部外科
得意疾患
　頭頸部癌・甲状腺癌

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　員	嘉田真平	日本耳鼻咽喉科学会専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌
医　員	神田　智子	日本耳鼻咽喉科学会専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科一般
医　員	本多　啓吾	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌
医　員	辻村　隆司	日本耳鼻咽喉科学会専門医・気管食道科専門医	耳鼻咽喉科一般、鼻副鼻腔疾患	鼻副鼻腔炎
専修医	片岡　通子		耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科一般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設 内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医制度専門医研修施設 日本気管食道科専門医認定施設

1. 伝音再建を中心とした中耳疾患手術
2. 頭頸部進行癌に対する拡大手術を中心とした集学的治療による治癒率向上
3. 頭頸部癌による低侵襲手術の開発によるQOL向上
4. QOLを考慮した甲状腺手術
5. 頭頸部・甲状腺外科執刀医養成のシステム
6. スタッフ全員による入院患者の診断・治療
7. 中耳・頭蓋底手術セミナーへ講師として参加

□ 主な対象疾患

・真珠腫性中耳炎・慢性中耳炎
・頭頸部癌（口腔癌：舌癌・歯肉癌・頬粘膜癌・口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、鼻・副鼻腔癌：上顎洞癌・篩骨同癌、耳下腺癌・顎下腺癌など）
・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍・副甲状腺腫瘍・バセドウ病（手術）
・頭頸部良性腫瘍・頭蓋底進展腫瘍・咽頭表在癌

□ 診療（業務）内容

耳鼻咽喉科と頭頸部外科はともに外来・病棟・手術を行っている（手術数などは両科合同）。真珠腫・中耳炎・めまい・顔面神経麻痺など耳科全域を行っている。一般的な頭頸部癌・甲状腺癌の治療はもとより進行癌の治療も積極的に行い根治治療を目指しており、再建を要する頭頸部進行癌や縦隔浸潤する甲状腺癌・頭蓋底に進展する頭頸部腫瘍は関西一円はもとより関東・中国地方などからも治療をうけにこられている。また、低侵襲手術としての口腔癌に対するPGAシート被覆法を開発し、学会などで積極的に発表し標準治療としての普及を図っている。さらに経口的な咽頭がんの切除により、QOLを保った治療も積極的に行っており、これらも関西以外からも手術を希望されて当科に紹介される場合が多い。

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2013年度	33.3名	503名	24日

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	61名

主な手術・検査の件数など

	頭頸部癌手術	甲状腺癌手術	甲状腺・副甲状腺良性手術	頭頸部良性手術
2013年度	105件	46件	66件	107件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
研 究 会	辻村隆司, 辻　純, 安里　亮, 神田智子, 本多啓吾, 渡邉佳紀, 森　祐輔	甲状腺乳頭癌に対する内視鏡下ルビエール郭清術.	第27回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会　2013/4/13（大阪）
研 究 会	辻村隆司	頭頸部癌cT4N1症例に対する頸部郭清術の検討	第22回京都耳鼻咽喉科研究会 2013/4/16（京都）
研 究 会	本多啓吾	当科における歯肉癌の検討	第22回京都耳鼻咽喉科研究会 2013/4/16（京都）
研 究 会	渡邉佳紀	当科における口腔底癌の検討	第22回京都耳鼻咽喉科研究会 2013/4/16（京都）
国内学会	辻村隆司, 安里　亮, 辻　純, 神田智子, 本多啓吾, 渡邉佳紀, 森祐輔	頭頸部癌cT4N1症例に対する頸部郭清術式の検討	第114回日本耳鼻咽喉科学会 2013/5/16-17（札幌）
国内学会	安里　亮, 本多啓吾, 辻村隆司, 森　祐輔, 渡邉佳紀, 神田智子, 辻　純	局所進行口腔癌切除術におけるMCFP法	第114回日本耳鼻咽喉科学会 2013/5/16-17（札幌）
国内学会	本多啓吾, 安里亮, 辻純, 神田智子, 渡邉佳紀, 辻村隆司, 森祐輔	終末期頭頸部癌患者の臨床像	第114回日本耳鼻咽喉科学会 2013/5/16-17（札幌）
国内学会	渡邉佳紀, 森　祐輔, 辻村隆司, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	当科における口腔底癌の検討	第114回日本耳鼻咽喉科学会 2013/5/16-17（札幌）
国内学会	森　祐輔, 辻村隆司, 渡邉佳紀, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	甲状腺腫大の著しいバセドウ病手術症例の検討	第114回日本耳鼻咽喉科学会 2013/5/16-17（札幌）
国内学会	辻村隆司, 辻　純, 安里　亮, 神田智子, 本多啓吾, 渡邉佳紀, 森　祐輔	頭頸部癌における郭清野外頸部再発の検討	第37回頭頸部癌学会 2013/5/16-17（東京）
国内学会	安里　亮, 本多啓吾, 辻村隆司, 森　祐輔, 渡邉佳紀, 神田智子, 辻　純	咽頭口腔局所進行癌切除後に対するMCFP法	第37回頭頸部癌学会 2013/5/16-17（東京）
国内学会	本多啓吾, 森　祐輔, 辻村隆司, 渡邉佳紀, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	甲状腺扁平上皮癌頸部郭清内再発の検討	第37回頭頸部癌学会 2013/5/16-17（東京）
国内学会	渡邉佳紀, 森　祐輔, 辻村隆司, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	先端可動型硬性内視鏡を用いた内視鏡下経口的咽喉頭手術：E-TOS(Endoscopic transoral surgery)の治療成績	第37回頭頸部癌学会 2013/5/16-17（東京）
国内学会	森　祐輔, 辻村隆司, 渡邉佳紀, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	粗大石灰化を伴う甲状腺乳頭癌の検討	第37回頭頸部癌学会 2013/5/16-17（東京）
国内学会	片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	Fanconi貧血患者における進行歯肉癌の治療経験	第115回京滋地方会　2013/6/22（京都）
国内学会	辻村隆司, 片岡通子, 本多啓吾, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	根治不能頭頸部癌に対するQOL改善手術	第115回京滋地方会　2013/6/22（京都）
国内学会	本多啓吾, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	当科における歯肉癌症例	第115回京滋地方会　2013/6/22（京都）

国内学会	嘉田真平, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	当科における大唾液腺癌症例	第115回京滋地方会　2013/6/22(京都)
国内学会	本多啓吾, 安里　亮	頸部からの頭蓋底臨床解剖	第25回日本頭蓋底外科学会 2013/6/25-26(名古屋)
研究会	安里　亮, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	甲状腺癌ルビエールリンパ節転移に対する内視鏡補助下郭清術	第13回京滋臨床甲状腺懇話会 2013/7/6(京都)
国内学会	片岡通子, 安里　亮	Fanconi貧血患者における進行歯肉癌の治療経験	第26回日本口腔・咽頭科学会 2013/9/12-13(名古屋)
国内学会	安里　亮, 片岡通子	口腔咽頭領域におけるMCFP法の問題点	第26回日本口腔・咽頭科学会 2013/9/12-13(名古屋)
研究会	辻村隆司	頭蓋内進展した篩骨洞癌再発例に対するセツキシマブの使用経験	第1回京都南部頭頸部がん研究会　2013/9/20(京都)
国内学会	嘉田真平, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	当院における高齢乳頭癌症例の検討	第65回気管食道科学会 2013/10/31-11/1(東京)
国内学会	辻村隆司, 安里　亮, 辻　純, 神田智子, 嘉田真平, 本多啓吾, 片岡通子	当科における永久気管孔狭窄例の検討	第65回気管食道科学会 2013/10/31-11/1(東京)
国内学会	本多啓吾, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	嚥下改善手術としての喉頭準全摘	第65回気管食道科学会 2013/10/31-11/1(東京)
国内学会	嘉田真平, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	高齢者乳頭癌症例の検討	第116回日耳鼻京滋地方会 2013/11/30(京都)
国内学会	本多啓吾, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	頭頸部扁平上皮癌再発例に対する救済手術	第116回日耳鼻京滋地方会 2013/11/30(京都)
国内学会	辻村隆司, 片岡通子, 本多啓吾, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	頬部に発生した骨髄性肉腫例	第116回日耳鼻京滋地方会 2013/11/30(京都)
国内学会	片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	上肢知覚神経障害を来たした咽頭腔外魚骨異物例	第116回日耳鼻京滋地方会 2013/11/30(京都)
研究会	本多啓吾	口腔咽頭癌N0症例の検討	第23回京都耳鼻咽喉科研究会 2013/12/14(京都)
研究会	辻村隆司	当科における永久気切口狭窄例の検討	第23回京都耳鼻咽喉科研究会 2013/12/14(京都)
研究会	片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 嘉田真平, 神田智子, 安里　亮, 辻　純	術後合併症に苦慮した進行甲状腺癌例	第28回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会　2014/1/25(大阪)
国内学会	嘉田真平, 辻純 安里亮 神田智子 本多啓吾 辻村隆司 片岡通子	大唾液腺癌手術症例の検討	第24回日本頭頸部外科学会 2014/1/30-31(香川)
国内学会	本多啓吾, 安里亮, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 神田智子, 辻純	高齢者頭頸部癌患者の術後合併症	第24回日本頭頸部外科学会 2014/1/30-31(香川)
国内学会	辻村隆司, 安里　亮, 辻　純, 神田智子, 嘉田真平, 本多啓吾, 片岡通子	根治不能頭頸部癌に対するQOL改善手術	第24回日本頭頸部外科学会 2014/1/30-31(香川)

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ
耳鼻臨床	渡邉佳紀, 安里亮, 辻純, 神田智子, 本多啓吾, 辻村隆司, 森祐輔	G-CSF産生顎下腺扁平上皮癌	vol.106　No.9　809-816 2013
頭頸部癌	本多啓吾, 安里亮, 辻純, 神田智子, 渡邉佳紀, 辻村隆司	内頸静脈切除を要する甲状腺乳頭癌	Vol.39 No.3 345-349 2013
耳鼻と臨床	安里亮, 本多啓吾, 辻村隆司, 森祐輔, 渡邉佳紀, 神田智子, 辻純	非再建例における人工材料による切除創被覆術	vol.59 補冊1 70-76 2013
頭頸部外科	本多啓吾, 安里亮, 神田智子, 辻純, 辻村隆司, 渡邉佳紀, 森裕輔	頸神経温存頸部郭清の知覚予後	vol.23 No.3 400-414 2013
Auris Nasus Larynx	Honda K, Asato R, Tsuji J, Kanda T, Watanabe Y, Mori Y, Tsujimura T.	Pyogenic spondylodiscitis after transoral surgery for oropharyngeal cancer.	vol.40　320-322 2013
頭頸部癌	本多啓吾, 安里亮, 神田智子, 渡邉佳紀, 辻村隆司	側頭下窩再発悪性腫瘍に対する経側頭骨的後外側到達法	vol.39 No.3 305-309 2013
耳鼻臨床	渡邉佳紀, 安里亮, 辻純, 神田智子, 本多啓吾, 辻村隆司, 森祐輔	内視鏡下経口的咽喉頭手術を施行した下咽頭原発MALTリンパ腫例	vol.106　No.11　1001-1007 2013
レジデントノート増刊	嘉田　真平	外科の基本ー手術前後の患者さんを診る　10.甲状腺	Vol.14 No.17

麻酔科

診療科長
七野　力

専門医資格等	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医 日本集中治療学会専門医 京都大学医学部臨床教授
専　門　分　野	麻酔管理一般、集中治療、心臓血管外科麻酔

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	平方　秀男	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般 血小板および血栓止血学	
医　　師	杉本　亮大	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般、心臓血管外科麻酔	
医　　師	嵯峨　慶子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般、集中治療	
医　　師	築山　裕子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　師	原　　祐介	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　師	原　　りさ	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
専　修　医	子安　聡子	日本周術期経食道エコー 認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般	
専　修　医	加藤　啓洋	日本周術期経食道エコー 認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般	
専　修　医	佐田　蓉子		麻酔管理一般	
専　修　医	水津　　悠		麻酔管理一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本麻酔科学会研修施設 日本集中治療学会認定施設

1. 麻酔管理
2. 集中治療管理

□ 主な対象疾患

麻酔管理：外科手術一般
集中治療：敗血症、肺炎、ＡＲＤＳ、多臓器不全、術後管理一般

□ 診療（業務）内容

手術を受けられる患者さんに対する麻酔の施行と全身管理

　当科では患者さんのご希望を最大限に尊重しながら、患者さんの全身状態、手術の内容を勘案してもっとも安全で苦痛の少ない麻酔法を選択しています。近年は全身麻酔と神経ブロックなど、各種麻酔法を組み合わせる方法が増加しています。それぞれの長所を生かしつつ、かつ短所を最小限に抑えることにより、手術が終わっても痛みが少なく、安全でしかも目覚めがよい麻酔を心がけています。

重症患者さんに対する集中治療室（ＩＣＵ）での集学的治療

　本院は院内に2か所の集中治療室を有する全国でも数少ない施設です。救命センターと手術室フロアにそれぞれ設置されており、ともに日本集中治療学会認定の専門医が従事しています。麻酔科ではこのうち、手術室フロアのＩＣＵ（院内ＩＣＵ）の管理を行っています。院内ＩＣＵでは主に手術後の患者さんと重症の入院患者さんの全身管理を行っています。

□ 診療実績(平成25年度)

主な手術・検査の件数など

全身麻酔（鎮静を含む）	全身麻酔（＋脊、硬、ブロック）	脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔
1，943件	1，021件	577件

麻酔科管理症例　計	院内ＩＣＵ入室患者数
3，541件	699件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	子安　聡子、水津　悠、田中　博之、別府　賢、志馬　伸朗、七野　力. 抜管後ネーザルハイフロー待機的使用症例の検討. 日本麻酔科学会. 2013年5月23日；札幌
国内学会	水津　悠、子安　聡子、原　祐介、嵯峨　慶子、平方　秀男、七野　力. 硬膜外持続投与患者において術中のフェンタニル投与量とフェンタニルを含む硬膜外持続投与量が術後嘔気嘔吐および術後の初回食事摂取量に与える影響. 日本麻酔科学会. 2013年5月23日；札幌
国内学会	加藤　啓洋、石井　久成、七野　力. 人工心肺非使用心拍動下バイパス手術における手術室抜管と術後6時間以内抜管の術後経過の比較. 日本心臓血管麻酔学会. 2013年9月27日；北九州
国内学会	子安　聡子、築山　裕子、石井　久成、七野　力. 左冠動脈右冠起始を伴う僧帽弁置換術に左主冠動脈を損傷し心拍動下に冠動脈バイパスを追加した1例. 日本心臓血管麻酔学会. 2013年9月27日；北九州
国際学会	Akiko Koyasu, Naoko Sugita, Hideo Hirakata. Propofol has suppressing effects on human platelet function in vitoro. 2013 Annual Meeting of the American Society of Anesthesiologists. 2013年10月12日； San Francisco
国内学会	佐田　蓉子、石井　久成、七野　力. Child-Pugh Cの肝硬変患者に対する人工心肺非使用心拍動下冠状動脈バイパス手術の麻酔経験. 日本心臓血管麻酔学会. 2013年9月27日；北九州
国内学会	佐田　蓉子、石井　久成、七野　力. ドロペリドールの持続投与により急性ジストニアを来した２症例. 日本臨床麻酔学会. 2013年11月1日；金沢
国内学会	子安　聡子、石井　久成、七野　力. 全前置胎盤を合併した妊婦の帝王切開に対し、待機的に大動脈閉塞バルーンを留置した一例. 日本臨床麻酔学会. 2013年11月1日；金沢
国内学会	加藤　啓洋、佐田　蓉子、七野　力. 肺切除術後の鎮痛効果と食事接種率－硬膜外と傍脊椎ブロックの比較－. 日本臨床麻酔学会. 2013年11月1日；金沢
国内学会	佐田　蓉子、子安　聡子、吉田　浩輔、志馬　伸朗、七野　力. 気管支ブロッカーを用いて救命し得た大量喀血の2例. 日本集中治療医学会. 2014年2月27日；京都
国内学会	佐田　蓉子、杉田　尚子、平方　秀男. デスフルランは血小板のトロンボキサン刺激応答経路を抑制する. ＴＴＭフォーラム. 2014年3月8日；東京
国内学会	子安　聡子、杉田　尚子、平方　秀男. プロポフォールはU46619による血小板凝集を抑制する. ＴＴＭフォーラム. 2014年3月8日；東京

放射線科

医療技術部長
伊藤　剛

専門医資格等	日本医学放射線学会専門医、 臨床研修指導医 京都大学医学部臨床教授
専 門 分 野	画像診断

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
放射線治療科科長	荒木　則雄	日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会専門医、がん治療認定医、臨床研修指導医	放射線腫瘍学	放射線治療
放射線診断科科長	広川　侑奨	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医	画像診断、IVR	腹部画像診断
放射線科医師	黒田　昌志	日本医学放射線学会専門医	画像診断	骨軟部画像診断
放射線科レジデント	亀山　恭子		画像診断	
放射線科レジデント	桑原　遼		画像診断	
放射線科レジデント	矢嶋　諒		画像診断	
技師長	片倉　和雄	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師, 医学物理士		
副技師長	上垣　忠明	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師, マンモグラフィ認定技師		
副技師長	伊藤　篤	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師		
主任	山中　早苗	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師, マンモグラフィ認定技師		
主任	坂本　龍彦			
主任	榎本　直之	核医学専門技師		
主任	森川　進	X線CT認定技師		
主任	麻布三枝子	マンモグラフィ認定技師		
主任	樋口　孝次	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		
技師	川端　清志	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師		
技師	菊川　絢子	マンモグラフィ認定技師		
技師	大西　孝志	マンモグラフィ認定技師, 肺がんＣＴ認定技師、放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師		
技師	西川　峰生	救急撮影認定技師		

技　　師	前原　　健吾	救急撮影認定技師, 医療情報技師, 放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師		
技　　師	山本　　崇	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	永井　　康宏	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	小田　　晴義	マンモグラフィ認定技師、救急撮影認定技師		
技　　師	竹原　　和宏			
技　　師	新家　　睦巳			
技　　師	熊給　　淳			
技　　師	淺野　　朱香	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	嵯峨根 真也			
技　　師	辰野　　絢香			
技　　師	濱田　佳代子			
技　　師	藤田　　訓充			
技　　師	若畑　　旬弥			
技　　師	山本　　翼			
技　　師	池上　　周平			
技　　師	岡本　　有布			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本医学放射線学会修練施設

□ 主な対象疾患

悪性腫瘍全般

□ 診療（業務）内容

ほぼ全領域の画像診断、頭部および心臓血管領域を除くIVR、悪性腫瘍を中心とする放射線治療

□ 診療実績(平成25年度)

外来患者数

	1日平均患者数
2013年度	36.4名

主な手術・検査の件数など

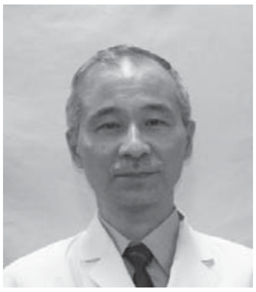
放射線治療	年間治療件数
2013年度	11,613件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	矢嶋諒、広川侑奨、亀山恭子、桑原遼、黒田昌志、荒木則雄、伊藤剛子、宮背側に腫瘤を形成した若年子宮内膜症の一例、第３０４回日本医学放射線学会関西地方会,大阪市、2013/6/15
国内学会	亀山恭子、矢嶋諒、桑原遼、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛、森吉弘毅、山本鉄郎、Mucoid impaction様の転移を呈した口蓋原発悪性黒色腫の一例、第305回日本医学放射線学会関西地方会、大阪市、2013/11/2
国内学会	矢嶋諒、広川侑奨、亀山恭子、桑原遼、黒田昌志、荒木則雄、伊藤剛、腎類上皮型血管筋脂肪腫の一例、第306回日本医学放射線学会関西地方会、大阪市、2014/2/15

国内学会	森川進、上垣忠明、小田晴義、前原健吾、西川峰生、伊藤篤、片倉和雄,逐次近似法を応用した整形領域における金属アーチファクトを除去する再構成法の頭頂部領域のＣＴ-Angiographyへの適応,日本放射線技術学会第69回総会学術大会、横浜、2013/4/12
国内学会	大西孝志、肩関節軸位撮影方法の標準化、日本放射線技術学会第69回総会学術大会、横浜、2013/4/12
国内学会	濵田佳代子、竹原和広、坂本龍彦、伊藤篤、片倉和雄、Asymmetric profile order を用いた画像コントラストの検討-Ｔ２強調画像を中心-、第67回国立病院総合医学会、金沢、2013/11/8
国内学会	小田晴義、森川進、上垣忠明、西川峰生、前原健吾、伊藤篤、片倉和雄、逐次近似法を応用した整形領域における金属アーチファクトを除去する再構成法の基礎的検討、第67回国立病院総合医学会、金沢、2013/11/8
国内学会	森川進、小田晴義、上垣忠明、前原健吾、西川峰生、伊藤篤、片倉和雄、逐次近似法を応用した整形領域における金属アーチファクトを除去する再構成法の頭頂部領域のＣＴ-Angiographyへの適応、第67回国立病院総合医学会、金沢、2013/11/8

リハビリテーション科



専門医資格等　日本神経学会専門医
専　門　分　野　神経内科

診療科長
岩辻　賢一郎

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
医　　長	中島　康代	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医	循環器内科
医　　師	井村　美紀		循環器内科
看　護　師	1名（心大血管等リハビリ専属）		
理学療法士	11名（士長1名、主任1名）		
作業療法士	5名（主任1名）		
言語聴覚士	1名（ほか脳神経センター雇用非常勤STが2名協力）		
医療クラーク	2名（一般と心臓分野）		
看 護 助 手	2名		

□ 診療科の特徴

1. 入院患者の急性期リハビリを主眼に置いています。
2. 外来は退院後の失語症治療と心臓大血管リハビリの集団療法のみです。

□ 主な対象疾患

詳しくはHPに掲載しております。
主治医からご依頼があれば新生児から全疾患に対応しております。

□ リハビリテーション統計

リハビリ実施単位数

	心大血管リハビリI	脳血管疾患等I	運動器I	呼吸器I	がん患者	廃用症候群I
2012年度	14,229単位（17.1%）	38,478単位（46.2%）	11, 401単位（13.7%）	6, 519単位（7.8%）	1, 550単位（1.9%）	11.162単位（13.4%）

	心大血管リハビリI	脳血管疾患等I	運動器I	呼吸器I	がん患者	廃用症候群I
2013年度	14,236単位(18.3%)	35,221単位(45.3%)	7,461単位(9.6%)	5,835単位(7.5%)	2,946単位(3.8%)	12,047単位(15.5%)

②リハビリテーション終了患者

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
心臓以外	1406件	1745件	2095件	2247件
心臓リハ	88件	349件	417件	471件

③リハビリテーション終了患者数

終了患者数	多い順	退院患者にしめる実施%	多い順
一般外科	549件	心臓外科	84.10%
循環器内科	399件	神経内科	73.80%
整形外科	293件	呼吸器外科	57.10%
神経内科	261件	一般外科	48.70%
脳神経外科	185件	脳外科	44.50%
救命センター	169件	循環器内科	34.20%
呼吸器外科	161件	総合内科	33.20%
呼吸器内科	146件	血液内科	28.80%

④2013年度部門別毎月リハビリー受付件数

部門	年間件数	最小～最大	平均
一般理学療法療法	2,187件	166～210件	182.25件
心臓理学療法	495件	24～54件	41.25件
作業療法	974件	68～101件	81.17件
言語療法	313件	14～33件	26.08件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
正垣　明	広範囲脳梗塞による左半側空間無視の回復過程において検査所見とADLが乖離した一症例 第47回 日本作業療法学会 大阪 2013.6.29
農端芳之	教育講演　AKA-Hの捉え方 第14回日本関節運動学的アプローチ医学会学術集会 名古屋 2013.7.21
原田　洋一	慢性閉塞性肺疾患に対する包括的呼吸リハビリテーションにおける作業療法の効果について　第67回国立病院総合医学会　金沢市 2013.11.8
木山裕美	小児リハビリテーションの有用性　第67回国立病院総合医学会　金沢市　2013.11.8
山根拓也	当院における心不全入院患者の握力と６分間歩行の関係　第１９回日本心臓リハビリテーション学会学術集会　仙台市　2013.7. 13

歯科口腔外科

診療科長
吉田　和也

専門医資格等	日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医・指導医、日本補綴歯科学会専門医・指導医、日本睡眠学会認定歯科医・評議員、日本睡眠歯科学会評議員、大阪歯科大学歯学博士、京都大学医学博士、大阪歯科大学非常勤講師、松本歯科大学臨床教授、厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医
専門分野	口腔外科一般
得意疾患	睡眠時無呼吸症候群、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズム）、顎顔面補綴

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	大野　純	日本小児口腔外科学会認定医 厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	口腔外科一般	歯科用インプラント、顎変形症
レジデント	下郷麻衣子	厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	口腔外科一般	口腔ケア
レジデント	福原紫津子	日本口腔ケア学日本口腔外科学会認定医、 日本口腔ケア学会認定医会認定医	口腔外科一般	口腔ケア

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本口腔外科学会認定機関 日本顎関節学会認定機関 日本睡眠学会認定機関 日本補綴歯科学会認定機関

1. 迅速で的確な診断を心がけます。
2. 複数の治療法を呈示し、十分に話し合った後、最適な治療を行います。
3. 治療にあたっては低侵襲を心がけます。
4. 口腔ケアや口腔衛生指導によって、治療と予防を実践します。

□ 主な対象疾患

親知らず（智歯）、埋伏歯の抜歯・口の中の腫瘍（腫れ物）、のう胞（膿の袋）・顎の骨折や歯、口腔の外傷・顎関節症、その他の顎関節疾患・顎変形症（歯並び、咬み合わせ、顎の形の異常）・口腔乾燥や唾液の異常、舌痛症・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療・手術、放射線治療、化学療法前後の口腔衛生指導、口腔ケア・歯茎、顎の骨の炎症・口内炎、舌や頬の炎症・入院患者さんあるいは全身疾患（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）のある外来患者さんの歯科治療

専門で取り扱っている疾患
- 睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）
- 顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム、ジスキネジアなど）
- 顎変形症（下顎前突症、下顎後退症、顔面非対称、上顎前突症など）
- 顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）
- 顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損

□ 診療（業務）内容

当科は日本口腔外科学会の認定機関であるばかりではなく、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本補綴歯科学会の認定機関でもあり、顎口腔領域のさまざまな疾患の総合的な診断と一貫した治療が可能です。多くの大学医学部あるいは歯学部附属病院や総合病院から多数の患者さんが紹介受診されています。一般的な口腔外科的治療や有病者（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）の歯科治療、入院患者さんの歯科治療や手術前後の口腔ケアを行います。口腔外科的治療とは主に顎変形症、顎関節疾患、口腔腫瘍、顎顔面外傷などの手術を要する疾患に対して行われる治療を指します。

専門で取り扱っている疾患と治療として睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）に対する口腔内装置治療（マウスピース）や顎矯正手術、顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）　の補綴的あるいは口腔外科的治療、インプラント治療、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズムなど）の内服治療、局所麻酔薬によるブロック療法（MAB療法）、ボツリヌス療法や口腔外科的手術療法、顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療などがあります。口と顎の領域のジストニアを専門で治療や研究を行っている科は全国的にも例がありません。当科ホームページよりアクセス可能な患者さん用のサイト（http://sites.google.com/site/oromadibulardystonia/）があり、日本全国および海外からも問い合わせ、受診が急増しております。遠方の患者さんにはSkype（スカイプ）を利用したコンピューター上での遠隔診断も行なっています。治療のため当院に入院していただくメディカルツーリズム（医療観光）により遠方からも患者さんに受診していただけるよう願っております。

□ 診療実績（平成25年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2.3名	94名	8.8日

外来患者数

1日平均患者数
39.1名

主な手術・検査の件数など

抜歯術	嚢胞摘出術	腫瘍摘出術	インプラント手術	消炎手術
821件	68件	40件	17件	22件

顎変形症手術	骨折手術
10件	10件

□ 地域医療連携・広報活動

・吉田和也. 顎口腔領域の不随意運動の診断と治療　―遠隔診断と医療観光への展開―. 日本大学大学院特別講義, 2013年3月15日；東京
・吉田和也. 口と顎のジストニアの症状と治療. 第8回ジストニア友の会講演会. 2013年3月30日；京都
・吉田和也. 顎口腔ジストニア（oromandibular dystonia）の遠隔診断とメディカルツーリズム. 医療連携フォーラム. 2013年5月18日；京都
・福原 紫津子. 上唇に生じ唾石症を併発した放線菌症の１例（診断と治療）. 朝日大学歯学部同窓会京都支部学術講演会. 2013年6月1日；京都
・福原 紫津子. 下郷 麻衣子. 周術期口腔機能管理と口腔ケアの基本手技. 京都医療センター口腔ケア研修会. 2013年7月23日；京都
・下郷 麻衣子. 智歯抜歯について. ＦＭ845　「からだ元気」　2013年8月27日；京都
・福原紫津子. スポーツ時の外傷と歯科治療. ＦＭ79.9MHｚ　きょうとこれかラジオ　2013年3月21日；京都

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	内　　　　　　　　　容
国内学会	吉田和也. 睡眠時無呼吸症候群患者の食習慣と咀嚼の特徴. 第38回日本睡眠学会定期学術大会. 2013年6月27-28日；秋田
国内学会	吉田和也. 睡眠医療への歯科からのアプローチ　ー25年間の臨床と研究を振り返ってー. 第12回日本睡眠歯科学会総会・学術集会. 2013年9月7-8日；大阪
国内学会	吉田和也. 顎口腔領域のジストニアの遠隔診断と医療観光. 日本補綴歯科学会関西支部平成24年度総会ならびに学術大会, 2013年3月2-3日；大津
国内学会	吉田和也. 顎口腔領域の不随意運動の遠隔診断と医療観光. 日本補綴歯科学会第122回学術大会. 2013年5月18-19日；福岡
国内学会	吉田和也. 睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療が高血圧とHbA1cに及ぼす影響. 日本補綴歯科学会第122回学術大会. 2013年5月18-19日；福岡
国内学会	吉田 和也, 福原 紫津子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 兵 行忠. 顎口腔ジストニア(oromandibular dystonia)の遠隔診断と医療観光. 日本口腔外科学会第44回 近畿支部学術集会. 2013年6月29日；神戸
国内学会	福原 紫津子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 吉田 和也, 兵 行忠. 小唾液腺唾石に合併した放線菌症の１例. 日本口腔外科学会第44回 近畿支部学術集会. 2013年6月29日；神戸
国内学会	吉田和也. 顎口腔ジストニア(oromandibular dystonia)の遠隔診断と医療観光. 第26回顎関節学会総会・学術大会. 2013年7月20-21日；東京
国内学会	吉田 和也, 福原 紫津子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 兵 行忠. 顎口腔ジストニア(oromandibular dystonia)の遠隔診断と医療観光. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会. 2013年10月11-13日；福岡
国内学会	吉田 和也, 福原 紫津子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 兵 行忠. 睡眠時無呼吸症候群の食習慣と咀嚼の特徴. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会. 2013年10月11-13日；福岡

□ 投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　　　　　容
2014	Clinical Neurophysiology, 125, 363-369, 2014.	Maezawa H, Matsuhashi M, Yoshida K, Mima T, Funahashi M, Nagamine T, Fukuyama H.　Evaluation of lip sensory disturbance using somatosensory evoked magnetic fields.
2013	DFA通信. 18, 8-29, 2013.	吉田和也. 口と顎のジストニアとその治療.
2013	厚生労働省科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業　「肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する　防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明」平成24年度研究報告書,115－116.	吉田和也. 睡眠時無呼吸症候群患者の食習慣と咀嚼の特徴
2013	厚生労働省科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する　防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明」平成22～24年度総合研究報告書,239－242.	吉田和也.　睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療法および病態に対する顎口腔機能が及ぼす影響に関する研究.
2013	DFA通信. 18, 8-29, 2013.	吉田和也. 口と顎のジストニアとその治療.
2013	糖尿病センターだより, 6(1), 12, 2013	吉田和也. 歯周病の予防.
2013	糖尿病センターだより, 6(2), 12, 2013	吉田和也. 歯磨きの際の注意
2013	糖尿病センターだより, 6(3), 13, 2013	吉田和也. 歯磨きの方法.
2013	糖尿病センターだより, 6(4), 11, 2013	吉田和也. 周術期口腔機能管理.

救命救急センター（救命救急科）

センター長
志馬　伸朗

専門医資格等
- 日本救急医学会専門医
- 日本集中治療医学会専門医
- 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医
- 麻酔科標榜医
- 日本感染症学会感染症専門医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医/認定医
- 日本外科感染症学会外科周術期感染管理暫定教育医/認定医
- 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医
- 日本ペインクリニック学会専門医
- PALSインストラクター
- Infection control doctor

専門分野
- 集中治療医学
- 救急医学
- 感染症学
- 麻酔科学

得意疾患
- 急性呼吸不全
- 重症感染症
- 小児救急・集中治療

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
診療科長	笹橋　望	日本外科学会認定医 日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本胸部外科学会認定医 日本胸部外科学会指導医	救急医学 心臓血管外科学	ER
医長	別府　賢	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医 麻酔科標榜医 JATECインストラクター FCCSインストラクター	集中治療 麻酔	重症感染症
医師	田中　博之	日本内科学会認定医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 JATECインストラクター ITLSインストラクター JPTECインストラクター ICLSインストラクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急、一般	呼吸器疾患、災害医療
医師	吉田　浩輔	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定医	救急、集中治療	重症感染症
医師	堤　貴彦	麻酔科標榜医	救急、麻酔	外傷
専修医	井上　京		救急、集中治療	重症感染症
救命科顧問	金子　一郎	帝京大学救急医学講座　准教授 日本救急医学会指導医 日本外科学会指導医	心肺蘇生法 外傷 救急医学	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医認定施設

1. 京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2. 重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3. 循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4. 積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□ 主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

□ 診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
重症救急患者への集中治療
院内重症患者に対する集中治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ
多施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育(京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む)
臨床医学教育（京都大学、京都府立医科大学、橘大学）
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会、他病院との連携ならびに情報交換

□ 診療実績(平成25年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.5名	1,001名	6.6日

外来患者数

1日平均患者数
8.3名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	Shime N, Kosaka T, Nakanishi M, Fujita N. Pseudomonas aeruginosa is still a major threat in Japanese hospital: results from a single-institute, nosocomial bacteremia database analysis. The 13th. Joint scientific congress of the Korean society of critical care medicine and Japanese society of intensive care medicine. 2013.4.27, Seoul
国際学会	inoue k, kataoka y, yoshida k, tanaka h, sasahashi n, beppu s, shime n, kaneko i. a case report of rhabdomyolysis and renal failure from acute purulent myositis the 13th. joint scientific congress of the korean society of critical care medicine and japanese society of intensive care medicine. 2013.4.27, seoul
国際学会	Umenai T, Shime N, Asahara T, Nomoto K. The efficacy of administration of Bifidobacterium breve on postoperative recovery in neonates undergoing congenital heart surgery: a pilot trial. The 13th. Joint scientific congress of the Korean society of critical care medicine and Japanese society of intensive care medicine. 2013.4.27, Seoul
国際学会	Shime N, Kosaka T, Nakanishi M, Fujita N. Nosocomial pediatric bacteremia: a single-institute survey. The 28th. International Congress of Chemotherapy and Infection. 2013.6.7. Yokohama
国際学会	Inoue K, Fujino M, Kato T, Tsutsumi T, Yoshida K, Tanaka H, Beppu S, Sasahashi N, Shime N. A case of systemic capillary leak syndrome with severe rhabdomyolysis. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine, 2013.10.23-25, Tokyo
国際学会	Tanaka H, Inoue K, Tsutsumi T, Beppu S, Sasahashi N, Shime N. A case of cultivator accident trauma. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine, 2013.10.23-25, Tokyo
国際学会	Tanaka H, Inoue K, Tsutsumi T, Beppu S, Sasahashi N, Shime N. A case of penetrating neck and abdominal injury. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine, 2013.10.23-25, Tokyo
国際学会	Morisaki H, Shime N, Hayashida K, Nagamatsu S, Yamashita K; the members of social insurance study committee and working group on manpower investigation. Manpower and medical economy in Japan ICU. International symposium 3, The international scientific congress of t intensive care and critical care in Kyoto 2014, 2014.3.1, Kyoto

国際学会	Tanaka H, Shime N, NSasahashi N, Beppu S, Yoshida K, Inoue K, Tsutsumi T. A retrospective comparison of the intra aortic balloon pumping catheter insertion at Kyoto Medical Center. The 14st joint congress of the Japan society of intensive care medicine and Korean Society of Critical Care Medicine, 2014.3.1, Kyoto
国際学会	Shime N, Bokui M. Should we keep vancomycin trough concentrations at >15mg/L?. The 14st joint congress of the Japan society of intensive care medicine and Korean Society of Critical Care Medicine, 2014.3.1, Kyoto
国内学会	志馬伸朗. Surviving sepsis campaign guidelines2012～日本の小児医療現場でどう使うか. 第27回日本小児救急医学会総会. ランチョンセミナー2, 2013.6.14, 宜野湾
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連事象（VAE）：定義の紹介と研究の方向性. 第回日本呼吸療法医学会. 2013.7.20, 東京
国内学会	志馬伸朗. 救急かなりヤバイ感染症①. 救急感染症塾. 第41回日本救急医学会総会. 2013.10.21, 東京
国内学会	志馬伸朗. 救急・集中治療現場で体温をどう評価し、どう使うのか. 第41回日本救急医学会総会ランチョンセミナー. 2013.10.22, 東京
国内学会	志馬伸朗. 感染症科医への敗血症ガイドラインの紹介. 第61回日本化学療法学会西日本支部総会, 第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2013.11.8大阪
国内学会	志馬伸朗. ICUでの重症感染症治療. 第26日本外科感染症学会ランチョンセミナー4. 2013.11.25, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎.　第175回ICD講習会「医療関連感染に対する標準的予防対策」. 第26日本外科感染症学会. 2013.11.27, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 敗血症診療のポイント：ガイドライン以上、PMX未満?. 日本エンドトキシン自然免疫研究会, 2013.12.6, 大津
国内学会	志馬伸朗. 集中治療医にしかできない感染症診療をしよう. シンポジウム：原点から未来へ～21世紀の集中治療はどうあるべきか. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本　抄録：日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page179(2013.01)
国内学会	志馬伸朗. ステロイドは、"捨てるど"・CONの立場から. ディベートセッション・重症肺炎にはステロイドを使用する?. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本. 日本集中治療医学会雑誌20巻Suppl. Page283(2013.01)
国内学会	清水一好, 清水直樹, 本間順, 梅垣修, 浅野真依子, 宇城敦司, 徳平夏子, 安藤寿, 立石順久, 志馬伸朗. わが国のECMO症例集積とELSOとの比較. シンポジウム：小児ECMO治療最前線. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本　（日本集中治療医学会雑誌20巻Suppl. Page187(2013.01)
国内学会	川口敦, 志馬伸朗, 永松聡一郎, 山下和人, 高橋弘, 幸部吉郎, 志水太郎, 萩原佑亮, 三木 智子. 学会内制度調査で明らかになった急性期医療における医療資源の偏在と将来予測：循環器救急医療実態アンケート調査と麻酔科医のマンパワーに関する調査を交えて：日本における小児集中治療労働力調査・集中治療医からのアプローチ. 小児集中治療委員会報告:第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本（日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page290(2013.01)
国内学会	清水義之, 竹内宗之, 井上美帆, 大崎真樹, 清水一好, 杉村洋子, 徐民恵, 多賀直行, 田畑 雄一, 戸田雄一郎, 林拓也, 松井彦郎, 水城直人, 水野圭一郎, 水野裕美子, 祖父江和哉, 志馬伸朗. 小児集中治療室(PICU)における小児心臓手術後の栄養投与方法の調査. 小児集中治療委員会報告:第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本（日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page288(2013.01)
国内学会	川口敦, 志馬伸朗, 永松聡一郎, 山下和人, 高橋弘, 幸部吉郎, 志水太郎, 萩原佑亮, 三木 智子. 集中治療労働力調査　小児集中治療における現状、意識調査. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本（日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)20巻Suppl. Page288(2013.01)
国内学会	松田直之, 織田成人, 相引眞幸, 池田寿昭, 今泉均, 遠藤重厚, 落合亮一, 小谷穣治, 志馬 伸朗, 橋本悟, 西田修, 野口隆之, 平澤博之. SEPSIS REGISTRY報告. 第40回日本集中治療医学会総会. 2013.2, 松本. 日本集中治療医学会雑誌20巻Suppl. Page288(2013.01
国内学会	志馬伸朗. 日本版敗血症診療ガイドライン「抗菌治療」部分の使い方. シンポジウム：敗血症ガイドラインを使いこなすために. 日本麻酔科学会第60回学術集会. 2013.5.25, 札幌
国内学会	志馬伸朗. 重症小児の集約拠点について関連諸学会はどのように見ているの?日本集中治療医学会小児集中治療委員会より. 第27回日本小児救急医学会総会. 小児救急・集中治療ワークショップ. パネルディスカッション2, 2013.6.14-5, 宜野湾
国内学会	志馬伸朗. 新型インフルエンザへの対応. 緊急フォーラム:H7N9に如何に備えるか?第27回日本小児救急医学会総会. 小児救急・集中治療ワークショップ. 2013.6.16, 宜野湾
国内学会	志馬伸朗. 感染症診断と抗菌治療. シンポジウム４「敗血症（セプシス）治療の標準化」, 第26日本外科感染症学会. 2013.11.26, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 侵襲性カンジダ症の危険因子と診断. ワークショップ2「外科・救急領域における深在性真菌症の診断と治療」, 第26日本外科感染症学会. 2013.11.25, 神戸
国内学会	志馬伸朗. 敗血症における抗菌治療. 第41回日本集中治療医学会学術集会イブニングセミナー4：重症敗血症に対する集中治療. 2014.2.28, 京都
国内学会	志馬伸朗. 日本での小児敗血症診療における合意意見. 委員会報告２小児集中治療委員会報告：第41回日本集中治療医学会学術集会：重症敗血症に対する集中治療. 2014.2.28, 京都
国内学会	清水義之, 志馬伸朗. 小児集中治療室(PICU)における小児心臓手術後の栄養投与法の調査（第2報）. 委員会報告２小児集中治療委員会報告：第41回日本集中治療医学会学術集会：重症敗血症に対する集中治療. 2014.2.28, 京都
国内学会	志馬伸朗. ICUにおける多職種連携～その落とし穴をあえて考える. パネルディスカッション３ICUにおける職種間連携. 第41回日本集中治療医学会学術集会. 2014.3.1, 京都
国内学会	清水義之, 志馬伸朗, 小谷穣治. 日本版ICUにおける栄養管理ガイドライン（小児の栄養管理について）. シンポジウム４日本版ICUにおける栄養管理ガイドライン作成. 第41回日本集中治療医学会学術集会. 2014.3.1, 京都
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎の予防策. シンポジウム13人工呼吸器関連肺炎の予防戦略アップデート第29回日本環境感染学会. 2014.2.14, 東京
国内学会	田村彰広, 平位秀世, 佐竹早紀子, 志馬伸朗, 佐和貞治. 転写因子C/EBP β はカンジダ感染後の造血幹細胞・骨髄系前駆細胞の増殖を制御する. 第87回日本感染症学会総会. 2013.6.5－6, 横浜
国内学会	渡邊侑奈, 藤田直久, 中西雅樹, 藤友結美子, 志馬伸朗, 小阪直史、山田幸司, 小森敏明. 当院における侵襲性GBS感染症に関する検討. 第87回日本感染症学会総会. 2013.6.5－6, 横浜
国内学会	吉田 浩輔, 井上 京, 田中 博之, 堤 貴彦, 別府 賢, 笹橋 望, 志馬 伸朗. 高齢者の重症大動脈弁狭窄症に伴った心不全にNasal High Flowが奏功した一例. 第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　抄録：日本救急医学会雑誌24(8);698
国内学会	藤野 光洋, 田中 博之, 井上 京, 吉田 浩輔, 堤 貴彦, 別府 賢, 笹橋 望, 志馬 伸朗. 鑑別診断および治療に難渋した、急性循環不全をきたしたSystemic capillary leak syndrome. 第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　日本救急医学会雑誌24(8);674
国内学会	堤 貴彦, 井上 京, 吉田 浩輔, 田中 博之, 別府 賢, 笹橋 望, 志馬 伸朗. 心肺停止蘇生における電動式骨髄針の有用性. 第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　日本救急医学会雑誌24(8); 514

国内学会	井上 信明, 荒木 尚, 浮山 越史, 神薗 淳司, 許 勝栄, 齊藤 修, 志馬 伸朗, 六車 崇, 久保 実, 小児救急医学会専門医制度検討ワーキンググループ. 新しい専門医制度に対応する救急医学の教育プログラム　小児救急の専門医が持つべき知識や技術とは：小児救急医学会医師会員の意識調査第41回日本救急医学会総会. 2013.11. 東京　日本救急医学会雑誌24(8);503
国内学会	朴井三矢、藤村尚子、福田良子、上野裕之、玉田太志、北村良雄、志馬伸朗. 当院における塩酸バンコマイシン注の至適トラフ値と腎機能障害の調査. 第62回日本化学療法学会西日本支部総会. 2013.11.8, 大阪
国内学会	佐田蓉子, 子安聡子, 吉田浩輔, 七野力, 志馬伸朗. 気管支ブロッカーを用いて救命し得た大量喀血の2例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	堤貴彦, 井上京, 吉田浩輔, 田中博之, 別府賢, 志馬伸朗. 熱中症と敗血症の鑑別におけるプロカルシトニン測定の有用性. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	井上京, 堤貴彦, 吉田浩輔, 田中博之, 別府賢, 笹橋望, 志馬伸朗. 診断に苦慮した外傷性膀胱破裂2症例の検討. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	吉田浩輔, 堤貴彦, 井上京, 田中博之, 別府賢, 笹橋望, 志馬伸朗. 救命センターでのdo not attempt resuscitationの現状調査. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.3.1, 京都
国内学会	柳澤雅美, 志馬伸朗. 人工呼吸器関連事象（VAE）サーベイランスの試み. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2014.2.27, 京都
国内学会	志馬伸朗. 感染症の抗菌治療. 第回日本集中治療医学会近畿地方会教育講演. 2013.7.6, 神戸
国内学会	志馬伸朗, 小阪直史, 中西雅樹, 藤友結美子, 山田幸司, 藤田直久. 小児院内菌血症の解析. 第４回MRSAフォーラム. 2013.7.14, 東京
国内学会	小阪直史, 中西雅樹, 藤友結美子, 山田幸司, 藤田直久. 小児患者に対するリネゾリドの血中濃度と安全性・認容性. 第４回MRSAフォーラム. 2013.7.14, 東京
国内学会	志馬伸朗. 最新の敗血症(sepsis)診療:定義からガイドラインまで. 伏見医師会ランチョンセミナー. 2013.7.12, 京都
国内学会	志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎2013アップデート：新しいサーベイランスから診断治療ストラテジーまで. 第11回人工呼吸セミナー in 岡山. 2013.7.27, 岡山
国内学会	志馬伸朗. 周術期の感染症管理：予防から治療まで. 第3回鹿児島周術期管理研究会. 2013.8.9, 鹿児島
国内学会	志馬伸朗. 重症患者の生体反応と患者管理のポイント. 日総研セミナー. 2010.8.17, 大阪.
国内学会	志馬伸朗. 肺を悪くしない人工呼吸管理のポイント. 質の高い人工呼吸管理を目指して. 2013.8.24, 佐賀
国内学会	志馬伸朗. 新生児・小児の呼吸生理に基づく呼吸療法. 3学会合同呼吸療法士認定講習会. 2013.8.29；東京
国内学会	志馬伸朗. 質の高い安全な人工呼吸管理のための方策～肺炎予防を中心に. 第6回加温加湿／酸素療法研究会. 2013.9.7, 大阪
国内学会	志馬伸朗. 敗血症における抗菌療法の実践. 第10回関西感染症診療フォーラム. 2013.9.7, 大阪
国内学会	志馬伸朗. 敗血症の抗菌療法～SSCG2012を深く読む. 第2回信州敗血症セミナー. 2013.9.20, 松本
国内学会	志馬伸朗. 発熱の評価と対処. 加古川西市民病院感染対策講座. 2013.9.24, 加古川
国内学会	志馬伸朗. 重症敗血症に対する抗菌治療. 第2回宮城sepsisセミナー. 2013.9.27, 仙台
国内学会	志馬伸朗. 志馬伸朗. ICUにおける発熱評価と体温管理. クリティカルケアセミナーin大宮, 2013.9.28, 大宮
国内学会	志馬伸朗. 敗血症治療最前線. 第39回滋賀救急医療研究会, 2013.9.28, 大津
国内学会	志馬伸朗. 論文を読もう・研究をしよう. 第回長野こども病院院内研修会. 2013.10.4, 安曇野
国内学会	志馬伸朗. 重症肺炎の人工呼吸管理を再考する. 第６回抗菌薬適正使用UPDATE, 2013.10. 5 , 京都
国内学会	志馬伸朗. 敗血症診療ガイドライン～日本の小児医療現場でどう使うか. 成育医療センター救急診療科セミナー. 2013.10.11, 東京
国内学会	志馬伸朗. 薬剤耐性菌分離症例は抗菌薬で予後を改善できるか: 2.VAP. 第13回呼吸器感染症フォーラム. 2013.10.19, 東京
国内学会	志馬伸朗. MRSA感染症のpitfalls, 香川県内科医会呼吸器疾患談話会. 2013.10.24, 高松
国内学会	志馬伸朗. 敗血症治療成績を高めるためのコツ. Okayama Sepsis Forum. 2013.10. 30, 岡山
国内学会	志馬伸朗. 最新の敗血症治療～ガイドラインを中心に. 第3回キュビシンシンポジウム. 2013.11.5, 千葉
国内学会	志馬伸朗. ガイドラインは手に入れた～その後どうするか：敗血症診療のポイント2013. 第6回京滋クリティカルケアヤングアカデミー. 2013.11.9, 京都
国内学会	志馬伸朗. シンプル院内感染管理. 新古賀病院院内感染対策研修会. 2013.11.11, 久留米
国内学会	志馬伸朗. 小児敗血症診療のための推奨. 第12回小児集中治療ワークショップ. 2013.11.17, 東京
国内学会	志馬伸朗. Nosocomial infections in the ICU. Multiprofessional critical care review course. 2013.11.23, 東京
国内学会	志馬伸朗. なぜ、体温を測るのか. 徳島赤十字病院院内講演会. 2013.11.28、小松島
国内学会	志馬伸朗. SpO2とCRP, JSEPTICセミナー/京都セプシスフォーラム. 2013.12.14, 京都
国内学会	志馬伸朗. 重症患者の生体反応と患者管理のポイント. 日総研セミナー. 2013.12.8, 東京
国内学会	志馬伸朗. パネリスト. 2013 World sepsis day関連イベント. 2013.9.13, 東京
国内学会	志馬伸朗. 重羞悪感染症診療の基本～ベッドサイドの常識と非常識. JA長野厚生連安曇総合病院感染対策研修会. 2014.1.16, 池田町
国内学会	志馬伸朗. プレホスピタルでの重症感染症対応～敗血症性ショックを対象に.第58回京都府プレホスピタル救急医療検討会特別講演. 2014.1.29, 京都
国内学会	志馬伸朗. 重症MRSA感染症の抗菌療法～リネゾリドの位置づけ～ザイボックスwebシンポジウム：Infection Gambit ver.2. 2014.1.28, 京都

国内学会	志馬伸朗. 敗血症診療ガイドラインを踏まえた治療戦略. 敗血症治療セミナーin 金沢2014.2.10, 金沢
国内学会	志馬伸朗. 敗血症:最新の治療. 第13回感染症セミナー. 2014.2.6, 天理
国内学会	志馬伸朗. ②外科・救急領域. シンポジウム「世界の中における日本版ガイドライン」. 真菌症フォーラム第15回学術集会. 2014.2.8, 東京
国内学会	志馬伸朗. 臨床的に考える：救急・集中治療領域. 第12回キャンディン研究会. 2014.3.15, 東京
国内学会	志馬伸朗. 敗血症の診療GLと抗菌療法. ラジオNIKKEY感染症TODAY 2013.10.16

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著 書・雑 誌 名
Sakaguchi M, Shime N, Iguchi N, Kobayashi A, Takada K, Morrow LE. Effects of adherence to ventilator-associated pneumonia treatment guidelines on clinical outcomes. J Infect Chemother. 2013; 19(4):599-606.
Ishii S, Shime N (contributred equally as first authors), Shibasaki M, Sawa T. Ultrasound-guided radial artery catheterization in infants and small children. Pediatr Crit Care Med 2013; 14:471–473
Shime N, Hosokawa K, MacLaren G. Does cooling really improve outcomes in patients with septic shock? Am J Respir Crit Care Med 2013;187(11):1274-5.
Shime N, Maclaren G. Supplemental parenteral nutrition in critically ill patients. Lancet 2013; 381: 1715-1716
Nakayama Y, Shibasaki M, Shime N, Nakajima Y, Mizobe T, Sawa T. The RACHS-1 risk category can be a predictor of perioperative recovery in Asian pediatric cardiac surgery patients. J Anesth 2013;27(6);850-4
MacLaren G, Dodge-Khatami A, Dalton HJ; Writing Committee, MacLaren G, Dodge-Khatami A, Dalton HJ, Adachi I, Almodovar M, Annich G, Bartlett R, Bronicki R, Brown K, Butt W, Cooper D, Demuth M, D'Udekem Y, Fraser C, Guerguerian AM, Heard M, Horton S, Ichord R, Jaquiss R, Laussen P, Lequier L, Lou S, Marino B, McMullan M, Ogino M, Peek G, Pretre R, Rodefeld M, Schmidt A, Schwartz S, Shekerdemian L, Shime N, Sivarajan B, Stiller B, Thiagarajan R. Joint statement on mechanical circulatory support in children: a consensus review from the Pediatric Cardiac Intensive Care Society and Extracorporeal Life Support Organization. Pediatr Crit Care Med. 2013;14:S1-2.
Hashimoto S, Shime N. Evaluation of semi-quantitative scoring of Gram staining or semi-quantitative culture for the diagnosis of ventilator-associated pneumonia: a retrospective comparison with quantitative culture. J Intensive Care 2013, 1:2
Nakagawa S, Shime N. Respiratory rate criteria for pediatric systematic inflammatory response syndrome. Pediatr Crit Care Med. 2014;15(2):182.
志馬伸朗（編著）. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 2013
志馬伸朗（編著）. 特集：感染症診療のポイント. 救急医学38(2), 2014
志馬伸朗. ICU　患者の抗菌療法において初期経験的治療の適切性は予後に影響するか？讃井將満編著. 臨床に直結する集中治療のエビデンス. 文光堂. 東京, 2013
志馬伸朗. 小児呼吸管理中の鎮痛・鎮静. 植田育也編著. 徹底ガイド/小児の呼吸管理Q&A第2弾. 総合医学社. 東京, 2013
志馬伸朗. 小児における超音波ガイド下血管穿刺の実際. 坂本篤弘, 佐藤重仁編著. 麻酔科医に必要な超音波ガイド手技のポイントと教育（臨床麻酔実践シリーズ). ライフメディコム. 東京, 2013
志馬伸朗. 疫学. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 96-7, 2013
橋本壮志, 志馬伸朗. ARDS以外の患者にも肺庇護換気をすべきか?. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 114-119, 2013
志馬伸朗, 細川康二. 腹臥位によるARDS生命予後改善～13年ぶりの快挙は, 研究計画の勝利か?. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 146-7, 2013
田中博之, 志馬伸朗. β刺激薬, テオフィリン製剤. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 146-7, 2013
志馬伸朗. PEEPの設定. ARDSの治療戦略. 東京：羊土社, 146-7, 2013
志馬伸朗. 原因となる主な感染症と抗菌薬治療. 医療スタッフのための易しく解説!日本版敗血症ガイドライン. 東京：秀潤社, 56-70, 2013
志馬伸朗. 鎮痛・鎮静. 小児救急医療の理論と実践. 公益社団法人日本小児科学会・日本小児救急医学会. 東京：編集室なるにあ, 138-145, 2013
志馬伸朗(分担執筆). 日本版敗血症診療ガイドライン. 一般社団法人日本集中治療医学会 sepsis registry委員会. 東京：克誠堂出版, 2013
志馬伸朗. 抗菌療法. 集中治療専門医テキスト. 一般社団法人日本集中治療医学会. 東京：総合医学社, 2013
志馬伸朗. 8.呼吸管理2)その後のエビデンスと日本での活用. 敗血症(セプシス)救命治療の最前線, 大阪：医薬ジャーナル社, 2014
志馬伸朗(分担執筆). 深在性真菌症の診断・治療ガイドライン2014. 深在性真菌症のガイドライン作成委員会. 東京：協和企画, 2014
志馬伸朗. 47. 集中治療(5) 小児集中治療. 天羽啓祐監修. 麻酔科学レビュー2013. 東京：総合医学社, 286-290, 2014
志馬伸朗. De-escalationは真に遂行可能か. 敗血症治療:一刻を争う現場での疑問に答える. 東京：羊土社, 114-119, 2014
橋本壮志, 志馬伸朗, 橋本　悟. 急性呼吸促迫症候群に対する人工呼吸管理法の単施設・10年間の変遷. 日集中医誌 2013;20:287-8.
笠井正志, 尾内一信, 志馬伸朗, 平井克樹, 荒畑幸絵, 櫻井淑男, 吉本 昭, 国貞佳世. 小児呼吸器感染症ガイドライン2007上の最重症肺炎に対するわが国小児集中治療領域における注射用抗菌薬使用状況. 小児感染免疫 2013;24:443-449
笠井正志, 志馬伸朗, 齋藤昭彦, 船木孝則, 庄司健介, 宮入 烈. 本邦複数の小児医療施設における血液培養採取量と検出率に関する観察研究. 感染症学雑誌 87(5);620-3. 2013
志馬伸朗, 篠原貴子, 重見研司. 敗血症の認知度調査. 日集中医誌 2013;20:667-70.
林田賢史, 村上玄樹, 森崎 浩, 遠藤重厚, 大塚将秀, 志馬伸朗, 土井松幸, 西田 博, 福家 伸夫, 山本 剛, 羽鳥文麿, 松田晋哉, 日本集中治療医学会社会保険対策委員会診断群分類に基づく診療報酬支払制度データから検討したICU収支の現状(第2報)　生命維持装置使用の有無と在室日数による解析.　日集中医誌 20(3);431-4, 2013
笠井正志, 志馬伸朗, 齋藤昭彦, 船木孝則, 庄司健介, 宮入 烈. 本邦複数の小児医療施設における血液培養採取量と検出率に関する観察研究.感染症学雑誌 87(5);620-623, 2013
志馬伸朗, 羽鳥文麿, 氏家良人ら:日本集中治療医学会小児集中治療委員会. 日本での小児重症敗血症診療に関する合意意見. 日集中医誌 2014;21:67-88.

松田直之, 織田成人, 相引眞幸, 池田寿昭, 今泉　均, 遠藤重厚, 落合亮一, 小谷穣治, 志馬伸朗, 西田　修, 野口隆之, 平澤博之. 日本集中治療医学会Sepsis Registry委員会日本集中治療医学会第1回Sepsis Registry調査 2007年の重症敗血症および敗血症性ショックの診療結果報告. 日集中医誌 2013;20:329-34.
志馬伸朗. 超音波ガイド下血管穿刺②小児における超音波ガイド下血管穿刺の実際. |日臨麻会誌2013;33:461～469
志馬伸朗. ライン関連感染を回避するために麻酔科医ができること～小さな心配りの積み重ねがプロの証. LiSA 2013;20:438-443
八島正文, 山岸正明, 中山力恒, 影山京子, 志馬伸朗, 溝部俊樹, 黒光弘幸. 心臓手術の実際　外科医が語る術式、麻酔科医が語る心臓麻酔、臨床工学技士が語る体外循環法(第35回), Aortic translocation手術と体外循環法, 京都府立医科大学附属病院(解説). Clinical Engineering 2013;24:372-384
志馬伸朗. 小児集中治療患者への栄養管理. 臨床栄養　122;550-554, 2013
志馬伸朗. 日本版敗血症診療ガイドラインの解説　抗菌薬治療のポイントを中心に. Pharma Medica 31;109-115, 2013
志馬伸朗. 呼吸器感染症/肺炎/人工呼吸器関連肺炎(VAP). 日本臨床(別冊感染症症候群(第2版)[下]-症候群から感染性単一疾患までを含めて-).　187-191, 2013
志馬伸朗. Antimicrobial therapy. 救急医学37(11);1450-56, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎(VAP)の診断と治療. Medicina 50(12);1986-1990, 2013
志馬伸朗. 体温と予後予測. 救急医学37(9);1013-16, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎対策. 日本外科感染症学会雑誌10(2);225-31, 2013
志馬伸朗. 小児集中治療看護の要点. 呼吸器ケア(合同臨時増刊);78-87, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸患者の栄養経路はどうやって決めるの?. 呼吸器ケア 11(9);917-925, 2013
志馬伸朗. 超音波ガイド下血管穿刺：小児における超音波ガイド下血管穿刺の実際. 日本臨床麻酔学会雑誌33(3); 461-9, 2013
志馬伸朗. ステロイドは、"捨てるど?". 救急・集中治療25（9-10）;1173-1183, 2013
徳平夏子, 志馬伸朗. 重症インフルエンザ感染：インフルエンザ関連肺炎の診断治療を中心に. 小児内科45(11);1994-1998, 2013
笠井正志, 志馬伸朗. 小児重症感染症へのアプローチ. ICUとCCU37(12), 921-7, 2013
志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎(VAP). 日本臨床 別冊感染症症候群（下）;187-191, 2013
志馬伸朗. 暴れ馬で流鏑馬は可能か～小児集中治療患者での薬物動態解析によるバンコマイシン治療. 日集中医誌20(4);561-3, 2013
田畑裕一, 志馬伸朗. 人工呼吸管理における加温・加湿の考え方. こどもケア8(5);16-20, 2013
志馬伸朗. 外科・救急領域における深在性真菌症の診断と治療：侵襲性カンジダ症の危険因子と診断. 感染症道場2014；3(1):63-65
志馬伸朗. わからないものを受け入れ, 解決すること ～カテーテル挿入時消毒薬の選択. 日集中医誌 2014;21:65-66.
長谷川隆一, 志馬伸朗. 人工呼吸器関連肺炎（ventilator-associated pneumonia, VAP）はゼロにできるか？日集中医誌 2014;21:9-16.
志馬伸朗. プレホスピタルにおける敗血症. 救急医学2014;38(2):236-8
志馬伸朗. いま, 解熱処置を再考する. エキスパートナース 2014;30(3):28-32
志馬伸朗. 麻酔科医が行う周術期感染予防. 麻酔2014;63(3):269-277
志馬伸朗. エディトリアル～感染症・救急医が対峙すべきペリル. 救急医学38(2):125, 2014
志馬伸朗. 巻頭言（デバイス関連感染症）. 日本外科感染症学会雑誌 10 (2):225―231, 2013
野口綾子, 志馬伸朗, 畑中祐也, 木村 彰夫, 橋本　悟. 京都府立医科大学附属病院のVAP予防策の変遷と現状. ヴィジュアル感染対策のポイント. 丸石感染対策NEWS. 2013.
植田育也、笠井正志、川崎達也、竹内宗之、志馬伸朗、阿部世紀、杉村洋子、中川聡. 小児インフルエンザ重症呼吸不全に対する診療戦略（2013 年6 月12 日版）. 日本小児科学会ホームページhttp://www.jpeds.or.jp/uploads/files/influenza_130730_2.pdf
竹末芳生、三鴨廣繁、佐々木淳一, 志馬伸朗. 座談会：外科・救急・集中治療領域における真菌感染症の治療戦略. MSD株式会社

健診部

健診部長
前川　高天

専門医資格等	日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会　H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医
専 門 分 野	消化器内科一般
得 意 疾 患	消化管疾患

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	小坂田元太	日本循環器学会認定循環器専門医・近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医・指導医 日本超音波医学会 超音波専門医・超音波指導医	循環器内科学、超音波医学	循環器内科学、超音波医学
医　　師	金崎　幹彦		循環器内科	循環器内科学

□ 診療科の特徴

1. より迅速に、より的確な健診を心がけています。

   健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査を迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています（コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査、診察になります）。また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的で的確な診断が可能になっています。

2. “点”から“線”の健診へ

   従来の結果を眺めるだけの“点”の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ“線”の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より確実な早期発見を目指して

   各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。また近年、癌に対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当センターでは、子宮がん検診に、子宮頚がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を、前立腺癌にPSA測定を導入し、各疾患の早期発見を目指しています。

4. より“やさしい”検査へ

   胃がんの早期発見には内視鏡検査（胃カメラ検査）の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで“つらい”検査の一つでした。当センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって" つらい“検査から“楽な”検査への転換を図っています。

□ 診療（業務）内容

基本コース（一般コース・脳ドック・レディースコース）に加えて、各種オプション（肺：胸部CT検査、婦人科：診察・US、乳がん：MMG など）を受診者の希望に応じて実施しています。

□ 診療実績(平成25年度)

基本健診

	総受診者数	一般健診	生活習慣病	脳ドック	レディース	乳癌
2011年度	992	891	8	26	26	36
2012年度	844	764	11	27	30	12
2013年度	866	810	6	34	16	

オプション

	脳	肺がん	動脈硬化	乳がん	子宮癌	骨粗鬆症	前立腺	血液流動性検査
2011年度	137	48	94	169	157	102	199	21
2012年度	118	48	94	183	140	101	161	36
2013年度	122	54	85	199	138	93	177	43

	胃透視件数
2011年度	216件
2012年度	254件
2013年度	353件

	内視鏡件数	胃がん発見数	内早期胃癌数	表在食道癌発見数	表在中咽頭癌発見数
2011年度	891件	4件	3件	0件	0件
2012年度	764件	3件	4件	0件	0件
2013年度	457件	5件（内視鏡による）	4件	1件	1件

□ 厚生労働科学研究費補助金 研究課題名（課題番号）：全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究（H23-医薬-指定-023）

サリドマイド胎芽病者は壮年期を迎えており、様々な疾患を続発しつつある。現在は個別に医療機関を受診しているが、上肢欠損ないし低形成者は採血が困難、血圧の測定方法が決まっていないなどの問題点がある。平成23年度から国立国際医療研究センターを中心に始まった今回の研究では、診療上の注意点など含めた医療関係者用の「診療ハンドブック、Q＆A」を作成し、胎芽病者が医療機関にそれを提示できるようにすることが目的とされている。京都医療センターでの上部消化管内視鏡検査は経鼻内視鏡検査も可能となっている。当センターで健診をご希望された18名を分析した。2/3が経鼻を、1/3が経口をご希望された。経鼻内視鏡は嘔吐反射が少なく鎮静剤が不必要であり、サリドマイド胎芽病者の健診に向いていると考えられた。サリドマイド胎芽病者に経鼻内視鏡検査を施行するに当たっての必要な知識と注意点が明らかになりそれらをQ&A形式にまとめた。スペースの関係でQのみを記載すると、Q1：口と経鼻の選択は通常通りで良いのでしょうか？Q2：経鼻内視鏡禁忌の方はおられましたでしょうか？Q3：経鼻内視鏡検査の手順は他の患者さんと同じで良いですか？Q4：経鼻内視鏡検査に要する時間は変わりませんでしたか？Q5：経口内視鏡検査と比較して経鼻を施行するに当たり注意すべき点はありますか？Q6：どのメーカーの経鼻内視鏡を用いられましたか？Q7：経鼻内視鏡時に鎮静剤は必要ですか？Q8：経鼻内視鏡の前処置は通常通りの前処置で良いですか？Q9：鼻腔の左右はどの様にして選択しましたか？Q10：経鼻内視鏡時の体位について問題なかったでしょうか？Q11：解剖学的な異常或いは特徴的な異常所見はありませんでしたか？Q12：鼻出血は見られましたか？Q13：介助で留意すべきことはありましたか？(上記Q＆Aは英語・ドイツ語に翻訳され公開されている)

□ 地域医療連携・広報活動

ＦＭ８４５　からだ元気　新しい胃がん検診”　2011年12月14日

前川高天：基調講演　京都医療センターにおけるピロリ菌除菌療法の現状　第4回深草消化器医療連携の会　2011/8/27　京都

□ 講議・講演

演　者　・　演　題　・　学　会　名
前川高天　パネルディスカッション　胃粘膜萎縮を考慮してこれからのH.Pylori感染症診療の課題　Scientific Exchange Meeting 2013 in Kyoto
前川高天　パネルディスカッション　「確実な除菌、正確な除菌判定を求めて」H.Pylori Symposium in Kyoto 2014/1/23

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　者　・　演　題　・　学　会　名
北岡修二、前川高天：人間ドックにおける経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第77回日本消化器内視鏡学会総会、2009年5月23日　名古屋
北岡修二、前川高天：胃がん検診における経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第78回日本消化器内視鏡学会総会、2009年10月17日　京都
北岡修二、経鼻内視鏡検査の現在～Pros and Cons ～第14回経鼻内視鏡研究会in関西、2010年4月10日　大阪
北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査の受容性に影響する受検者因子の臨床的検討、第80回日本消化器内視鏡学会総会、2010年10月16日　横浜
北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第1回経鼻内視鏡研究会　2011年8月19日　名古屋
北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第82回日本消化器内視鏡学会総会　2011年10月21日　福岡
北岡修二、前川高天：胃がんリスク検診における経鼻内視鏡検査の有用性、第51回日本消化器がん検診学会総会　2012年6月1日　熊本
北岡修二、前川高天：極細径内視鏡検査における適切な画像設定の重要性、第2回胃細径内視鏡研究会　2012年6月2日　熊本

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者　・　タ　イ　ト　ル
消化器の臨床　15:147－150　(2012)	原田直彦、姉ヶ尾佳奈、前川高天、他：クロピドグレル服用患者における上部消化管出血の現状
消化器がん検診学会誌　51:213－221 (2013)	勝島慎二、北岡修二、水本吉則、岩本諭、江坂直樹、遠藤文司、太田義之、出口美智代、島伸子、前川高天：新しい胃癌リスク評価の考え方
京都医報　214-16（2013）	前川高天：Up To Date ミニ講座　Ｑ＆Ａ　ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎診療のポイント

臨床研究センター

臨床研究センター長
臨床研究企画運営部長(併任)
糖尿病研究部長(併任)
治験管理室長(併任)
研究室長(糖尿病合併症:併任)
島津　章

専門医資格等　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
日本糖尿病学会　糖尿病専門医
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
専 門 分 野　内科・内分泌代謝・神経内分泌、検査医学

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
副センター長・内分泌代謝高血圧研究部長・研究室長(高血圧:併任)	成瀬　光栄	日本内科学会　指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本腎臓学会　腎臓専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医	内科・内分泌代謝(副腎疾患)・高血圧
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医(FAHA) アメリカ心臓病学会専門医(FACC) 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究
研究室長(予防医学)	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員	糖尿病、糖尿病教育
研究室長(臨床内分泌代謝)	臼井　健	日本内科学会認定医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝子カウンセリング学会　臨床遺伝専門医・指導医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝・臨床遺伝学
研究室長(先端医療技術開発)	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学、臨床研究(バイオマーカー、メタボリックシンドローム、喫煙)、実験医学(心筋梗塞、高血圧性心疾患、血管新生)
研究室長(臨床代謝栄養)	浅原　哲子	日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　評議員 日本病態栄養学会　評議員	糖尿病 、肥満(メタボリックシンドローム)疾患

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
研究室長(分子内分泌代謝:併任)	田上　哲也	日本内科学会　総合内科専門医・認定医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・教育責任者 日本甲状腺学会　専門医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝（甲状腺疾患）
研究室長(内分泌系腫瘍：併任)	奥野　　博	日本泌尿器科学会　指導医・専門医 日本生殖医学会　評議員 日本アンドロロジー学会　評議員 京都大学　医学博士 京都大学医学部　臨床教授 関西医科大学　臨床教授 米国泌尿器科学会 日本癌治療認定医 日本臨床腎移植学会　腎移植認定医 日本内視鏡外科学会　技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会　腹腔鏡技術認定医	前立腺がん、体腔鏡手術、女性・男性泌尿器科学
研究室長(臨床疫学情報：併任)	小山　　弘	日本内科学会総合内科専門医	内科一般、内科診断学、医学教育、臨床疫学
研究室長(糖尿病：併任)	河野　茂夫	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会　評議員	糖尿病、足病変
研究室長(がん医療：併任)	猪飼伊知夫	日本外科学会 外科専門医、指導医 日本消化器外科学会 外科専門医、指導医 日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	肝胆膵外科（肝臓がん、胆道がん、膵臓がん
研究室長(血管障害：併任)	塚原　徹也	日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員	脳卒中外科、脳血管障害、脳腫瘍、脳神経外科一般
研究室長(生命情報科学：併任)	七野　　力	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定　麻酔科専門医・指導医 日本集中治療医学会認定　集中治療専門医	麻酔科学全般 心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療における呼吸・循環管理
研究室長(情報化推進：併任)	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医 国立病院等総合情報ネットワーク研究会副会長 ＩＴコンソーシアム京都 医療情報化部会長	生殖分子生理学 医療情報学・情報システム学 集中治療における呼吸・循環管理
流　動　研　究　員	松島　大介		
流　動　研　究　員	津崎こころ		
流　動　研　究　員	沢井　邦子		
流　動　研　究　員	佐々木洋介		
流　動　研　究　員	曽和　尚也		

□ 診療（業務）内容

京都医療センターは平成11年3月「内分泌・代謝性疾患」の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）として位置づけられ、その研究体制強化の一環として平成15年10月1日付で臨床研究センターが設置されました。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度から「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになりました。

今までの研究基盤の上に立ち、内分泌・代謝性疾患に加え、がん医療、成育医療、循環器疾患、腎疾患、感覚器疾患など幅広い医療分野において、他の研究施設や大学には備わっていない当院独自の特性を生かした臨床研究を行う学術機関として位置づけられています。現在、臨床研究センターは、臨床研究企画運営部、内分泌代謝高血圧研究部、糖尿病研究部、展開医療研究部の4部門15研究室から構成され、院内の臨床部門と密接に連携協力し、研究体制の支援、あわせて院外研究員や諸機関と広く協力して、研究施設の効率的運用を図り、医療の向上に資する臨床研究を強力に推進しています。

□ 地域医療連携・広報活動

1）下垂体患者の会　医療講演（関西）2013年4月21日　講演「下垂体機能低下症にどう対応するか　-基礎および応用編-」看護助産学校視聴覚室
2）滋賀県難病相談・支援センター 医療講演会 2013年12月1日　講演「下垂体疾患の理解と療養の豆知識」（大津市）
3）臨床研究実践セミナー　第1回　2013年11月27日 臨床研究（島津）、第2回 2013年12月2日 調査票（坂根）、第3回 2013年12月17日 統計手法（坂根）多目的ホール・大会議室
4）第4回臨床研究セミナー　2013年12月11日　統計解析特論：山陰 一研究員，特別講演：磯 博康教授（大阪大学社会環境医学講座）多目的ホール
5）伏見内分泌代謝ネットワーク連携の会　第19回　テーマ：内分泌と糖尿病　2013年4月20日，第20回：日常診療とガイドライン 2013年10月31日　伏見医師会館
6）厚生労働科学研究事業　笑って健康教室　特別講演　「笑いと生活習慣病」　京都医療センター　多目的ホール　2013年9月6日（金）18：00-20：00、
7）第一回特別健康教室　メタボと筋力低下　講演1　健康寿命とけんこうかれい　講演2　サルコペニア肥満の予防ー本当は怖い隠れ肥満ー　京都医療センター　多目的ホール　2013年12月21日（土）　8：30-12：00

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　者	タイトル	学会名
Takeshi Usui	The role of equol-producing bacteriotype on obesity related health disorders	2013 Annual Joint Symposium of Ksso and JASSO (第39回)，韓国 2013/10/5
Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Noriko Satoh-Asahara, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Tatsuya Morimoto, Koh Ono, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 as a Predictor of the New Onset of Diabetes Following Smoking Cessation	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Kensuke Takabayashi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Takashi Unoki, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatami, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Placental Growth Factor as a Predictor of Cardiovascular Events Following Coronary Drug-eluting Stent Implantation	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Kensuke Takabayashi, Takashi Unoki, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao	Differences in Clinical Characteristics and Outcomes between Patients with Paroxysmal and Sustained Type of Atrial Fibrillation: From the Fushimi Af Registry	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Syuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Asahara, Sayaka Shimada, Akira Shimatsu, Hiroshi Koyama, Koichi Kono, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Influence of post-smoking cessation weight gain on serum α 1-antitrypsin-low density lipoprotein levels	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20

Moritake Iguchi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 as a Predictor of Cardiovascular Events in Patients With Chronic Heart Failure	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Moritake Iguchi,Mitsuru Abe,Kensuke Takabayashi,Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa,Noriko Satoh-Asahara,Akira Shimatu, Koji Hasegawa	Inverse Association between Serum Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels and the Severity of Arteriosclerotic Obliterans in Men	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Takashi Unoki, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Inverse Association of Vascular Endothelial Growth Factor-C With the Risk of Restenosis and Cardiovascular Events After Drug-Eluting Stent Implantation	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Yoichi Sunagawa, Midori Tomino,Shogo Kawaguchi, Yasufumi Katanasaka, Hidetoshi Suzuki, Akira Murakami, Hiromichi Wada, Atsushi Imaizumi, Tadashi Hashimoto, Akira Shimatsu,Takeshi Kimura, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Auraptene, a Citrus Flavonoid, Prevents the Worsening of Systolic Function Following Myocardial Infarction in Rats	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Yoichi Sunagawa,Yasufumi Katanasaka, Hidetoshi Suzuki, Naruto Hajika,Hiromichi Wada,Akira Shimatsu,Masatoshi Fujita,Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Novel GATA4 Binding Proteins, RbAp48/46 Regulate Post-Translational Modification During Hypertrophic Responses in Cardiomyocytes	American Heart Association Scientific Sessions , Dallas, Texas, USA 2013/11/16-20
Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Shoji M, Sakane N	COMPASS Project: Community Pharma-cists for Diabetes patients intervention Study in Japan	World Diabetes Congress(International Diabetes Federation), Melbourne, Australia 2013/12/2-6
Shigeo Kono	Diabetes foot problems in WPR and the IDF/WPR foot care project	World Diabetes Congress(International Diabetes Federation), Melbourne, Australia 2013/12/2-6
Nakao K,Tsuiki M,Nanba K, Tsumagari A,Tagami T,Usui T,Shimatsu A, Hashimoto S, Katabami T, Naruse M	Predicting factors of the develop-ment of chronic kidney dsease after adrenalecomy in primary aldoster-onism	ISARSH2013 (International Symposium of Aldosterone and Related Substances in Hypertension) , Japan-Sendai 2013/4/27-28
Nanba K, Sawai K, Tsuiki M, Usui T, Tagami T,Shigematsu K, Nishimoto K, Mukai K, Shimatsu A, Naruse M	Clinical significance of KCNJ5 mutations in primary aldosteronism	ISARSH2013 (International Symposium of Aldosterone and Related Substances in Hypertension) , Japan-Sendai 2013/4/27-28
Tsuiki M,Nanba K,Tsumagari A, Nakao K,Usui T,Tagami T, Shimatsu A, Tanabe A, Naruse M	Re-evaluation of the saline infusion test for primary aldosteronism : duration, the subtype classification and cut-off limits for aldosterone	ISARSH2013 (International Symposium of Aldosterone and Related Substances in Hypertension) , Japan-Sendai 2013/4/27-28
Tsumagari A, Nanba K, Tsuiki M, Nakao K,Usui T,Tagami T, Shimatsu A, Tanabe A, Naruse M	Different significance of rapid ACTH stimulation test and captopril challenge test as confirmatory tests in PA	ISARSH2013 (International Symposium of Aldosterone and Related Substances in Hypertension) , Japan-Sendai 2013/4/27-28
Nagai N, Komai N, Taniguchi A, Takagi A, Yamaguchi M, Sakane N, Moritani T.	The effects of mastication on postpran-dial thermogenesis and satiety sensation in lean young women.	5th International Congress on Prediabetes and the Metabolic Syndrome, Vienna, Austria 2013/4/18-20
M.Naruse , Y. Miyazaki , T. Tanaka ,M.Shimizu,S.Otani,S.Hata ,A.Ogou ,K.Yonezawa ,K.Yosida ,M. Sawamura ,R.Araki , M.Tanabe , M.Tsuiki,A.Tsumagari,T.Suzuki ,T. Shinbo ,PHASJ2	Effect of different means of case detection and institution and bias on the prevalence of primary aldoster-onism: prospective multi-center study of national hospital organization in japan.	International 39th Aldosterone Conference 2013, San Francisco, USA 2013/6/13-14
Naruse M, Nishikawa T,Yanase T,Hirata Y,Takayanagi R,Ichijo T,Itagaki E,Oki Y,Katabami T,Kamide K,Satou F,Shibata H,Soma M,Sone M,Takahashi K,Takeda Y,Tanabe A,Hashimoto S,Miyazaki Y,Yoshimoto T, Yoneda T,Omura M,Wada N	Diverse Diagnostic Process and Criteria of Primary Aldosteronism:Summary of the Experts' Opinion in 2012	International 39th Aldosterone Conference 2013, San Francisco, USA 2013/6/13-14

Koji Hasegawa	Health Insurance System for Smoking Cessation in Japan	Korea-Japan joint symposium 2013 in Korea, Soul, Korea 2013/6/14
Noriko Satoh-Asahara, Shinji Odori, Shigeo Kono, Akira Shimatsu	Effect of Sitagliptin and Vildagliptin, Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors, on M1/M2-like phenotypes of peripheral blood monocytes and arterial stiffness in Japanese type 2 diabetic patients.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Toshikatsu Mitsui,Akiko Yuno, Takeshi Usui,Akie Nakamura, Toshihiro Tajima,Keisuke Nagasaki, Satoshi Narumi,Tomohiro Ishii, Tomonobu Hasegawa	Do broad GNAS methylation defects modify the Albrigh's hereditary osteodystrophy phenotypes in pseudohypoparathyroidism type 1?	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Kakita M, Ueda Y, Nakao K, Usui T, Nakatani R, Tsukamoto S, Nanba K, Tsuiki M, Tagami T, Naruse M, Watanabe Y, Mori Y, Asato R, Yamamoto T, Shimatsu A.	Calcium stimulation test for the rare mutation carriers of RET.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Nanba K, Sawai K, Tsuiki M, Tsumagari A, Nakao K, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Shigematsu K, Nishimoto K, Mukai K, Shimatsu A, Naruse M.	Clinical and histopathological manifestation of KCNJ5 mutations in primary aldosteronism.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Naruse M, Miyazaki Y, Tanaka T,Shimizu M, Otani S, Hata S, Ogou A,Yonezawa K, Yosida K, Sawamura M, Araki R, Tanabe M, Tsuiki M, Tsumagari A, Nanba K, Suzuki T, Shinbo T and Study PHAS-J2.	Prevalence of primary aldosteronism depends on the means of case detection: prospective multi-center study of National Hospital Organization in Japan(PHAS-J2).	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Tsuiki M, Nanba K,Tsumagari A, Nakao K, Nakatani R, Kakita M, Ueda Y, Usui T, Tagami T, Shimatsu A, Tanabe A, Naruse M.	Short-term saline infusion test for subtype classification in primary aldosteronism.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Tsumagari A, Nanba K, Tsuiki M, Nakao K, Ueda Y, Kakita M, Nakatani R, Tagami T, Usui T, Shimatsu A, Tanabe A, Naruse M.	Comparison of rapid ACTH stimulation test and the captopril challenge test in PA.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Hattori N, Shimatsu A.	Treatment with insulin glargine causes anti-insulin antibody production more frequently than other insulin analogs in patients with diabetes mellitus.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Shimatsu A, Teramoto A, Hizuka N, Kitai K, Joaquin R, Chihara K.	A comparison of efficacy and safety of sustained-release lanreotide (lanreotide Autogel) in Japanese and European acromegalic patients.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Hattori N, Shimatsu A.	Prolactin and macroprolactin in patients with rheumatoid arthritis.	ENDO2013(The Endocrine Society's 95th Annual Meeting & Expo), San Francisco, USA 2013/6/15-18
Sakane N, Okazaki K, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Oshima Y, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H	Japan Diabetes Outcome Intervention Trial-1(J-DOIT1), a nationwide trial of type 2 diabetes prevention by telephone-delivered lifestyle support for high-risk subjects detected at health checkups: a cluster randomized controlled trial	73rd Scientific Sessions (2013) -American Diabetes Association, Chicago,USA 2013/6/21-25
Noriko Satoh-Asahara, Shinji Odori, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakage, Kazuya Muranaka, Reiko Nakagawachi, Shigeo Kono, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Akira Shimatsu	Sitagliptin, a Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor, improves the unfavorable M1/M2-like phenotypes of peripheral blood monocytes in Japanese type 2 diabetic patients.	73rd Scientific Sessions (2013) -American Diabetes Association, Chicago,USA 2013/6/21-25
Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Hiroshi Koyama, Koichi Kono, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Effects of pharmacological therapy on weight gain after smoking cessation	18th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy, Roma,Italy 2013/6/28-30
Sayaka Shimada, Koji Hasegawa, Hiromichi Wada, Maki Komiyama, Noriko Asahara, Akira Shimatsu,Yuko Takahashi	Improvement of blood fluidity by smoking cessation.	18th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy, Roma,Italy 2013/6/28-30
Shuichi Ura, Hiromichi Wada, Noriko Satoh-Asahara, Takahiro Horie, Koh Ono, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Vascular Endothelial Growth Factor-C, Dyslipidemia, and Atherosclerosis	18th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy, Roma,Italy 2013/6/28-30

Shuichi Ura,Hiromichi Wada, Noriko Satoh-Asahara, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	α1-Antitrypsin-low-density-lipoprotein and smoking-specific oxidative stress	18th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy, Roma,Italy 2013/6/28-30
Tsuzaki K, Kotani K, Yamada K, Sakane N	Effect of pitavastatin treatment on high-density lipoprotein subfractions by non-denaturing polyacrylamide gel electrophoresis in patients with hypercholesterolemia	2013 AACC annual meeting & Clinical Lab Expo 2013, Houston, TX, USA 2013/7/28-8/1
Koji Hasegawa, Noa Nagaoka, Hiromichi Wada,Yuko Iida, Sayaka Shimada, Maki Komiyama, Sachiko Terashima, Hajime Yamakage, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi	Smoking cessation reduces oxidation-redution potentials	APACT2013, Chiba,Japan 2013/8/19-21
Sayaka Shimada, Koji Hasegawa, Hiromichi Wada, Sachiko Terashima, Noriko Asahara, Hajime Yamakage, Maki Komiyama, Masaharu Akao, Akira Shimatsu,Yuko Takahash	Improvement of blood mobility at one year after smoking cessation.	APACT2013, Chiba,Japan 2013/8/19-21
Moritake Iguchi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Soluble vascular endothelial growth factor receptor-2 serves as a predictor of cardiovascular events in patients with chronic heart failure	European Society of Cardiology Congress, Amsterdam, Netherlands 2013/8/31-9/4
Yamauchi T, Katayama T, Yamauchi K, Sakane N	Efficacy and safety of a lifestyle intervention program using healthy plate for treating diabetic subjects with overweight and obesity: a randomized controlled trial	20th International Congress of Nutrition, Granada, Spain 2013/9/15-20
Habu M, Yunoue S, Fujio S, Tokimura H, Teramoto A, Shimatsu A, Arita K	Japan national survey of metastatic pituitary tumor: preliminary report on 200 cases.	World Federation of Neurological Surgery 2013, South Korea, 2013/9/8-13
Satoh-Asahara N, Yamakage H, Muranaka K, Nakagawachi R, Odori S, Kono S, Shimatsu A	Effects of Sitagliptin and Vildagliptin, Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors, on M1/M2-like phenotypes of peripheral blood monocytes and arterial stiffness in Type 2 diabetic patients.	Keystone Symposia Conference, Keystone,USA 2014/1/12-17
Sakane N, Tsuzaki K, Kotani K	The development of genetic sets of DNA methylation for patients with gestational diabetes mellitus in maternal and umbilical cord blood leukocytes	The 3rd International Congress on Cardiac Problems in Pregnancy, Venice, Italy 2014/2/20-23
Murata T, Okada H, Kishi J, Yamada K, Sakane N	The association between the frequency of SMBG assessed by data management software and the glycaemic control in T1DM patients	The 7th advanced Tecnologies & Treatments for Diabetes, Vienna, Austria 2013/2/5-8
Norihiko Masuda, Yuma Sakura, Haruyuki Ohsugi, Yuki Kitamura, Yumi Manabe, Haruki Itoh, Mutsuki Mishina, Hiroshi Okuno	USEFULLNESS OF MRI PRIOR TO PROSTATE NEEDLE BIOPSY IN PSA GRAY ZONE PATIENTS	AUA 102th Annual Meeting, SAN DIEGO,USA 2013/5/4-8

他、827件

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年および月
Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Mukai K, Nishimoto K, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Shimatsu A, Katabami T, Okumura A, Kawa G, Tanabe A, Naruse M.	Histopathological diagnosis of primary aldosteronism using CYP11B2 immunohistochemistry.	J Clin Endocrinol Metab.	98	4	1567-74			2013.4
Tsuzaki K, Kotani K, Fujiwara S, Sano Y, Sakane N; Mima Study Group.	High-density lipoprotein size distribution can differ between subjects with alcoholic and non-alcoholic fatty liver disease.	Clin Lab.	60	2	319-22			2014
Nanba K, Usui T, Nakakuki T, Shimatsu A.	Tension pneumocephalus after administration of two 0.25mg cabergoline tablets in MEN1-related macroprolactinoma	British Medical Journal Case Reports			doi:10.1136/bcr-2013--009986			2013.6
Kawashima S-T, Usui T, Tenjin A, Asai S, Tanaka Y, Hoshikawa M, Shimatsu A, Katabami T	A Novel Germ-Line Mutation of VHL in a Patient of Malignant Pheochromocytoma with in Silico Analysis.	Endocrine Practice			1-18			2014
Nanba K, Usui T, Nakamura M, Toyota Y, Hirota K, Tamanaha T, Kawashima ST, Nakao K, Yuno A, Tagami T, Naruse M, Shimatsu A.	A novel GATA3 nonsense mutation in a newly diagnosed adult patient of hypoparathyroidism, deafness, and renal dysplasia (HDR) syndrome.	Endocrine Practice	19	1	e17-20			2013.1-2
Takeshi Usui	What Equol can do for human health?	Korean J Obes	23	1	in press			2014
Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Nanba A, Usui T, Tagami T, Okuno H, Suzuki T, Shimbo T, Shimatsu A, Naruse M.	A subtype prediction score for primary aldosteronism.	J Hum Hypertens	20		1-5			2014
Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Hiroshi Koyama, Koichi Kono, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Analysis of factors that determine weight gain during smoking cessation therapy	PLoS One	8	8	e 72010			2013.8.21
Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa	Matters in Controversy Regarding Lipid Therapy for Japanese Patients with Coronary Artery Disease	Internal medicine	53	8	817-818			2013.11
Tatsuya Morimoto, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka , Sae Hirano, Masatoshi Namiki, Yuichi Watanabe, Hidetoshi Suzuki, Osamu Doi, Kiyomi Suzuki, Miyuki Yamauchi, Tsunehiro Yokoji, Eriko Miyoshi-Morimoto, Yoshihiko Otsuka, Tomoko Hamada, Atsushi Imaizumi, Yuji Nonaka, Takashi Fuwa, Takanori Teramoto, Hideaki Kakeya, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa	Drinkable Preparation of Theracurmin Exhibits High Absorption Efficiency-A Single-dose, Double-blind, 4-Way Crossover Study	Biol. Pharm. Bull		36	1708-1714			2013.11
Horie T, Nishino T, Baba O, Kuwabara Y, Nakao T, Nishiga M, Usami S, Izuhara M, Sowa N, Yahagi N, Shimano H, Matsumura S, Inoue K, Marusawa H, Nakamura T, Hasegawa K, Kume N, Yokode M, Kita T, Kimura T, and Ono K	MicroRNA-33 regulates sterol regulatory element-binding protein 1 expression in mice	Nat Commun	4		2883			2013.12
Ito R, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Sasaki Y, Odori S, Kono S, Wada H, Suganami S, Ogawa Y, Hasegawa K, Shimatsu A	Increase in EPA/AA ratio associated with improved arterial stiffness in obese patients with dyslipidemia.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	21	3	248-260			2014.3

Noriko Satoh-Asahara	Metbolic Syndrome and CAVI	CAVI Now & Future The Best Solution	2		36-42			2013
Kotani K, Tsuzaki K, Fujiwara S, Sakane N.	Sleep status and low-density lipoprotein particle size in a general Japanese female population: the mima study.	Med Princ Pract.	22	5	510-512			2013
Kotani K, Tsuzaki K, Taniguchi N, Sakane N.	Correlation between reactive oxygen metabolites & atherosclerotic risk factors in patients with type 2 diabetes mellitus.	Indian J Med Res	137	4	742-748			2013.4
Miyazaki R, Kotani K	Pedometer- and accelerometer-based exercise in subjects with diabetes mellitus	Minerva Endocrino-logica						Epub ahead of print
Miyazaki R, Kotani K, Ayabe M, Tsuzaki K, Shimada J, Sakane N, Takase H, Ichikawa H, Yonei Y, Ishii K.	Minor effects of green tea catechin supplementation on cardiovascular risk markers in active older people: a randomized controlled trial.	Geriatr Gerontol Int.	13	3	622-629			2013.6
Miyazaki R, Kotani K, Tsuzaki K, Sakane N, Yonei Y, Ishii K.	Effects of a Year-Long Pedometer-Based Walking Program on Cardiovascular Disease Risk Factors in Active Older People.	Asia Pac J Public Health.						Epub ahead of print
Murata T, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Yamamoto T, Yamada K, Sakane N.	Glucagon underutilized among type 1 diabetes mellitus patients in Japan.	Diabetes Technol Ther.	15	9	748-50			2013.9
Oshima Y, Matsuoka Y,Sakane N.	Effect of weight-loss program using self-weighing twice a day and feedback in overweight and obese subject: a randomized controlled trial.	Obes Res Clin Pract.	7	5	e361-6			2013.9-10
Sakane N, Dohi S, Sakata K, Hagiwara S, Morimoto T, Uchida T, Katashima M, Yanagisawa Y, Yasumasu T, Study Group JV.	Effects of Visceral Fat Accumulation Awareness on a Web-Based Weight-Loss Program: Japanese Study of Visceral Adiposity and Lifestyle Information-Utilization and Evaluation (J-VALUE).	ISRN Obes.			Article ID 473764, 7 pages			2013.4.24
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, Usui T, Uchiyama S, Fujiwara S.	Equol producers can have low leptin levels among prediabetic and diabetic females.	Ann Endocrinol (Paris).	75	1	25-28			2014.2
Tanabe A, Naruse M, Nomura K, Tsuiki M, Tsumagari A, Ichihara A.	Combination chemotherapy with cyclophosphamide, vincristine, and dacarbazine in patients with malignant pheochromocytoma and paraganglioma.	Horm Cancer.	4	2	103-10			2013.4
Miyake Y, Tanaka K, Nishikawa T, Naruse M, Takayanagi R, Sasano H, Takeda Y, Shibata H, Sone M, Satoh F, Yamada M, Ueshiba H, Katabami T, Iwasaki Y, Tanaka H, Tanahashi Y, Suzuki S, Hasegawa T, Katsumata N, Tajima T, Yanase T.	Prognosis of primary aldosteronism in Japan: results from a nationwide epidemiological study.	Endocr J. 2014	61	1	35-40			2013.9
Nakao KT, Usui T, Ikeda M, Mori Y, Yamamoto T, Kawashima ST, Nanba K, Yuno A, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Asato R, Shimatsu A.	Novel tandem germline RET proto-oncogene mutations in a patient with multiple endocrine neoplasia type 2B: report of a case and a literature review of tandem RET mutations with in silico analysis.	Head Neck.	35	12	E363-E368			2013.12
Rossi GP, Auchus RJ, Brown M, Lenders JW, Naruse M, Plouin PF, Satoh F, Young WF Jr.	An expert consensus statement on use of adrenal vein sampling for the subtyping of primary aldosteronism.	Hypertension.	63	1	151-60			2014.1

Auchus RJ, Brown M, Lenders JW, Naruse M, Plouin PF, Satoh F, Young WF, Jr.,Rossi GP.	Response to Implementation of Rapid Cortisol During Adrenal Vein Sampling.	Hypertension	2014; 63: e89 Published online before print					2014.2
Kimura N, Takayanagi R, Takizawa N, Itagaki E, Katabami T, Kakoi N, Rakugi H, Ikeda Y, Tanabe A, Nigawara T, Ito S, Kimura I, Naruse M.	Pathologic grading for predicting metastasis in phaeochromocytoma and paraganglioma.	Endocr Relat Cancer. [Epub ahead of print]						2014.2
Kimura N, Takekoshi K, Horii A, Morimoto R, Imai T, Oki Y, Saito T, Midorikawa S, Arao T, Sugisawa C, Yamada M, Otsuka Y, Kurihara I, Sugano K, Nakane M, Fukuuchi A, Kitamoto T, Saito J, Nishikawa T, Naruse M.	Clinicopathological study of SDHB mutation-related pheochromocytoma and sympathetic paraganglioma.	Endocr Relat Cancer. [Epub ahead of print]			21			2014.3
Kawashima ST, Tagami T, Nakao K, Nanba K, Tamanaha T, Usui T, Naruse M, Minamiguchi S, Mori Y, Tsuji J, Tanaka I, Shimatsu A	Serum levels of IgG and IgG4 in Hashimoto thyroiditis.	Endocrine.	45	2	236-243			2014.3
Shimatsu A, Teramoto A, Hizuka N, Kitai K, Ramis J, Chihara K.	Efficacy, safety and pharmacokinetics of sustained-release lanreotide (lanreotide Autogel) in Japanese patients with acromegaly or pituitary gigantism.	Endocrine Journal	60	5	651-663			2013.5
Adachi T, Hattori N, Ishihara T, Iida H, Saito T, Miyashima S, Shimatsu A.	Possible involvement of matrix metalloproteinase-3 in the pathogenesis of macroprolactinaemia in some patients with rheumatoid arthritis.	European Journal of Endocrinology	169	2	203-209			2013.8
Haymond M, Kappelgaard AM, Czernichow P, Biller BM, Takano K, Kiess W; Global Advisory Panel Meeting on the Effects of Growth Hormone.	Early recognition of growth abnormalities permitting early intervention.	Acta Paediatr.	102	2	787-796			2013.8
Shimatsu A, Tai S, Imori M, Ihara K, Taketsuna M, Funai J, Tanaka T, Teramoto A, Irie M, Chihara K.	Efficacy and safety of growth hormone replacement therapy in Japanese adults with growth hormone deficiency: a post-marketing observational study.	Endocrine Journal	60	10	1131-1144			2013.10
Ito T, Igarashi H, Nakamura K, Sasano H, Okusaka T, Takano K, Komoto I, Tanaka M, Imamura M, Jensen R, Takayanagi R, Shimatsu A.	Epidemiological trends of pancreatic and gastrointestinal neuroendocrine tumors in Japan: a nationwide survey analysis.	Journal of Gastroenterology	in press	in press	in press			2014
Hattori N, Duhita MR, Mukai A, Matsueda M, Shimatsu A.	Development of insulin antibodies and changes in titres over a long-term period in patients with type 2 diabetes.	Clinica Chimica Acta	433	in press	135-138			2014

他、358件

□ 獲得した競争的研究資金

項　目	研究課題	研究者名	研究事業者名	主任 分担の例	主任/分担研究者 直接経費金額
文部科学省関連研究費	骨格筋電気刺激による加齢性筋肉減少性（サルコペニア）の予防・改善	坂根　直樹	基盤研究（B） 分担	分担	50万円
文部科学省関連研究費	ヘルシープレートを活用した簡単カーボコントロール法の有用性の検証	坂根　直樹	基盤研究（C） 分担	分担	40万円
文部科学省関連研究費	血液単球分画由来リボ核酸を使用した肺癌診断	三尾　直士	分担 基盤研究（C）	分担	5万円
文部科学省関連研究費	メタボリック症候群の発症と減量治療抵抗性に関する新規バイオマーカーの探索	宮永　史子	基盤研究（C）	主任	105万円
文部科学省関連研究費	メタボリック症候群の発症と減量治療抵抗性に関する新規バイオマーカーの探索	浅原　哲子	基盤研究（C）	分担	5万円
文部科学省関連研究費	時間栄養学を活用した生活習慣病予防と治療のための食事指導法開発についての研究	津崎　こころ	基盤研究（C）	主任	80万円
文部科学省関連研究費	時間栄養学を活用した生活習慣病予防と治療のための食事指導法開発についての研究	坂根直樹	基盤研究（C）	分担	5万円
文部科学省関連研究費	妊娠糖尿病予防のための構造化された簡易な食事支援プログラムの開発に関する研究	坂根　直樹	基盤研究（C）	主任	125万円
文部科学省関連研究費	妊娠糖尿病予防のための構造化された簡易な食事支援プログラムの開発に関する研究	津崎　こころ	基盤研究（C）	分担	5万円
文部科学省関連研究費	血管内皮増殖因子Ｃの動脈硬化における役割と心血管イベントとの関連	和田　啓道	基盤研究（C）	主任	135万円
文部科学省関連研究費	血管内皮増殖因子Ｃの動脈硬化における役割と心血管イベントとの関連	浅原　哲子	基盤研究（C）	分担	5万円
文部科学省関連研究費	マクロファージ機能・炎症を標的とした肥満・糖尿病血管合併症の早期診断と治療戦略	浅原　哲子	基盤研究（C）	主任	120万円
文部科学省関連研究費	マクロファージ機能・炎症を標的とした肥満・糖尿病血管合併症の早期診断と治療戦略	長谷川　浩二	基盤研究（C）	分担	5万円
文部科学省関連研究費	睡眠時無呼吸症候群患者の食習慣の特徴および咀嚼指導が症状へ及ぼす影響	吉田　和也	基盤研究（C）	主任	120万円
文部科学省関連研究費	癌組織中の線維芽細胞の機能解析と新規治療法開発	松末　亮	若手研究（B）	主任	160万円
文部科学省関連研究費	胃のリズム解析で評価した朝食の"目覚まし効果"-朝型夜型タイプや時計遺伝子多型にも着目して-	坂根　直樹	基盤研究（C） 分担	分担	30万円
文部科学省関連研究費	慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的効果に関する研究	岡田　浩	基盤研究（C） 分担	分担	50万円
文部科学省関連研究費	慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的効果に関する研究	坂根　直樹	基盤研究（C） 分担	分担	20万円
文部科学省関連研究費	肥満治療におけるうつ状態に基づいたリバウンド防止と心血管病予防法の確立	姫野　亜紀裕	若手研究（B）	主任	170万円
文部科学省関連研究費	人工受容体によるWnt経路の解析とその再生医療への応用に関する研究	十河　孝浩	若手研究（B）	主任	230万円
文部科学省関連研究費	心腎連関進展予防の為の至適脂質指標と効果的脂質管理法に関するコホート研究	山陰　一	若手研究（B）	主任	170万円
文部科学省関連研究費	偽性副甲状腺機能低下症のエピゲノム解析	湯野　暁子	若手研究（B）	主任	180万円

文部科学省関連研究費	イメージングマススペクトロメトリー法による新たな声帯粘膜構成成分の検索	嘉田　真平	若手研究(B)	主任	80万円
文部科学省関連研究費	カーボカウントのアドヒアランスを高める食事指導プログラムの開発と効果・検証	坂根　直樹	基盤研究(C) 分担	分担	20万円
国立高度専門医療センター等研究費	中国における糖尿病・代謝症候群の治療戦略における内臓脂肪量評価の意義	成瀬　光栄	国際開発費25指1	主任	250万円
国立高度専門医療センター等研究費	アジア開発途上国における糖尿病合併症に対する介入戦略に関する研究	河野　茂夫	国際開発費25指1	主任	220万円
国立高度専門医療センター等研究費	全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究	前川　高天	サリドマイド胎芽病健診研究費	分担	142万8306円
その他財団等からの研究費	糖尿病モデルNODマウスおける１型糖尿病感受性MHC-連鎖遺伝子の同定とその機能	服部　正和	日本イーライリリー研究助成金	主任	40万円
その他財団等からの研究費	生活習慣病における腸内細菌叢バクテリオタイプ（エクオール産生者）の頻度調査	臼井　健	ヤクルト・バイオサイエンス研究助成金	主任	150万円
その他財団等からの研究費	２型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験（Ｊ－ＤＯＩＴ３）	河野　茂夫	Ｊ－ＤＯＩＴ３	主任	120万円
その他財団等からの研究費	脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の二次予防効果を検討する大規模臨床研究（ＲＥＳＰＥＣＴ研究）	大谷　良	ＮＰＯ法人ＲＥＳＰＥＣＴ研究会事務局	主任	10.5万円
その他財団等からの研究費	StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのカペシタビンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験（JFMC37-0801研究）	山口　高史	財団法人がん集学的財治療研究財団	主任	1万円
その他財団等からの研究費	加東サンサンチャレンジ事業業務委託	坂根　直樹	加東市	主任	35.7万円
その他財団等からの研究費	「ＯＮＯ-5371」に関する医薬品開発業務への技術指導	成瀬　光栄	小野薬品工業（株）	主任	68.25万円
その他財団等からの研究費	原発性アルドステロン症における in vitro オートラジオグラフィーを用いたアルドステロン合成酵素の発現・局在の検討（共同研究）	成瀬　光栄	日本メジフィジックス（株）	主任	98万円
その他財団等からの研究費	長寿社会づくりソフト事業・木屋平地域における糖尿病による死亡の原因と対策に関する分子疫学的研究事業	坂根　直樹	美馬市	主任	100万円
その他財団等からの研究費	コンサルティング契約（札幌市等の国民健康保険のデータ分析における作業内容の監修）	坂根　直樹	（株）ベストライフプロモーション	主任	21万円
その他財団等からの研究費	業務委託（糖尿病向け生活習慣管理プログラム開発に関する監修、助言）	坂根　直樹	（株）オムロンヘルスケア	主任	50.4万円
厚生労働科学研究費	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	島津　章	難治性疾患克服研究事業	分担	240万円
厚生労働科学研究費	副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	成瀬　光栄	難治性疾患克服研究事業(副腎ﾎﾙﾓﾝ)	分担	100万円
厚生労働科学研究費	たばこ規制枠組み条約を踏まえたたばこ対策に係る総合的研究 (H25-循環器（生習)-一般-010)	長谷川浩二	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	50万円
厚生労働科学研究費	臨床研究中核病院を活用した国際標準の臨床研究の推進と新規医薬品・医療機器の開発に関する研究	長谷川浩二	難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業 (肝炎関係研究分野)	分担	1000万円
厚生労働科学研究費	全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究	前川　高天	医薬品・医療機器等ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｰｻｲｴﾝｽ総合研究事業	分担	100万円
厚生労働科学研究費	笑い等のポジティブな心理介入が生活習慣病発症・重症化予防に及ぼす影響についての疫学研究　(H25-循環器等(生習)-一般-008)	浅原　哲子	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	100万円

厚生労働科学研究費	臨床病期II・IIIの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	山口　高史	がん臨床研究事業	分担	50万円
厚生労働科学研究費	非治癒因子を有する進行胃癌に対する胃原発巣切除の意義に関する国際共同研究	畑　啓昭	がん臨床研究事業	分担	20万円
厚生労働科学研究費	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第III相臨床研究	青木　友和	がん臨床研究事業	分担	50万円
厚生労働科学研究費	病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	米田　俊貴	難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業(肝炎関係研究分野)	分担	200万円
厚生労働科学研究費	抗HBs人免疫グロブリンの国内製造用原料血漿収集を目的とした国立病院機構職員を対象とするB型肝炎ワクチン接種の有効性、安全性及び皮下投与法と筋肉内投与法の比較に関する研究(H24-医薬-指定-017)	米田　俊貴	医薬品・医療機器等ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｰｻｲｴﾝｽ総合研究事業	分担	90万円
厚生労働科学研究費	KN01のミトコンドリア脳筋症(MELAS)を対象とした多施設共同試験(KN01-MELAS-01)	中村　道三	難治性疾患克服研究事業	分担	15万円
厚生労働科学研究費	視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証する第II/III相多施設共同プラセボ対照作為化試験	後藤　雅史	難治性疾患克服研究事業	分担	50万円
厚生労働科学研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立	和田　啓道	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	主任	1378.5万円
厚生労働科学研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立	長谷川　浩二	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	40万円
厚生労働科学研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立	浅原　哲子	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	40万円
厚生労働科学研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立	赤尾　昌治	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	40万円
厚生労働科学研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立	阿部　充	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	40万円
その他財団等からの研究費	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第III相臨床研究	青木　友和	久留米大学ITK-1医師主導治験収支簿	主任	50万円
その他財団等からの研究費	成長ﾎﾙﾓﾝ療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにｱﾄﾞﾊﾞｰｽ・ｲﾍﾞﾝﾄの調査に関する研究	島津　章	成長ホルモン治療研究助成金	分担	20.4万円
その他財団等からの研究費	成長ホルモン及びIGF-I測定に関する研究	島津　章	成長科学協会助成金	分担	25万円
その他財団等からの研究費	内分泌代謝疾患及び関連する生活習慣病に関する事業	成瀬　光栄	伏見医師会助成金(内分泌代謝病診連携ﾈｯﾄﾜｰｸ)	主任	10万円
その他財団等からの研究費	胃瘻を中心とした各施設の機能別連携の推進とシステム化を目的とした各種時事業	前川　高天	伏見医師会助成金(伏見栄養療法・胃瘻研究会)	主任	10万円
その他財団等からの研究費	癌治療を中心とした両機関間の連携促進を目的とした学術講演会の開催、情報交換等	土屋　宣之	伏見医師会(癌医療病診連携の会)	主任	10万円

その他財団等からの研究費	成長ホルモン/IGF-1シグナル下流の転写因子群と核内受容体による糖・エネルギー代謝調節メカニズムに関する研究	田上　哲也	成長科学協会自由課題研究助成金	主任	50万円
その他財団等からの研究費	AHO(オルブライト徴候)を規定するGNAS遺伝子のgenotype/epigenotypeの解析	臼井　健	成長科学協会FGHR臨床研究助成金	主任	60万円
その他財団等からの研究費	インクレチンの中枢性・末梢性炎症制御と報酬系・視床下部摂食調節機能の解明	浅原　哲子	日本ｲｰﾗｲﾘﾘｰ助成金	主任	40万円
その他財団等からの研究費	肥満症・メタボリック症候群における単球機能に着目した動脈硬化早期診断パネルと心腎血管合併症予防法の構築　―肥満症多施設共同研究―	浅原　哲子	日本抗加齢研究奨励賞助成金	主任	100万円
その他財団等からの研究費	禁煙後の糖尿病発症を予知するバイオマーカーの開発	和田　啓道	喫煙科学研究助成金	主任	200万円
その他財団等からの研究費	ＣＫＤ患者の心血管イベント予知マーカー開発　―腎性貧血との関連を含めて―	和田　啓道	日本腎臓財団助成金	主任	30万円
その他財団等からの研究費	慢性腎臓病患者における腎性貧血の治療実態とその効果　―京都の地域医療における解析―	八幡　兼成	日本腎臓財団助成金	主任	50万円
その他財団等からの研究費	薬剤師および薬学生を対象とした健康行動理論に基づくOTC販売教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの開発とその効果の検証	岡田　浩	OTCｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ調査研究助成金	主任	120万円

他、64件

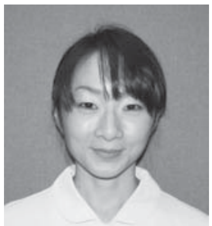
医療安全管理部

医療安全管理部長
高倉　賢二

医療安全管理副部長
赤尾　昌治

医療安全管理係長
右野　恵

専門職（訴訟）
山﨑　茂



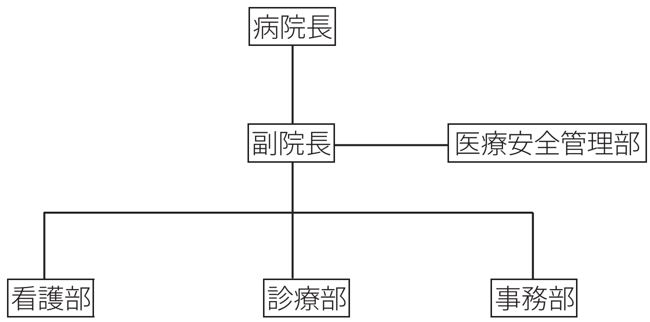
副看護師長
黒川　久美子

医療安全は医療の本質にかかわる重要な課題である。病院理念の『私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、患者さんが安心できる医療を提供します。』を実践する上で、安全な医療の提供は基本となるものであり、医療安全の必要性と重要性を、組織としてまた職員個人自身の課題として認識する必要がある。

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために、医療安全管理委員会、医療事故対策本部、医療安全管理室を設置して医療安全管理体制を整備している。個々の事例に対応するだけでなく、医療安全のためのマニュアル（以下「マニュアル」という。）も作成している。また、インシデント・アクシデント事例及び医療事故の評価分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い医療安全管理の強化充実を図っている。

１. 医療安全組織図

１）副院長直下に医療安全管理部を設ける。



２）構成メンバー

医療安全管理部長　１名
医療安全管理副部長　１名
専門職(訴訟)　１名
医療安全管理係長　１名
医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から１名　計５９名

２. 医療安全に関する日常活動

１）　医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査（定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）

２）　マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等

３）　インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理

4） 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
5） 医療安全に関する職員への啓発、広報
6） 医療安全に関する教育研修の企画・運営
7） 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
8） 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3．業務実績

1）医療事故に関する会議開催状況

① 拡大医療安全管理委員会　0件
② 医療事故本部対策会議　2件
③ オカーレンス事例検討会議　18件
④ ハイリスク診療検討会議　8件

2）マニュアル、ガイドラインの作成

・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン改訂版（2014年改訂）
・中心静脈カテーテル運用マニュアル（2012年）
・術前リスクと術後合併症評価ガイドライン（2012年）
・インスリン指示に関する対症指示テンプレート整備（2012年）
・ロヒプノール院内使用指針（2014年）

3）インシデント・アクシデントレポート収集

・平成25年度報告件数
　インシデント　3,522件
　アクシデント　　133件

・平成25年度職種別報告件数
　看護部：3345件（91.6%）
　医　師：150件（4.0%）

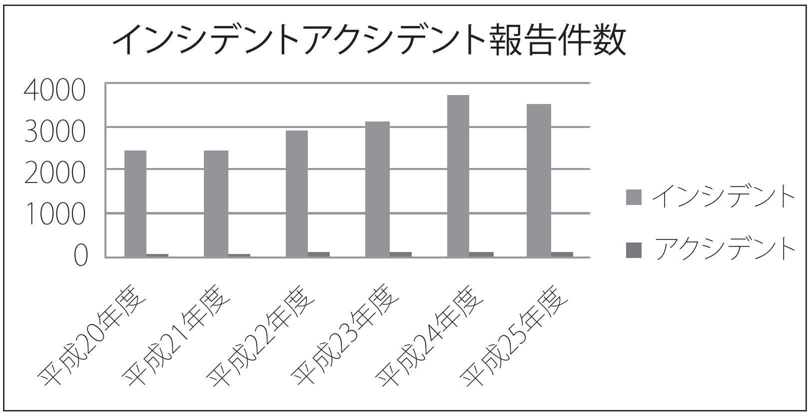


表１　職種別報告件数

看護部	3345
医師	150
薬剤	32
栄養	21
検査	49
放射線	29
リハビリ	16
臨床工学技士	5
事務	3
地域連携室	5
合計	3655

4）平成25年度緊急コール件数

ドクターハートコール：27件
ＭＥＴＳコール（9月稼働）：10件
ホワイトコードコール：8件
警察対応事例：10件

5）医療安全に関する活動及び情報提供

・医療安全管理委員会　１回/月　計１２回

・リスクマネージャー会議　１回/月　１２回

・診療科長会議、医局会、管理診療会議での事例紹介（「本日の事例、本日の苦情」）

・医療安全管理室だより等　発行

・事故事例の情報発信

（個人情報保護、患者取り違え、誤薬、適時適温食事の安全について、針刺し事故予防等）

6）医療安全に関する教育研修

麻薬について（麻薬の種類と管理方法）：病棟薬剤師による出前講座　全病棟実施

安全上ＭＲＩ検査の前に知っておくべきこと　62名

暴力にどう対応するか　(講師：伏見警察署)

～自分自身を守るために護身術を身につけよう~　141名

人工呼吸器関連研修会　76名

急変時の対応関連研修会　131名

7）医療安全に関する講義

新採用者研修、幹部看護師任用候補者研修、看護補助者、スペシャルメディカルクラーク等

医療情報部

部長
情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
臨床研究センター政策医療企画研究部情報化推進研究室室長
北岡　有喜

専門医資格等
京都大学　医学博士
独立行政法人国立病院機構本部　情報化統括責任者(CIO)補佐官
日本産科婦人科学会　専門医
ジャパン・クラウド・コンソーシアム　健康・医療クラウドWG総合監修
ＩＴコンソーシアム京都　医療情報化部会長
京都府がん医療戦略推進会議　院内がん登録部会　部会長
国際医療福祉大学大学院客員教授（医療福祉情報システム学）

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
副　部　長	八幡　兼成	京都大学　医学博士 日本腎臓学会　専門医・指導医 日本透析医学会　専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 日本内科学会　専門医
診療情報管理室　主任	金子　悦代	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	前田　夕子	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	上田　好美	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	口村　恭子	診療情報管理士
診療情報管理室　室員	木下　善皓	診療情報管理士
診療情報管理室　室員	川戸さくら	事務助手(診療情報管理室担当)
スペシャル医療クラーク	松田安由美	助産師・産婦人科担当
スペシャル医療クラーク	木村　仁美	眼科担当
スペシャル医療クラーク	秋好　香織	整形外科担当
スペシャル医療クラーク	長谷川紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	西田千賀子	耳鼻咽喉科担当
スペシャル医療クラーク	成田　朋代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤井　樹理	院内がん登録実務初級者・日本癌治療学会認定データマネージャー・JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）臨床試験セミナー入門編修了・外科担当
スペシャル医療クラーク	甲田　実樹	呼吸器内科担当
スペシャル医療クラーク	柴田　暢子	院内がん登録実務初級者・形成外科担当
スペシャル医療クラーク	品川　智子	薬剤師・循環器内科担当
スペシャル医療クラーク	村上　雅代	救命センター担当
スペシャル医療クラーク	川合　朋子	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	中村　繭子	院内がん登録実務初級者・消化器内科・内視鏡センター担当

スペシャル医療クラーク	西山万里子	看護師・血管外科担当
スペシャル医療クラーク	小川　文代	管理栄養士・呼吸器外科担当
スペシャル医療クラーク	中條　夏子	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	三浦　圭代	小児内科担当
スペシャル医療クラーク	中尾　真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	藤本　容子	薬剤師・糖尿病センター担当
スペシャル医療クラーク	加藤由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	目片　香織	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	南野　和代	院長室・整形外科担当
スペシャル医療クラーク	田中　直美	心臓外科担当
スペシャル医療クラーク	山元貴美子	リハビリテーション科担当
スペシャル医療クラーク	黒田　果奈	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	横山　順子	放射治療科担当
スペシャル医療クラーク	木下　幸子	腫瘍内科担当
スペシャル医療クラーク	陳　勝涛	中華人民共和国看護師・産婦人科担当
スペシャル医療クラーク	井上　恭子	脳神経センター・地域連携室担当
スペシャル医療クラーク	馬場真由子	消化器内科・内視鏡センター担当
スペシャル医療クラーク	西尾真理子	眼科担当
スペシャル医療クラーク	細川真莉奈	麻酔科担当
医療クラーク	松本紀美子	事務助手(地域連携室担当)
医療クラーク	石橋ナナミ	事務助手(手術室担当)
情報システム管理室室員	園田　淳	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	奥田　英智	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	細江　俊樹	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	太田　佳子	運用管理職員(委託)
流動研究員	松島　大介	システムエンジニア・データベーススペシャリスト・情報セキュリティスペシャリスト
非常勤研究員	中辻　善行	システムエンジニア
非常勤研究員	小川　麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
非常勤研究員	横田　健吾	システムエンジニア
非常勤研究員	滝川　裕介	システムエンジニア
非常勤研究員	小森　由宗	システムエンジニア
非常勤研究員	河野　通和	システムエンジニア
非常勤研究員	松原　大介	システムエンジニア
非常勤研究員	小森谷祥明	システムエンジニア
非常勤研究員	田中　啓之	システムエンジニア
非常勤研究員	安江　大輔	システムエンジニア

□ 診療科の特徴

1. 京都医療センター医療情報部は、独立行政法人化以前の2003年7月に国立病院としては初めて設置が認可された医療情報部です。
2. 医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当しており、ベンダーに依存することなく、医療現場のニーズにマッチした情報システムの要件定義や開発・導入・構築を迅速かつ適価で行っています。
3. 京都府・京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し、「ポケットカルテ」などの二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画・設計・開発・構築・運用・整備なども行っています。
4. 情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し各診療科に配置することで、医師・看護師などの専門職が専門業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療諸記録の質の向上ならびに診療の質の向上に努めています。

□ 診療（業務）内容

医療情報部は３部署で構成されています。各部署の名称と主な業務内容は以下の通りです。

1. 病院情報システム管理室
   病院情報システム（電子カルテシステム）の開発・構築・運用・整備および将来計画に関すること
2. 診療情報管理室
   診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること
3. 診療支援チーム
   スペシャル医療クラークを独自に育成し、各診療科などに配置することで、医師など専門職の事務作業を軽減すると共に、診療諸記録の精度向上や処理を迅速化すること

また、研究業務は臨床研究センター情報化推進研究室と一体化し、医療情報の研究、教育及び利用、病院の運営及び診療の管理に係る情報化などの研究開発を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

第16回院内がん登録部会、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年4月11日
第13回登録実務WG、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年4月11日
第32回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年4月18日
第16回院内がん登録部会研修会、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年4月20日
JBCCヘルスケア・コンソーシアム　JBHC医療総合セミナー2013 in 東京　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ これまでの取組と今後の展開について　北岡有喜、KDDI大手町ビル、2013年4月20日
第33回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年5月16日
第17回院内がん登録部会、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年6月13日
第14回登録実務WG、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年6月13日
第34回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年6月20日
第17回院内がん登録部会研修会、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年6月22日
第35回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年7月18日
一般財団法人聖マリアンナ会　ポケットカルテ共通診察券研修会　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ これまでの取組と今後の展開について　北岡 有喜、一般財団法人聖マリアンナ会東横恵愛病院、2013年8月5日
第18回院内がん登録部会、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年8月8日
第15回登録実務WG、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年8月8日

第36回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年8月22日
第2回京都府院内がん登録セミナー　（第18回院内がん登録部会研修会）、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年8月23日
国立病院機構南京都病院　ポケットカルテ共通診察券導入説明会　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテと地域共通診察券 これまでの取組と今後の展開について　北岡 有喜、国立病院機構南京都病院、2013年8月23日
第37回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年9月19日
平成25年度第3回事務部研修会「医師事務作業補助者マネージャー研修会～第1回　医師事務作業補助者の育成方法～」　京都医療センターにおけるスペシャル医療クラークの導入効果　北岡 有喜, 木下 善皓、愛知県医師会館、2013年9月28日
一般財団法人関西情報センター　インフォテック2013　クラウド型PHRサービス　「ポケットカルテ」の概要　北岡 有喜、大阪国際会議場、2013年10月10日
第38回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年10月17日
第19回院内がん登録部会、京都市子ども保健医療相談・事故防災センター、2013年10月24日
第19回院内がん登録部会研修会、京都市子ども保健医療相談・事故防災センター、2013年10月24日
第16回登録実務WG、京都市子ども保健医療相談・事故防災センター、2013年10月24日
第39回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年11月21日
第20回院内がん登録部会、京都府立医科大学、2013年12月12日
第20回院内がん登録部会研修会、京都府立医科大学、2013年12月12日
第17回登録実務WG、京都府立医科大学、2013年12月12日
第40回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年12月19日
第41回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年1月16日
福井県診療情報管理懇話会　2013年度福井県診療情報管理懇話会　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス「ポケットカルテ」と地域共通診察券　これまでの取組と今後の展開について　北岡 有喜、織田コミュニティセンター、2014年2月15日
第42回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年2月20日
一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟　2013年度JCTAトップセミナー　クラウド型個人向け健康・医療・福祉・介護履歴管理サービス「ポケットカルテ」- CATVにおける今後の展開について -　北岡 有喜、大手町サンケイプラザ、2014年2月20日
第21回院内がん登録部会、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年2月27日
第21回院内がん登録部会研修会、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年2月27日
第18回登録実務WG、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年2月27日
北陸総合通信局　2013年度北陸ＩＣＴ利活用普及促進セミナー　クラウド型個人向け健康・医療・福祉・介護履歴管理サービス「ポケットカルテ」- CATVにおける今後の展開について -　北岡 有喜、ＫＫＲホテル金沢、2014年2月27日
第43回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年3月21日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
西岡敬祐, 塚本達雄, 牧野慎市, 荒木真, 遠藤修一郎, 宮田仁美, 松原雄, 北岡有喜, 柳田素子　個人向け健康医療福祉履歴管理(personal health record:PHR)システムの慢性腎臓病地域連携への導入　一般社団法人日本腎臓学会　第56回日本腎臓学会.2013年5月11日;東京都
西岡敬祐, 塚本達雄, 牧野慎市, 荒木真, 遠藤修一郎, 宮田仁美, 松原雄, 家原典之, 北岡有喜, 柳田素子　個人向け健康医療福祉履歴管理(personal health record:PHR)システムを用いた透析患者の災害時対策　一般社団法人日本透析医学会　第58回日本透析医学会.2013年6月22日;福岡県
北岡有喜　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ これまでの取組と今後の展開について　九州大学大学院医学研究院小児外科学分野　リサーチカンファレンス.2013年7月19日;福岡県
北岡有喜, 松島大介, 小森由宗　個人向け生涯健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ 臨床研究基盤としての利活用について　田附興風会医学研究所　第12回（H25年度）医学研究所・研究発表会.2013年7月20日;大阪府
北岡有喜　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス　ポケットカルテ　これまでの取組とハイリスク児フォローアップなど今後の展開について　NRNデータベース会議　第7回　Database Quality Improvement Conference.2013年9月28日;東京都
北岡有喜　ポケットカルテについて　平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業　平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)「小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成」　第2回コアメンバー班会議.2013年10月4日;福岡県
松島大介, 北岡有喜　京都医療センターにおけるCRISTA!の実用例　CRISTA! ユーザー会　第1回CRISTA! ユーザー会.2013年11月23日;兵庫県
北岡有喜　ポケットカルテはなぜ考案されたのか？　ポケットカルテは現在の健康・医療・福祉・環境にどのような変化をもたらすのか？　特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター　第15回京都研究会.2013年12月20日;京都府

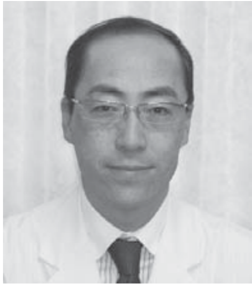
□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著 者 ・ タ イ ト ル
近畿情報通信協議会 KICC Spring issue 10　10　20-27　2013	北岡有喜, 安江大輔　個人向け健康情報管理サービス『ポケットカルテ』について
一般社団法人日本腎臓学会　日本腎臓学会誌　55(3)394　2013	西岡敬祐, 塚本達雄, 牧野慎市, 荒木真, 遠藤修一郎, 宮田仁美, 松原雄, 北岡有喜, 柳田素子　個人向け健康医療福祉履歴管理(personal health record:PHR)システムの慢性腎臓病地域連携への導入
JBCCヘルスケア・コンソーシアム　JBHC医療総合セミナー2013in東京　講演集 04.203--20　2013	北岡有喜　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス　ポケットカルテ　これまでの取組と今後の展開について
一般社団法人日本透析医学会　日本透析医学会雑誌　46 Suppl.1　494　2013	西岡敬祐, 塚本達雄, 牧野慎市, 荒木真, 遠藤修一郎, 宮田仁美, 松原雄, 家原典之, 北岡有喜, 柳田素子　個人向け健康医療福祉履歴管理(personal health record:PHR)システムを用いた透析患者の災害時対策
株式会社インナービジョン　INNERVISION 28(7付録)　45-51　2013	北岡有喜　JCC健康・医療クラウドWG White Paper「健康・医療領域におけるシステム基盤の動向」に見る医療クラウドの導入手法と運用のノウハウ
一般財団法人関西情報センター　インフォテック2013講演集10.10　49-61　2013	北岡有喜　クラウド型PHRサービス「ポケットカルテ」の概要
日本医学出版　病院経営Master　3(4) 20-27　2014	北岡有喜, 小森谷祥明, 安江大輔　病院をデータセンターとして利用する個人向け健康情報管理(PHR)クラウドサービス「ポケットカルテ」
福井県診療情報管理懇話会　2013年度福井県診療情報管理懇話会講演集　2.15 3--5　2014	北岡有喜　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス　「ポケットカルテ」と地域共通診察券　これまでの取組と今後の展開について
一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 2013年度JCTAトップセミナー講演集 2.20　97-119　2014	北岡有喜　クラウド型個人向け健康・医療・福祉・介護履歴管理サービス「ポケットカルテ」- CATVにおける今後の展開について -
北陸総合通信局　2013年度北陸ＩＣＴ利活用普及促進セミナー講演集　2.27 1-40　2014	北岡有喜　クラウド型個人向け健康・医療・福祉・介護履歴管理サービス「ポケットカルテ」- CATVにおける今後の展開について -
日経ＢＰ社　日経ニュースメディア 2014.3.10（第1408号）　13-14　2014	北岡有喜　「診療情報を自己管理して健康を守る」、ケーブルTVでもポケットカルテ

□ 院内情報処理業務支援

病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）　3771件　（月平均314件）

感染制御部



感染制御部長
奥野　博

専門医資格等
日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本臨床腎移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士
専門分野
泌尿器科一般
得意疾患
前立腺癌
男性学
感染症学

副部長
（専任）
ICTリーダー
小田垣孝雄

専門医資格等
ICD：Infection Control Doctor
日本内科学会総合内科専門医/指導医
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医/指導医
日本医師会認定産業医
専門分野
内科一般、感染制御
得意疾患
一般内科疾患

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副部長	志馬　伸朗	ICD：Infection control doctor 日本感染症学会　感染症専門医 日本化学療法学会　評議員・抗菌化学療法指導医/認定医 日本外科感染症学会　評議員・外科周術期感染管理暫定教育医/認定医 日本版敗血症ガイドライン策定委員 真菌症ガイドライン2014策定委員 肺炎診療ガイドライン策定委員	救急・集中治療	集中治療医学 救急医学 感染症学 麻酔科学
医師	畑　啓昭	ICD：Infection control doctor 外科学会専門医 消化器外科学会専門医 日本外科感染症学会　評議員/教育委員 外科周術期感染管理暫定教育医/認定医	上部消化管外科	胃癌, 食道癌
医師	遠藤　文司	ICD：Infection control doctor 日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医	胆道・膵疾患における内視鏡検査・治療	胆道・膵疾患
薬剤師（専任）	朴井　三矢	抗菌化学療法認定薬剤師 感染制御認定薬剤師		

薬剤師	福田　良子	救急認定薬剤師		
副看護師長（専従）	宮地　聡子	ICN：Infection control nurse 感染管理認定看護師		
検査科主任（専任）	福田　修			
経営企画室長	西川　祐史			
事務	諸木　真知			

□ 診療（業務）内容

平成9年4月に院内感染対策チームが（ICT）設立し、平成22年4月にはICTを核とする感染制御部が発足しました。そのモットーは院内の感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供することを目標としています。

さらにその使命として医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務など多くの職員がそれぞれに得意とする分野を分担し、責任をもってこれを行っています。実務はICTリーダーを中心に週に１回ICTミーティングを行い、さらに週に1回定期的に院内ICTラウンドを実施しています。また日常の感染対策に関する相談に関しても随時対応しています。

活動例）

①インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核などの院内感染対策業務
②手術部位感染、中心静脈カテーテル関連血流感染などのサーベイランス業務
③針刺し・切創事故対応業務
④職員対象の各種ワクチン接種業務
⑤抗菌薬適正使用推進業務
⑥その他、院内感染対策に必要とされる業務

この活動内容は病院長直轄の「院内感染対策委員会」（月1回）と平成22年4月に発足した「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」（月1回）にて報告・審議・決定がなされるシステムとなっています。

平成24年度には感染防止対策推進に関する診療報酬が改定され、これまで以上に感染対策チーム（ICT）の活動が求められるようになりました。平成26年度の改訂でも大きな変更点はなく継承されています。

＊感染防止対策加算２を算定する当院連携施設：弘仁会大島病院　真和会京都大橋総合病院　ＮＴＴ西日本京都病院　国立病院機構南京都病院　淀さんせん会金井病院
＊感染防止対策加算１施設を算定している連携医療機関：京都市立病院機構　京都市立病院

□ 地域医療連携・広報活動

院内感染対策講習会　「隔離対象となる病原性微生物について」　2013年6月17日・７月11日
院内感染対策講習会　「抗菌薬適正使用について」　2013年12月03日
第１回感染防止対策地域連携カンファレンス　「結核院内感染対策について」　2013年6月15日
第２回感染防止対策地域連携カンファレンス　「職員の感染防止について」　2013年9月28日
第３回感染防止対策地域連携カンファレンス　「抗菌薬適正使用について」2013年12月２１日
第４回感染防止対策地域連携カンファレンス　「平成25年度感染防止対策総括」　2014年2月22日
感染防止対策地域連携加算相互評価：京都市立病院　2013年11月8日・11月28日
感染防止対策研修会・院内ラウンド：宇多野病院　2014年1月20日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
院内講習会	「今さら聞けない、細菌のあれこれ」　福田修　2013年6月17日・7月11日
院内講習会	「多剤耐性菌対策の臨床的意義」　小田垣孝雄　2013年6月17日・7月11日
院内講習会	「当院の抗菌薬使用状況」　朴井三矢　2013年12月3日
院内講習会	「当院の耐性菌検出状況」　福田修　2013年12月3日
院内講習会	「当院の抗菌薬適正使用の取り組み」　小田垣孝雄　2013年12月3日
地域連携カンファレンス	「病院職員のワクチン接種～京都医療センターの場合～」　小田垣孝雄　2013年9月28日
地域連携カンファレンス	「ICTにおける薬剤師のかかわり」　福田良子　2013年12月21日
地域連携カンファレンス	「検査技師からみた抗菌薬適正使用について」　福田修　2013年12月21日
地域連携カンファレンス	「ICDからみた抗菌薬適正使用推進活動」　遠藤文司　2013年12月21日
学会発表（ワシントンD.C.）	A randomized, Multicenter, Open-Label Phase III Trial of Oral and Parenteral vs. Parenteral Antibiotic Prophylaxis in Elective Laparoscopic Colorectal Surgery: The Japan-Multinational Trial Organization PREV 07-01 American college of surgeon, clinical congress, Oct 6-10, 2013, Washington, DC 畑 啓昭
学会発表（神戸）	教育委員会企画プログラム　創傷管理の標準化　パネリスト　畑啓昭　2013年11月25日　日本外科感染症学会

□ 受賞（学会・研究発表　など）

内　　　容
第67回国立病院総合医学会　平成25年度国立病院機構QC活動成果発表　全国最優秀賞「医療情報検索ソフトと電子カルテのICTアカウントを活用した抗菌薬適正使用の推進」小田垣孝雄　2013年11月08日

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年および月
Sakaguchi M, Shime N, Iguchi N, Kobayashi A, Takada K, Morrow LE.	Effects of adherence to ventilator-associated pneumonia treatment guidelines on clinical outcomes.	J Clin Endocrinol Metab.	19	4	599-606			2013
志馬　伸朗	特集：感染症診療のポイント	救急医学	38	2				2014
志馬　伸朗	ICU　患者の抗菌療法において初期経験的治療の適切性は予後に影響するか？	臨床に直結する集中治療のエビデンス			387-392	讃井將満編著	文光堂	2013
志馬　伸朗	日本版敗血症診療ガイドライン一般社団法人日本集中治療医学会 sepsis registry委員会	日集中医誌	20		124-73		克誠堂出版	2013
志馬　伸朗	深在性真菌症の診断	治療ガイドライン2014			158-172	深在性真菌症のガイドライン作成委員会	協和企画	2014
志馬　伸朗	De-escalationは真に遂行可能か	敗血症治療:一刻を争う現場での疑問に答える			114-119		羊土社	2014
尾内一信, 志馬伸朗, 平井克樹, 荒畑幸絵, 櫻井淑男, 吉本 昭, 国貞佳世	小児呼吸器感染症ガイドライン2007上の最重症肺炎に対するわが国小児集中治療領域における注射用抗菌薬使用状況	小児感染免疫		24	443-449			2013
志馬伸朗, 篠原貴子, 重見研司	敗血症の認知度調査	日集中医誌	20		667-70			2013
笠井正志, 志馬伸朗, 齋藤昭彦, 船木孝則, 庄司健介, 宮入烈	本邦複数の小児医療施設における血液培養採取量と検出率に関する観察研究	感染症学雑誌	87	5	620-623			2013
志馬伸朗, 羽鳥文麿, 氏家良人, 日本集中治療医学会小児集中治療委員会	日本での小児重症敗血症診療に関する合意意見	日集中医誌	21		67-88			2014
松田直之, 織田成人, 相引眞幸, 池田寿昭, 今泉均, 遠藤重厚, 落合亮一, 小谷穣治, 志馬伸朗, 西田修, 野口隆之, 平澤博之	日本集中治療医学会Sepsis Registry委員会日本集中治療医学会第1回Sepsis Registry調査 2007年の重症敗血症および敗血症性ショックの診療結果報告	日集中医誌	20		329-34			2013

志馬　伸朗	ライン関連感染を回避するために麻酔科医ができること～小さな心配りの積み重ねがプロの証	LiSA	20		438-443			2013
志馬　伸朗	日本版敗血症診療ガイドラインの解説　抗菌薬治療のポイントを中心に	Pharma Medica	31		109-115			2013
志馬　伸朗	呼吸器感染症/肺炎/人工呼吸器関連肺炎(VAP)	日本臨床(別冊感染症症候群(第2版)[下]-症候群から感染性単一疾患までを含めて-)			187-191			2013
志馬　伸朗	Antimicrobial therapy	救急医学	37	11	1450-56			2013
志馬　伸朗	人工呼吸器関連肺炎(VAP)の診断と治療	Medicina	50	12	1986-1990			2013
志馬　伸朗	人工呼吸器関連肺炎対策	日本外科感染症学会雑誌	10	2	225-31			2013
徳平　夏子, 志馬　伸朗	重症インフルエンザ感染：インフルエンザ関連肺炎の診断治療を中心に	小児内科	45	11	1994-1998			2013
笠井　正志, 志馬　伸朗	小児重症感染症へのアプローチ	ICUとCCU	37	12	921-7			2013
志馬　伸朗	人工呼吸器関連肺炎(VAP)	日本臨床 別冊感染症症候群(下)			187-191			2013
志馬　伸朗	暴れ馬で流鏑馬は可能か～小児集中治療患者での薬物動態解析によるバンコマイシン治療	日集中医誌	20	4	561-3			2013
志馬　伸朗	外科・救急領域における深在性真菌症の診断と治療：侵襲性カンジダ症の危険因子と診断	感染症道場	3	1	63-65			2014
志馬　伸朗	わからないものを受け入れ，解決すること ～カテーテル挿入時消毒薬の選択	日集中医誌	21		65-66			2014
長谷川　隆一, 志馬　伸朗	人工呼吸器関連肺炎(ventilator-associated pneumonia, VAP)はゼロにできるか？	日集中医誌	21		9-16			2014
志馬　伸朗	プレホスピタルにおける敗血症	救急医学	38	2	236-8			2014
志馬　伸朗	麻酔科医が行う周術期感染予防	麻酔	63	3	269-277			2014

教育研修部

専門医資格等　日本内科学会内科指導医

教育研修部長
小山　弘

□ 教育研修部の特徴

施設認定等	臨床研修指定病院

1. スーパーローテション方式を採用しています
2. ERの担当を通じ、幅広く急性疾患、外傷に対応する能力を獲得します
3. 古くからの教育病院として、臨床研修医を教える文化のある病院です
4. 毎週臨床研修医が自分で選んだテーマのレクチャーをすることにより、自己学習の習慣を習得します

□ 診療（業務）内容

当院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医、および京都大学医学部付属病院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医のうち協力病院として当院で研修を行う臨床研修医の、研修に関する諸問題を担当しています。

また、京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会の委員として、京都府全体の臨床研修に関する活動を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会副委員長
京都府地域医療支援センター運営会議委員
医療系大学間共用試験実施評価機構医学系OSCE実施小委員会委員

地域医療部

地域医療部長
秋山　祐一

地域医療連携室長
瀬田　公一

□ 急性期病院の見直しが進んでいます。

厚生労働省は75歳以上の老齢人口の増加を見据えて第6次医療法の改正法案を国会に提出しています。医療機関の役割分担を従来より明確に行い、はじめから大病院ではなくまずはかかりつけ医を受診することが必須になりつつあります。当院でも今年度から紹介状なしの初診料（選定療養費）は5,400円（税込）となり紹介状なしの初診外来患者さんの減少がみられ始めています。急性期の病院は経営面でDPCと平均在院日数の厳格化により長期入院ができないような制度化が進みました。急性期病院は　急性期を脱した患者さんの早期転院を促す制度設計になっています。紹介率、逆紹介率の基準が厳しくなりました。7：1の看護の基準も厳格になり、急性期病院の見直しが進んでいます。地域医療連携室では結果的に地域の病院・診療所との連携の絆が強まるように、地域支援病院として紹介率と逆紹介率向上をめざして、病院内の各部署と協力して、あらゆる努力を続けます。

地域医療部長　秋山　祐一

□ 地域医療連携室

これから団塊の世代が高齢化し、2025(平成37)年には人口の18.1%にあたる2180万人が75歳以上になります。そうなると現在の社会保障の体制では、経済的にもマンパワーの点でも対応できません。そこで国は2025年に向けて、社会保障の制度の改革に取り組んでいます。国が目指す医療のあり方の重要なキーワードは"地域連携型医療"です。例えば脳梗塞の患者さんを例に取りますと、発症直後の急性期は高度急性期病院で治療を受け、その後は亜急性期ないし回復期リハビリテーション病院でリハビリを行い、最終的には家に帰る。このような急性期の治療から在宅生活を支える医療・介護サービスまでを地域で連携して行うことを目指しています。かつてわが国においては患者さんが完治する（あるいは亡くなる）まで一つの病院で看る「病院完結型」と呼ばれるモデルが一般的でしたが、疾病構造の変化、人口の高齢化、医療の高度化などにより、これからは病院・診療所等の役割分担と連携のとれた医療体制が求められているのです。

そのため国の施策として、まずは身近なかかりつけ医を受診し必要に応じて大病院や専門病院を紹介してもらい、治療を受けてある程度回復又は病状が安定したら、かかりつけ医に逆紹介される体制を整備することが推し進められています。

京都医療センターでは平成14年に地域医療連携室を立ち上げ、患者さんが安心して医療や福祉を受けられるよう支援してきました。これからも、上に述べたような社会情勢の中で京都医療センターが急性期病院としての役割を果たしながら、地域に根ざした病院として患者さんに貢献できるよう、スタッフ一同チーム一丸となって頑張っていきます。どうかよろしくお願いいたします。

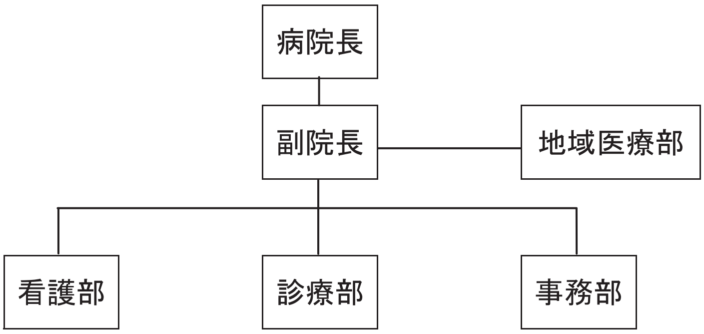
□ スタッフ

経営企画室長・地域医療連携室長補佐	西川 祐史
地域医療連携係長・病床管理師長	塚本 直子

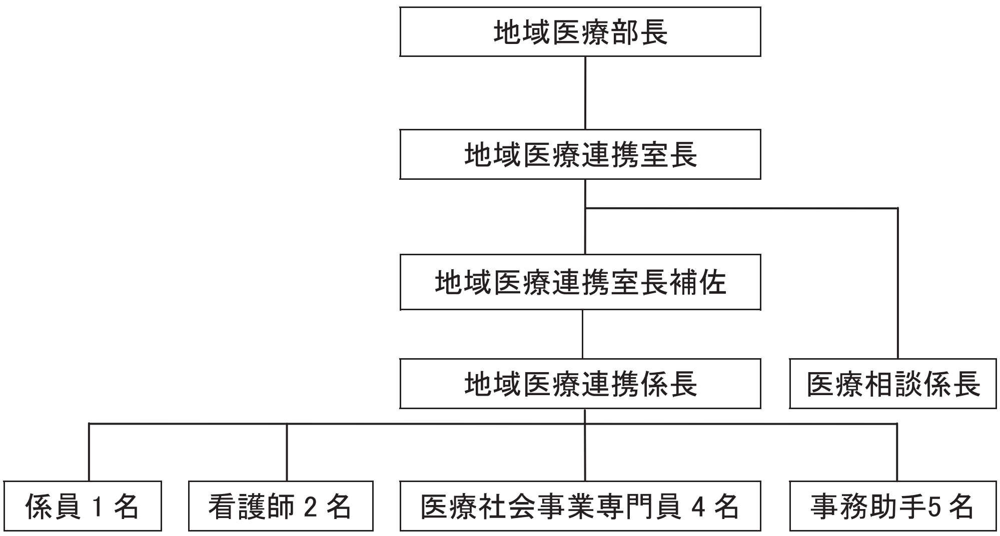
主任医療社会事業専門員	宅間 親恵
看護師	杉本 明美
看護師	井上 綾乃
医療社会事業専門員	長田 沙友梨
医療社会事業専門員	弘中 孝佳
医療社会事業専門員	吉岡 孝師
地域医療連携係	金本 晃一
事務	森野 裕子
事務	植田 奈緒子
予約担当	八重津 広子
予約担当	諸木 真知
予約担当	吉岡 頼枝

1. 沿革と体制

2002年　地域医療連携室設置
2007年　地域がん診療拠点病院の指定
2008年　地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2. 地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉

●診察・検査事前予約

●救急紹介受診の受付と手配

●開放型病床のデータ管理

●紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉

●退院支援（転院・在宅）

●後方支援機関との連携の強化

●後方支援機関への紹介患者

〈相談〉

●療養上の相談や受診についての相談

●経済的問題の解決

●各種制度（介護保険・障害者医療など）の相談

〈広報〉

●外来担当表等の発送

●広報誌『うづら便り』の発送

●各医療機関への訪問

3. 業務実績(2013年実績)

地域医療連携室経由予約件数　診療予約7,595件　検査予約1,226件
1日平均予約件数36.3件

相談件数7,721件　転院支援実績598件

転院支援実績在院日数41.1日　地域医療診療計画管理料適用患者数 114件

救急受診受付620件　救急受診受入後入院件数302件

セカンドオピニオン相談件数137件　セカンドオピニオン実績件数32件

紹介率71.8%　逆紹介率73.7%　開放型病床登録医数169件

地域医療連携委員会　1回/月

地域支援病院運営委員会　四半期1回

院内発表

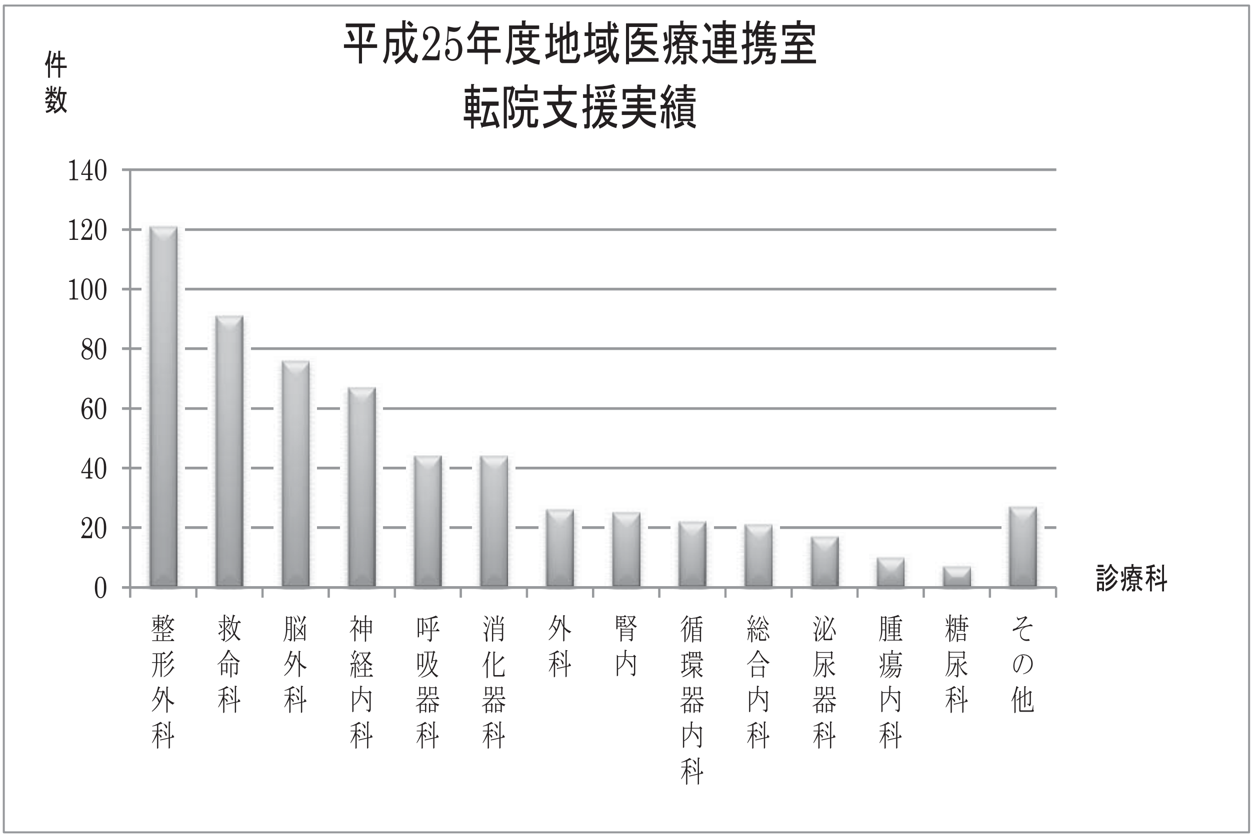
平成25年7月12日（金）　介護保険の基礎知識：60名参加　宅間親恵

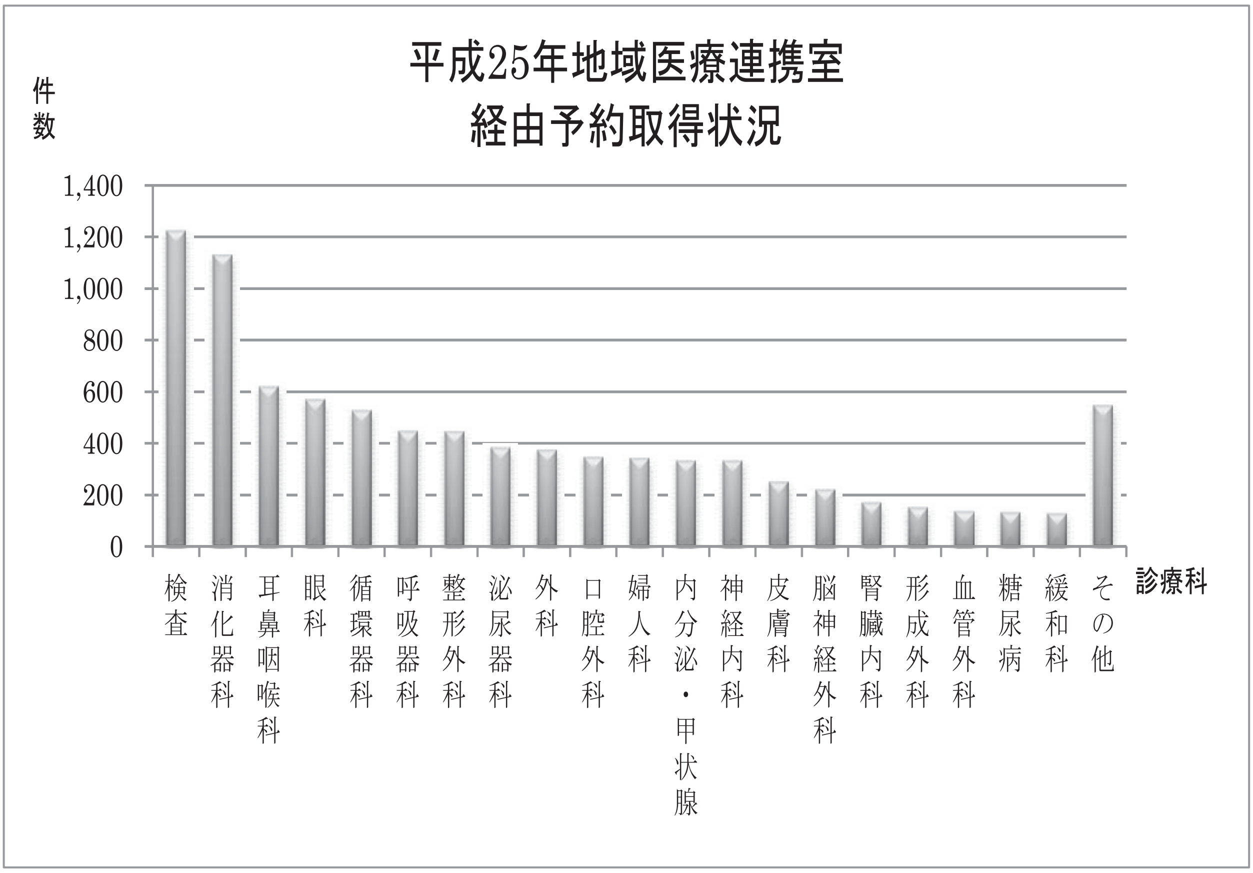
平成25年7月19日（月）

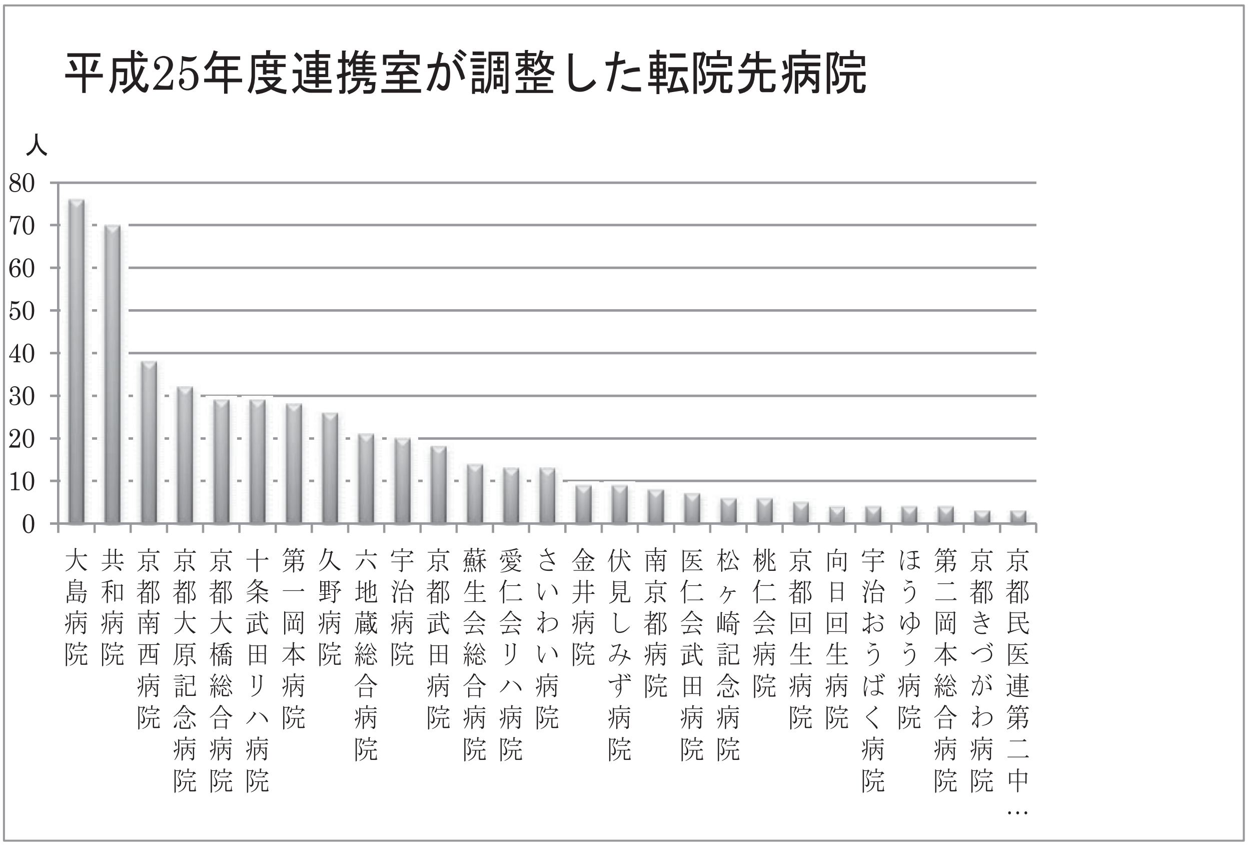
平成26年3月 1日（土）成果発表会

「地域の医療機関との良好な関係を作るための訪問活動報告」　口述

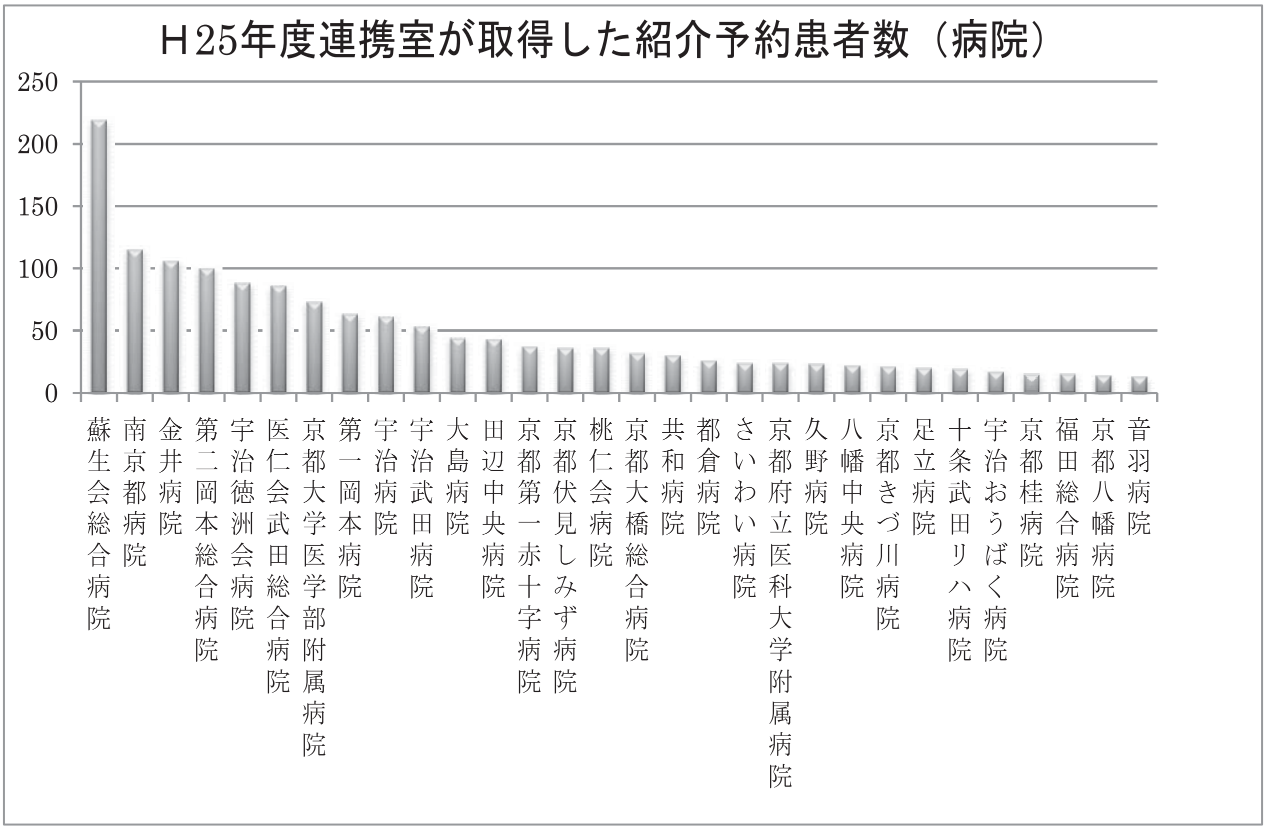
「転院支援の円滑化のための方策」　ポスター


平成25年度地域医療連携室
転院支援実績
件数
140
120
100
80
60
40
20
0
診療科
整形外科
救命科
脳外科
神経内科
呼吸器科
消化器科
外科
腎内
循環器内科
総合内科
泌尿器科
腫瘍内科
糖尿科
その他


平成25年地域医療連携室
経由予約取得状況
件数
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
診療科
検査
消化器科
耳鼻咽喉科
眼科
循環器科
呼吸器科
整形外科
泌尿器科
外科
口腔外科
婦人科
内分泌・甲状腺
神経内科
皮膚科
脳神経外科
腎臓内科
形成外科
血管外科
糖尿病
緩和科
その他



転院件数3件以上の病院を掲示



紹介件数上位30の病院を掲示

薬剤科

薬剤科長
北村　良雄

専門医資格等

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門資格等
副薬剤科長	玉田　太志	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本臨床薬理学会認定CRC
副薬剤科長	上野　裕之	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本医療薬学認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士、NST専門療養士
薬務主任	小林　雅典	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
試験検査主任	辻　美里	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
治験主任	山本　靖子	日本臨床薬理学会認定CRC、日本糖尿病療法指導士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
調剤主任	森　英人	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療法指導士
製剤主任	畝　佳子	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・がん認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
調剤主任	中尾　元紀	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本医療薬学認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士、日本医療情報学会医療情報技師、日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
調剤主任	竹松　茂樹	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・HIV認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、NST専門療養士
薬剤師	馬場　雅子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	朴井　三矢	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師、日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
薬剤師	安達紀美子	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	綿谷　早苗	
薬剤師	後藤　智美	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本臨床薬理学会認定CRC

薬 剤 師	物部加容子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
薬 剤 師	渕崎恵美子	
薬 剤 師	水本　知宏	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬 剤 師	小川　寛子	
薬 剤 師	福田　良子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、救急認定薬剤師
薬 剤 師	田邨　保之	日本糖尿病療法指導士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬 剤 師	藤村　尚子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬 剤 師	黒川　央	
薬 剤 師	神林　由樹	
薬 剤 師	小林　正志	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬 剤 師	藤末　慎	
薬 剤 師	岸本　周子	
薬 剤 師	横山 晋一郎	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬 剤 師	松本　信彦	
薬 剤 師	北宅　良祐	
薬 剤 師	竹之下 祥愛	
薬 剤 師	吉水　浩史	
薬 剤 師	仲野　宏紀	
薬 剤 師	喜田　孝史	
薬 剤 師	植田　裕美	
薬 剤 師	堀尾　綾香	

□ 診療科の特徴

1. 各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算を特殊病棟を除く全患者を対象に実施している。
2. 外来化学療法室での抗がん剤無菌調製、レジメンチェック、服薬指導を実施している。
3. 救命救急、ICU、NICU病棟に専任の薬剤師を配置し、ハイケア患者に対する薬物療法の質の向上を図っている。
4. ICT、NST、がん、緩和医療をはじめとしたチーム医療と各診療科の専属薬剤師が連携を取り、医師やその他の医療従事者と共働で入院患者の薬物療法の質の向上に努めている。
5. 早期体験実習生や年間28名の長期実務実習生を受け入れなど、質の高い教育研修を行っている。
6. 平成24年度に京都薬科大学との包括協定の締結や摂南大学との人事交流にて、教育や臨床研究の発展を図っている。
7. 治験・臨床研究実施におけるＣＲＣ業務等を実施している。

□ 業務内容

〈病棟業務・薬剤管理指導業務〉

医師、看護師らとの連携により、可能な限り入院患者の初回投与時及び退院時の服薬指導を実施するとともに、薬剤管理指導の増大と医療の質の向上に寄与する。

〈医薬品の安全性の確保〉
積極的に副作用情報を収集し、医薬品の安全性を確保するとともに医薬品情報の収集・提供体制の強化を図る。さらに、プレアボイド情報の収集に努め、迅速な対応を行う。また、医薬品関連インシデントの解析から、病棟専任薬剤師が医療事故防止策に積極的にアプローチする。
〈注射薬の無菌調製業務〉
全診療科の抗悪性腫瘍剤の無菌調製を実施し、医療従事者の安全性を確保するとともに医療事故の防止に努める。患者の安全性確保のため抗悪性腫瘍剤のレジメン管理の適正化を薬剤師主導で実施する。
〈医薬品管理の適正化〉
薬事委員会を通じて同種同効薬の整理を行い、採用医薬品数の縮減に努める。
〈教育研修・研究〉
積極的に各種研修に参加し資格認定及び専門薬剤師等の取得に努める。
薬学実務実習生、研修生を積極的に受け入れ、質の高い教育研修を行う。また、業務の効率化及び医療の質の向上を目的とした研究業務を積極的に行い、学会発表などに積極的に参加する。
〈調剤過誤防止〉
ヒヤリハット報告の収集・分析・対策を迅速に行い、再発防止に努めるとともに鑑査の徹底により調剤過誤を減少させる。
〈チーム医療、クリニカルパスへの参画〉
薬剤師の専門性を活かした業務を押し進め、緩和ケア、糖尿病療養、ICT、NST、救命救急などのチーム医療に貢献する。また、クリニカルパスの運用において、薬剤科として積極的に関わり薬物療法の適正化に努める。
〈地域医療連携の強化〉
地域連携パスにおいて、服用薬の管理等、薬学的管理事項に関与し、在院日数の短縮に貢献するとともに、お薬手帳で薬薬連携の充実を図る。
また平成25年度は上記目標に加え、病院運営方針に則り、下記の目標についても実現を図るよう現在準備中である。
国内外の学会や研究活動に積極的に参加し、最新の医学・薬学の知識修得に努めている。
また、薬学生の長期実務実習を積極的に受け入れている。

□ 地域医療連携・広報活動

市民公開講座「町の保健室」2013年6月22日
市民公開講座「SKYふれあいフェスティバル」2013年9月14日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	北村良雄 医療事故から検証する医薬品製剤の問題点. 日本ジェネリック医薬品学会第7回学術大会. 2013年 7 月6日；東京都
国内学会	北村良雄 臨床現場が望む注射製剤. 日本注射薬臨床情報学会. 2013年8月31日；兵庫県
国内学会	朴井　三矢、福田　良子、藤村　尚子、上野　裕之、玉田　太志、北村 良雄、志馬　伸朗 当院における塩酸バンコマイシン注の有効トラフ値と腎機能障害の調査. 第23回日本医療薬学会年会. 2013年9月21日；仙台市
国内学会	藤村 尚子、朴井 三矢、河田　興、阿水 利沙、北　誠、豊田 有子、石塚 哲也、黒須 英雄、秋山 祐一. 京都医療センター新生児集中治療室での日齢3における抗菌薬使用調査 小児臨床薬理学会第40回学術集会. 2013年11月2日；東京都
国内学会	朴井　三矢、福田　良子、藤村　尚子、上野　裕之、玉田　太志、北村 良雄、志馬　伸朗 バンコマイシンの有効トラフ値と腎機能障害の関連. 第61回日本化学療法学会西日本支部総会. 2013年11月7日；大阪市

国内学会	北村良雄 薬剤管理指導業務：京都医療センターにおける取り組み. 第67回国立病院総合医学会シンポジウム. 2013年11月8日；金沢市
国内学会	藤末　慎、森　英人、中尾　元紀、黒川　央、玉田　太志、上野　裕之、青木　友和、北村 良雄 京都医療センターにおけるカルムスチン脳内留置用剤の使用状況. 第67回国立病院総合医学会. 2013年11月9日；金沢市
国内学会	竹松　茂樹、冨島　公介、勝田　倫子、八城　正和、望月　吉郎、北村　良雄. テノホビル薬剤性と考えられる腎性尿崩症から腎前性急性腎不全に至った一例. 第27回日本エイズ学会学術集会・総会. 2013年11月21日；熊本市
国内学会	北村良雄 病棟薬剤業務実施のアウトカム. 全国自治体病院協議会薬剤部長部会薬剤管理研修会. 2013年11月22日；東京都
国内学会	山本 靖子. 臨床研究におけるCRCの支援体制の構築. 近畿ブロック平成25年度CRCスキルアップ研修. 2013年11月23日；京都市
国内学会	田邨 保之、畝　佳子、上野 裕之、玉田　太志、久保　速三、土屋　宣之、北村 良雄. 当院におけるケタミン有効例の検討. 京滋緩和研究会. 2013年11月30日；京都市
国内学会	堀尾　綾香、植田　裕美、内海　真和、安達　紀美子、森　英人、玉田　太志、上野 裕之、北村 良雄、西田　和美、七野力. 薬剤師による手術室の薬品管理についての取組み. 日本病院薬剤師会近畿学術大会. 2014年2月2日；京都市
国内学会	北村良雄 投薬プロセスにおける事故の現状と対策の提案. 香川県病院薬剤師会「薬剤師のための学術講演」. 2014年2月7日；高松市
国内学会	北村良雄 病棟薬剤業務実施加算の算定が薬物療法の質的向上に寄与したかについての検討. 医療マネジメント学会第11回京滋支部学術集会. 2014年2月15日；京都市
国内学会	植田　裕美、吉水　浩史、横山　晋一郎、渕崎　恵美子、竹松　茂樹、上野　裕之、玉田　太志、北村　良雄. 京都医療センターにおける糖尿病薬の投与後検査実施遵守に係る調査について. 近畿国立病院薬剤師会学術集会. 2014年3月8日；大阪市
国内学会	喜田　孝史、岸本　周子、中尾　元紀、上野　裕之、北村　良雄、赤尾　昌治、坂根　直樹. 新規抗凝固薬ﾘﾊﾞｰﾛｷｻﾊﾞﾝ療養中のPTに関する検討. 第78回日本循環器学会学術集会. 2014年3月21日；東京都

臨床検査科

臨床検査科長
藤森　洋一

専門医資格等
日本整形外科学会

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
病理医師	山本　鉄郎	日本病理学会 日本臨床細胞学会
病理医師	森吉　弘毅	日本病理学会 日本臨床細胞学会
エコー指導医	小坂田元太	日本循環器学会 日本内科学会 日本超音波医学会
臨床検査技師長	益田　喜信	
副臨床検査技師長	住田　善之	超音波検査士（循環器）
副臨床検査技師長	末武　貢	超音波検査士（循環器・消化器） 認定緊急臨床検査士
主任臨床検査技師	常松　裕子	認定緊急臨床検査士
主任臨床検査技師	木下　晴希	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	溝上　泰司	
主任臨床検査技師	福田　修	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	小原　伸之	超音波検査士（循環器・消化器・血管領域） 糖尿病療養指導士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	角谷　勇実	認定輸血検査技師
主任臨床検査技師	林　文子	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	鶴田　康倫	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	鈴木　雅樹	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	島田　良員	
臨床検査技師	高橋　洋一	超音波検査士（消化器）
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	土田　幸生	認定血液検査技師
臨床検査技師	小森　法子	認定血液検査技師
臨床検査技師	西山　智美	超音波検査士（循環器） 認定緊急臨床検査士

臨床検査技師	相原美奈子	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	松本　俊一	
臨床検査技師	栗山　陽子	認定輸血検査技師 認定血液検査技師
臨床検査技師	山本紗耶香	
臨床検査技師	伊藤　智慧	
臨床検査技師	塩澤　洋子	認定輸血検査技師 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	伊瀬あゆみ	
臨床検査技師	山本　紗綾	
臨床検査技師	吹田　卓也	
臨床検査技師	園田美代子	
臨床検査技師	永阪麻衣子	
臨床検査技師	前川美翠穂	
臨床検査技師	王　麗央奈	
臨床検査技師	内山有里紗	
非常勤技師	佐伯　ミカ	
事務助手	村井　佳世	
事務助手	小野　忍	
事務助手	岡　由美	
事務助手	岩崎　京子	
事務助手	川口　真弓	
事務助手	北村　直子	

□ 科(室)の特徴

1. 正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
2. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
3. 緊急検査は、２４時間対応しています。
4. 感染防御という立場から積極的に取り組むため、ＩＣＴ（感染防御チーム）の活動に臨床検査技師も参加しています。
5. 輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

□ 業務内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の２つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにした検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。。

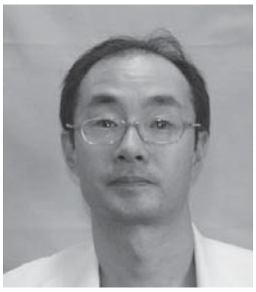
□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	住田善之.臨床に即した超音波診断～弁膜症を見直す～僧帽弁逆流　定量化は必要.第３８回日本超音波検査学会学術集会
国内学会	吹田 卓也、井戸 千晶、相原 美奈子、溝上 泰司、新田 幸一、池田 俊彦、末武 貢、古田 賢二、益田 喜信、金崎 幹彦.異常リポ蛋白が脂質測定系に影響を与えた１症例.平成２５年度　第４１回国臨協近畿支部定期総会学会
国内学会	福田修.今さら聞けない細菌のあれこれ.院内感染対策講演会
国内学会	大上 哲也、鶴田 康倫、木下 晴希、森吉 弘毅、山本 鉄郎、南口 早智子.胆管擦過細胞診における従来法（ブラシ擦過）とLBC法（ThinPrep)の細胞所見の検討.第３０回日本臨床細胞学会京都府支部学術集会
国内学会	木下晴希.甲状腺・唾液腺の細胞診.平成２５年度細胞検査士育成研修会
国内学会	住田善之.心エコーハンズオンセミナー　壁運動評価.第６１回日本心臓病学会学術集会
国内学会	大上哲也.細胞診スライド模擬試験.京臨技細胞診スライド模擬試験
国内学会	福田修.CREの検出状況について.ICT研究会
国内学会	住田善之.心エコー検査の進め方・検査のツボ.ベルランド総合病院・府中病院・大阪府済生会富田林病院合同勉強会
国内学会	鶴田康倫.セルブロックの有用性.がん診療セミナー第１回グランドセミナー
国内学会	福田修.臨床検査技師から見た抗菌薬適正使用について.院内感染対策講演会
国内学会	常松裕子.検査科の感染対策予防について.検査科カンファレンス
国内学会	土田幸生.第２９回京都府臨床検査技師会精度管理報告（血液）.京都府臨床検査技師会血液検査分野講演会
国内学会	福田修.アウトブレイク対策　臨床検査技師の視点.宇多野病院ラウンド&講習会
国内学会	末武貢.臨床検査から見た医療安全.平成２５年度医療安全管理研修会
国内学会	住田善之.左房評価について.OSAKA心血管エコー研究会平成２５年度第６回（通算１６９回）
国内学会	相原　美奈子.肝臓疾患のマーカーについて.国臨協　近畿支部　学術研修会
国内学会	内山有里紗、吹田卓也、山本紗耶香、相原美奈子、溝上泰司、池田俊彦、末武貢、益田喜信、藤森洋一.トロポニンI導入の経緯とメリット.成果発表会
国内学会	土田幸生.第３０回京都府臨床検査技師会精度管理報告（血液）.京都府臨床検査技師会精度管理合同報告会
国内学会	伊藤 千慧、園田 美代子、福田 修、常松 裕子、末武 貢、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一.CHROMagarTMESBL培地導入のメリット.成果発表会
国内学会	園田 美代子、伊藤 千慧、福田 修、常松 裕子、末武 貢、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一.細菌検査報告の迅速化への取り組み.成果発表会
国内学会	小森法子.標本から何をよみとるか.京都府臨床検査技師会血液検査分野講演会

□ 投稿論文など

著 書・雑 誌 名	著 者 ・ タ イ ト ル
Medical Technology　臨時増刊	住田善之　感染性心内膜炎疑いで検査を依頼されたら何をみたらよいのか
Medical Technology　臨時増刊	住田善之　左房内腫瘤から何を疑うか
心エコー	住田善之　正しいドプラ計測をマスターする右心系

臨床栄養科



臨床栄養科長
大谷　哲之

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
栄養管理室長	西田　博樹	
副栄養管理室長	大池　教子	日本糖尿病療養指導士・病態栄養専門師・NST専門療法士
主任栄養士	真鍋　悟	
栄養士	山地　聡子	
栄養士	内川　厳志	
栄養士	三浦あゆみ	
栄養士	後　沙苗	日本糖尿病療養指導士
非常勤栄養士	安藤　由美	
非常勤事務助手	菅　共子	
調理師長	福井　勝	
副調理師長	河添　幸弘	
副調理師長	石井　俊雄	
主任調理師	山田　弘喜	
主任調理師	西田　正直	
調理師	坂本　尚人	
調理師	桝村　勝利	
調理師	澤辺　元弘	
調理師	荒川　和彦	
調理師	博多　健二	
調理師	松尾　隆生	
調理師	蒲生　亘	
非常勤調理助手	藤井　恵子	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設

1. 管理栄養士専従による栄養サポートチーム活動
2. 専門外来栄養指導の実施

３. 特別メニュー食の提供
４. 個人対応食（PS食）の提供
５. 緩和ケア病棟での特別行事食の実施

□ 診療（業務）内容

１. 食事の提供

入院患者を対象に大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた管理のもと、安全な食事（一般食及び治療食）を提供。 また、今年度については、衛生管理マニュアルの改訂を実施した。患者サービス、喜ばれる食事の一環として、週3回の選択食や月1回の行事食を実施すると共に、特別室病棟を対象に特別献立による食事の提供を行っている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、低食欲時食や個人対応食（PS食）を提供している。産科病棟に於いて母乳分泌促進のため夜食の提供を実施。今年度は高脂血症食、消化器術後食を新たに新設した。

２. 栄養食事指導

外来及び入院患者を対象に個人指導や糖尿病教室、母親教室などの集団指導を実施。個人指導では、１型糖尿病ポンプ外来や２型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来指導も実施している。

３. チーム医療

栄養サポートチーム（管理栄養士専従）や、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。

４. 教育研修

今年度は５大学より、１７名の実習生を受入れた。

□ 地域医療連携・広報活動

第28回DM京都「糖尿病と食事　今話題の糖質制限食と糖質オフ食について」　2013年6月23日
看護の日　栄養相談　2013年6月23日
第４回腎臓病教室「もしも主治医にたんぱく質を控えるよう言われたら　～食品に含まれるたんぱく質～」2013年9月7日
がん診療セミナー　緩和ケア病棟における栄養管理室の取り組み　2013年9月26日
ホスピス緩和ケア週間　栄養食事相談　2013年10月11日
糖尿病週間　栄養相談コーナー　2013年11月14日
第10回京都医療センター1型糖尿病セミナー　「思春期1型糖尿病セミナー」2014年1月25日
世界腎臓病デイ　栄養相談コーナー　2014年3月14日
16回伏見栄養療法・胃ろう研究会　一般演題「栄養剤の半固形化について～栄養剤で誤嚥し半固形化栄養に変更した一例～」2014年3月22日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	後　沙苗、三浦あゆみ、内川厳志、山地聡子、真鍋　悟、大池教子、谷川　清、久保速三、土屋宣之. 緩和ケア病棟における栄養管理室の取り組みについて　京滋緩和ケア研修会. 2013年5月25日；京都市
国内学会	後　沙苗、三浦あゆみ、内川厳志、山地聡子、真鍋　悟、大池教子、西田博樹、久保速三、土屋宣之. 緩和ケア病棟における食事サービスの取り組みについて　栄養研究会. 2014年1月25日；大阪市

医療技術部　臨床工学科

医療技術部長
伊藤　剛

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
主任臨床工学技士	井上　裕之	３学会合同呼吸療法認定士・体外循環技術認定士
臨床工学技士	柳澤　雅美	３学会合同呼吸療法認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	清水真樹子	３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	川西　恭輔	透析技術認定士
臨床工学技士	大谷　直哉	DMAT隊員・体外循環技術認定士
臨床工学技士	中村　健志	
臨床工学技士	井原　由奈	

□ 科(室)の特徴

患者さんへ、安全かつ安心して高度な医療技術が受けていただける環境づくりに努める。

□ 業務内容

臨床工学科の業務内容

臨床工学の業務は、大きく分けると【臨床支援業務】と【医療機器管理業務】の2つの分野があります。

『臨床支援業務』：呼吸・循環・代謝に関わる生命維持装置の操作

『医療機器管理業務』：院内での医療機器の効率的な運用を行う為、機器の選定から廃棄に至るまで医療機器の総合的管理

高度化した医療において、不可欠な人工呼吸器（呼吸療法）・人工透析（血液浄化療法）・人工心肺（体外循環）など、生命に直結する重要な生体機能を代行する医療機器管理と操作のプロフェッショナルとして、活動しています。また、患者さんの状態に合わせて、安全に最適な条件で治療の手助けを行い、また、病院内の医療機器全般について、いつでも、有効かつ安全・安心して臨床使用できるように運用・保守管理するという重要な役割も担っています。医療の中心にある患者さんを見据え、臨床工学技士として必要な専門知識と技術について工学分野と医学分野を交えて日々業務しています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	柳澤雅美、井原由奈、中村健志、大谷直哉、川西恭輔、清水真樹子、井上裕之　研究内容：生体情報モニター更新における理想と現実. 第23回日本臨床工学会. 2013年5月１8～19日；山形
国内学会	井上裕之　研究内容：臨床工学技士　誕生から四半世紀　～今後、病院における臨床工学技士のあり方とは～. 第23回日本臨床工学会. 2013年5月１8～19日；山形
国内学会	柳澤雅美、嵯峨慶子、別府賢、才田智子、井上裕之、三尾直士、志馬伸朗　研究内容：RST活動をラウンドから教育へのシフト・第35回日本呼吸療法医学会. 2013年7月20～21日；京王プラザホテル
国内学会	柳澤雅美、研究内容：人工呼吸器関連事象（ventilator-associated　events：VAE）サーベイランスの試み. 第41回日本集中治療医学会. 2014年2月27～3月1日；京都国際会館

国内学会	中村健志、井原由奈、柳澤雅美、大谷直哉、川西恭輔、清水真樹子、井上裕之　研究内容：臨床工学技士がICLS講習会に携わって. 第20回近畿臨床工学会. 2013年11月23～24日；なら100年会館
国内学会	井原由奈、柳澤雅美、大谷直哉、中村健志、川西恭輔、清水真樹子、井上裕之　研究内容：ATPモニタリング使用環境と清掃点検評価. 第20回近畿臨床工学会. 2013年11月23～24日；なら100年会館
国内学会	大谷直哉、井原由奈、柳澤雅美、中村健志、川西恭輔、清水真樹子、井上裕之　研究内容：麻酔科部門システム内の人工心肺モード使用した記録自動化への取り組み. 第39回日本体外循環医学会大会. 2013年11月2～3日；熊本市民会館
国内学会	井上裕之　研究内容：造影剤腎症を防ぐには.第21回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会. 2013年10月12日；千里ライフサンエンスセンター

看護部

看護部長
三井　佐代子

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす。

1．機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める。
2．看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う。
3．良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う。
4．看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する。
5．チーム医療推進のための調整を図る。
6．地域住民への健康教育活動に参画する。

□ 看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

□ 看護部の運営計画

【ＢＳＣ】
（別紙１：ＢＳＣ戦略）

【平成２５年度　看護部目標】
スローガン　「心をひとつに　看護のイノベーション」
1．パートナーシップナーシングシステム（ＰＮＳ）導入による人材育成
2．どこの病棟に入院しても満足の得られる看護の提供
3．全職員の協働による安定した経営

□ 看護部の体制

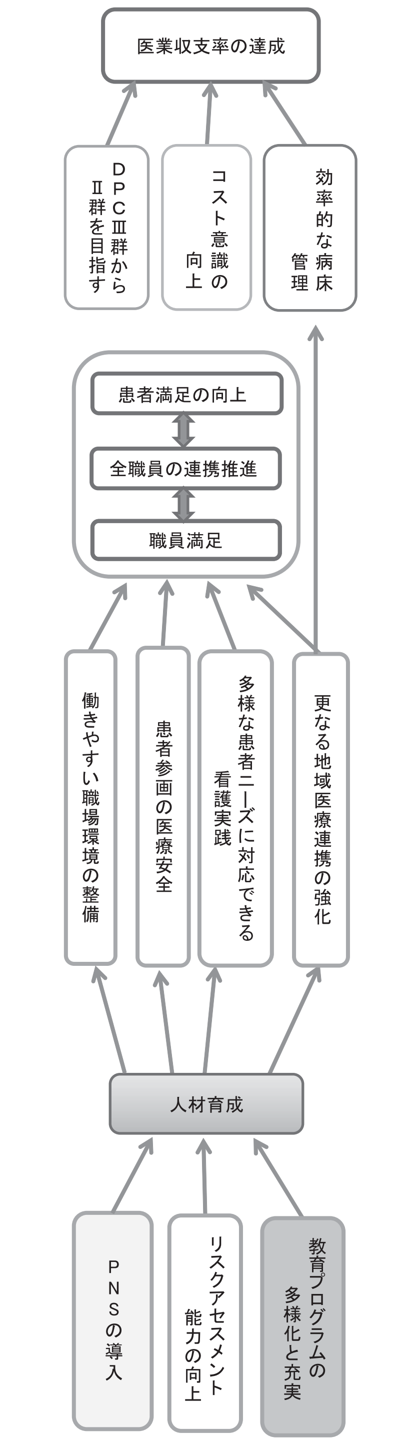
Ⅰ．看護部組織図
（別紙２：看護部組織図）

Ⅱ．看護部会議・委員会
（別紙３：看護部会議・委員会機能図）

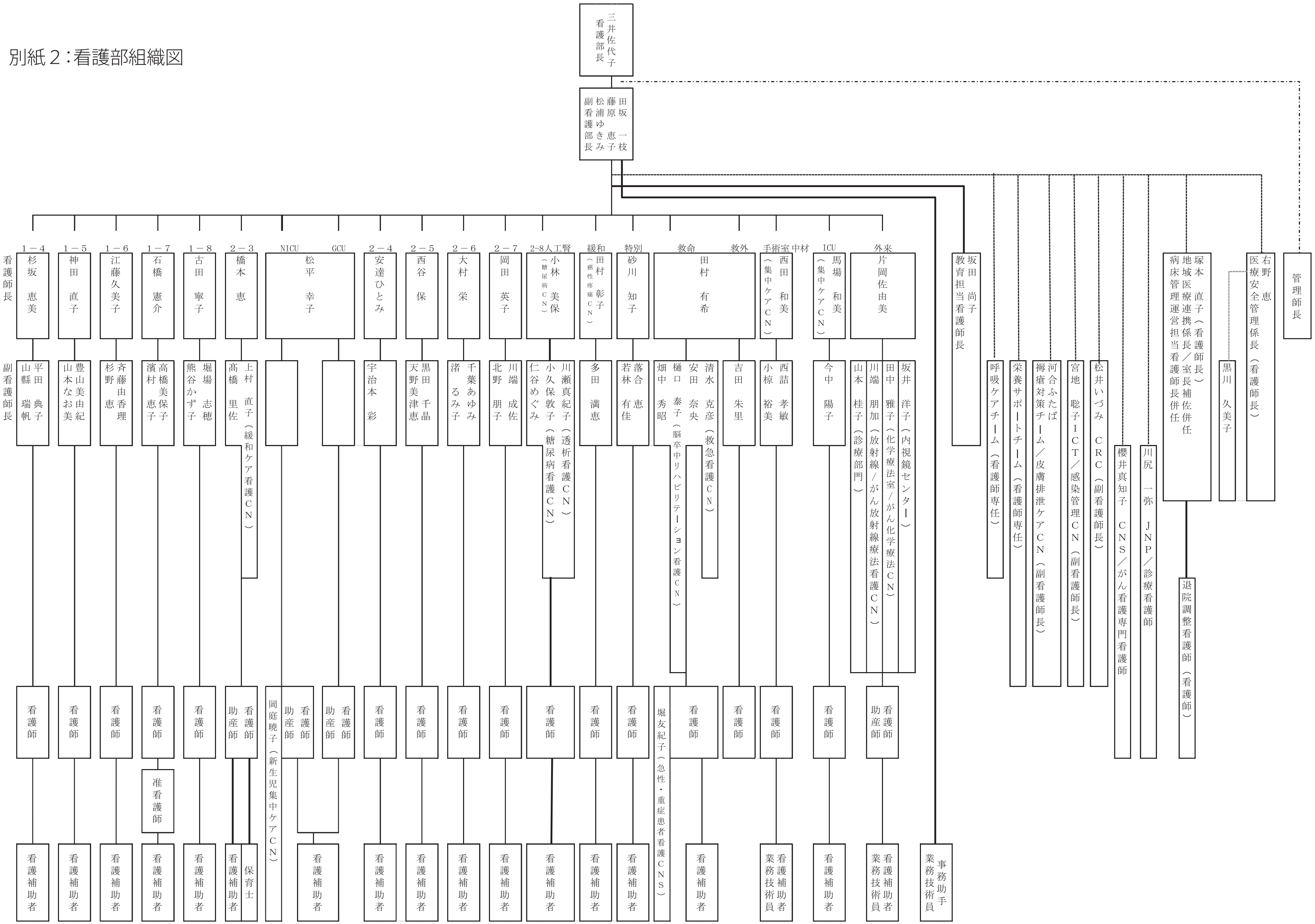
平成２５年度看護部運営方針

病院目標	「リソースを活かした安定した経営と高度医療の推進」
看護部スローガン	「心をひとつに　看護のイノベーション」
看護部目標	○パートナーシップナーシングシステム(PNS)導入による人材育成 ○どこの病棟に入院しても満足の得られる看護の提供 ○全職員の協働による安定した経営

区分	戦略目標	戦略シナリオ	重要成功要因
財務の視点	○DPCのⅢ群からⅡ群を目指す ○医業収支率の達成		・医業収支の増加 ・在院日数の短縮 ・新規入院患者数の確保 ・断らない医療 ・病診連携の強化 ・病病連携の強化 ・チーム医療の推進 ・クリティカルパスの電子化と使用 ・算定漏れ防止 ・医療機器、薬剤の破損防止 ・デットストックの削減
顧客の視点	○患者満足の向上 ○職員満足の向上		①診療科別コンサルテーションナース 診療科毎の入院基準 （病気・病態）の作成 ②療養環境・職場環境の整備 ③仲間作り 組織力の強化 接遇教育 接遇ﾏﾆｭｱﾙ活用
内部プロセスの視点	○更なる地域医療連携の強化 ○多様な患者ニーズに対応できる看護実践 ○医療安全に係る患者参画等、手順整備 ○働きやすい職場環境 ○クリティカルパスの整備		①医療安全に係る手順整備 転倒防止 療養環境 ②地域連携強化 病診連携 病病連携 ③クリティカルパスの電子化と評価 ④認知症看護 高齢者ケア Ⅳナースの育成 ⑤夜勤専従看護師の拡大 非常勤夜勤専従看護師の導入 夜間保育の導入 ⑥看護業務の明確化 非常勤看護補助者の拡大 非常勤夜勤専従看護補助者の導入 ⑦退院時ｱﾝｹｰﾄの活用 患者苦情の減少
成長と学習	○PNSの導入 ○教育プログラムの多様化と充実 ○リスクアセスメント能力の向上 ○医療チームを巻き込んだ退院支援能力の向上		①PNSの理解（現状の看護方式の評価） ②ローテーション研修（参画型研修） 専門看護研修の実施 医師・看護師共同研修 看護管理研修 ③リスクアセスメント教育 医療安全リンクナース会の発足 ④地域看護支援チームの強化 地域連携室と病棟との連携強化

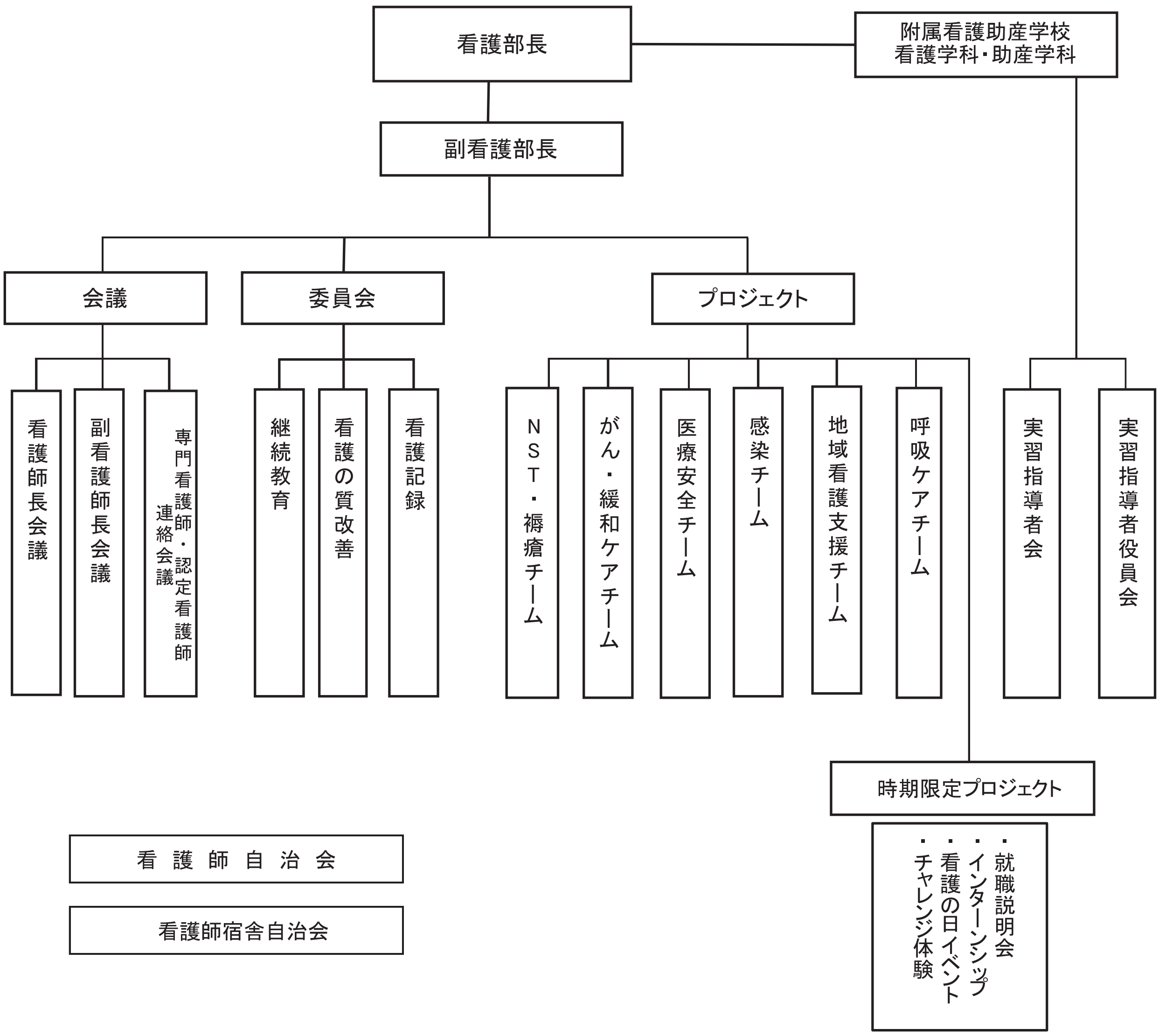


別紙２：看護部組織図



三井佐代子 看護部長
田坂一枝 藤原恵子 松浦ゆきみ 副看護部長
管理師長
右野恵 医療安全管理係長（看護師長）
黒川久美子
塚本直子（看護師長） 地域医療連携係長／室長補佐併任 病床管理運営担当看護師長併任
退院調整看護師（看護師）
川尻一弥 JNP／診療看護師
櫻井真知子 CNS／がん看護専門看護師
松井いづみ CRC（副看護師長）
宮地聡子 ICT／感染管理CN（副看護師長）
河合ふたば 褥瘡対策チーム／皮膚排泄ケアCN（副看護師長）
栄養サポートチーム（看護師専任）
呼吸ケアチーム（看護師専任）
坂田尚子 教育担当看護師長
事務助手 業務技術員
外来 片岡佐由美
坂井洋子（内視鏡センター）
田中雅子（化学療法室／がん化学療法CN）
川端朋加（放射線／がん放射線療法看護CN）
山本桂子（診療部門）
看護師 助産師
看護補助者 業務技術員
ICU 馬場和美（集中ケアCN）
今中陽子
看護師
看護補助者
手術室 中材 西田和美（集中ケアCN）
西詰孝敏 小椋裕美
看護師
看護補助者 業務技術員
救外 救命 田村有希
吉田朱里
看護師
清水克彦（救急看護CN）
安田奈央
樋口泰子（脳卒中リハビリテーション看護CN）
畑中秀昭
看護師
看護補助者
堀友紀子（急性・重症患者看護CNS）
特別 砂川知子
落合恵 若林有佳
看護師
看護補助者
緩和 田村彰子（緩和性疼痛CN）
多田満恵
看護師
看護補助者
2-8人工腎 小林美保（糖尿病CN）
川瀬真紀子（透析看護CN）
小久保敦子（糖尿病看護CN）
仁谷めぐみ
看護師
看護補助者
2－7 岡田英子
川端成佐 北野朋子
看護師
看護補助者
2－6 大村栄
千葉あゆみ 渚るみ子
看護師
看護補助者
2－5 西谷保
黒田千晶 天野美津恵
看護師
看護補助者
2－4 安達ひとみ
宇治本彩
看護師
看護補助者
GCU NICU 松平幸子
看護師 助産師
看護師 助産師
看護補助者
岡庭暁子（新生児集中ケアCN）
2－3 橋本恵
上村直子（緩和ケア看護CN）
髙橋里佐
看護師 助産師
保育士
看護補助者
1－8 古田寧子
堀場志穂 熊谷かず子
看護師
看護補助者
1－7 石橋憲介
高橋美保子 濱村恵子
看護師
准看護師
看護補助者
1－6 江藤久美子
斉藤由香理 杉野恵
看護師
看護補助者
1－5 神田直子
豊山美由紀 山本なお美
看護師
看護補助者
1－4 杉坂恵美
平田典子 山縣瑞帆
看護師
看護補助者
看護師長
副看護師長

別紙３：看護部会議・委員会組織図（機能図）



看護部が関わる主な病院諸会議

- ○管理診療会議
- ○経営企画・業績評価委員会
- ○サービス向上委員会
- ○薬事委員会
- ○診療報酬管理委員会
- ○病床管理委員会
- ○外来管理委員会
- ○手術室運営委員会
- ○集中治療室運営委員会
- ○救命救急委員会
- ○緩和ケア運営委員会
- ○地域医療連携委員会
- ○褥瘡対策委員会
- ○栄養管理委員会・NST委員会
- ○透析委員会・小委員会
- ○輸血療法委員会・小委員会
- ○化学療法委員会
- ○医療安全管理委員会
- ○医療事故対策委員会
- ○リスクマネージャー会
- ○院内感染対策委員会
- ○災害対策委員会
- ○医療機器安全管理委員会
- ○医療情報委員会・小委員会
- ○クリティカルパス委員会
- ○広報委員会
- ○安全衛生委員会
- ○過半数代表者会議・選出選挙委員会

□ 会議・委員会活動

Ⅰ. 会議

1. 看護師長会（ワーキング活動）

1）病院経営ワーキング

＜目標＞

（1）看護師長として必要な病院経営についての知識を深めることができる

（2）各病棟の処置入力漏れについて調査し、診療密度を上げるための対応策を実施・評価する

（3）平成26年度の診療報酬改定に伴う看護部の課題を見出すことができる

＜活動内容＞

（1）講義・学習会の開催

月日	内容	対象
5 月 21 日	講義「DPC 基礎知識と当院の経営状況」	看護師長
6 月 18 日	講義「診療報酬について～処置・材料編～」	看護師長
11 月 13 日	講義「看護と経営」	6 年目以上看護師
1 月 18 日	講義とディスカッション 「平成 26 年度診療報酬改訂の概要について」	看護師長

（2）各病棟の入力漏れ防止計画を立案・実施・評価

医事課の入力漏れデータを共有し、各病棟・ワーキングで分析・評価に活用

＜成果と課題＞

・学習会を計4回実施し、講義・討議を通して病院経営に必要な知識を深めた

・処置入力漏れ対策実施により、算定状況3.8%上昇（処置19.5%↑）し診療密度上昇に貢献した

2）看護倫理ワーキング

＜目的＞

（1）院内看護師の倫理観の育成

（2）各病棟の倫理的な問題にきづく能力を養う

＜目標＞

（1）倫理原則に基づいた事例検討会を、3回／年開催できる

（2）研修参加者が、カンファレンスで倫理的視点を持った発言ができる

＜活動内容＞

（1）検討会の開催

月日	内容	対象
7 月 16 日	第 1 回　事例検討 「患者の意思を尊重する看護とは」	病棟看護師 23 名
8 月 27 日	文献学習とグループ討議 「スタッフの倫理的視点をどう育てるか」	看護師長
11 月 19 日	第 2 回　事例検討 「患者の人格を尊重する看護とは」	病棟看護師 26 名
2 月 4 日	第 3 回　事例検討会 「患者の QOL をどう考えますか」	病棟看護師 21 名

＜成果と課題＞

・研修参加者は現場での倫理的問題に気づき行動へとつながっている。今後他のスタッフへの働きかけ等が課題であり、OJTでの関わりが重要な課題である。

3）PNSワーキング
＜目的＞
（1）パートナーシップナーシングシステム（PNS）を導入することで、安全で質の高い看護が提供できる
＜目標＞
（1）PNSの意義を理解し、全病棟で導入できる
＜活動内容＞
（1）伝達講習

月日	内容	対象
6月13日	・PNS導入について ・福井大学医学部附属病院PNS研修報告とその後の取り組みについて	看護師長 副看護師長

（2）看護方式に関する現状調査の実施
調査日時：7月23日～8月6日、対象：看護師長、副看護師長
（3）看護師長・副看護師長合同学習会

月日	内容	対象
10月10日	・看護方式に関する現状調査結果の説明 ・PNS取り組みについての病棟中間発表 ・ディスカッション 「PNS導入で看護の質はどう変化するか」	看護師長 副看護師長

＜成果と課題＞
・現状の固定チームナーシングのメリット・デメリット、PNS導入への課題を明確にすることができた
・PNSは、6病棟（1-4、1-5、1-8、2-4、2-7、2-8）で一部導入を行った
・PNSの効果についての評価は今後の課題である

4）看護管理ワーキング
＜目標＞
（1）看護補助者（看護助手・病棟クラーク）の業務の見直し
（2）平成25年度看護部取り組みを評価し次年度への課題を見出す
＜活動内容＞
（1）看護助手業務の見直し
①現状把握（委託業務内容の確認）
②看護周辺業務に関する業務量調査の実施
調査日時：6月26日、対象：看護助手・病棟クラーク・看護師全員
内容：看護周辺業務の各項目の1件当たりの所要時間と1日当たりの件数
③調査結果より看護補助者業務（業務範囲、業務基準、研修内容等）に関する検討を実施し、7月23日看護師長会議にて審議
④看護補助者（看護助手）マニュアルを完成
⑤看護補助者研修の実施・評価・見直し
・採用者受け入れ時のオリエンテーションの実施
・フォローアップ研修の実施3回（11/6・12/4・2/5）

（2）平成26年度看護部目標設定に向けた取り組み

ワーキングメンバーを中心に、看護師長会（合同会議）を通じて下記の検討を行った。

①平成25年度看護部で取り組んでいる会議・委員会・プロジェクト等の内容の確認と評価

②各病棟の目標に対する活動内容と評価の整理

③平成25年度BSC評価について、項目ごとに上記①②の評価内容を含め課題を整理

④SWOT分析の実施による課題の明確化

⑤平成26年度看護部目標立案に当たっての課題整理

＜成果と課題＞

・看護補助者オリエンテーションマニュアルを整備し、10月1日より看護補助者の受け入れが可能となった。マニュアルの評価と見直し、定着への課題あり

2．副看護師長会

＜目的＞

看護部の目標達成に向け副看護師長の役割を果たす

＜目標＞

1）看護基準・看護手順の整理ができ、新たに必要な看護基準・看護手順を作成することができる

2）看護師長補佐、代行としての役割と業務ができる

3）パートナーシップシステムを理解し導入に向けて取り組める

＜活動内容＞

月日	内容	
	副看護師長会議	副看護師長学習会
4 月 12 日	平成25年度年間活動計画について	平成25年度年間活動計画について
5 月 10 日	看護手順見直しについて見直し方法の決定	看護管理（代行時のや鵜割について）
6 月 13 日	PNS導入による人材育成について（病棟での取り組み）	PNS導入による人材育成について（副看護師長としての関わり）
7 月 11 日	満足の得られる看護の提供について（患者が満足する病棟や看護とは）	満足の得られる看護の提供について（副看護師長としての働きかけ）
9 月 12 日	看護手順見直し	アセスメント能力向上への関わり
10 月 10 日	病床運営について（無駄なく効率よく運営するには）	無駄なく効率よく病床運営するための副看護師長としての行動
11 月 7 日	看護手順の見直し	チーリーインベントリー結果からの課題について
12 月 12 日	PNS導入後の現状と今後の課題について	PNS今後の課題達成の方法
1 月 9 日	看護手順見直し	中堅看護師への意図的な関わり方
2 月 13 日	今年度の評価と次年度課題	今年度の評価と次年度課題
3 月 13 日	次年度の看護部目標について	次年度の看護部目標について

３．専門看護師・認定看護師連絡会

＜目的＞

専門看護師・認定看護師が各分野において専門的知識・技術を基に高度な看護実践を行うこと、そして各分野の専門看護師・認定看護師が協力し合い、看護師への教育・指導に携わり京都医療センターの看護の質向上を図る

＜活動内容＞

１）第5回専門看護師・認定看護師セミナーの企画・運営を行い、院外102名、院内42名の参加があった。

２）院内外への活動発信として、ポスター掲示・毎月のうづら便り・ホームページの活用を行った。

３）最新情報の発信と知識の共有：専門・認定看護師（14分野）の研修会開催

Ⅱ．委員会

１．継続教育委員会

＜目標＞

１）経年別研修計画の企画運営ができ、到達目標に導くことができる

２）集合教育と機会教育の連携を図る

３）職場の活性化を図り離職防止につなげる

＜活動内容＞

１）

新採用者研修	72 名	9 テーマ 15 回、3 日間の看護技術演習 ローテンション研修（4 名）
既卒研修	14 名	3 テーマ 3 回
実務Ⅰ前期（2 年目）研修	76 名	4 テーマ 8 回
実務Ⅰ後期（3 年目）研修	72 名	3 テーマ 6 回
実務Ⅱ（4 年目）研修	65 名	3 テーマ 6 回
実務Ⅱ（5 年目）研修	37 名	4 テーマ 4 回
実地指導者研修（3 年目以上）		1 テーマ 1 回
キャリア支援（6 年目以上）研修		2 テーマ 2 回

２）参加型研修とし、事前課題・研修・事後課題・次への評価とつなげた。
　　研修が実践活動につながるよう企画・実施した。

２．看護の質改善

＜目標＞

１）退院時アンケートをもとに看護の質評価を行い、分析結果を質改善に活用する

２）看護手順・看護基準の監査ができる

＜活動内容＞

１）退院時アンケート結果より改善が必要と考えられる項目について検討した

①説明：入院のしおり、病棟パンフレット等の見直し・改訂

②接遇：身だしなみチェックリスト作成と評価の実施

③連携：医療者間の情報共有・連携の改善

④退院時アンケート内容・方法の見直し、改訂案作成

２）看護手順Ⅰ～Ⅳのうち56項目、看護基準Ⅰ～Ⅳのうち5項目の監査を実施
　内容について見直しを実施

3．看護記録委員会

＜目標＞

1）看護記録内容の質を向上させる

2）看護過程の思考プロセスを理解し看護展開ができる

3）電子カルテ更新に向けた準備を進めることができる

＜活動内容＞

1）6症例／月の看護記録監査を実施し内容の分析を行った

2）看護記録の症例検討会を3回実施

①意図的な情報収集により問題点を明らかにできる

②優先順位を考慮した診断・看護目標・看護計画が立案できる

③所属病棟の指導に活かすことができる

3）電子カルテの更新に向け、看護記録の問題点の抽出、標準看護計画・転棟チェックリストの評価を実施。標準看護計画については見直し更新を行った。

Ⅲ．プロジェクト

1．感染チーム会

＜目標＞

1）ゴージョ使用量増加とMRSA新規発生の減少

2）根拠に基づいた感染対策の実施・啓発活動

3）病棟ラウンドの結果から。各部署の改善点に気づき、感染対策改善につなげる

＜活動内容＞

1）今年度ゴージョの個人持ちを導入した。

2）ノロウィルス、インフルエンザウィルス対策について講義資料を作成し、各部署でリンクナースが事例討議を行うことで理解を深めた。

3）病棟ラウンドチェック表を作成し、3回／年のラウンドを行い、現場の改善に成果があった。

2．医療安全チーム会

＜目標＞

1）指差呼称を定着させ、記録・与薬・処置におけるインシデントを減らす

2）転倒転落予防について患者・家族参加を含めたマニュアルを整備し活用できる

3）インスリン関連のインシデントを減少させる

＜活動内容＞

1）6月に指差呼称監査を実施。9月に指差呼称の強化月間として取り組み、10月・1月に再度監査を実施し指差呼称の定着が得られた。

2）転倒転落報告と事例分析の実施。転倒転落防止セミナーを開催し51名参加
オリエンテーション用紙の見直し行い入院時に活用

3）インスリンインシデントは6.5件／月発生している。薬剤科と協働し、インスリンの保管管理について現状調査を実施し、改善策を検討した。2ー8病棟をモデル病棟として薬剤科との協働業務を開始した。

3．がん緩和チーム会

＜目的＞

1）がん医療に貢献できる看護師の育成とがん看護の質向上

＜目標＞

1）臨床事例からがん患者・家族をトータルペインの視点で捉えることができる

2）化学療法・放射線療法時にグレード評価による副作用の評価ができる

3）疼痛アセスメントの強化を図る

4）患者、職員への緩和ケアの普及ができる

＜活動内容＞

1）トータルペインの講義を実施。がん性疼痛事例3回、ICを受ける患者への関わり事例を2回実施し、委員会内で検討後、各病棟スタッフへの周知を行った。

2）CTCAEの必要性について講義を実施。CTCAE実施の1week調査・アンケート調査を実施し、普及率を評価し、電子カルテのケアフローへの展開について検討した。

3）疼痛アセスメントシート記入について伝達・周知。使用状況についての調査を行い活用推進に向けたフィードバックを行った。

4）10月にホスピス緩和ケア週間イベントを実施。

4．NST・褥瘡チーム会

＜目標＞

1）嚥下評価が理解でき、介入すべき患者を選択しコンサルトすることができる

2）ポジショニングの指導強化を行って、褥瘡発生率の低下につなげることができる

＜活動内容＞

1）7月「嚥下と誤嚥」12月「栄養について」の勉強会を実施。

2）6月・9月・11月・1月とポジショニングラウンドを実施し、看護実践現場に介入し、ポジションニングについての技術の徹底を行った。

3）NST委員会との連携のもと、リンクナースの知識向上のための学習会を毎月実施。

5．地域支援チーム会

＜目的＞

1）患者・家族が安心して退院・転院を迎えることができるよう支援ができる

＜目標＞

1）退院調整能力の向上を図る

2）訪問看護ステーションの活動内容を理解する

＜活動内容＞

1）退院支援の強化を図るために、退院支援計画書内容の検討を行った。
また退院支援計画立案・評価のための退院支援カンファレンスの実施を推進した。
地域支援に対する知識の向上を目的に4事例の事例検討を行った。

2）退院支援看護計画の件数報告と対策の明確化。
退院支援の介入状況・カンファレンス記録の情報共有できるようテンプレートを作成した。

3）リンクナース対象に2回学習会を実施。
11月20日に訪問看護師交流会を実施、14施設14名の訪問看護師が参加。
当院看護師38名が参加、医師によるミニレクチャーと意見交換会を行った。

6．呼吸ケアチーム会

＜目標＞

1）RST活動とリンクし、呼吸ケアの質向上を図る

2）呼吸ケアマニュアルの作成・完成

3）呼吸ケアマニュアル（吸引・気管挿管チューブの固定・口腔ケア）が正しく活用できる

＜活動内容＞

1）RSTラウンドの実施とRST主催の勉強会の開催（14テーマにて8回実施）

2）呼吸ケアマニュアルは、Ⅲ人工呼吸器の3項目とⅣ呼吸ケアの4項目を完成させた。

3）呼吸ケアマニュアルに沿って口腔ケアチェックと技術チェックのラウンドを実施できた。

7. 時期限定プロジェクトチーム

＜目標＞

1）看護を広くアピールする方法を検討し実践する

2）質の高い看護職員の確保に向けた積極的活動を行う

＜活動内容＞

就職説明会	就職説明会への参画
1 日まちの保健室	6 月 25 日イズミヤにて「まちの健康相談室」を開催し、身体測定、健康相談、禁煙相談等を実施
インターンシプ	7 月 24 日～26 日、8 月 1 日・2 日に実施し 9 名参加
ふれあい看護体験	7 月 22 日実施し高校生 5 名参加
中間評価発表会	10 月 17 日実施、各看護単位の取り組みを発表。217 名参加
中学生チャレンジ体験	11 月 6･7･8 日に藤森中学より 3 名が看護体験 11 月 12･13･14 日に深草中学より 6 名が看護体験

□ 看護部の運営実績

（別紙４）

□ 地域医療連携・広報活動

1. がん看護研修ステップⅠ・Ⅱ

ステップⅠ：7月27日・9月21日・10月19日・12月2日実施。修了者：院外16名、院内36名

ステップⅡ：9月6日・10月2日・11月7日・12月19日実施。修了者：院内13名

2. 糖尿病看護教育セミナー

第1回：8月31日　、第2回：10月20日

参加者：院内23名、院外4施設7名

3. 専門・認定看護師セミナー

10月26日開催、14テーマにて講義・演習を実施

参加者：144名（院外102名、院内42名）

4. 1日まちの保健室、ふれあい看護体験、中学生チャレンジ体験

（委員会活動参照）

□ 学術活動

1. 投稿　　（別紙５）

2. 院外発表　（別紙６）

3. 院内発表　（別紙７）

別紙４

平成２５年度看護部運営実績

病院目標　「リソースを活かした安定した経営と高度医療の推進」

看護部スローガン　「心をひとつに　　看護のイノベーション」

看護部目標
○パートナーシップナーシングシステム(PNS)導入による人材育成
○どこの病棟に入院しても満足の得られる看護の提供
○全職員の協働による安定した経営

ＢＳＣ（看護部目標　ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ シート）

区分	戦略目標	重要成功要因	平成25年度	目標値	実績	内容
財務の視点	・DPCのⅢ群からⅡ群を目指す ・医業収支率の達成	医業収支の増加	経常収支率	101.7	103.9	
			医業収支率	102.2	103.8	
		在院日数の短縮	平均在院日数	14.3	14.1	今年度の目標は達成しているが、次年度診療報酬改定では90日を超えて入院している特定除外患者も含まれる。4泊5日以内の退院はＩ入院当りの全包括点数・平均在院日数対象外となるため、クリティカルパスの見直しが必要（手術・検査日の見直し）パスから逸脱しないよう感染防止対策、医療安全対策、褥瘡予防対策などを継続する。
		新規入院患者数の確保	平均在院患者数	545	539.2	
			病床利用率	90.8	89.9	
		断らない医療	地域医療連携室で入院を断った件数	前年度以下	35.0	前年度と比較し、断った件数は減少。（前年度47件）
			救急端末ｸﾛｰｽﾞ 時間	0	1日3:25	昨年１０月に生じた停電のため１６時間のクローズ時間があったが、それ以外では、満床のため数時間クローズとなった。（前年度277：37時間）
			不応受率　ホットライン	前年度以下	5.8	ホットライン：地域連携とも不応受率は改善。
			不応受率　地域連携室		5.7	
			不応受率　合算		5.8	

		病診連携・病病連携強化とチーム医療の推進	合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ件数	合同カンファレンス件数	5.4	合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの評価指標として、退院時共同指導・退院調整加算等を参照。連携強化や推進のためのプランは、地域看護支援チームの取り組みは成果を上げたが、診療科単位毎の課題への取り組みも今後必要である。
		クリティカルパスの電子化と利用	ｸﾘﾃｨｶﾙﾊﾟｽの電子化	クリティカルパス電子化件数	新規2件　計138件	
		算定漏れ防止	算定漏れ金額	前年度以下		入力漏れ防止対策の実施により、算定状況3.8%に上昇。(投薬3.3%↑、注射6.3%↓、処置19.5%↑、検査12.7%↑等) 処置項目の上昇は、看護部として診療密度アップに貢献できた。
		医療機器、薬剤の破損防止	医療機器破損件数	前年度以下		医療・看護用品の定期的な点検。破損時の速やかな報告・修理依頼を行っている。　修理費用や破損薬剤の薬価を把握し不要な支出に対して意識づけする。
		デッドストックの削減	ＳＰＣ回転率	回転率上昇		3月ごとの回転率を2回提示し病棟単位で見直しを実施。回転率の悪い物品は、関連病棟での連携や適切な物品入り替えを提案できた。
顧客の視点	・患者満足の向上 ・職員満足の向上	診療科別コンサルテーションナース	ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ件数	コンサルテーション件数	４件	・各病棟でのｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝﾅｰｽ育成状況、具体的取り組みを目標に挙げたことで相談しやすくなった。
		診療科毎の入院基準（病気・病態）の作成	診療科毎の入院基準の作成	診療科毎の入院基準完成		・診療科毎の入院基準作成について、必要な手順は副看護師長会にて作成、現状の見直しを質改善が行った。手術時入室手順、手術前オリエンテーション、入室DVDを作成し、共通の説明が行えるようにした。
		療養環境・職場環境の整備	退院時ｱﾝｹｰﾄの評価	取り組み計画立案		各病棟での退院時アンケート活用状況と評価をおこなった。
			環境改善実績	改善件数		・療養環境改善としてナースコール更新工事（心電図モニターとの連動）を実施。設備の更新により、患者の安全性と快適さ確保につながった。
			患者からの苦情件数（環境）	退院時アンケート結果：スタート時より改善		・看護部退院時アンケート結果では、トイレ・浴室などの苦情が多い。今後も可能なハード面の整備と共にソフト面での対応も検討していく。
		・仲間作り ・組織力の強化 ・接遇教育 接遇マニュアル活用	・ﾁｰﾑｲﾝﾍﾞﾝﾄﾘ実施		全体平均 3.2	・10月と2月にﾁｰﾑｲﾝﾍﾞﾝﾄﾘｰを実施。10月の全体平均は「3.2」、2月の全体平均は「3.2」であった。病棟個別での変化はあり、チーム活動の評価指標として活用できた。
			・患者からの苦情（接遇・連携等）	身だしなみ 連携	95.5%が問題なしと回答 75.5%が問題なしと回答	・退院時アンケートの評価結果からは、項目ごとの変化は見られず傾向に変化ない。携帯電話使用に関する記述意見は減少している。
			・接遇研修回数 ・挨拶チェック（他部門からのチェック）	研修回数：年２回 挨拶チェック年３回		・看護の質改善委員会で「オアシス運動」「身だしなみチェック」に取り組み、効果についての評価を行った。
		・医療安全に係る手順整備 ・転倒防止 ・療養環境	・患者参画の転倒防止マニュアル作成	・マニュアルの作成		転倒転落防止のためのパンフレット見直しを行い、各病棟で活用している。入院時の患者家族参画を積極的に行い、転倒率減少につなげていく。
			・転倒率 看護師要因の転倒件数減少	・転倒率：前年度以下 ・看護師要因転倒モニタリング（4月と比較）	0.34	転倒転落発生は、看護部目標は達成しているが、医療安全の目標0.33には至っていない。今後ますます高齢患者も増加することが予測され、引き続き対策強化を図っていく。

内部プロセスの視点	・更なる地域医療連携の強化 ・多様な患者ニーズに対応できる看護実践 ・医療安全に係る患者参画等、手順整備 ・働きやすい職場環境 ・クリティカルパスの整備		・誤薬件数	・誤薬件数：前年度以下	104.8	指差呼称徹底への取り組みの結果、11月以降は６Rの改善と与薬（注射）ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ件数が減少したが、実施直前での６R確認不足によるインシデントを防止していく必要がある。
		地域連携強化 ・病診連携 ・病病連携	・平均在院日数	・平均在院日数：14.8日	14.1	
				・地域連携パス：前年度以上	脳卒中：79 大腿骨：35	
			・合同カンファレンス実践件数	・長期入院（転院待ち）患者数（%）：前年	19.6	
		・クリティカルパスの電子化と評価	・電子化したパスの数 ・パス大会の開催	・電子化したパス数 ・パス大会：１回以上	新規2件　計138件	3/7　クリティカルパス大会開催を開催。パスの新規作成と共にパス大会も1回のみの開催となった。引き続き拡大が必要である。
		・認知症看護 ・高齢者ケア ・Ⅳナースの育成	・認知看護研修回数	・認知症看護研修：２回	未実施	研修未実施
			・高齢者ケア研修回数	・高齢者ケア研修：２回	２回実施	医療安全チーム会主催「高齢者対応危険予知」の学習
			・ＩＶナースの院内認定	・Ⅳナースの院内認定：4名以上（外来化学療法センター看護師）		Ⅳナース認定研修を3回実施
		・夜勤専従看護師の拡大 ・非常勤夜勤専従看護師の導入 ・夜間保育の導入	・一般病棟への導入件数	・夜勤専従看護師一般病棟への導入：１	特別個室病棟にて１名実施	特殊病棟で2ヵ所、一般病棟で1ヵ所実施。
			・非常勤夜勤専従看護師の人数	・非常勤夜勤専従看護師の導入：1病棟以上	１病棟で３か月実施	1病棟で3ケ月間実施
			・夜間保育	・夜間保育の導入	導入未	導入未（利用割合、必要性の是非を要検討）
				・年休取得：前年度以上	9.01／年	
				・超過勤務：前年度以下	７時間／一人平均	平均では目標達成。業務改善の実施と必要人員の配置を検討する。
				・離職率：前年度以下	11.1%	新採用離職率はやや上昇傾向にある。離職の背景・要因を確認し、離職防止への取り組みが必要である。
		・看護業務の明確化 ・非常勤看護補助者の拡大 ・非常勤夜勤専従看護補助者の導入	・看護職と看護補助者の役割分担の明確化と導入 ・教育研修	・業務基準完成 ・非常勤看護補助者の導入	３１名採用 （内８名退職）	・看護補助業務の成文化のために、現状の調査からデータ分析を行い明確化。 ・10月から非常勤看護補助者を採用 ・平日日勤のみの導入のため、夜勤導入は行っていない
		・退院時ｱﾝｹｰﾄの活用 ・患者苦情の減少	・退院時ｱﾝｹｰﾄ結果	・退院時ｱﾝｹｰﾄの結果：満足度前年度以上		項目ごとの結果は大きな変化はなく、看護の質改善委員会にて、退院時アンケート調査について見直しを行った。次年度からはニーズに即したアンケート調査を実施していく。
			・患者苦情件数	・苦情件数：前年度以下		
		①PNSの理解（現状の看護方式の評価）	看護師長会ＰＮＳワーキングの立ち上げ			
			ＰＮＳ導入病棟数	PNS導入：10病棟以上	６病棟で一部導入	看護師長会ワーキング活動を実施し、今年度一般病棟の6つの病棟にて、PNSを一部導入することができた。今後は導入の評価を行い結果を提示していく必要がある。

成長と学習	・PNSの導入 ・教育プログラムの多様化と充実 ・リスクアセスメント能力の向上 ・医療チームを巻き込んだ退院支援能力の向上	・看護管理研修	看護師長ワーキングの立ち上げ			
			・看護倫理	看護倫理研修開催：2回以上	3回	全病棟から24名の看護師が計3回の倫理研修に参加した。看護実践場面での活用を支援していく必要がある。
			・看護管理	看護管理研修：2回以上	2回	親任看護師長と親任副看護師長を対象に研修を実施。また看護師長会の審議時間を通じ議論の場を持った。しかし看護師長個々の看護管理能力を向上させる関わりが必要であり、次年度の課題とした。
			・病院経営	病院経営研修：2回以上	4回	医事課と連携し4回の学習会の開催と、毎月の診療報酬漏れ対策のデータ配信により、各病棟単位での取り組みを実施。処置入力もれ防止につながった。
		・ローテーション研修 ・参画型研修 ・専門看護研修の実施 CNS CN 糖尿病療養指導士 リンパ浮腫指導技能士 ・医師、看護師共同研修	・ﾛｰﾃｰｼｮﾝ研修計画	ﾛｰﾃｰｼｮﾝ研修：前年度以上	ローテーション研修:8名	
			・継続教育委員会の活性化（参画型研修）			
			・専門看護研修回数	専門看護研修：前何年度以上		専門・認定看護師連絡会を中心に、各専門分野の看護師が年間教育計画を立案し実施した。連絡会での調整・支援を行い、専任で活動している看護師の活動時間の確保と活動日誌での報告を行った。個々の能力向上につながったと考える。
			・ﾘｿｰｽﾅｰｽの活動日確保	ﾘｿｰｽﾅｰｽ活動日確保	専任看護師の時間確保	
			・ﾘｿｰｽﾅｰｽの活動報告			
		・リスクアセスメント教育 ・医療安全リンクナース会（仮称）の発足	・リスクアセスメント研修回数	ﾘｽｸｱｾｽﾒﾝﾄ研修：回数	2	今年度立ち上がった医療安全チーム会主催の研修を2回実施した。また事例提供はタイムリーに提供し、会議での審議事項とした。日々のインシデント事例分析において、分析ツール等を活用し原因分析能力も高めていく必要がある。
			・インシデント、アクシデント事例検討件数	事例検討数	6	
		・地域看護支援チームの強化 ・地域連携室と病棟との連携	・地域看護支援チーム活動	合同カンファレンス件数		看護部の地域支援看護チームとして活動し、退院支援に向けた早期介入や地域との連携の在り方等を検討した。徐々にではあるが、退院調整件数も増加している。今後ますます地域との連携強化が必要である。
			・事例検討件数	退院調整加算件数	84.2	
					50.7	
					48.7	
			・地域看護支援チーム活動	事例検討件数	4件	

別紙５

学術活動

１．平成25年度　雑誌投稿・執筆

発行者	雑誌名	テーマ	病棟	執筆者
メディカ出版	OPナーシング	日本手術看護学会地区レポート	手術室	西田　和美
日総研出版	がん患者ケア	誌上実践報告特集～工夫に満ちたがん患者の現場からのアドバイス「患者の安全と安楽のための化学療法室の環境改善」	外来	田中雅子・岩松美穂・谷口雅美・青山佳代子・山田里佳・三木彩佳
メディカ出版	EMERGENCY　CARE	救急看護認定看護師のためのJournal in Journal	救外	清水　克彦

別紙６

学術活動

２．平成25年度　院外研究発表

No	テーマ	主催	開催日	病棟	発表者氏名
1	集中治療室で看護計画開示を受ける患者家族の意識調査 ー患者家族の思いに添う開示を目指してー	第58回日本集中治療医学会近畿地方会	7月6日	集中	増田佳奈子
2	エンゼルケアにミスト浴を取り入れたグリーフケア	日本緩和医療学会学術大会	6月21・22日	緩和	宮城　智恵美
3	看護の質改善のための委員会システム再構築への取り組み	日本看護管理学会学術集会	8月24・25日	手術室	西田　和美
4	手術室における看護補助者の活用効果の検討	日本看護学会ー看護管理ー	9月19・20日	手術室	塗師　雅美
5	1型糖尿病患者が感じる生きがい調査	日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9月22・23日	２－８	大塚　桂容子
6	看護師と語ることで1型糖尿病である自分と向き合い周囲への告知に結びついた関わり	日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9月22・23日	２－８	小久保　敦子
7	手術室における経年別教育計画の運用についての検討 ～手術看護クリニカルラダーを導入して～	第27回日本手術看護学会年次大会	10月18・19日	手術室	手良村　康代
8	WHO手術安全チェックリストの活用と効果	第27回日本手術看護学会年次大会	10月18・19日	手術室	加柴　結可
9	CT造影検査におけるインシデントの実態調査 ～インシデント回避の経過と有用性～	第55回看護学会	10月6日	外来	田中　早八華
10	腰椎術後に残存する下肢しびれに対する足浴効果の有用性	第55回看護学会	10月6日	２－５	佐々木　円
11	専門認定看護師の活動報告「糖尿病透析予防チーム活動、インスリン関連インシデント対策に取り組んで	第55回看護学会	10月6日	２－８	小久保　敦子
12	いつでも　どこでも　e-ラーニング　指差呼称でエラーを防止	第55回看護学会	10月6日	看護部長室	右野　恵
13	作ってみましてん　研修用DVD～主演女優賞は誰の手に～	第55回看護学会	10月6日	看護部長室	坂田　尚子
14	小児の転倒転落防止にむけた取り組み～プレパーれーション～	第55回看護学会	10月6日	２－３	上村　直子
15	セルフチェックにつながる心臓管理手帳	第55回看護学会	10月6日	２－７	櫻井　大樹
16	精神疾患増悪を認めた集中的カウンセリングにより禁煙に成功した一例	日本禁煙科学会・学術集会	11月3・4日	外来	寺嶋　幸子
17	頭頸部外科領域における術後せん妄を起した患者の実態と要因の分析	第67回国立病院総合医学会	11月8・9日	１－４	本間　房子
18	肝性脳症における排便のコントール有効性	第67回国立病院総合医学会	11月8・9日	１－７	西原　絵美
19	転倒転落に関するインシデントの分析	第67回国立病院総合医学会	11月8・9日	１－５	宮下　優
20	終末期がん患者の在宅療養への支援	第67回国立病院総合医学会	11月8・9日	１－６	杉本　小夜子
21	化学療法センターでのホルモン療法	第67回国立病院総合医学会	11月8・9日	外来	岩松　美穂
22	内視鏡室の感染対策	第67回国立病院総合医学会	11月8・9日	外来	松岡　律子
23	行動変容プログラム導入し自己効力が向上した水分制限不良患者の看護	日本腎不全看護学会学術集会	11月16・17日	２－８	瀧井　友美
24	当院における糖尿病透析予防指導の現状と課題	第50回日本糖尿病学会近畿地方会 第49回日本糖尿病協会近畿地方会	11月23日	２－８	小久保　敦子
25	点滴注射時の指差呼称による確認行動定着への取り組み	日本医療マネージメント学会第11回京滋支部学術集会	2月15日	医療安全	神田　直子
26	CT造影検査におけるインシデントの実態調査 ～インシデント回避の経過と有用性～	日本医療マネージメント学会第11回京滋支部学術集会	2月15日	外来	田中　早八華

別紙７

学術活動

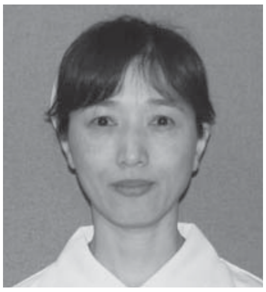
３．平成25年度　院内研究発表

No.	テーマ	部署	発表者名
1	腰椎術後に残存する下肢しびれに対する足浴効果の有用性	2病棟5階	四月朔日　希
2	1型糖尿病患者が感じる生きがい調査	2病棟8階	大塚　桂容子
3	自己のコミュニケーションを振り返るための取り組み	救急外来	村上　涼子
4	病棟看護師の褥瘡ケアに関する知識調査と取り組みの報告～アンケート調査と勉強会を実施して～	1病棟6階	德丸　千恵
5	死後のケアとしてミスト浴を行った家族の思い	緩和ケア病棟	西村　成美
6	心臓外科術後患者におけるせん妄の発症要因の検討	集中治療室	岡田　紘和
7	「使いやすく」「快適な」職場環境を目指した取り組み	緩和ケア病棟	白水　裕子
8	手術室における災害対策について	手術室	西詰　孝敏
9	PNSを導入して	看護師長会　PNSワーキンググループ	小林　美保
10	PNSを導入して～取り組み結果と今後の課題～	2病棟4階	西廣　優一
11	外来化学療法センターにおけるアレルギー症状に対する取り組みと看護チームの成長 ～チームインベントリーを活用した分析と評価～	外来化学療法センター	青山　佳代子
12	退院時アンケートを用いた手術室環境の評価	手術室	福嶋　由美香
13	外来採血室の待ち時間に対する取り組み	外来	吉川　真希
14	楽しく看護を語れる職場作り～ナラティブしますえ～	手術室	栗岡　聡子
15	特別室個室病棟における退院支援の取り組み～退院支援に必要なテンプレート内容の検討～	特別個室病棟	谷山　千賀子
16	がん性疼痛、不安から来る不眠への取り組み～トータルペインの分析を行って～	2病棟4階	布施　克美
17	治療選択における意思決定支援～術前化学療法をうける乳がん患者の1事例を振り返る～	2病棟6階	荒木　由香里
18	婦人科術後に化学療法を受ける患者のセルフケア行動の変化	2病棟3階	大上　永利子
19	アレルギー出現後に原因薬剤による治療をした事例～がん患者への意思決定支援を通して～	外来	田中　雅子
20	平成25年度 がん看護専門看護師の活動報告-緩和ケアチーム専従看護師として-	緩和ケアチーム専従看護師	櫻井　真知子
21	エンドオブライフ期における看護師の態度の変化ーデスカンファレンスで看護を振り返るー	1病棟6階	家本　歩美
22	褥瘡予防に関して知識・技術の向上を図るための病棟スタッフへの関わり	2病棟7階	藤重　早希
23	ドライテクニック導入による直接授乳回数と生理的体重減少への影響	2病棟3階	若井　陽子
24	放射線療法を受ける患者への援助	1病棟8階	小林　由衣
25	新生児蘇生に関する意識調査	NICU	岡庭　暁子
26	脳死となった患者家族への対応について振り返る	救命救急センター	堀　友紀子
27	インシデントレポートの確認行動に対する看護師の意識調査	1病棟4階	宮崎　有美子
28	転倒・転落予防のためのアセスメントスコアシートの活用の実態	1病棟7階	辨野　忠子
29	内服自己管理をしている患者の誤薬要因の調査	2病棟6階	西村　美奈
30	CT造影検査におけるインシデントの実態調査～インシデント回避の経過と分析～	外来　放射線科	小林　美穂
31	手術手技書改訂へのアプローチ～手順書コンテストを実施して～	手術室	松林　はるか
32	画像を用いた処置手順作成について	救命救急センター	尾嵜　志穂
33	電子カルテを活用した手術患者情報収集時間の短縮	手術室	富永　洋次
34	上部消化管内視鏡検査（EGD）における前処置法（ジメチコン水）の検討	外来　内視鏡室	長﨑　沙耶香
35	R-CHOP療法を受ける患者へのｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝを統一させる取り組み～ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄを導入して～	1病棟5階	田中　麻衣
36	眼科（白内障）手術を受ける患者に対する手術前訪問の効果	手術室	吉田　多万緒
37	退院支援の充実にむけての取り組み～患者の早期退院へ向けての術前からの関わり～	1病棟5階	谷　奈央
38	社会的ハイリスク児の退院支援	GCU	原田　依奈
39	手術室における術後訪問への取り組み	手術室	禮場　直人
40	ICU退室後訪問実施による患者の思いの把握と看護の改善点の検討	集中治療室	大西　弥生
41	手術室新採用者へのクリニカルラダーの活用	手術室	手良村　康代

京都看護助産学校

副学校長
山本　薫里

助産師科　教育主事
渡邊　玲子



看護師科　教育主事
野々川　陽子

看護師科　教育主事
岡村　稔子

Ⅰ　看護学校の概要

１. 名称
独立行政法人　国立病院機構　京都医療センター附属京都看護助産学校

２. 所在地
〒612－8555　京都市伏見区深草向畑町１の１
TEL（075）641－9191（直通）　HP　http://www.hosp.go.jp/-kyotolan/

３. 沿革

昭和24年４月１日　国立京都病院附属高等看護学院として開設
１学年定員30名　総定員90名
昭和43年４月１日　１学年定員50名　総定員150名
昭和44年４月１日　助産婦科の附設　１学年定員35名　総定員35名
国立京都病院附属高等看護助産学院に名称変更
昭和50年４月１日　国立京都病院附属看護助産学校に名称変更
昭和51年４月１日　専修学校（専門課程）に認定
平成16年４月１日　国立療養所宇多野病院附属看護学校（３年課程）と国立療養所南京都病院附属看護学校（２年課程）と３校が統合、大型校となり独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校に名称変更
看護師科　１学年定員80名　総定員240名
助産師科　１学年定員35名　総定員 35名

卒業生数（平成26年 3月31日現在）
看護師科（１回生～53回生）… 1,968名
（１回生～10回生）…　749名（統合後）
助産師科（１回生～45回生）… 1,327名

4. 課程・定員

<table>
<tr><th rowspan="2">課程</th><th rowspan="2">学科</th><th rowspan="2">入学
定員</th><th rowspan="2">総
定員</th><th colspan="4">在籍者数（平成 26年3月1日現在）</th></tr>
<tr><th>1年生</th><th>2年生</th><th>3年生</th><th>合計</th></tr>
<tr><td>看護専門
課程</td><td>看護師科
(3年課程)</td><td>80人</td><td>240人</td><td>78人</td><td>75人</td><td>80人</td><td>233人</td></tr>
<tr><td>看護専門
課程</td><td>助産師科</td><td>35人</td><td>35人</td><td>24人</td><td></td><td></td><td>24人</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td>115人</td><td>275人</td><td>102人</td><td>75人</td><td>80人</td><td>257人</td></tr>
</table>

II　教育理念・目的

1. 教　育　理　念

本校は、国立病院機構附属の養成所であり、国立病院機構の病院が担っている役割や機能を理解し、将来の国立病院機構の医療をリードしていく看護実践力をもつ看護師を育成することを責務としている。

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、感じる心・考える力・主体的に行動する学生の育成を目指している。感じる心とは、人間に関心をもつことができ、生命の大切さや多様な価値観を感性豊かに感じとり物事の変化に気づくこと、考える力とは、状況の意味を自ら考え、専門的知識を活用して分析・判断する力のこと、主体的に行動するとは、感じ考えたことを自らすすんで表現し行動に繋げることができ責任がとれること、自己の目標達成に向けて卒業後も継続的に学習することを言う。

人間は、自己実現を目指し変化しようとしている存在であるが、現代の若者は生活体験が乏しいことから事象をイメージしにくく想像力・理解力が未熟な傾向にあるため、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得にあたり、体験的・実践的学習をとりいれわかりやすい授業を実践する。また、臨地実習での学びを充実させるために学びやすい環境づくりに力を入れる。さらに、医療・看護の動向をふまえ、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

2. 教　育　目　的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構　及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

3. 教　育　目　標

1. 生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2. 看護の対象である人間を総合的に理解する能力を養う。
3. 科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として共感的態度及び倫理に基づいた看護を　実践できる基礎的能力を養う。
5. 人々の最適な健康状態を目指し、生活を支援できる看護実践の基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉の連携の中で調整的役割を果たす基礎的能力を養う。
7. 国際化・情報化時代に対応できる基礎的能力を養う。
8. 専門職業人としての自覚と責任をもち、主体的に看護を向上発展させていく姿勢を養う。

コンセプト

感じる心　　考える力　　そして・・・行動を

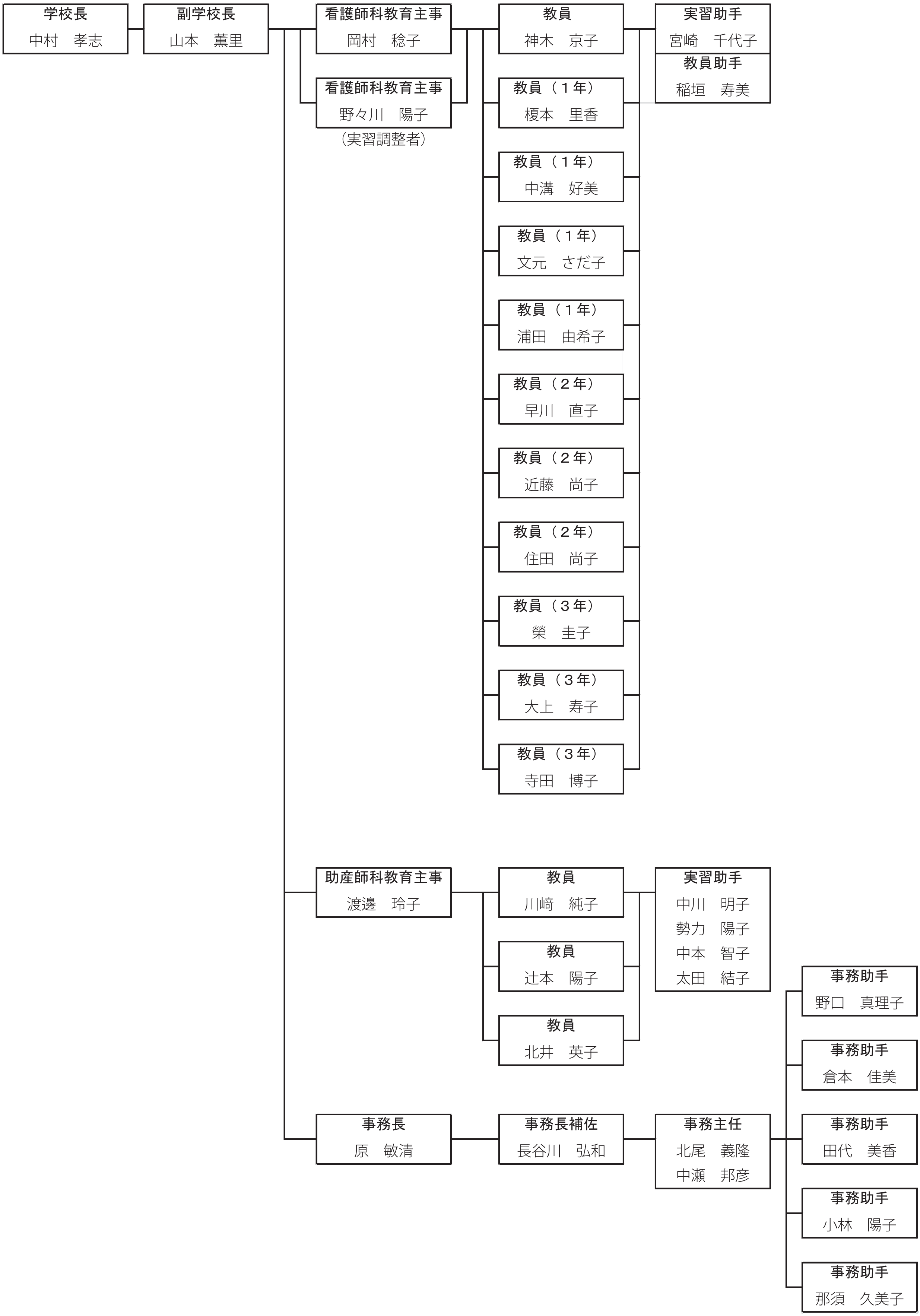
4．平成２５年度　部門（看護学校）目標

部門目標		看　護　師　科
1	教職員の資質向上と学校課題解決に向けた工夫・改善を図り、組織的な教育活動の実践に努める。	○　カリキュラムの円滑な運営・実施
		○　カリキュラムの改善・充実を図る
		○　チームとしての業務遂行（連携・調整の強化）
		○　臨床との連携による看護技術教育の充実
		○　授業研究活動の活発化（教員最低１回）による授業力アップ
		○　研修、学会等の参加や文献等に目を向け自己啓発を図る。
		○　自己の研究テーマを持ち，研究に取り組む。
2	選ばれる学校を目指す	○　広報活動の強化（ＨＰの充実　リアルタイムな情報提供）
		○　地域（地元高校）・看護協会等との積極的交流や連携強化
		○　病院・地域と連携した公開講座の企画・運営
		○　公開講座の充実（参加者数の増加）
3	学生が自ら学び自ら問題を解決していく意志と態度や、つねに探求する姿勢を養う。《感じ、考え、行動する》	○　少人数制の授業・演習形態やグループワークの活用
		○　「自分で創る学校生活」を意識させ、学生主体で企画・運営する機会を設ける
		○　自治会活動・クラブ活動への支援
		○　ボランティア活動等の推奨
4	学生理解を土台にした相談活動の充実を図る	○　学生相談室活用への支援強化
		○　教員間での学生情報の共有
		○　きめ細やかな指導、タイムリーな指導
		○　学生のペースに合わせた指導
5	学校評価の充実と、学校の透明性を推進する	○　自己点検・自己評価及び第三者評価の実施と公表
		○　学生による授業評価の実施と講師へのフィードバック
		○　卒業時カリキュラム評価の目標平均値２．８以上

部門目標		助　産　師　科
1	教職員の資質向上と学校課題解決に向けた工夫・改善を図り、組織的な教育活動の実践に努める。	1）　カリキュラムの円滑な運営・実施
		2）　カリキュラムの改善・充実を図る
		3）　教員会議による教員間の連携・調整の強化
		4）　臨床との連携による看護技術教育の充実
		5）　授業研究活動の活発化（教員最低１回）による授業力アップ
		6）　研修、学会等の参加や文献等に目を向け自己啓発を図る （1人2回以上の専門学会参加）
		7）　自己の研究テーマを持ち，研究に取り組む。
2	選ばれる学校を目指す	1）　広報活動の強化（ＨＰの充実　リアルタイムな情報提供）
		2）　地域（児童館、保健センター、助産院）・助産師科会等との 積極的交流や連携強化
		3）　公開講座の充実（参加者数の増加）
		4）　地域のニーズに対応した学校運営の検討 (学生定員数の検討)
3	学生が自ら学び自ら問題を解決していく意志と態度や、つねに探求する姿勢を養う。 《感じ、考え、行動する》	1）　少人数制の授業・演習形態やグループワークの活用
		2）　性教育講座・両親学級の企画・運営
		3）　地域との連携と支援（児童館・保健センター）
		4）　病院・地域と連携した性教育講座・両親学級の企画・運営
		5）　ボランティア活動等の推奨（保健センター・助産院等）
4	学生理解を土台にした相談活動の充実を図る	1）　学生相談室活用への支援強化
		2）　教員間での学生情報の共有
		3）　きめ細やかな指導、タイムリーな指導
		4）　学生の学習進度に応じた指導
5	学校評価の充実と、学校の透明性を推進する	1）　自己点検・自己評価及び第三者評価の実施と公表
		2）　学生による授業評価の実施と講師へのフィードバック
		3）　卒業時カリキュラム評価の目標平均値２．８以上

Ⅲ.　本学の組織

1. 組織図


学校長
中村　孝志
副学校長
山本　薫里
看護師科教育主事
岡村　稔子
看護師科教育主事
野々川　陽子
（実習調整者）
教員
神木　京子
教員（１年）
榎本　里香
教員（１年）
中溝　好美
教員（１年）
文元　さだ子
教員（１年）
浦田　由希子
教員（２年）
早川　直子
教員（２年）
近藤　尚子
教員（２年）
住田　尚子
教員（３年）
榮　圭子
教員（３年）
大上　寿子
教員（３年）
寺田　博子
実習助手
宮崎　千代子
教員助手
稲垣　寿美
助産師科教育主事
渡邉　玲子
教員
川﨑　純子
教員
辻本　陽子
教員
北井　英子
実習助手
中川　明子
勢力　陽子
中本　智子
太田　結子
事務長
原　敏清
事務長補佐
長谷川　弘和
事務主任
北尾　義隆
中瀬　邦彦
事務助手
野口　真理子
事務助手
倉本　佳美
事務助手
田代　美香
事務助手
小林　陽子
事務助手
那須　久美子

2. 教育経験年数

	教員の種別	教育年数	専門領域
	副学校長（山本　薫里）	18 年	基礎看護学
看護師科	教育主事（岡村　稔子）	12 年	基礎看護学
	教育主事（野々川　陽子）	9年	成人看護学
	教　　員（近藤　尚子）	19 年	基礎看護学
	教　　員（榮　　圭子）	13 年	精神看護学
	教　　員（神木　京子）	7 年	成人看護学
	教　　員（早川　直子）	7 年	成人看護学
	教　　員（文元さだ子）	7 年	成人看護学
	教　　員（中溝　好美）	5 年	老年看護学
	教　　員（浦田由希子）	5 年	小児看護学
	教　　員（榎本　里香）	3 年	成人看護学
	教　　員（住田　尚子）	3 年	成人看護学
	教　　員（大上　寿子）	2 年	成人看護学
	教　　員（寺田　博子）	2 年	成人看護学
	実習助手（宮崎　千代子）		母性看護学
	教員助手（稲垣　寿美）		
助産師科	教育主事（渡邊　玲子）	助11 年	助産学・母性看護学
	教　　員（川崎　純子）	看5 年・助5 年	助産学・母性看護学
	教　　員（辻本　陽子）	助3 年	助産学
	教　　員（北井　英子）	助1 年	助産学
	実習助手（中川　明子） （勢力　陽子） （中本　智子）		

3. 職員・講師数

教職員に関する事項	教員の種別	専　任	兼　任		職員の種別	専　任	兼　任
			(看)	(助)			
	保健師	０名	０名	１名	事務職員	３名	３名
	助産師	４名	４名	９名	その他の職員	０名	０名
	看護師	１３名	３４名	２名	合　計	３名	３名
	医　師 (歯科医師含む)	０名	３８名	１６名			
	その他の教員	０名	２６名	６名			
	合　計	１７名	１０２名	３４名			

Ⅳ.　学生募集

１.入学試験実施状況

＜看護師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成26年 1月23日（木）	平成26年 1月25日（土）	平成26年 1月30日（木）
社会人入学試験	平成25年11月14日（木）	平成25年11月16日（土）	平成25年11月21日（木）
推薦入学試験	平成25年11月16日（ 土）		平成25年11月21日（木）

＜助産師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成26年 1月23日（木）	平成26年 1月25日（土）	平成26年 1月30日（木）
特別選抜入学試験	平成25年11月14日（木）		平成25年11月21日（木）

２.入学試験実施状況

＜看護師科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 21 年（第 8 回生）	社会人	66	63	42	39		
	一般	137	127	53	41		
	合計	203	190	95	80	4	74
平成 22 年（第 9 回生）	社会人	109	101	43	39		
	一般	156	147	56	42		
	合計	265	248	99	81	7	75
平成 23 年（第10回生）	社会人	108	100	44	39		
	一般	177	172	61	43		
	合計	285	278	105	82	1	80
平成 24 年（第 11 回生）在学中	社会人	108	100	46	42		
	一般	134	130	59	37		
	合計	242	230	105	79	1	
平成 25 年（第 12 回生）在学中	推薦	8	8	8	8		
	社会人	89	83	38	36		
	一般	158	149	61	34		
	合計	255	240	108	78	1	
平　均		250	237	102	80	2.8	

＜助産師科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 23 年（第 43 回生）	特別選抜（学校）	16	16	16	16		
	特別選抜（施設）	5	5	5	5		
	一般	108	106	17	14		
	合計	129	127	38	35	1	34
平成 24 年（第 44 回生）	特別選抜（学校）	11	11	11	11		
	特別選抜（施設）	2	2	2	1		
	一般	89	87	23	8		
	合計	102	100	36	30	1	29
平成 25 年（第 45 回生）	特別選抜（学校）	9	9	9	9		
	特別選抜（施設）	3	3	3	3		
	一般	72	54	18	15		
	合計	84	66	30	27	3	24
平　均		105	98	35	31	1.6	

3．オープンキャンパスの実施

＜看護師科＞

	日　程	内　容　／　参加人数	
1	平成 25 年 5 月 2 日（木）	看護の記念行事として卒業高校の訪問（17施設）	
2	平成 25 年 6 月 29 日（水）	高校の進路指導部の教員対象の説明会	6 人
3	平成 25 年 7 月 28 日（日）	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑･応答、個別相談	54 人
4	平成 25 年 7 月 29 日（月）		32 人
5	平成 25 年 7 月30 日（火）		41 人
6	平成 25 年 8 月 17 日（土）		70 人
7	平成 25 年 8 月 18 日（日）		57 人
8	平成 25 年 8 月 24 日（土）		25 人
9	平成 25 年 9 月 28 日（土）		32 人
1 0	平成 25 年10 月19 日（土）	学校説明会･公開講座	39 人
1 1	平成 26 年 3 月 25 日（火）	学校説明会	20 人
		合計	376 人

＜助産師科＞

	日　程	内　容　／　参加人数	
1	平成 25 年 6 月 22 日（土）	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑・応答	23 人
2	平成 25 年 7 月 20 日（土）		32 人
3	平成 25 年 8 月 17 日（土）		54 人
4	平成 25 年 8 月 30 日（土）		36 人
		合計	145 人

Ⅴ.　学生生活

1．心身の健康保持・増進

1）カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを週１回（放課後）に実施している。

2）健康診断

健康管理規定に基づき、定期的に実施している。

項　目	対　象	4月	7月	10月	1月
1．身体測定	全学生	○	○	○	○
2．胸部Ｘ線撮影	全学生	○			
3．血圧測定	全学生	○		○	
4．検尿 （糖、蛋白、潜血、ｳﾛﾋﾞﾘﾉｰｹﾞﾝ）	全学生	○		○	
5．内科総合診断	全学生	○		○	
6．採血 （梅毒反応、HB、HCV、麻疹、風疹 水痘、ムンプス抗体検査）	新入生	○			
7．ツベルクリン反応検査	新入生（2,3 年生の陰性者）	○			
＊検便は実習前に実施					

2．課外活動　：　看護師科

1）自治会活動

	＜　前　期　＞		＜　後　期　＞
5月	自治会総会	11月	自治会総会
6月		12月	大掃除
7月	大掃除	1月	新春コンサートへの参加
8月		2月	国家試験激励会、予選会
9月		3月	
10月	戴帽式のお祝い 自治会総括 後期自治会選挙	4月	新入生歓迎会 自治会総括 前期自治会選挙

2）クラブ活動

（1）バレーボール部

毎週　火・水・木・金　曜日　１６：３０～１８：００　体育館

あじさい杯　平成25年7月20日（土）　開催

＊京都看護助産学校主催で近畿ブロック附属看護学校5校のバレーボール部が集まる大会。毎年開催している。

（2）茶道部

隔週　木　曜日　１６：３０～１８：３０　在宅看護実習室

七夕茶会　平成25年7月18日（木）　開催

初釜茶会　平成26年1月17日（金）　開催

（3）園芸部

不定期開催

患者さんたちに季節の花を見てもらえるよう、草花を植えて手入れをしている。

（4）合唱サークル

不定期開催

みんなで楽しむとともに、病院コンサートや実習でのレクレーションで患者さんに喜んでもらえるよう、練習している。

（5）アロマサークル

不定期開催

ハンドマッサージやアロマスプレーを作るなど、みんなで楽しむとともに、看護に活かせるよう練習している。

（6）バドミントンサークル

月曜日（不定期開催）

身体を動かし、リフレッシュしている。

3）ボランティア活動

	実施時期	学年	実施内容
1	平成25年5月2日	学生全員	看護の日記念行事コンサート・カードの配布（京都医療センター）
2	平成25年7月26日	1年生	サマーコンサート（京都医療センター）
3	平成25年11月	学生有志	引越しボランティア　（宇多野病院）
4	平成25年12月20日	1年生	クリスマスコンサート
5	平成26年2月28日	3年生	病院清掃ボランティア

VI.　卒業生の進路

1．就職・進学状況

＜看護師科＞

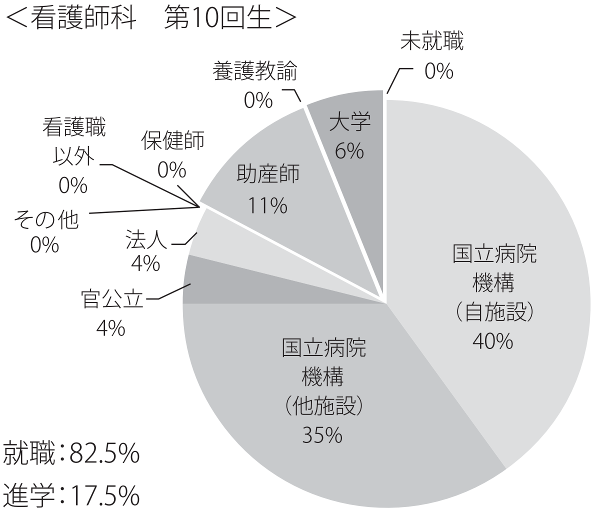
年月	回生	卒業者数（人）	就職（人）						進学（人）				未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外	保健師	助産師	養護教諭	大学	
			自施設	他施設									
平成24年3月	第８回生	75	35	20	2	3	1	0	0	11	0	2	1
平成25年3月	第９回生	75	35	21	1	2	2	0	0	7	0	6	0
平成26年3月	第１０回生	80	32	28	3	3	0	0	0	9	0	5	0
平　均			34	23	2	2.7	1	0	0	9	0	4.3	0.3

<助産師科>

年月	回生	卒業者数（人）	就　職（人）						進学	未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設						
平成24年3月	第43回生	34	6	16	6	2	2	0	0	0
平成25年3月	第44回生	29	5	10	9	2	3	0	0	0
平成26年3月	第45回生	24	6	10	6	2	0	0	0	0
平　　均			5.7	12	7	2	1.7	0	0	0

平成25年3月　進路状況

<看護師科　第10回生>

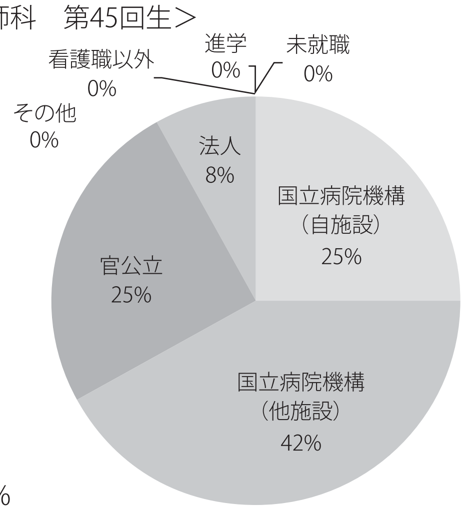


就職：82.5%

進学：17.5%

就職者の中の機構就職率：90.9%

<助産師科　第45回生>



就職：100%

就職者の中の機構就職率：60%

２. 国家試験

<看護師科>

		全国（%）	機構附属（%）		
			全国	近畿	京都
１０２回（H25.3）	全体（新卒）	88.8（94.1）	97.3（97.7）	99.1	100
１０３回（H26.3）	全体（新卒）	89.8（95.2）	98.2（98.9）	98.9	100

<助産師科>

		全国（%）	機構附属（%）	
			全国	京都
９６回（H25.3）	全体（新卒）	98.1（98.9）	100	100
９７回（H26.3）	全体（新卒）	96.9（97.6）	100	100

Ⅶ.　教員の研究および研修参加

１.研究活動

＜教員研修会　研究グループ＞

	テーマ	教員
1G	実習指導者の育成 ～第２報　実習指導者研修プログラムの実施と修正～	北井　英子・寺田　博子
2G	教員間の授業研究のあり方の検討	近藤　尚子
3G	質の高い看護学生の確保	川﨑　純子・浦田　由希子
4G	教員を続けたくなる職場環境について考える	早川　直子・文元　さだ子
5G	統合する力を育成する演習の評価	住田　尚子・辻本　陽子
6G	２年実施した統合実習の現状把握	大上　寿子・榮　圭子
7G	学生の思考力を高める授業の検討～症状別看護を通して～	中溝　好美・神木　京子

＜授業研究＞

日程	授業内容	教員
平成25年7月24日（水）	（授業公開） 基礎看護技術Ⅰ　バイタルサイン測定（演習）	住田　直子
平成25年9月18日（水）	（授業公開） 基礎看護技術Ⅵ　筋肉注射（講義）	中溝　好美
平成25年10月15日（火）	1･2年目教員の育成（授業見学） 日常生活援助基礎技術 清潔を助ける技術演習（足浴）	北井　英子
平成25年10月18日（金）	（授業公開） 基礎看護技術Ⅴ　呼吸を整える援助（講義）	中溝　好美
平成25年11月21日（木）	（授業公開） 看護過程展開技術（講義） ～分析的アセスメント　ワーク～	神木　京子
平成25年11月25日（月）	（授業公開） 成人看護援助技術Ⅰ（講義） 経過別看護（慢性期・リハビリ期）	神木　京子
平成25年12月11日（水）	（授業公開） 老年看護援助技術（講義） 高齢者の食生活のアセスメントと看護ケア	榎本　里香
平成26年 1月31日（金）	（授業公開） 看護過程展開技術　（講義） ～関連図　ワーク～	神木　京子
平成26年 1月31日（金）	（授業見学：大阪南医療センター） 基礎看護技術　静脈注射（演習）	中溝　好美
平成26年 2月17日（月）	(授業見学:姫路医療センター) 老年看護　高齢者への排泄援助(講義)	榎本　里香
平成26年 2月27日（木）	(授業見学:姫路医療センター) 老年看護　高齢者の清潔援助	近藤　尚子

2. 研修参加状況

日 程	主 催	研 修 内 容	参 加 人 数
平成 25 年 5 月 20 日 ～24 日	国立病院機構本部	幹部看護師管理研修Ⅲ	1 人
平成 25 年 7 月　6 日 ～26 日	国立病院機構本部	幹部看護師管理研修Ⅰ	1 人
平成 25 年 8 月　1 日	副学校長・教育主事・教員夏期合同研修会	「育てる」から「育ち」へ～学び続けるひとをめざして～	17 人
平成 25 年 8 月　2 日	近畿ブロック	3 年目以上教員研修	12 人
平成 26 年 1 月 23 日	近畿ブロック	医療安全管理研修	1 人
平成 26 年 2 月 22 日	京都府看護協会	平成 24 年度継続研修修了者ブラッシュアップセミナー	1 人

Ⅷ.　社会への貢献

1. 公開講座

	日　程	テーマ	参加者数
看護師科	平成 25 年 7 月 24 日（水）	基礎看護技術「バイタルサイン測定」の実際	27 人
	平成 25 年 7 月 30 日(火）	看護学生体験：BLS 体験・血圧測定体験	36 人
	平成 25 年 8 月 17 日(土）	看護学生体験：　BLS 体験・血圧測定体験	40 人
	平成 25 年 8 月 18 日（日）	看護学生体験：　BLS 体験・血圧測定体験	39 人
	平成 25 年 8 月 24 日（土）	ミニ講義：環境について	20 人
	平成 25 年 9 月 28 日（土）	ミニ講義：環境について	27 人
	平成 25 年 10 月 19 日（土）	大切な人が倒れたらあなたは何ができますか? ～みんなで楽しく学ぶ救命処置と応急処置～	12 人
	平成 25 年 11 月 23 日（土）	ホームカミングデイ 「ツボでリフレッシュ！」 ～自分を癒す技を身につけよう～	23 人
		合計	264 人

2. ガイダンス

日程	研修内容	教員
平成26年 5月30日	京都府立城南菱創高校 高校内ガイダンス（1年職業理解）	山本　薫里
平成26年 8月 2日	京都予備校 受験ガイダンス	山本　薫里
平成26年10月10日	京都精華女子高校 高校内ガイダンス（職業理解）	山本　薫里

3. 教員の講習会、研修等の講師

日程	研修内容	教員
平成25年6月～7月	平成25年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会　講義講師	山本　薫里 岡村　稔子 川﨑　純子
	平成25年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 演習指導案助言講師	早川　直子 文元　さだ子
平成25年11月27日 12月18日 平成26年 1月29日	京都医療センター附属 京都看護助産学校 実習指導者研修プログラム （第1回～第3回）	山本　薫里 岡村　稔子 野々川　陽子 近藤　尚子 榮　圭子 早川　直子 文元　さだ子 大上　寿子 寺田　博子
平成26年1月10日	南和歌山医療センター 「実習指導者定例会」 ～実習目標を達成できる実習指導の工夫～	山本　薫里
平成26年1月10日	南和歌山医療センター ～効果的な学生の指導方法～ 対象：一般看護師	山本　薫里

4. 研修受け入れ

日程	研修内容		受け入れ数
平成25年11月 25日～27日	教員インターンシップ	近畿ﾌﾞﾛｯｸ副学校長教育主事協議会主催	1人

Ⅸ．　施設と設備

１. 建物の概要

	区　分	建築年数	構造・階	面積（㎡）	摘　要
看護師科	校　舎	平成１６年	RC４階	延：3037㎡ 建：1002㎡	
助産師科	校　舎	昭和５４年	RC２階	延：850㎡ 建：469㎡	
	寄宿舎		RC５階	延：540㎡ 建：111㎡	
共通	図書棟	平成１６年	RC２階	延：704㎡ 建：421㎡	
	体育館	平成３年	RC２階	延：664㎡ 建：600㎡	

２. 図書･ビデオ保有数

＜図書＞　　（平成26年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	雑誌	合計
看護師科	3,389	2,557	8,603	34	22種	14,583
助産師科	548	973	2,026	8	25種	3,573

＜ビデオ＞　　（平成26年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	合　計
看護師科	28	139	778	0	945
助産師科	0	74	240	0	314

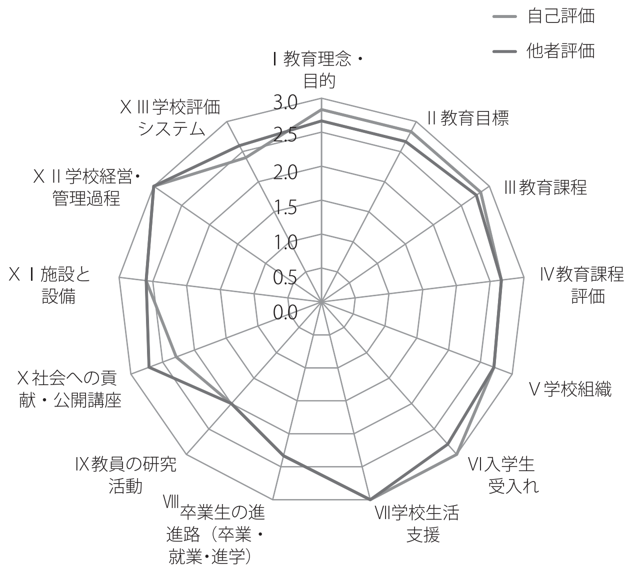
X. 会議一覧

月	平成25年度　開催状況
4月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（6回／月）
5月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（5回／月）
6月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
7月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（5回／月）
8月	教員会議（8回／月）
9月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
10月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（5回／月）
11月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月） 入試委員会（社会人入試・特別選抜入試） 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
12月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
1月	運営会議 教員会議(4回／月) 入試委員会(一般入試) 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
2月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回／月)
3月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(5回／月)

XI.　平成25年度　　看護師養成所自己点検・自己評価結果

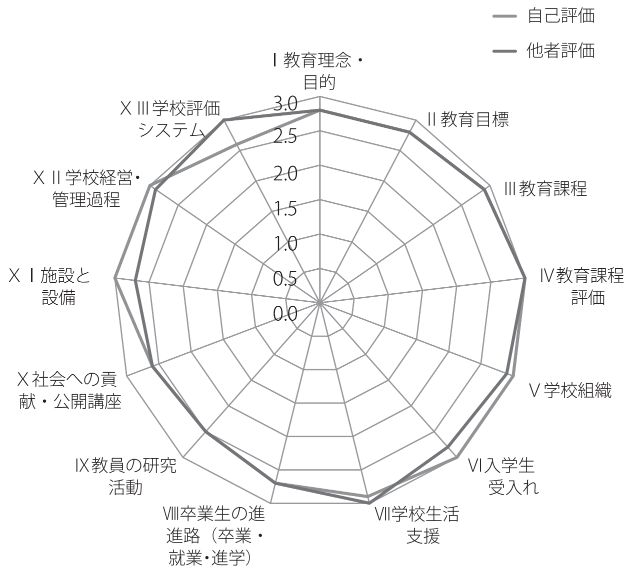
＜看護師科＞

No	評価項目		自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念・目的	6項目	2.8	2.7
Ⅱ	教育目標	6項目	2.8	2.7
Ⅲ	教育課程	26項目	2.8	2.8
Ⅳ	教育課程評価	6項目	2.7	2.7
Ⅴ	学校組織	7項目	2.7	2.7
Ⅵ	入学生の受け入れ	5項目	3.0	2.8
Ⅶ	学校生活支援	12項目	3.0	3.0
Ⅷ	卒業生の進路	6項目	2.3	2.3
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	2.0	2.0
Ⅹ	社会への貢献・公開講座	7項目	2.3	2.7
Ⅺ	施設と設備	5項目	2.6	2.6
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	3.0	3.0
XⅢ	学校評価システム	5項目	2.4	2.6
	全体の平均		2.7	2.7



＜助産師科＞

Ｎｏ	評価項目		自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念･目的	6項目	2.8	2.8
Ⅱ	教育目標	6項目	2.8	2.8
Ⅲ	教育課程	26項目	2.9	2.9
Ⅳ	教育課程評価	6項目	3.0	3.0
Ⅴ	学校組織	7項目	3.0	2.9
Ⅵ	入学生の受入れ	5項目	3.0	2.8
Ⅶ	学校生活支援	12項目	2.9	3.0
Ⅷ	卒業生の進路	6項目	2.7	2.7
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	2.5	2.5
Ⅹ	社会への貢献･公開講座	7項目	2.6	2.6
Ⅺ	施設と設備	5項目	3.0	2.7
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	3.0	2.9
XⅢ	学校評価システム	7項目	2.6	3.0
	全体の平均		2.8	2.8



編集後記

平成25年度のアニュアルレポートが出来ました。この年度内にあった京都医療センターでの一番の出来事は、中庭に第二外来棟を建てる工事が始まったことです。うづら便り2013年9月号で、中庭の風景を惜しんでフォトギャラリーとして紹介しました。第二外来棟は平成26年6月9日に竣工式を終え、現在、その中でPET-CTが順調に稼働しています。また、地域医療連携を強化するために平成25年5月18日に医療連携フォーラムを開催しました。当センターの副院長、塚原徹也が現状をご報告するとともに、京都府立医科大学から吉川敏一学長をお招きして特別講演を賜りました。このフォーラムの内容はうづら便り2013年7月号に載っています。続いて平成26年3月8日には、第二回目のフォーラムを「救急～困った時の医療センター」というテーマで開催しました(うづら便り2014年4月号)。もうひとつの大きなニュースは平成25年7月1日から循環器ホットラインが開設され、循環器内科によるドクターカーの運用が始まったことです(うづら便り2013年7月号)。京都医療センターはどんどんと革新しています！

平成25年度の広報委員会の取り組みでは、広報誌の呼名を2013年７月号から「京都医療センター便り」を改め「うづら便り」に変えました。"うづら"の言われは、うづら便り2013年7月号と京都医療センターのホームページに書かせてもらっています。8月にはサマーコンサートを(うづら便り2013年9月号)、12月にはクリスマスコンサートを(うづら便り2014年2月号)、開催しました。院内のスタッフだけではなく院内保育園児や看護学校の学生さんも参加して盛大に行うことができました。

アニュアルレポートを編集しながら、平成25年度もいろいろなことがあったと改めて感じました。繰り返しになりますが、京都医療センターはよりよい姿を目指して日々努力し、革新しています。平成26年度のアニュアルレポートも胸を張ってお届けできるよう、これからも頑張って行きます。どうかよろしくお願いいたします。

広報委員会
瀬田公一　塚原徹也